松山市埋蔵文化財調査年報　12

平成11年度

2001

松山市教育委員会
(財)松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

正誤表

ページ番号	項目・行数	誤	正
v	東本遺跡５次調査地	炭化財検出状況	炭化材検出状況
2	本文21行目	土壙墓１	１号土壙墓
8	本文11行目	（ＳＫ１～２）	（ＳＫ１・２）
8	本文23行目	ＳＫ４	ＳＫ２
8	本文25行目	考えらる。	考えられる。
16	所在地	小坂２丁目479-9	小坂２丁目472-9
22	本文１行目	枝末遺物包含地	松末遺物包含地
34	面積	7359㎡	7325.21㎡
34	本文10行目	第ⅦⅥ灰色…	第Ⅶ層灰色…
36	図３の縮分	（Ｓ＝１：２）	（Ｓ＝１：３）
52	本文18行目	敷石厚痕	敷石圧痕
58	所在地	南久米町478-3	南久米町487-2
60	本文３行目	久米官衙遺構跡群	久米官衙遺跡群
60	本文22行目	久米官衙遺遺跡群	久米官衙遺跡群
74	期間	同年３月31日	同年３月８日
83	No. 31	37.71	37.41
83	No. 42	1732-1	1732
83	No. 328	市教育委員にて…	市教育委員会にて…
94	No. 351	H11.4.8	H11.4.1
94	No. 356	403.25	413.25
94	No. 356	H11.9.14	H11.9.16
94	No. 357	H11.7.1~H11.11.16	H11.7.15~H11.11.15
94	No. 358	H11.7.20	H11.7.22
94	No. 359	H11.10.18	H11.11.4
99	本文最下行	充愼	充塡
102	写真９	松山市溝辺横谷古墳…	松山市溝辺町横谷古墳…
126	注　７）	田崎博之	田﨑博之
128	No. 30	『和気・堀江の遺跡』	『和気・堀江の遺跡Ⅱ』
130	No. 70～	孔経	孔径
143	表８　第74集	平成12年３月31日	平成11年９月30日

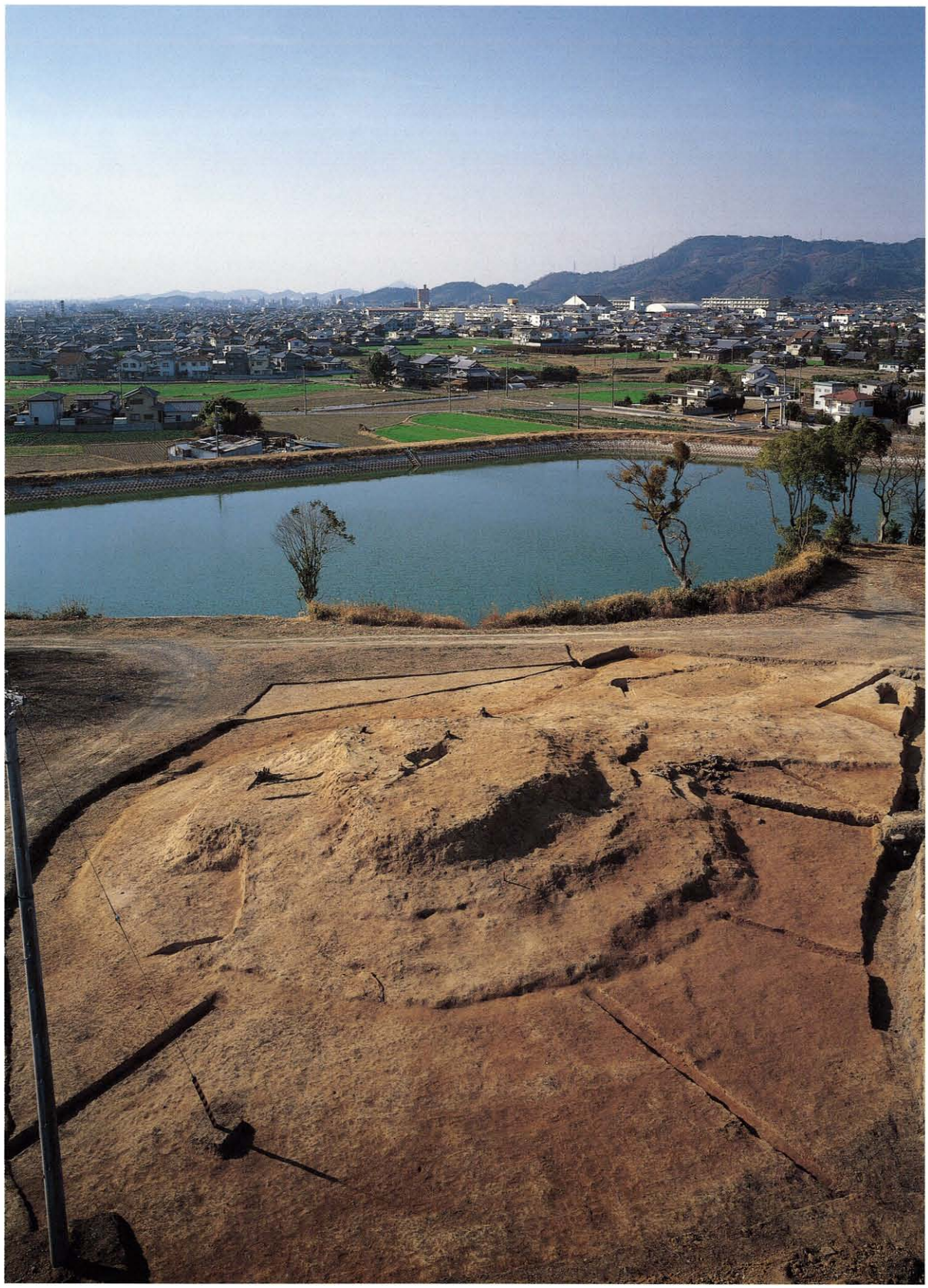
松山市埋蔵文化財調査年報　12

平成11年度

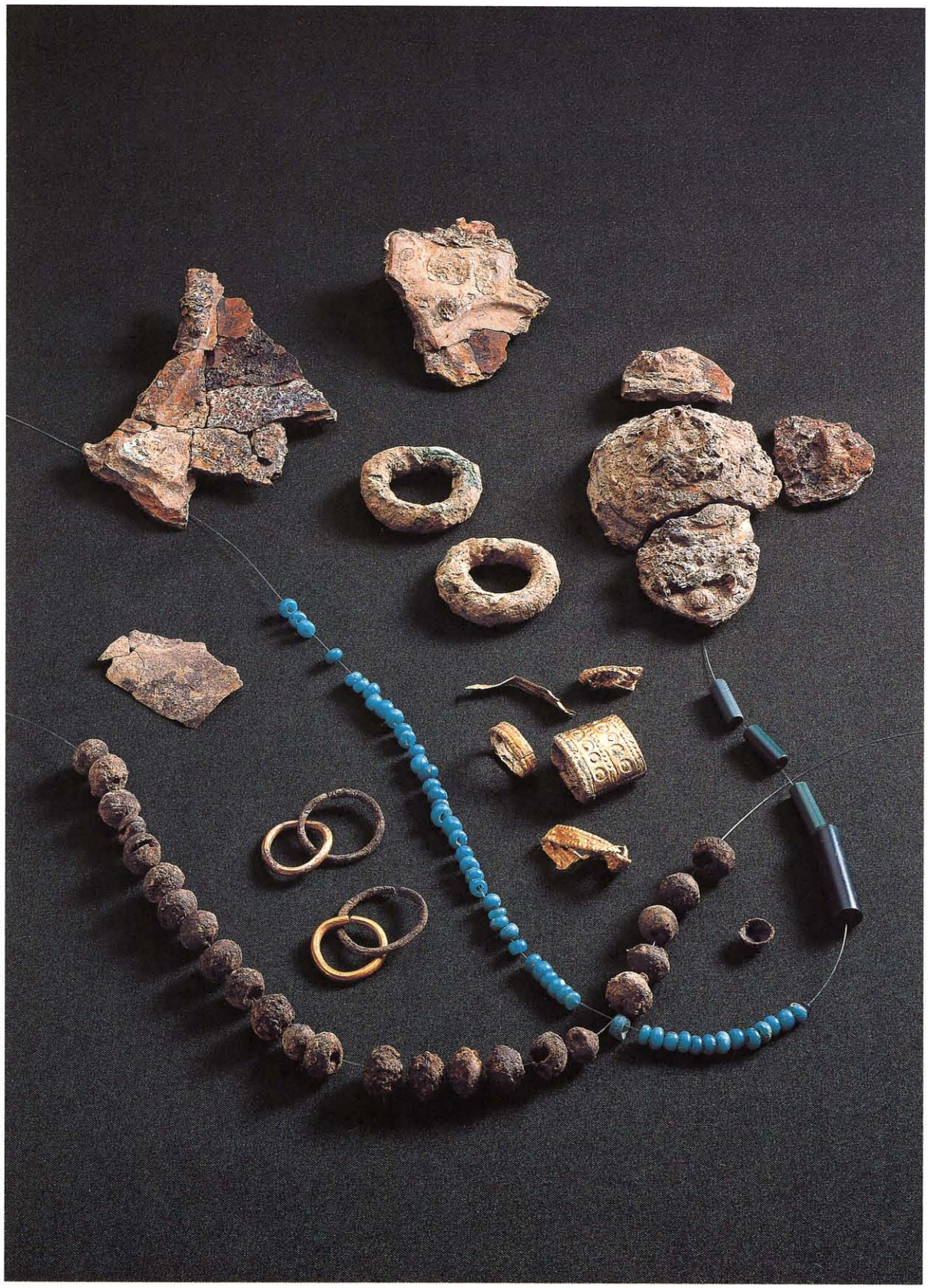
2001

松山市教育委員会
㈶松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

巻頭図版１　東本遺跡５次調査地完掘状況



巻頭図版２　播磨塚天神山古墳全景



巻頭図版 3　播磨塚天神山古墳 1 号石室出土遺物

序

松山市には、数多くの貴重な埋蔵文化財があります。財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターでは、開発事業等によって失われようとしている遺跡について、事前に発掘調査を行うことによって、記録保存に努めています。

本書は、平成11年度に埋蔵文化財センターならびに松山市考古館が主体となって実施した発掘調査と、展示会・講演会などの教育普及活動の概要をまとめたものです。

本年度の発掘調査では、弥生時代から中世に至る時期の遺構と遺物を多数発見しています。なかでも、播磨塚天神山古墳の横穴式石室から出土した金銅装の馬具等は、特に重要な成果として評価されるものです。また、釜ノ口遺跡９次調査地では、弥生時代後期の溝から多数の木製品が出土しています。出土遺物が土器や石器に偏りがちな当地においては、昔の人々の暮らしの実態を知るうえで、大切な資料となるものです。さらに、久米高畑遺跡42次調査の結果、古代の役所施設のひとつである「回廊状遺構」のすぐ北側に、別の方一町規模の官衙施設が存在することが明らかになりました。官衙遺跡群の全体像を究明するうえで、大きな成果であったと評価しています。

このような貴重な資料が得られましたのも、関係各位の埋蔵文化財に対する深いご理解とご協力のたまものと感謝し、厚くお礼申し上げる次第です。今後とも、なお一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

本書が、市民をはじめ数多くの方々に、埋蔵文化財に対する理解を深めていただける資料として、ご活用いただければ幸いに存じます。

平成13年１月31日

財団法人松山市生涯学習振興財団
理事長　中　村　時　広

例　言

1　本書は、松山市教育委員会と財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが、平成11年4月1日から平成12年3月31日までに実施した発掘調査の概要と、松山市考古館が行った教育普及事業の成果等をまとめた年次報告書である。

2　確認調査については、第Ⅱ章の表にその概要をまとめた。

3　各調査の報告は、調査担当者が執筆した。なお、編集は田城武志と橋本雄一が行った。

4　遺物写真のすべてと、遺構写真の大半を、大西朋子が撮影した。

5　位置図は、国土地理院発行の2万5千分の1図を使用した。

6　遺構は、以下の略号で示した。

ＳＡ：柵、柱列　ＳＢ：竪穴式住居址　掘立：掘立柱建物址　ＳＤ：溝　ＳＥ：井戸
ＳＫ：土坑　ＳＰ：柱穴　ＳＲ：自然流路　ＳＸ：性格不明遺構

7　各図の方位は、国土座標第4座標系に基づく座標北を基本とする。磁北の場合には、方位の上に「磁北」と記入した。

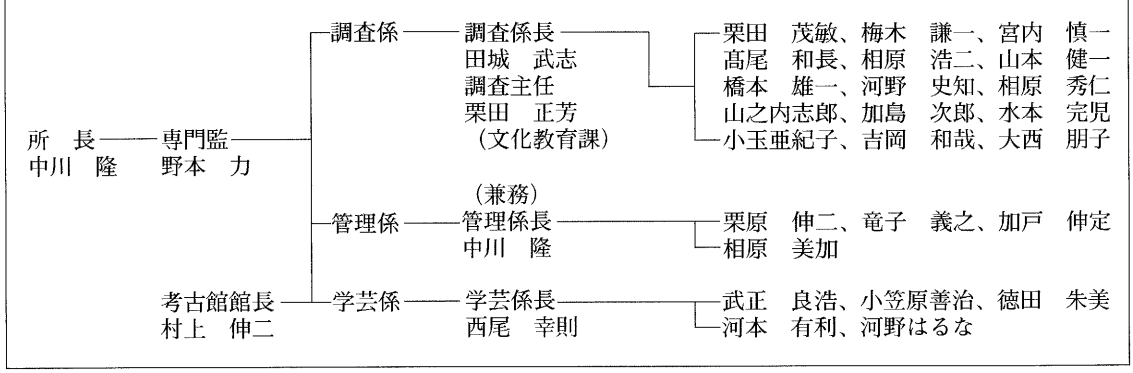
8　刊行組織は以下のとおりである。

刊行主体［平成12年9月30日現在］

松山市教育委員会	教育長	中矢　陽三
事務局	局長	團上　和敬
	局長付参事	森脇　将
	次長	赤星　忠男
文化教育課	課長	馬場　洋
	課長補佐	八木　方人
(財)松山市生涯学習振興財団	理事長	中村　時広
	事務局長	二宮　正昌
	事務局次長	江戸　孝
		森　和朋
埋蔵文化財センター	所長	中川　隆
	専門監	野本　力

9　製版　カラー写真・写真図版－175線
印刷　オフセット印刷
用紙　カラー写真・本文　マットコート
製本　アジロ綴り

埋蔵文化財センター組織図



10　整理作業の協力者は、次のとおりである（順不同）。
池田學・水口あをい・山下満佐子・平岡直美・大西陽子・日之西美春・西本三枝・山邊進也・堀内哲也・阿部研三・萩野ちよみ・吉井信枝・渡部英子・青野茂子・西川千秋・徳田弘子・松本美代子・森田利恵・黒田竜弥・中村紫・田﨑真理・安井由起美・大野裕子・猪野美喜子・岡本邦栄・石井美鈴・金子育代・仙波千秋・仙波ミリ子・名本敏行・神野元・末光美恵・佐々木香・橘丈太郎・西村直人・両村郁美・丹生谷道代・横田知子・矢野久子・多知川富美子・二神千春・高尾久子・玉井順子・福島利恵・木下奈緒美・岩本美保・村上真由美・白石治徳・真木雅子・東山里美・宮内真弓・平岡華美・泉実希・吉岡智美・山之内聖子・清家忍・山口由浩・中野博文・中村健二朗・川染高太郎・相原絵美理・都築博文・岡田弥生・黒田節子・新藤奈緒子・八木幸徳・福岡志保美・石丸由利子・松下郁子・渡辺佐代枝・渡邊真琴

11　以下の方々より、ご指導、ご協力をいただいた（平成11年度・順不同・敬称略）。
申敬澈（釜山大學校人文大學）／姜仁求（韓国精神文化研究院）／岡村道雄（文化庁記念物課）／岸本直文（文化庁記念物課）／阿部義平（国立歴史民族博物館）／松本修自（東京国立文化財研究所）／山中敏史（奈良国立文化財研究所）／松井章（奈良国立文化財研究所）／林部均（奈良県立橿原考古学研究所）／上原真人（京都大学大学院）／石野博信（徳島文理大学）／前園美知雄（奈良芸術短期大学）／内田俊秀（京都造形芸術大学）／藤田等（静岡大学人文学部名誉教授）／本田光子（別府大学）／高倉洋彰（西南学院大学）／高島忠平（佐賀女子短期大学）／下條信行（愛媛大学）／松原弘宣（愛媛大学）／田﨑博之（愛媛大学）／村上恭通（愛媛大学）／平井幸弘（愛媛大学）／川岡勉（愛媛大学）／吉田広（愛媛大学）／三吉秀充（愛媛大学）／伊東照雄（下関市立考古博物館）／横田賢次郎（九州歴史資料館）／冨田尚夫（愛媛県歴史文化博物館）／渡辺智恵美（元興寺文化財研究所）／菅井裕子（元興寺文化財研究所）／杉山真二（古環境研究所）／萩原儀征（桜井市埋蔵文化財センター）／宍道年弘（島根県斐川町教育委員会）／岡田敏彦（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／中野良一（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／真鍋昭文（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／柴田昌児（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／柴田圭子（愛媛県埋蔵文化財調査センター）／森光晴（愛媛考古学協会）／長井数秋（日本考古学協会）／大澤正巳（日本考古学協会）

12　ご指導、ご協力をいただいた機関は、次のとおりである（順不同）。
文化庁／奈良国立文化財研究所／京都造形芸術大学文化財保存科学研究室／愛媛大学／愛媛大学埋蔵文化財調査室／奈良県立橿原考古学研究所ならびに同附属博物館／大阪府立弥生文化博物館／愛媛県歴史文化博物館／愛媛県立歴史民俗資料館／広島県立歴史民俗資料館／九州歴史資料館／下関市立考古博物館／桜井市文化財協会／大阪府教育委員会／春日市教育委員会／愛媛県教育委員会／伊方町教育委員会／（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター／愛媛大学教育学部附属小学校／（財）元興寺文化財研究所／（株）京都科学／（株）古環境研究所／（株）川鉄テクノリサーチ／（株）九州テクノリサーチ

本文目次

Ⅰ　平成11年度　松山市埋蔵文化財調査概要
東野中畦遺跡 …… 2
東本遺跡５次調査地 …… 4
桑原遺跡２次調査地 …… 8
桑原遺跡３次調査地 …… 12
小坂七ノ坪遺跡３次調査地 …… 16
釜ノ口遺跡９次調査地 …… 18
筋違Ｎ遺跡 …… 22
筋違Ｏ遺跡 …… 26
五郎兵衛谷７号墳 …… 28
下苅屋遺跡４次調査地 …… 34
五楽遺跡２次調査地 …… 38
五楽遺跡３次調査地 …… 42
北梅本北池遺跡 …… 46
北梅本悪社谷遺跡２次調査地 …… 48
播磨塚天神山古墳 …… 50
久米才歩行遺跡５次調査地 …… 54
久米才歩行遺跡６次調査地 …… 58
来住町遺跡９次調査地 …… 60
久米高畑遺跡42次調査地 …… 64
久米高畑遺跡43次調査地 …… 68
久米高畑遺跡44次調査地 …… 72
久米高畑遺跡45次調査地 …… 74
久米地区公共工事に伴う確認調査 …… 76
久米官衙遺跡群～各施設の配置とその名称～ …… 78
Ⅱ　平成11年度　松山市埋蔵文化財調査関係資料
松山市埋蔵文化財確認調査一覧 …… 82
松山市埋蔵文化財本格調査一覧 …… 94
Ⅲ　平成11年度　出土遺物整理 …… 97
１.出土遺物整理の概要　２.保存処理事業Ⅰ　３.保存処理事業Ⅱ
４.松山大学構内遺跡３次調査出土弥生鉄器の金属学的調査
５.遺物収蔵一覧
Ⅳ　平成11年度　啓蒙普及事業 …… 137
１.展示活動　２.教育普及活動　３.収集・保管活動　４.広報・出版活動
５.施設の利用　６.資料の貸出　７.職員研修・会議　８.松山市文化財情報館

挿図・写真目次

巻頭図版１　東本遺跡５次調査地完掘状況
巻頭図版２　播磨塚天神山古墳全景
巻頭図版３　播磨塚天神山古墳１号石室出土遺物

東野中畦遺跡 …… 2
図１　調査地位置図
写真１　遺構完掘状況
写真２　２号墳石室検出状況

東本遺跡５次調査地 …… 4
図１　調査地位置図
図２　遺構配置図
写真１　完掘状況
写真２　ＳＢ５炭化財検出状況
写真３　ＳＢ２完掘状況
写真４　ＳＢ４高床部掘り込み遺物出土状況

桑原遺跡２次調査地 …… 8
図１　調査地位置図
図２　遺構配置図
図３　出土遺物実測図
写真１　調査地全景
写真２　ＳＤ１，ＳＫ２完掘状況

桑原遺跡３次調査地 …… 12
図１　調査地位置図
図２　遺構配置図
図３　ＳＤ３出土遺物実測図
写真１　遺構検出状況
写真２　ＳＤ１遺物出土状況

小坂七ノ坪遺跡３次調査地 …… 16
図１　調査地位置図
図２　遺構配置図
写真１　調査地全景

釜ノ口遺跡９次調査地 …… 18
図１　調査地位置図
図２　遺構配置図
写真１　遺構完掘状況
写真２　ＳＤ２遺物出土状況
写真３　ＳＤ３九州型壺出土状況
写真４　拡張区土層と杓子状木製品出土状況
写真５　ＳＤ３杓子状木製品出土状況

筋違Ｎ遺跡 …… 22
図１　調査地位置図
図２　遺構配置図
写真１　遺構完掘状況
写真２　ＳＢ３遺物出土状況
写真３　ＳＢ３炉における支脚出土状況

筋違Ｏ遺跡 …… 26
図１　調査地位置図　　写真１　調査地全景
図２　遺構配置図
五郎兵衛谷７号墳 …… 28
図１　調査地位置図　　写真１　調査地全景
図２　墳丘測量図　　写真２　墳丘土層断面
図３　前庭部出土有蓋高坏　　写真３　墓道と石室
図４　石室展開図　　写真４　石室
下苅屋遺跡４次調査地 …… 34
図１　調査地位置図　　写真１　遺構完掘状況
図２　遺構配置図　　写真２　ＳＢ１，ＳＢ２完掘状況
図３　ＳＢ１，ＳＢ２出土遺物実測図
図４　ＳＰ１，ＳＰ２出土遺物実測図
五楽遺跡２次調査地 …… 38
図１　調査地位置図　　写真１　１区完掘状況
図２　遺構配置図　　写真２　２区完掘状況
図３　掘立13測量図
五楽遺跡３次調査地 …… 42
図１　調査地位置図　　写真１　１区南半部完掘状況
図２　調査地測量図　　写真２　１区北半部完掘状況
図３　出土遺物実測図
北梅本北池遺跡 …… 46
図１　調査地位置図　　写真１　１区Ａ・Ｂ完掘状況
写真２　ＳＲ１完掘状況
北梅本悪社谷遺跡２次調査地 …… 48
図１　調査地位置図　　写真１　ＳＸ２遺物出土状況
写真２　ＳＲ２流木出土状況
播磨塚天神山古墳 …… 50
図１　調査地位置図　　写真１　墳丘全景
図２　墳丘と遺構の配置　　写真２　東くびれ部埴輪検出状況
久米才歩行遺跡５次調査地 …… 54
図１　調査地位置図　　写真１　調査地全景
図２　遺構配置図　　写真２　調査地東部全景
写真３　ＳＢ１，ＳＢ２検出状況
久米才歩行遺跡６次調査地 …… 58
図１　調査地位置図　　写真１　調査地全景
図２　遺構配置図

来住町遺跡９次調査地 ……60
図１　調査地位置図　　写真１　小鍛冶炉１，２半截状況
図２　遺構配置図　　写真２　鉄床石検出状況
図３　出土遺物実測図
久米高畑遺跡42次調査地 ……64
図１　調査地位置図　　写真１　調査地全景
図２　遺構配置図　　写真２　区画溝と掘立の検出状況
図３　調査地と回廊状遺構
久米高畑遺跡43次調査地 ……68
図１　調査地位置図　　写真１　完掘状況
図２　遺構配置図　　写真２　礎石検出状況
図３　正倉院全体図
久米高畑遺跡44次調査地 ……72
図１　調査地位置図　　写真１　調査地全景
図２　遺構配置図
久米高畑遺跡45次調査地 ……74
図１　調査地位置図　　写真１　遺構検出状況
図２　遺構配置図
久米地区公共工事に伴う確認調査……76
図１　調査地位置図　　写真１　Ｃ地点掘立完掘状況
図２　Ｃ地点検出の掘立柱建物
図３　汚水管工事のルート
久米官衙遺跡群～各施設の配置とその名称～ ……78
図１　各施設の名称
図２　久米官衙遺跡群全体図

Ⅰ　平成11年度
松山市埋蔵文化財調査概要

東野中畦遺跡（ヒガシノ　ナカアゼ）

所在地　松山市東野三丁目乙201－10
期　間　平成11年４月１日～同年９月30日
面　積　7347.8㎡
担　当　梅木謙一・水本完児

図１　調査地位置図

経　過　本調査は上水道配水池建設に伴う事前調査で、対象地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№78 東野古墳群』に西隣する。調査地は、松山平野の北東部、標高86.6～95.9ｍに立地する。

遺構・遺物　調査地の基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層表土、第Ⅲ層茶色土、第Ⅳ層赤褐色土、第Ⅴ層黄色土、第Ⅵ層岩盤である。遺構は、第Ⅳ層上面で古墳時代後期の古墳３基、古代の土壙墓１基、近・現代の貯水池１基を検出した。

１号土壙墓の規模は、南北2.0ｍ、東西1.6ｍ、深さ55㎝を測る。遺物は甕が1点出土し、甕の中からは骨が出土した。

１号墳は、横穴式石室で南に開口している。石室は、右側壁は石が２段、左側壁は石が１段残り、天井石と奥壁の石は不明。規模は南北検出長3.0ｍ、東西1.1ｍ、深さ40㎝を測る。出土遺物はない。

２号墳は、横穴式石室で南に開口し、周溝をもつ。石室は、右側壁は石が２段、左側壁は石が３段、奥壁は石が１段残っていたにすぎない。規模は、南北検出長5.0ｍ、東西2.0ｍ、深さ1.5ｍを測る。石室内には、石室の中心から奥壁までの床面に、玉石と敷石とを検出した。遺物は、須恵器、土師器、耳環、ガラス玉が出土している。周溝の規模は、東西検出長5.6ｍ、幅0.65～1.1ｍ、深さ10㎝を測る。遺物は、土師器と須恵器が出土した。

３号墳は、周溝を検出したにとどまる。規模は、東西検出長11.3ｍ、幅0.7～1.2ｍ、深さ10㎝を測る。遺物は、弥生土器と土師器が出土した。

小　結　本調査では、古墳時代から近・現代までの遺構と遺物を確認した。古墳３基は、墳丘は削平されていたが、うち２基では、石室の一部を検出した。古墳はいずれも横穴式石室で、丘陵の南斜面に配置していることから、群集墳をなしているものと考えられる。東野町から畑寺町までの丘陵部には、５世紀末から群集墳が数多く造営されており、本古墳群もその一つとみてよい。

また、土壙墓１は、松山平野では数少ない古代墓例となる。

今後は、松山平野北東部の古墳群との関係を解明しなければならない。（水本）

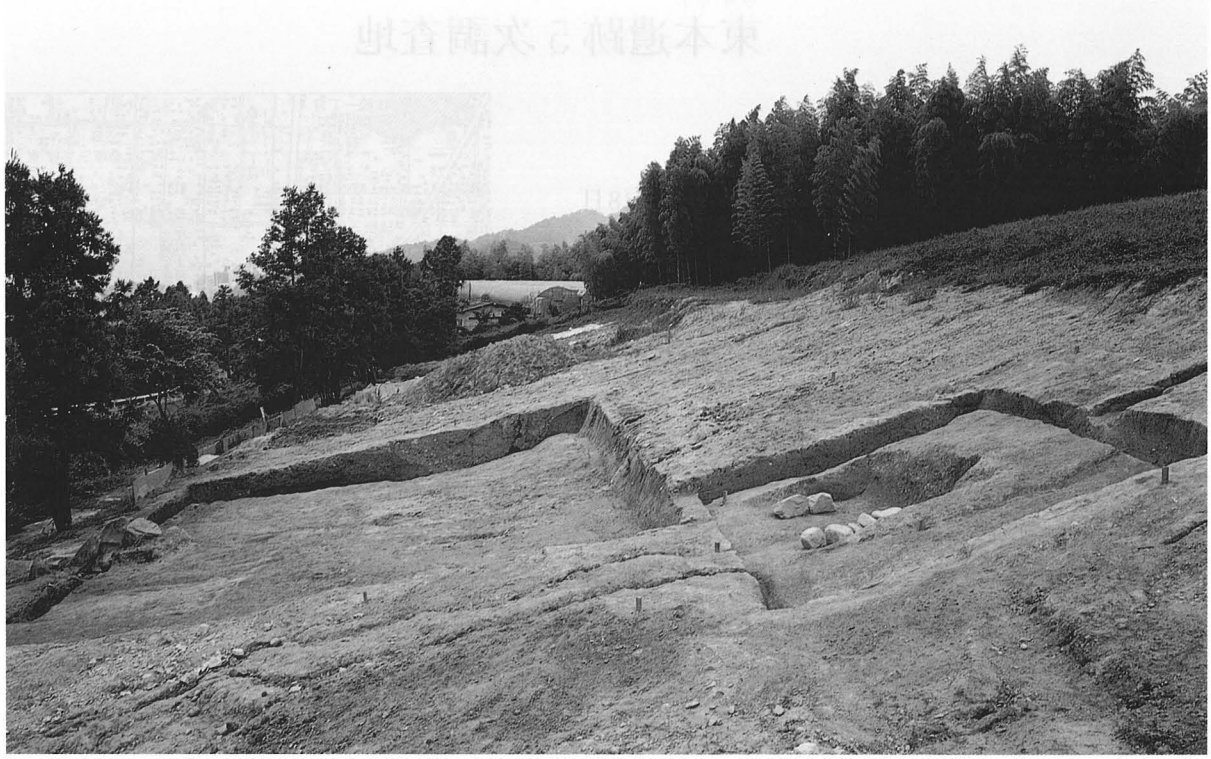


写真１　遺構完掘状況（東より）

写真２　２号墳石室検出状況（南より）

東本（ツカモト）遺跡５次調査地

所在地　松山市東本１丁目120－１
期　間　平成11年７月22日～同年10月18日
面　積　676.85㎡
担　当　河野史知・小笠原善治

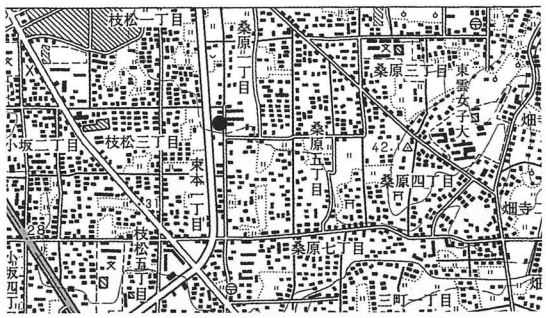


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『No.83 枝松遺物包含地』内における店舗建設に伴う事前の発掘調査である。調査地は石手川左岸の低位段丘上、標高35ｍに立地する。同包含地内はこれまでに数多くの調査が行われ、弥生時代～古墳時代の集落関連遺構や遺物が多数検出されている。なかでも調査地西隣の東本遺跡４次調査地では、円形の大型竪穴式住居址内から青銅鏡が出土している。また、アカホヤ火山灰（約6,300年前）やＡＴ火山灰（約21,000～25,000年前）の堆積が確認され、アカホヤ火山灰の下から槍先形石器などの石器類が出土している。これらのことから、調査地及び周辺地域における弥生時代の集落の広がりや構造解明を主目的とし調査を実施した。

遺構・遺物　基本土層は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層床土、第Ⅲ層黒色土（南西部の一部に堆積する）、第Ⅳ層暗褐色土、第Ⅴ層黄色土塊と灰色土の混合層である。遺構は第Ⅲ層上面及び第Ⅳ層上面で検出した。検出遺構は、弥生時代の竪穴式住居址７棟、溝２条、土坑４基、柱穴20基、近世の土坑１基を検出した。遺物は主に遺構内からの出土であり、弥生土器、鉄器、炭化材、骨等が出土している。

［弥生時代］　後期の竪穴式住居址や溝、土坑を確認した。これらの遺構は出土遺物や遺構の切り合い等から、後期末の中で、細かに４～５段階の時期に分かれると考えられる。

第１段階のＳＫ４は、土坑の形態から貯蔵穴と考えられる。出土した遺物から、今回の調査で検出した遺構の中で最も古い。

第２段階のＳＢ６・ＳＢ７は、共に方形プランの住居址である。ＳＢ６は主柱穴を南側２本分しか確認していないが、主柱穴の位置より本来は４本柱と想定される。ＳＢ７は検出された竪穴式住居址の中で唯一、高床施設を持たないものである。

第３段階は、ＳＢ１・ＳＢ３・ＳＢ５を検出した。いずれの住居址も直径７ｍを測る比較的大型の住居址である。ＳＢ３は南東部に高床部と異なる段を有しており、この部分は入り口等の施設も考えられる。また、北側の高床部で検出した溝状の掘り込みは、どの様な性格を持つ遺構なのか、現段階では不明である。ＳＢ５の炭化材や焼土などの検出状況から、この住居址は焼失住居と考えられる。また、住居址の基底面にて不整円形の浅い掘り込みを検出したが、この掘り込みはＳＢ５築造以前に存在していた竪穴式住居址の可能性が高い。

第４段階は、ＳＢ２・ＳＢ４・ＳＫ２・ＳＫ３が出現する。ＳＢ２・ＳＢ４は内側が八角形の高床部をもつ直径９ｍを測る大型の竪穴式住居址である。ＳＢ２は内側を巡る主柱穴や周壁溝などから住居を拡張したことが考えられる。ＳＢ４の主柱穴は、外側と内側の２重構造の柱となる。また、南東部の一辺には貼り付けの高床部と異なる地山を削り出した２段の浅い段を検出しており、ＳＢ３と同

様に入り口等の施設が考えられる。そして、高床部上面から掘り込まれた円形の遺構が主柱穴の横に６基検出されているが、主柱穴に伴うものなのか、他の施設なのか、今後の研究課題である。

ＳＤ１・ＳＤ２は、出土遺物が殆どなく、遺構の切り合いから後期末以前に埋没としか判らない。共に時期決定できる遺物が乏しく、遺構の切り合いから同段階と考えたが、さらに古くなる可能性もある。ＳＤ１は両端が調査区外に延びており、東本遺跡４次調査地で検出したＳＤ４０１のつながりと考えられ、ＳＤ１北端とＳＤ４０１南端の長さは70ｍを測る。このＳＤ４０１も時期決定しうる遺物がなく、遺構の切り合いから弥生時代後期末以前に埋没したと考えられている。

［近世］　ＳＫ１の炭化材・焼土と骨の検出状況から、この土坑内で焼成を受けたものと考えられる。骨は細片であり、現段階では骨の繊維から哺乳類と考えられるが、人骨か獣骨であるかは現段階では不明である。

小　結　今回の調査では、弥生時代後期末の竪穴式住居址を主とした集落を形成する遺構や遺物など、当時の集落構造を解明する資料が得られることができた。今後は、住居の細かな構造や周辺遺跡との関連を検討する必要がある。　（河野）

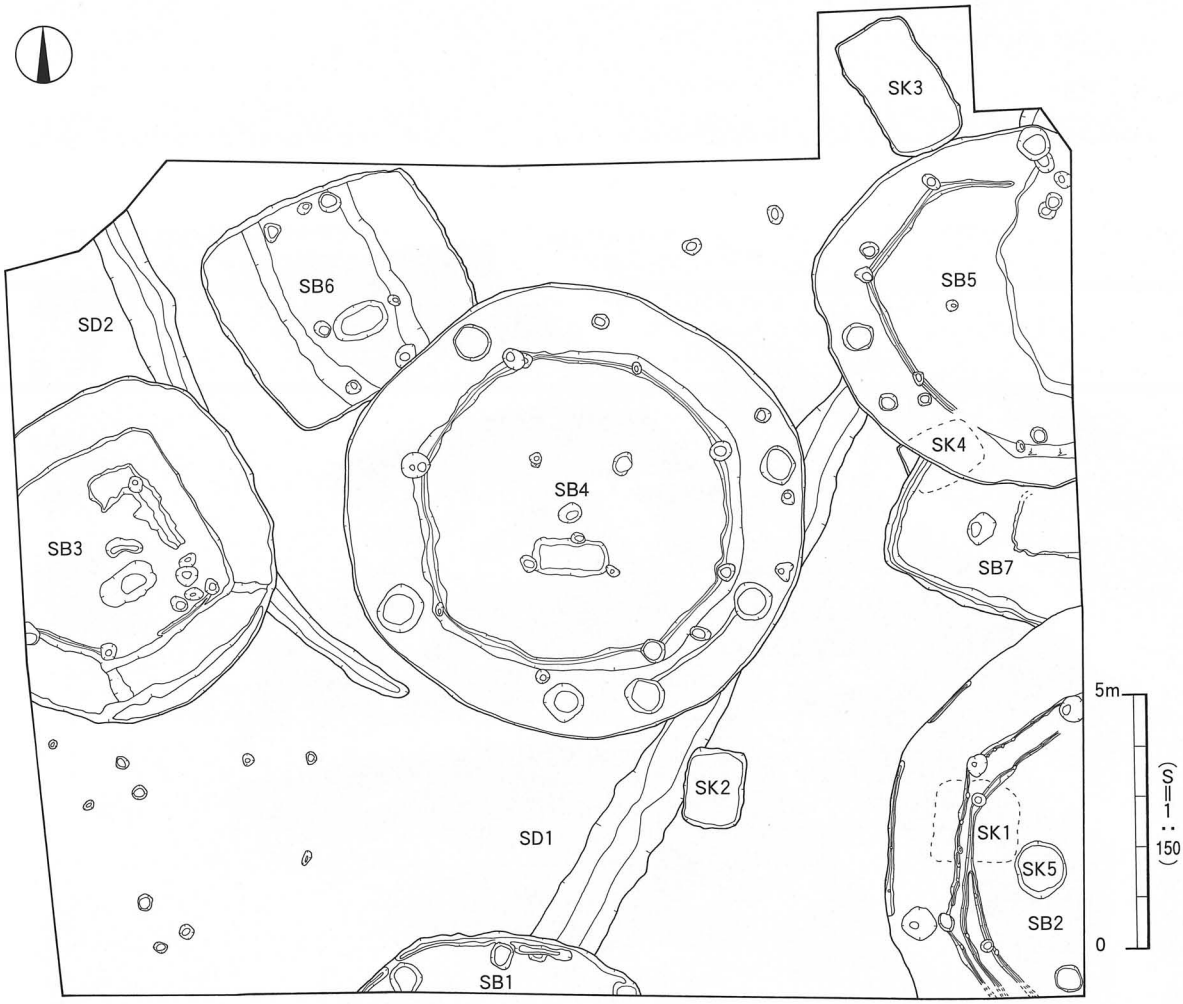


図２　遺構配置図

写真１　完掘状況（北より）

写真２　ＳＢ５炭化材検出状況（北より）

写真３　ＳＢ２完掘状況（北東より）

写真４　ＳＢ４高床部掘り込み遺物出土状況（北より）

桑原（クワバラ）遺跡２次調査地

松山市道「中村～桑原線」関連遺跡

所在地　松山市桑原４丁目359－１・２
期　間　平成11年11月29日～同年12月17日
面　積　11,700㎡のうち約230㎡
担　当　栗田茂敏・相原浩二

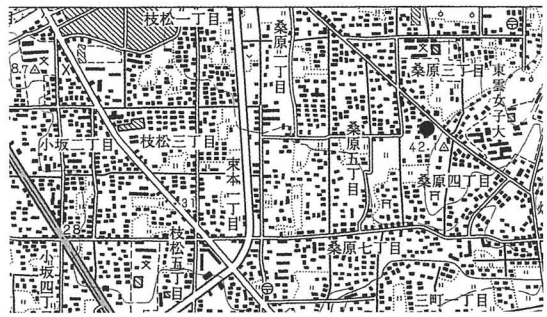


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市道「中村～桑原線」道路建設に伴う事前発掘調査である。調査地は松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№82 東本遺物包含地』内にある。調査範囲は、松山東部環状線の東本１丁目116番６から東へ市道桑原130号線にあたる桑原４丁目359番２までの全長650ｍ、道路幅18ｍの全域が調査対象地となっている。今回の調査地は、その東端にあたる。周辺の遺跡には、北方に樽味遺跡、西方には東本遺跡などがあり、これまでに数次の調査が行われ、弥生時代～中世にかけての集落関連遺構が多数確認されている。また、調査地の南にある台地上には前方後円墳である三島神社古墳や経石山古墳がある。調査地は、その台地の北縁部標高38ｍに立地する。

遺構・遺物　調査地の基本層位は第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層赤灰色土（床土）、第Ⅲ層黒褐色土（中世遺物包含層）、第Ⅳ層黄褐色土（地山）である。第Ⅲ層は、厚さ２㎝～３㎝程度で部分的に遺存する。遺構の検出は第Ⅳ層上面で行った。

検出した主な遺構は土坑２基（ＳＫ１～２）、溝３条（ＳＤ１～３）、性格不明遺構１基（ＳＸ１）、倒木痕跡３基である。出土遺物は弥生土器片、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器が出土している。

検出した遺構のうち時期の判るものに、土坑ＳＫ２と溝ＳＤ１がある。ＳＫ２は、ＳＤ１を切って掘られる。検出規模は、長軸2.45ｍ、短軸1.50ｍ、深さ0.66ｍを測る。平面形は不整形を呈し、断面形はすり鉢状を呈する。埋土は黒色粘質土の一層である。出土遺物は、瓦器椀、土師器椀・皿、白磁片が出土している。時期は出土遺物より、13世紀前半と考えている。ＳＤ１は、調査地を東から西へ流れる溝で、ＳＫ２に切られている。検出規模は、長さ11.20ｍ、幅1.25ｍ～3.35ｍ、深さ0.32ｍ～0.50ｍを測る。埋土は、溝底に粗砂層が厚さ３㎝～４㎝堆積し、その上層には黒色土が堆積する。出土遺物は、須恵器、瓦器が出土している。時期は、出土遺物より13世紀前半には埋没したものであろう。そのほか、ＳＸ１は検出規模が長軸9.70ｍ、短軸2.75ｍ、深さ0.04ｍ～0.10ｍを測る。平面形が不整形で東西方向に長く掘り方の浅い土坑である。埋土は、灰色土に黒色土がブロック状に混入する。出土遺物には瓦器があり、ＳＤ１出土遺物と同時期のものである。

小　結　今回の調査で確認した遺構のうち、注目されるものに土坑ＳＫ４と溝ＳＤ１がある。これらの遺構からは、13世紀前半の土器が多量に出土している。このことより、調査地周辺には中世の集落が営まれているものと考えらる。出土した土器は、松山平野内の13世紀代の松山市内の土器様相を知るうえで貴重な資料となるものである。（相原）

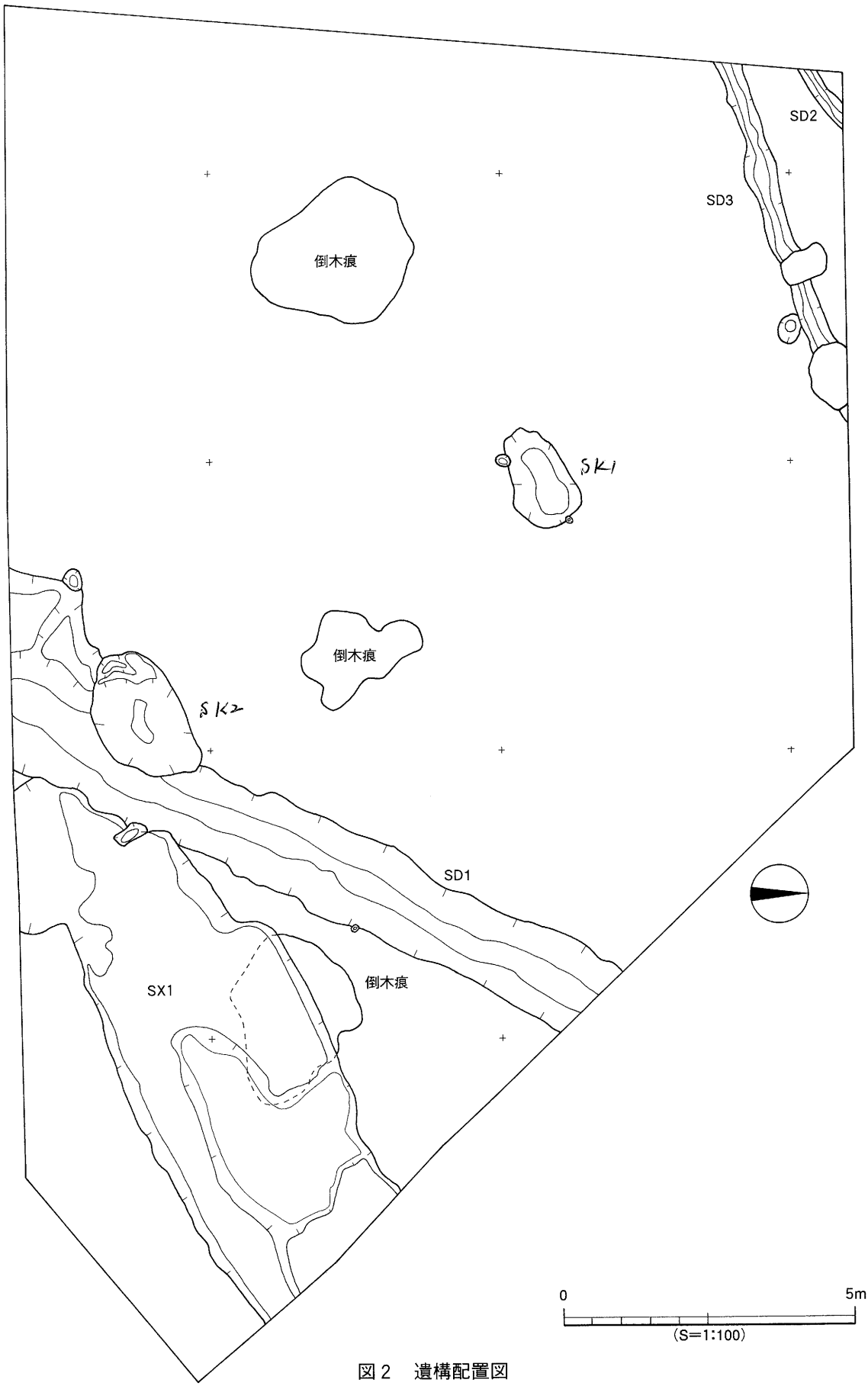


図２　遺構配置図

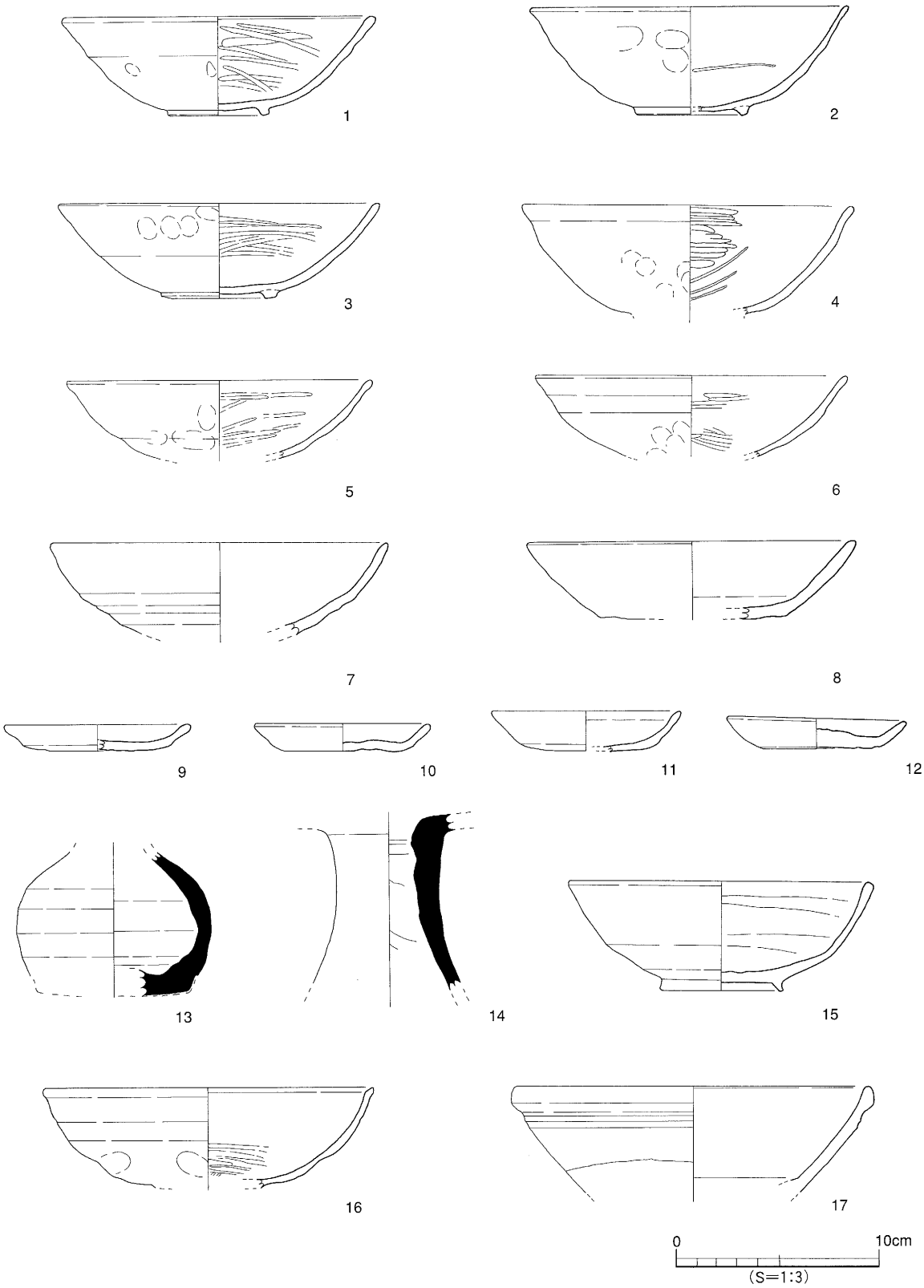


図３　出土遺物実測図

写真１　調査地全景（南東より）

写真２　ＳＤ１，ＳＫ２完掘状況（西より）

桑原（クワバラ）遺跡３次調査地

所在地　松山市桑原１丁目803－２・４
期　間　平成12年１月５日～同年３月３日
面　積　470.07㎡
担　当　栗田茂敏・相原浩二

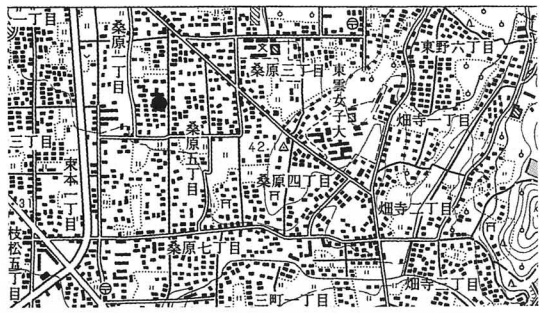


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する包蔵地『№157 桑原遺物包含地』における宅地開発による事前の発掘調査である。調査地は石手川中流域南岸の微高地上、標高37ｍに立地する。調査地一帯は、桑原地区と呼ばれこれまでに数多くの調査が行われ、弥生時代～中世に至る集落関連遺構が確認されている。特に、弥生時代中期末～後期、古墳時代中期～後期の竪穴式住居址や掘立柱建物址が数多く検出されており、継続的に集落が営まれている事が解ってきた。今回の調査は、各時期の集落関連遺構の確認を目的とした。

遺構・遺物　調査地の基本層位は第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層青灰色土（耕作土）、第Ⅲ層明灰色土（床土）、第Ⅳ層黄色土である。第Ⅳ層は、地山と呼ばれる層である。遺構の検出は、この第Ⅳ層上面で行った。検出した主な遺構は溝３条、性格不明遺構１基である。溝については、時期の判るものにＳＤ１がある。ＳＤ１は、調査地を北東方向から南西方向へ流れる溝で、検出規模は長さ16.90ｍ、幅0.75～2.25ｍ、深さ0.10～0.75ｍを測る。溝の幅は、調査地の南側で広くなる。深さは、調査地中央部から段落ちし南に向かって深くなる。溝の北端が最も浅く、南端が最深となる。埋土は、溝底に粗砂層が堆積し上層は砂、粗砂、黒色土が互層となって堆積する。出土遺物には、弥生土器、土師器、土製勾玉、石鏃がある。遺物の出土状況は、ほぼ完形の壺、甕などの弥生土器が溝中央部の溝底より出土し、その上部に土師器の甕、小型丸底壺、器台が出土した。ＳＤ１の時期については、出土遺物より古墳時代初頭に埋没したものと考える。

そのほか、時期の不明確なものにＳＤ２、ＳＤ３、ＳＸ１がある。ＳＤ２は、ＳＤ１に切られる溝である。検出規模は長さ8.0ｍ、幅1.0ｍ、深さ0.5ｍを測る。埋土はすべて砂層である。遺物は全く出土していない。ＳＤ３の検出規模は長さ3.7ｍ、幅0.7ｍ、深さ0.10ｍである。埋土は黒褐色土の一層で遺物は出土していない。ＳＸ１は、ＳＤ１に切られる。検出規模は長軸6.8ｍ、短軸5.0ｍ、深さ0.45ｍを測る。平面形は不整形である。埋土は黒褐色土である。出土遺物は、遺構検出時に上面で弥生土器片が数点出土したのみで、遺構中からの出土遺物はない。

小　結　これまでに桑原地区では、弥生時代中期～後期、古墳時代中期～後期頃の集落が多数確認されているが古墳時代前期の遺構、遺物の検出例は多くない。今回の調査によりＳＤ１から古墳時代初頭の土器が出土した事や、本調査地の北300ｍにある樽味四反地遺跡６次調査では、弥生時代終末～古墳時代初頭の大型の掘立柱建物址を検出している事などから、周辺には古墳時代前期の集落が営まれているものと考えられる。今後は、桑原地区の古墳時代前期の集落構造解明が課題である。（相原）

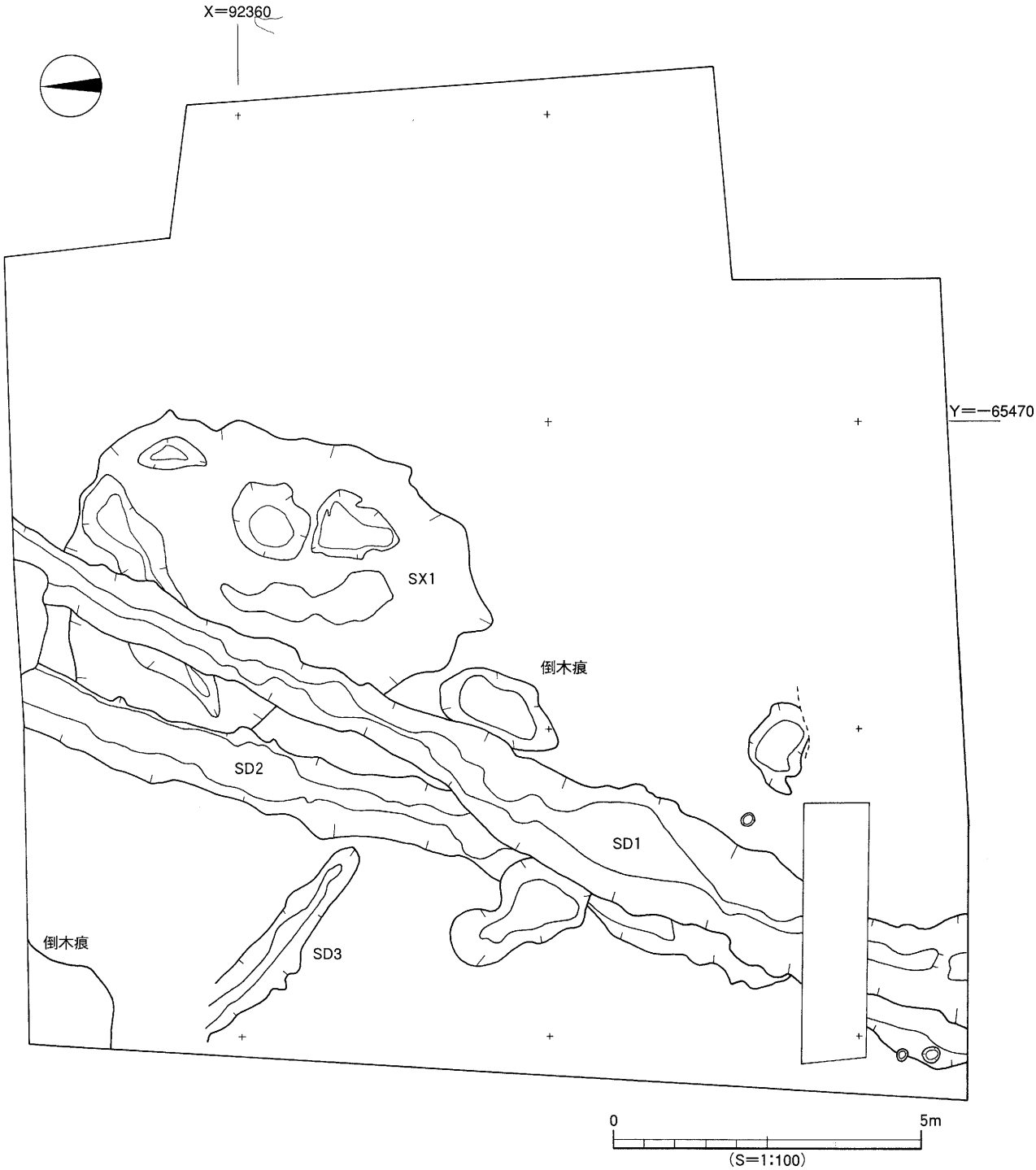


図２　遺構配置図

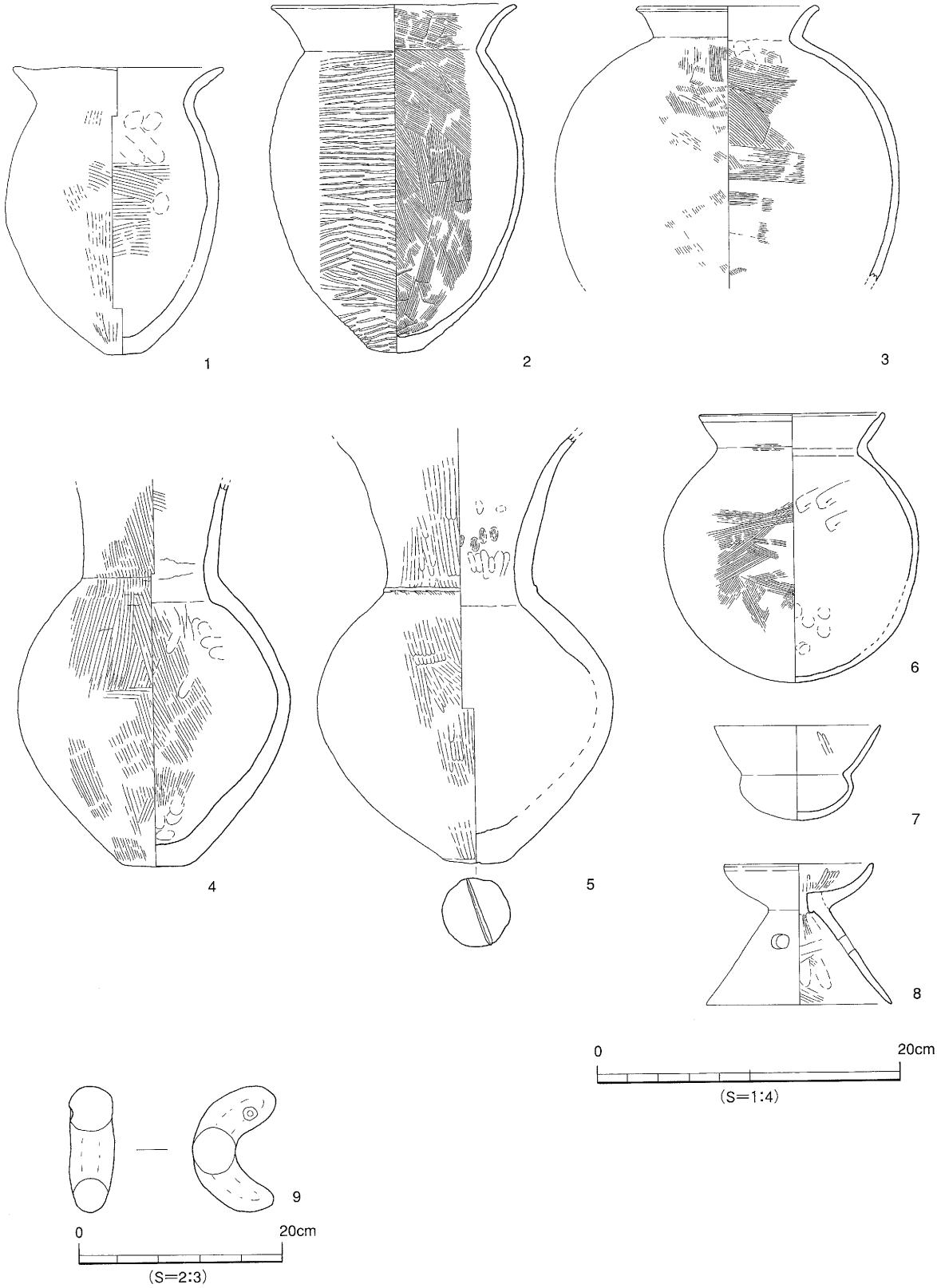


図３　ＳＤ３出土遺物実測図

写真１　遺構検出状況（南東より）

写真２　ＳＤ１遺物出土状況（北より）

小坂七ノ坪遺跡３次調査地

（コサカシチノツボ）

所在地　松山市小坂2丁目479－9
期　間　平成11年6月10日～同年9月16日
面　積　403.25㎡
担　当　重松佳久・大西京子

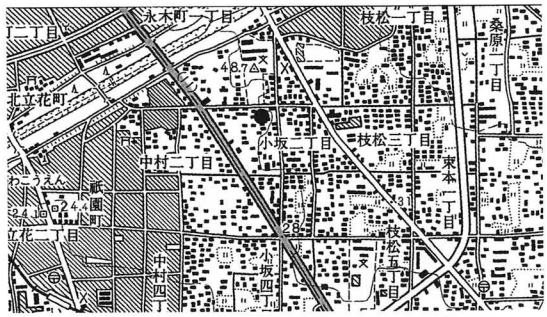


図１　調査地位置図

経　過　本調査の南には、7世紀末～8世紀代の遺構・遺物が確認されている小坂七ノ坪遺跡１次調査地、西には弥生時代から古墳時代の複合遺跡である小坂七ノ坪遺跡２次調査地が隣接する。また周辺では、北に素鵞小学校遺跡、西に中村松田遺跡や中村長正寺遺跡、南に釜ノ口遺跡など、弥生時代から奈良時代に至る松山平野でも有数の集落遺跡が存在している。

本調査では、隣接する小坂七ノ坪遺跡１次、２次調査地の成果を得て、集落遺跡の解明を主目的に平成11年6月10日より住宅開発に伴う事前の発掘調査を開始した。

遺構・遺物　調査地の基本層序は８層で、各層の特徴は以下の通りである。

第Ⅰ層は造成土、第Ⅱ層から第Ⅳ層まで近世以降の耕作土、第Ⅴ層暗褐色土、第Ⅵ層黒褐色粘質土、第Ⅶ層黒褐色砂質土、第Ⅷ層基盤層である。遺構は、第Ⅵ層上面で検出し、地形は、調査地北東部から南西部に向かって緩傾斜を成す。また、溝状遺構上面では部分的に氾濫時の細砂層を確認した。

遺構は、溝6条、土坑7基、柱穴14基、井戸状遺構1基、自然流路1条が検出され、出土遺物とこれまでの調査成果等によって弥生時代から古代に比定することができる。

平行する溝（ＳＤ１・３・４・５）は、調査区を東西にはしる溝で、西側に隣接する２次調査地の7世紀～8世紀にかけての溝状遺構の延長線上にある。調査区を南北にはしる溝（ＳＤ２・ＳＲ１）は、弥生時代後期の井戸および土坑の上部を削平し、7世紀～8世紀の溝にきられることから、弥生時代後期から古墳時代にかけての時期を想定することができる。調査区北西部で検出された井戸状遺構（ＳＥ１）は、直径1.9m、深さ約1.3mのやや不整形な楕円形を呈し、掘り方はすり鉢状となる。埋土は、黒褐色粘性土および砂混じりの土壌で弥生時代後期の多量の廃棄土器が検出された。

小　結　今回の調査では、弥生時代後期から古代に相当する時期の溝状遺構や井戸状遺構等が検出された。井戸状遺構では、遺構内に弥生時代後期の甕・壺・坏等の多量の土器が投げ込まれた状態で検出された。このような井戸の廃絶に伴う土器の一括廃棄は数々の事例が報告されており、今後、土器構成の分析等の整理作業を進めていくなかで、精神性や祭祀儀礼が復元されるものと期待される。

当地域ではこれまでの調査で、弥生時代から奈良時代にわたる拠点的集落の存在が指摘されてきているが、今回の調査地点は北から南に緩やかに傾斜する台地端部に位置することや２次調査地の成果等から集落にともなう水場として継続的な土地利用が図られたものと考えられる。また、調査区を東西にはしる溝状遺構は、方向性を意識した区画溝であり、奈良時代に始まるとされる土地区割り（条里制）の導入と時期を同じくするものと考えられる。当地の字名「七ノ坪」の呼称もこうした考古学的知見の累積と条理研究の進展をもって解明されるものと期待される。（大西）

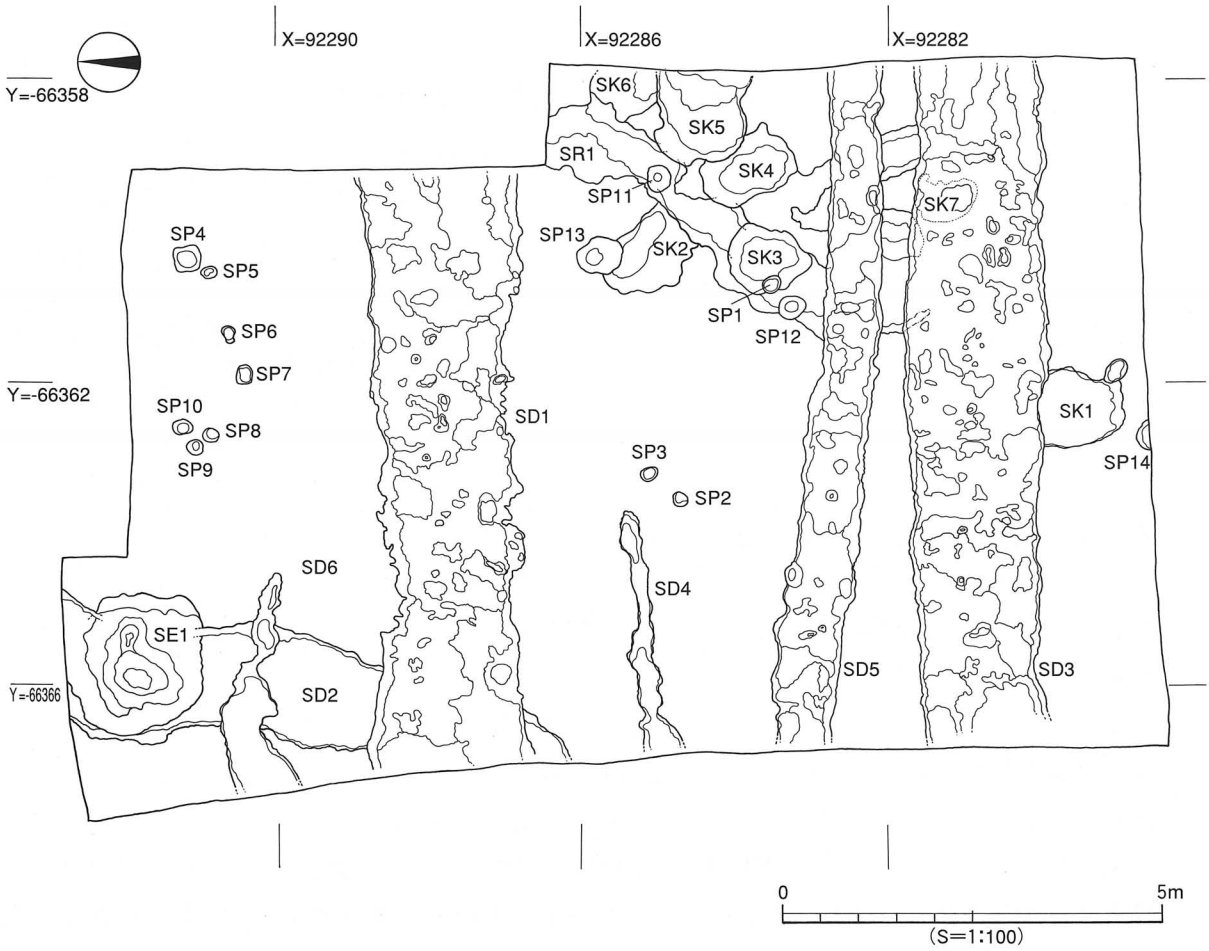


図２　遺構配置図

写真１　調査地全景（西より）

釜ノ口遺跡９次調査地

所在地　松山市小坂３丁目436－１・437－１
期　間　平成11年10月18日～平成12年１月31日
面　積　989.87㎡
担　当　梅木 謙一・水本 完児

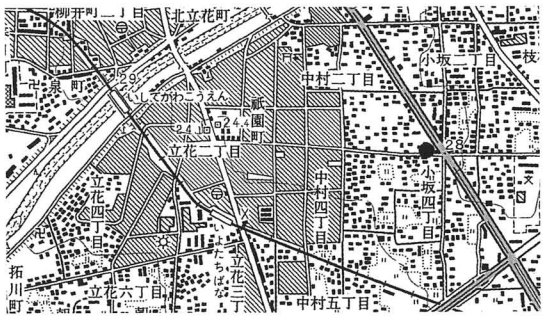


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№110 釜ノ口遺跡』内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は、松山平野の北東部、標高27.2ｍに立地する。釜ノ口遺跡では、これまで８度にわたる発掘調査が実施され、弥生時代後期の竪穴住居址、土坑、溝を含む集落関連遺構と遺物を確認している。

遺構・遺物　調査地の基本層位は、第Ⅰ層造成土、第Ⅱ層耕作土、第Ⅲ層床土、第Ⅳ層黒褐色粘土、第Ⅴ層茶色粘土、第Ⅵ層黄色土である。遺構は、第Ⅳ層上面では溝１条（ＳＤ１）、第Ⅴ層上面では溝５条（ＳＤ２～６）、土坑１基（ＳＫ１）、柱穴80基を検出した。

第Ⅳ層上面では、ＳＤ１を調査区東北～南西にかけて検出した。規模は全長30ｍ、幅0.4～1.5ｍ、深さ２～20㎝を測る。出土遺物は須恵器が出土した。時期は、検出層位や出土した須恵器より古墳時代～古代とする。

第Ⅴ層上面では、ＳＤ２とＳＤ３を検出した。ＳＤ２は、調査区北東～西端中央で検出した。規模は、検出長23ｍ、幅0.8～1.2ｍ、深さ２～37㎝を測る。出土遺物は完形品の豊後系の壺と在地の長頸壺、モモの種が各１点出土した。時期は、出土品から弥生時代後期中葉とする。ＳＤ３は、調査区北東～南西にかけて検出した。規模は検出長29ｍ、幅1.8～3.9ｍ、深さ45～110㎝を測る。出土遺物では、豊後系の壺１点が特出され、在地の壺形土器、甕形土器、鉢形土器、器台形土器の復元完形品も多く出土した。また、木製品、石製品、モモ科の種、ウリ科の種子が出土した。時期は、出土品から弥生時代後期中葉～後葉とする。

小　結　本調査では、弥生時代後期の遺構と遺物、古墳時代～古代の遺構と遺物を確認することができた。弥生時代の成果をまとめると、第一には、弥生時代後期の集落に付随する溝を検出したことである。ＳＤ３は、集落間を区画する溝もしくは水田に伴う給排水溝の可能性がある。また、ＳＤ２とＳＤ４は、溝幅が狭く集落内を区画する溝の可能性がある。第二には、ＳＤ２とＳＤ３から出土した豊後系の壺である。松山平野では、小破片しか出土しておらず、完形品での出土は初例になる。第三には、ＳＤ３の南西部から、弥生土器、木製品、モモ科の核が多量に出土したことである。弥生土器には大型破片と完形品とがあり、木製品には完製品と未製品とがある。遺物は出土状況と遺存状況より、備蓄品の可能性をもつ。このような例は、松山平野では類例が少ない。今回の調査では、釜ノ口遺跡における弥生時代後期集落の構造や、木製品の備蓄の様子が一部明らかになった。今後は、調査地の北に展開する中村松田遺跡との関係を求め、弥生時代後期集落の構造を究明しなければならない。

（水本）

図２　遺構配置図

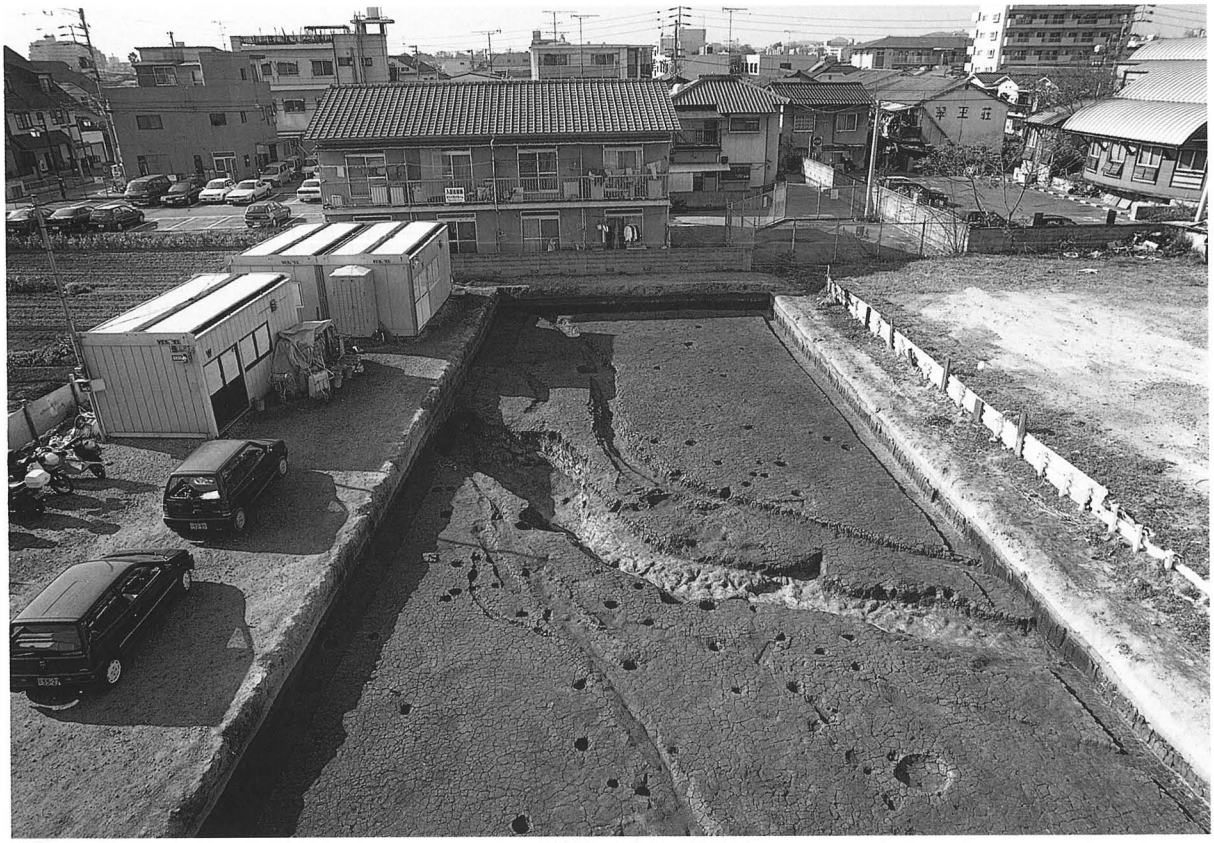


写真１　遺構完掘状況（東より）

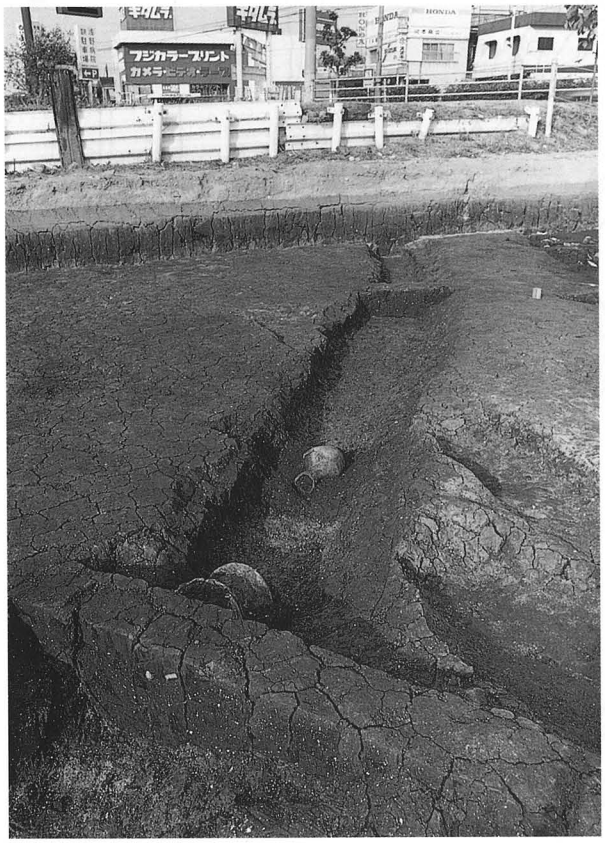


写真２　ＳＤ２遺物出土状況（南より）

写真３　ＳＤ３九州型壺出土状況（南より）

写真４　拡張区土層と杓子状木製品出土状況（東より）

写真５　ＳＤ３杓子状木製品出土状況（西より）

筋違（スジカイ）N（エヌ）遺跡

所在地　松山市福音寺町423－1
期　間　平成11年11月1日～平成12年1月14日
面　積　572㎡
担　当　河野史知･加島次郎

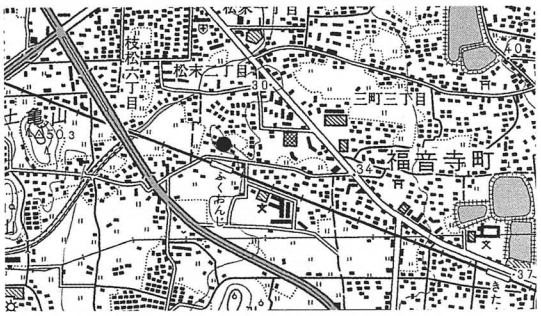


図1　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地の『№114 枝末遺物包含地』内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は、松山平野の東部を流れる川附川下流域の左岸に立地し、標高29ｍを測り、当地周辺では最も標高が高いエリアの北西部にあたる。調査地の周辺では、これまでに筋違Ａ～Ｍ遺跡、福音小学校構内遺跡、川附遺跡が発掘調査され、弥生時代後期と古墳時代後半期に大規模集落が展開することが明らかとなっている。調査は、当該期の集落の広がりとその構造の解明を主目的に実施した。調査の工程上、調査対象地の南半部は、トレンチ発掘を実施し、遺構の広がりと帰属時期の確認をおこなった。なお、調査以前は、水田として土地利用されていた。

遺構･遺物　遺構は、地表下50㎝のにぶい橙色土上面（第Ⅳ層上面）で検出した。検出した遺構は、弥生時代後期と古墳時代後期に帰属するものが多く、ＳＢ３棟、掘立３棟、ＳＫ14基、ＳＰ120基である〔図２･写真１〕。調査地が標高の高いエリアで、古代以降の削平が著しいことから、検出遺構の遺存は悪く、遺物を伴う遺構は少ない。以下、時代別に主要な遺構の概略を述べる。

［弥生時代後期］　当該期の遺構は、ＳＢ３とＳＫ３である。ＳＢ３は四方が膨らみをもつ隅丸方形を呈し、規模は東西4.9ｍ、南北5.1ｍ、深さ15㎝を測る。４本柱構造で、中央には楕円形の炉が設けられ、炉の床には炭化物が厚さ３㎝で堆積していた。遺物は、多量の弥生土器のほかに、わずかに石器と鉄器が出土した〔写真２〕。土器は甕、壺、鉢、高坏、器台、支脚で構成される。石器は石庖丁と砥石のほかに、拳大の礫がみられる。鉄器は鉈と鉄板がある。注目されるのは、炉から支脚が横倒しの状態で確認されたことである〔写真３〕。ＳＫ３は楕円形を呈し、ここからは緑色片岩製で薄身の杏仁形の石庖丁が完形で出土した。

［古墳時代後期］　当該期の遺構は、ＳＢ１と４、掘立１～３、ＳＫ２と14、ＳＰ100である。ＳＢ１は方形を呈し、規模は一辺４ｍ、深さ５㎝を測る。２本柱構造で、北壁中央には竈が構築される。張り床が確認され、これは住居構築時にＳＢ３と重複する範囲を深く掘削し、土を張り、床面を整えたものと考えられる。遺物は、竈の床面から須恵器の甑片が出土した。ＳＢ４は南北が長い長方形を呈し、規模は東西4.5ｍ、南北4.8ｍ、深さ５㎝を測る。４本柱構造で、北壁に沿って竈が構築されている。遺物は土師器と須恵器がある。須恵器は坏身と有蓋高坏がある。掘立は東西棟の１×２間（掘立１と３）と、２×２間の総柱構造のもの（掘立２）がある。遺構の重複関係から、ＳＢ１→掘立３→ＳＢ４の時間的先後関係が考えられる。ＳＫ２は隅丸長方形を呈し、須恵器の坏身と碧玉製の管玉が出土した。ＳＰ100は楕円形を呈し、柱穴床面から須恵器の坏蓋が直立した状態で出土した。なお、口縁部は人為的な打ち欠きにより大半が欠失する。

小　結　本調査では、弥生時代後期と古墳時代後期の遺構と遺物を多数確認した。遺構の密度が高いことは、遺跡の立地を反映したものであると考えられる。ＳＢ３は、当該期の住居調査例の基礎となるものであり、出土した遺物は弥生時代後期後葉の土器編年を考える上で追加資料となるものである。さらに炉の形態や構造、支脚の出土等から炉の機能を復元する上で新たな知見を得ることができた。検出遺構が、古墳時代後期に帰属するものが多いことは、当地周辺における既往の調査を追認するものであり、集落の経営が本格化したことを示すものと理解できよう。ＳＫ２は、管玉と須恵器を用いた集落内祭祀を考える上で特筆すべきものである。さらに、ＳＰ100は須恵器を用いた柱穴祭祀の一例であり、注目される。　（加島）

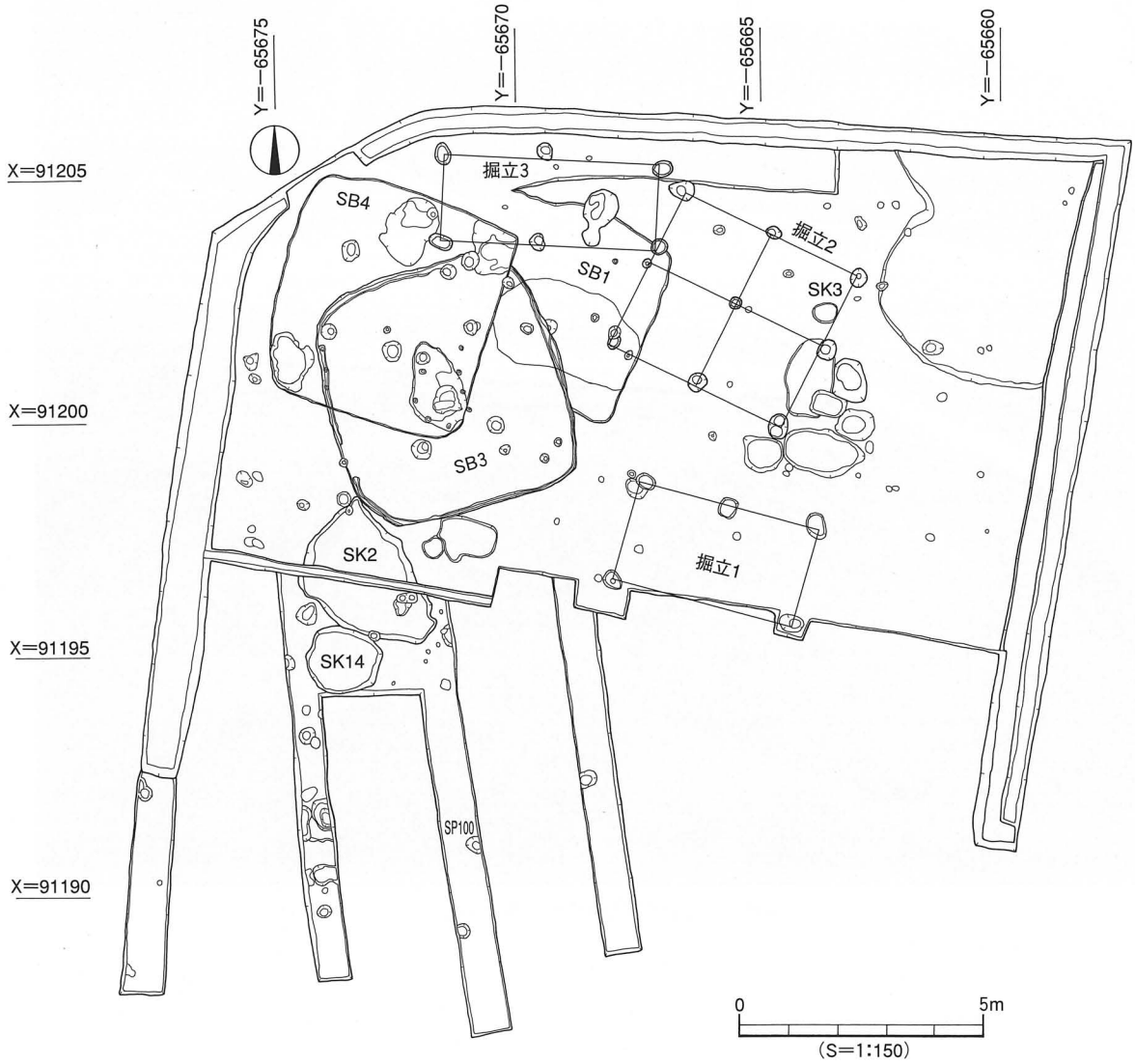


図２　遺構配置図

写真１　遺構完掘状況（南より）

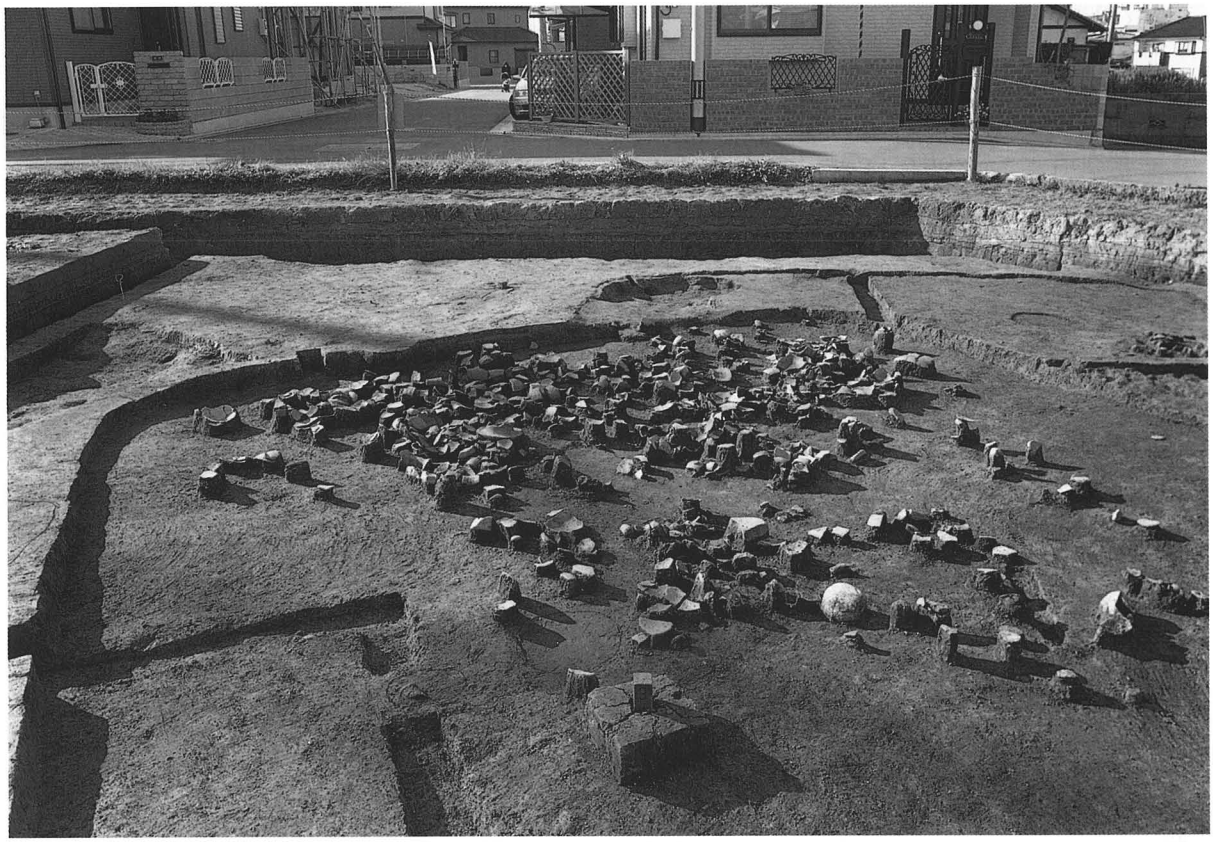


写真２　ＳＢ３遺物出土状況（東より）

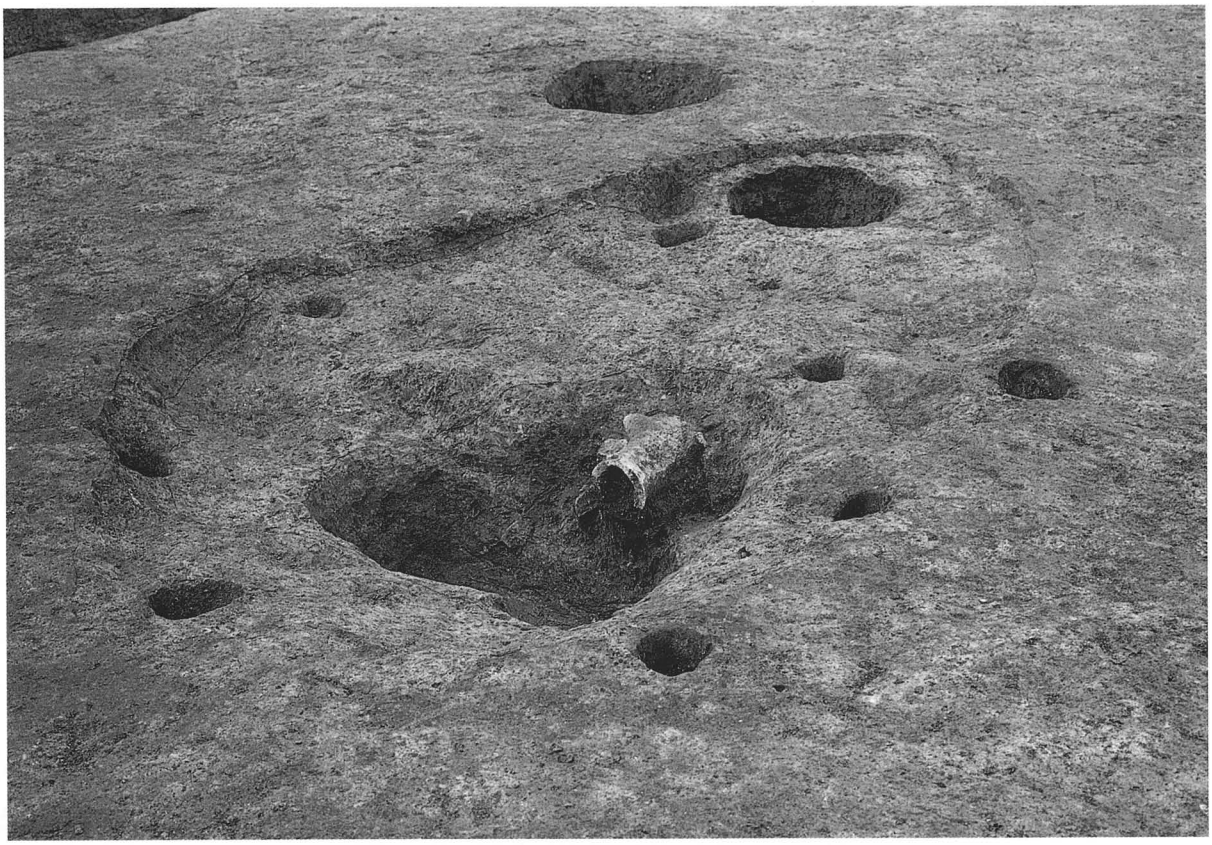


写真３　ＳＢ３炉における支脚出土状況（南東より）

筋違（スジカイ）Ｏ（オー）遺跡

所在地　松山市福音寺町430－1
期　間　平成11年11月8日～平成12年3月10日
面　積　401.0㎡
担　当　重松佳久・大西京子

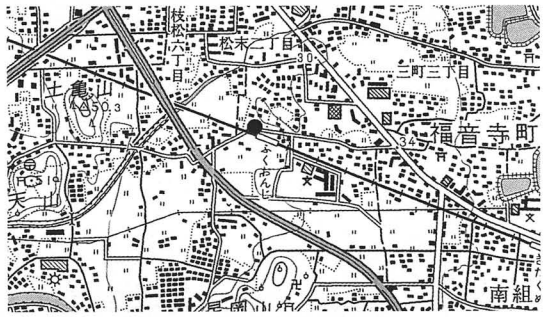


図１　調査地位置図

経　過　当地域の周辺部には弥生時代から古墳時代にかけての筋違（Ａ～Ｎ）遺跡や福音小学校構内遺跡など数多くの貴重な集落遺跡群が知られている。

本調査では、隣接する筋違Ｈ・Ｉ遺跡の成果を得て集落遺跡の解明を主目的に平成11年11月8日より宅地開発に伴う発掘調査を開始した。

遺構・遺物　調査地の基本層序は、４層で各層の特徴は以下のとおりである。第Ⅰ層は造成土、第Ⅱ層は近現代の耕作土、第Ⅲ層（黒色粘性土）は主に調査区南西部域で見られ、カーボン、褐色粘性土のブロック、土器片を多量に含む。第Ⅳ層（褐色粘性土）は基盤層である。

主な遺構は、竪穴式住居址4棟（ＳＢ1～4）、掘立柱建物址4棟、土坑4基、溝状遺構1条である。

竪穴式住居址4棟は、調査区の南西部に相互に切り合いながら構築された一辺4m強の方形住居であり、古墳時代前半期に連続して建て替えられたと考えられる。そのうち比較的残りの良いＳＢ1では、住居内北面中央やや東よりに造り付け炉が配置され、その西側に併設するかたちで置き竈の痕跡とみられる焼土（長軸60cm・短軸40cm）とわずかな灰層が検出された。さらに、床面は堅く引き締められた赤褐色粘性土で貼床が施されており、中央に3基の主柱穴が確認された。

掘立柱建物１は、竪穴式住居廃絶後築造され、梁行2.9m、桁行5.7mの２間×３間の大型建物で、掘立柱建物3は、梁行・桁行とも3.5m強の正方形の小型建物である。これらの建物は、隣接する筋違Ｈ遺跡の掘立柱建物と軸線を同一にする古墳時代中期以降の建物群と考えられる。

掘立柱建物2・4は、平行する東西棟の大型の建物で、隣接する筋違Ｈ・Ｉ遺跡の東西に軸線をとる掘立柱建物群と関連する古墳時代後期段階の建物と考えられる。特に掘立柱建物2の柱痕には灰層が確認されることから、廃絶時に焼失した可能性を考えることができる。

小　結　今回の調査では、主に古墳時代初頭～後期前半の集落の一部が検出され、住居形態の変遷や建物軸線の変化を伴う継続的な居住域としての土地利用を窺い知ることができた。

当地域周辺では、筋違遺跡としてこれまで14回にもわたる発掘調査が行われ、河岸段丘上に営まれる集落の実態が徐々に解明されてきているが、これからの調査では、遺跡・遺構の理解に際し、これまでに検出された遺構群の整理を進め、連続する台地地形に展開された集落の広がりを認識する必要があると考えている。

当地域が松山平野における弥生時代後半から古墳時代の大規模集落として重要視される点、さらには地理的な観点から後出する久米官衙遺跡群の成立に深く寄与すると考えられる地域であることから、今後、より緻密な調査と総合的な視野に立った遺跡の理解に努めていきたい。（大西）

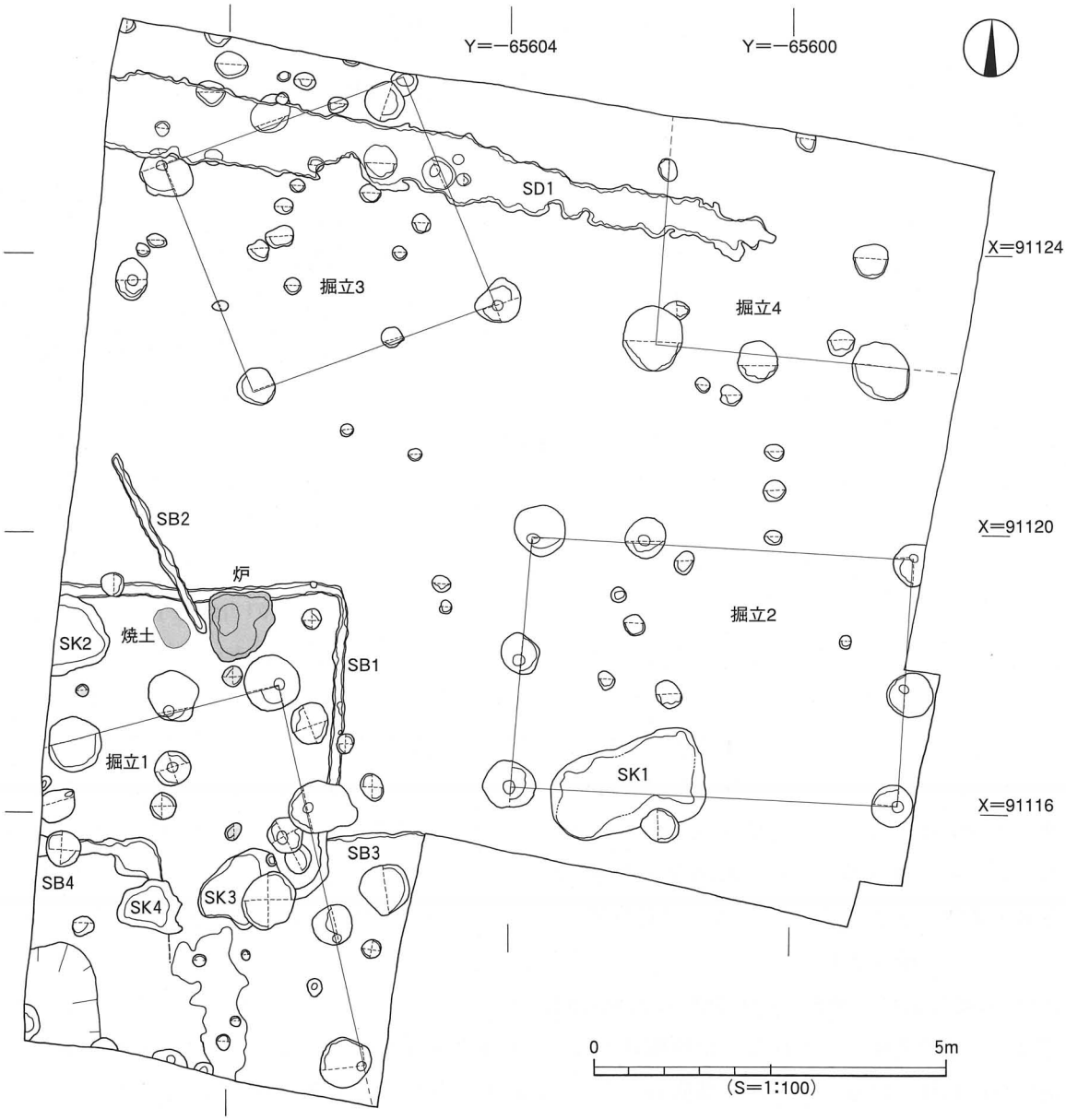


図２　遺構配置図

写真１　調査地全景（南より）

五郎兵衛谷（ゴロベエダニ）７号墳

所在地　松山市鷹子町乙402－５
期　間　平成10年８月25日～平成11年６月30日
面　積　491㎡
担　当　重松佳久・小笠原彰

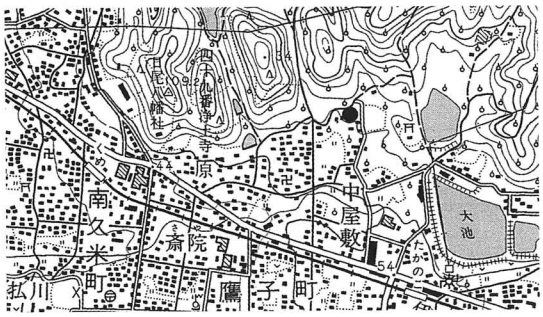


図１　調査地位置図

経　過　五郎兵衛谷古墳群は、松山平野東部、高縄山系の南西面を形成する支脈の丘陵裾部に位置する。この高縄山系の南西面は群集墳が西から東野、久米・鷹子・平井、小野谷、播磨塚と群集墳が支群を成して密集する墓域となっている。当古墳群は、県教委による分布調査によって11基の古墳が確認されている。そのうち、昭和52（1977）年には市教委により１～６号墳の調査が実施され、６世紀末～７世紀初頭における群集墳の葬制が明らかにされている。これらの古墳は10ｍ内外の円墳で、特に１号墳に三累環頭太刀が副葬されていたことが注目される。今回の調査は、既に周知されている「７号墳」において農地造成に先立ち国庫補助を受けて実施した。調査はまず、墳丘の遺存状況を確認し、墳丘断面の観察から墳丘造成の工程を把握することに努めた。その過程で追葬墓道と見られる掘り方の検出等、当古墳が追葬行為の痕跡を残す貴重な古墳であることが確認された。そこで、追葬等の葬送儀礼にまつわる痕跡を残す石室前庭部と墓道の調査及び石室の構造の解明に努めるために、引き続き平成11年度においても調査を実施した。

遺構・遺物　調査により７号墳は周溝を伴う直径約13ｍの円墳で、両袖式の横穴式石室を内部主体に持つことが確認された。

［墳丘造成の工程］調査区の原地形は南東方向に傾斜している。まず、傾斜している地山層に水平を意図した基盤造成が行われる。墓壙掘り方はこの基盤造成面からであることから、基盤造成後に墓壙掘削が行われている。その次に基底石と１～２段の石材を積み、墓壙を粘土質の土で埋め戻し石室の基礎を安定させる。さらに上部の石材を築いていく過程と並行して、それを被覆するように塚状に封土を盛る。同時に層状に裾部に向けて盛土を行い、墳丘を形成する。最後に周溝が掘削される。石室石材とそれを被覆する封土・盛土にはいくつかの単位を読み取ることが可能であり、その工程は単位ごとに繰り返し行われている。

［石室及び前庭部］墳丘盛土の断面において墳頂部付近の盛土が断ち切れるラインを確認し、墳丘面においても陥没痕跡を確認した。石室は大きく崩壊しており、石室内部は埋土と壁体の石材で埋めつくされている状態であった。崩壊の原因は明らかではないが、崩落した石材の中に天井石と考えられる大型石材が見られないことから、後世における石材の搬出によるものと予想される。

石室は、玄門部に高さ１ｍ程度の立石を用いた両袖式の横穴式石室で、玄室全長4.6ｍ、最大幅１．７ｍを測る。最大幅は玄室中央部にあり、胴張りの平面プランを持つ。側壁は基底石から１～３段（0.4～1.2ｍ）が遺存し、奥壁は高さ１ｍの一枚岩（西側）と、高さ40㎝の石材２段（東側）が遺存している。石材には割石が使用され、石室内面に平面的な面を揃えて構成されている。側壁の石材は

持ち送りが強く積まれ、遺存している石材の状態から奥壁部が先に設置され、その後側壁が設置されたと見られる。

石室床面には２～８㎝大の川原石（玉石）が敷き詰められている。この礫床の状態であるが、奥壁から石室西半では約８㎝大の川原石が使用されているが、東半の玄門部から石室の３分の２辺りには約２㎝大の川原石が使用されている。玄門部付近の東側では頭蓋骨が、西側では大腿骨等と見られる人骨片が礫床上から検出されているが、出土状態から追葬の段階で前段階に埋葬された人物の遺骸を玄門部付近に部位を分けて集骨したものと考えられる。また、２㎝大の川原石は８㎝大の川原石よりも上層に位置し、頭蓋骨が検出された東半に敷かれていることから、追葬段階で遺骸と同様に礫床の整理が行われたものと考えられる。

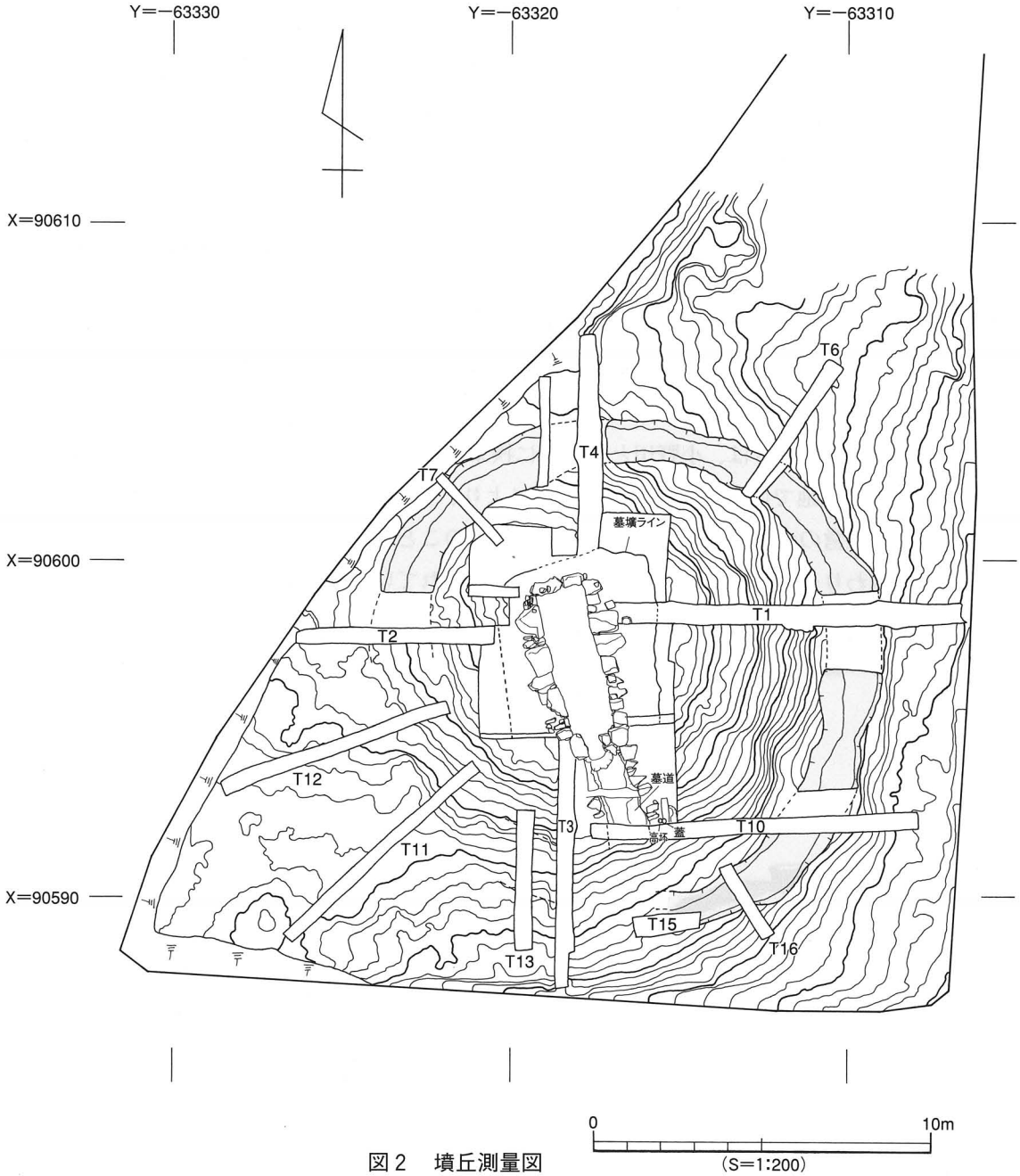


図２　墳丘測量図

石室内からの出土遺物は主に奥壁東側と玄門部付近に集中して検出されており、奥壁東側では耳環１点、鉄製刀子の完形品１点、碧玉製管玉４点、水晶製切子玉１点、鉄鏃等の鉄製品片多数が検出されている。玄門部付近では耳環２点、鉄製品片数点が検出されている。石室内からの出土土器は、須恵器の破片３点と土師器の小片のみで時期を特定できるものはない。

石室開口部付近で、墳丘盛土上面から地山層上の基盤造成面まで掘削されているU字状の掘り方を検出した。この掘り方は追葬墓道と想定され、断面の観察から少なくとも３回の掘り方が存在している。石室床面の状況と合わせて、当古墳では数回の追葬行為が行われているものと考えられる。墓道平面形は開口部から玄門部に向けて狭くなっており、石材による壁体を伴う。東側では１～２段（30～40㎝）の石材が検出されたが、西側では基底石の二つを残すのみであった。石室の基底部と墓道壁体の基底部の比高差は20㎝程度で、石室床面と墓道床面とではあまり段差を持たない形態である。

墓道開口部東側の側壁外側で、有蓋高坏が蓋を開けて並べられている状態で検出された。東側の側壁は開口部から４個体分が後で付け加えられていることが観察できることから、追葬段階に加えられたと考えられ、有蓋高坏は追葬行為に伴う墓前祭祀の痕跡と想定される。なお、この有蓋高坏は６世紀後葉に比定でき、初葬段階の時期特定はできないが追葬が行われた一つの時期を特定することが可能となった。

小　結　これまで当地域の古墳が調査された例は少なく、比較的遺存状況の良い墳丘から墳丘造成の工程を復元し得たことや、また石室内部の状況、石室前庭部における追葬墓道の検出等から葬送儀礼にまつわる資料を得ることができたことは貴重な成果である。現在、整理作業を進めている段階であり、それぞれの遺構についての十分な検討はできていないが、これからの作業を通して松山平野の後期群集墳における葬送儀礼や祭祀にまつわる貴重な事例を抽出していきたいと考える。

当古墳群のある丘陵からは、小野川と堀越川に挟まれた来住台地と呼ばれる洪積台地を見下ろすことができる。来住台地では近年の継続的な調査により、久米「国造」制から「評」制、さらに「郡」制への官衙施設造営の変遷が明らかになっている。このことからも当古墳群は久米「国造」制の発達段階と大きく関わり合いを持つものであることが想定されている。久米官衙遺跡群の成立、変遷を考えていく上でも、周辺丘陵部の群集墳の様相を明らかにしていくことがこれからの課題である。

なお、申請者の協力と理解を得て、原位置を保っていた石室は破壊されず保存されている。

（小笠原）

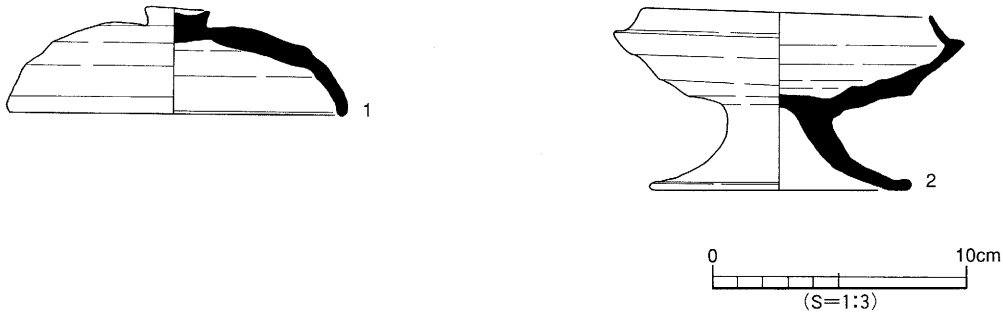


図３　前庭部出土有蓋高坏

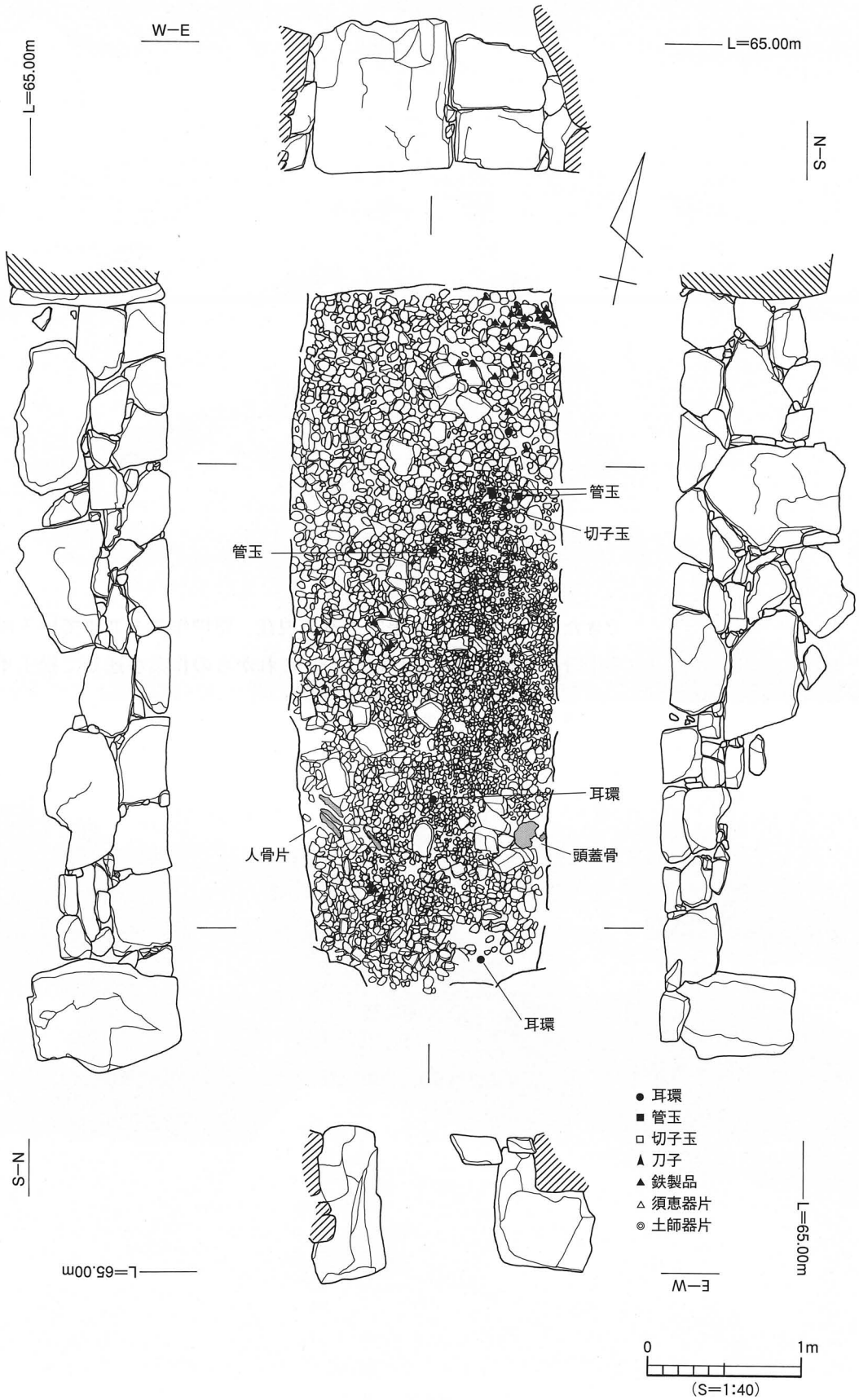

W—E
L=65.00m
L=65.00m
N—S
管玉
切子玉
管玉
耳環
人骨片
頭蓋骨
耳環
● 耳環
■ 管玉
□ 切子玉
▲ 刀子
▲ 鉄製品
△ 須恵器片
◎ 土師器片
N—S
L=65.00m
L=65.00m
E—W
0
1m
(S=1:40)

図４　石室展開図

写真１　調査地全景（南東より）

写真２　墳丘土層断面（北より）

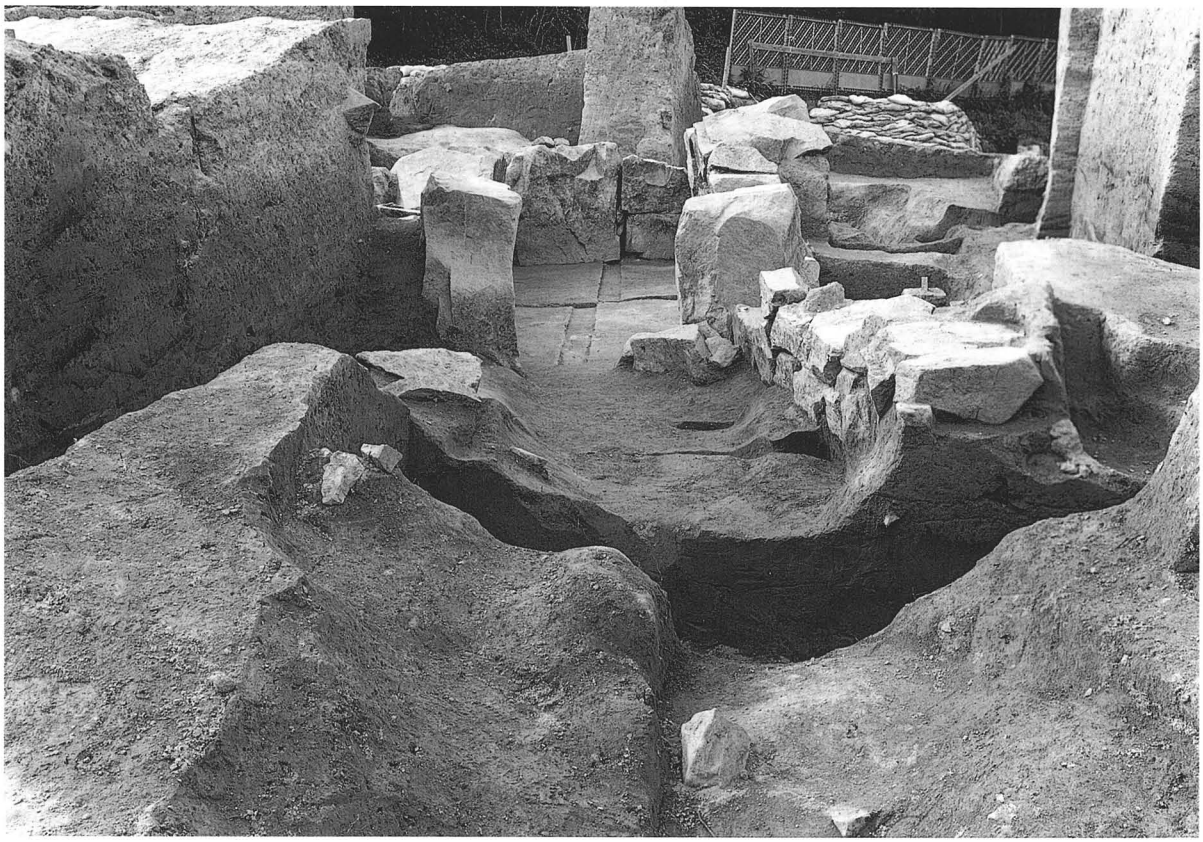


写真３　墓道と石室（南より）

写真４　石室（北・奥壁より）

下苅屋遺跡４次調査地（シモカリヤ）

所在地　松山市平井町2273番地
期　間　平成11年７月15日～同年11月15日
面　積　7359㎡
担　当　栗田茂敏・相原浩二

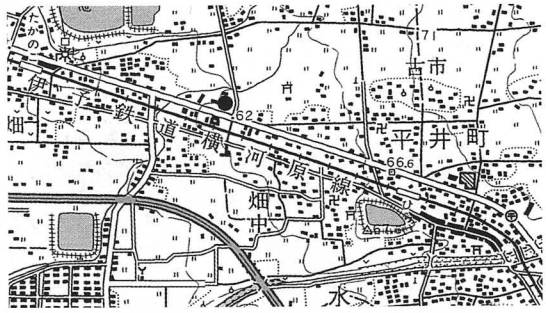


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№152 平井遺物包含地』内における宅地開発に伴う事前調査である。調査地は、松山平野の東北部に広がる高縄山塊から流れ出る小野川によって堆積と侵食がくりかえされた扇状地の微高地上標高59ｍに立地する。周辺の遺跡には、東側に隣接して下苅屋遺跡、古市遺跡があり、これまでに数次の調査が行われている。これらの遺跡からは、弥生時代～古代にかけて機能していた自然流路や古墳時代後期の竪穴式住居址、土坑、溝、掘立柱建物に伴う柱穴が検出されている。中近世では、掘立柱建物址や墓が検出されている。今回の調査は、下苅屋遺跡や古市遺跡で検出された、古墳時代と中世の集落構造解明を主目的とし調査を実施した。

遺構・遺物　調査地の基本土層は第Ⅰ層明黄色土（造成土）、第Ⅱ層灰色土（耕作土）、第Ⅲ層赤灰色土（床土）、第Ⅳ層灰黄褐色土（中世の遺物包含層）、第Ⅴ層灰褐色土（古墳時代の遺物包含層）、第Ⅵ層明黄灰色土、第ⅦⅣ灰色砂礫である。第Ⅳ層、第Ⅴ層の遺物包含層は削平によりほとんど失われているが、調査地の南側には部分的に遺存している。遺構の検出は、第Ⅵ層上面で行った。

検出した主な遺構は、弥生時代、古墳時代～古代、中世の三時期に区分される。弥生時代の遺構は、土坑１基（ＳＫ５）である。古墳時代～古代の遺構は、竪穴式住居址５棟（ＳＢ１～ＳＢ５）、掘立柱建物址６棟（掘立１～掘立６）の外、土坑数基がある。竪穴式住居址ＳＢ１は、平面形が方形を呈する。規模は、一辺６ｍを測る。ＳＢ２は、ＳＢ１に切られている。規模はＳＢ１と同規模と考えられる。ＳＢ３とＳＢ４は削平により遺存状態が悪い。ＳＢ５は、平面形が不整形である。検出した竪穴式住居址の５棟はいずれも古墳時代後期のものである。掘立柱建物址については、掘立１が南北２間×東西６間を測り調査地内では最大の建物である。掘立５は東西４間×南北４間の総柱建物址である。掘立柱建物址の時期については、出土遺物より古墳時代後期～古代である。中世の遺構は、150基以上の柱穴や土坑を検出している。出土遺物には、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、備前焼、青磁、銭貨、ガラス状の不純物などが出土している。柱穴ＳＰ１とＳＰ２からは、土師皿の上に３枚の銭貨が置かれ、埋納された状態で出土している。

小　結　本調査では弥生時代、古墳時代～古代、中世の遺構と遺物を確認した。弥生時代では遺構・遺物とも少数ではあるが、近隣に集落の存在を示すものと考える。古墳時代～古代は、竪穴式住居址や掘立柱建物址を検出したことにより、下苅屋遺跡１次～３次で検出された古墳時代後期の集落域が、さらに西側に広がることが確認できた。中世においても柱穴や土坑を検出したことにより、周辺には中世の集落関連遺構が遺存するものと考える。ＳＰ１とＳＰ２から出土した銭貨の埋納法は、市内の古照遺跡11次調査地に類例があり、地鎮などの奉りの行為と考えられる。（相原）

Y=−62,490
Y=−62,510
X=89,805
SB3
SB4
掘立1
掘立2
掘立6
SB2
SP1
SP2
SB1
掘立4
SK5
掘立5
SB5
掘立3
0
10m
(S=1:250)

図２　遺構配置図

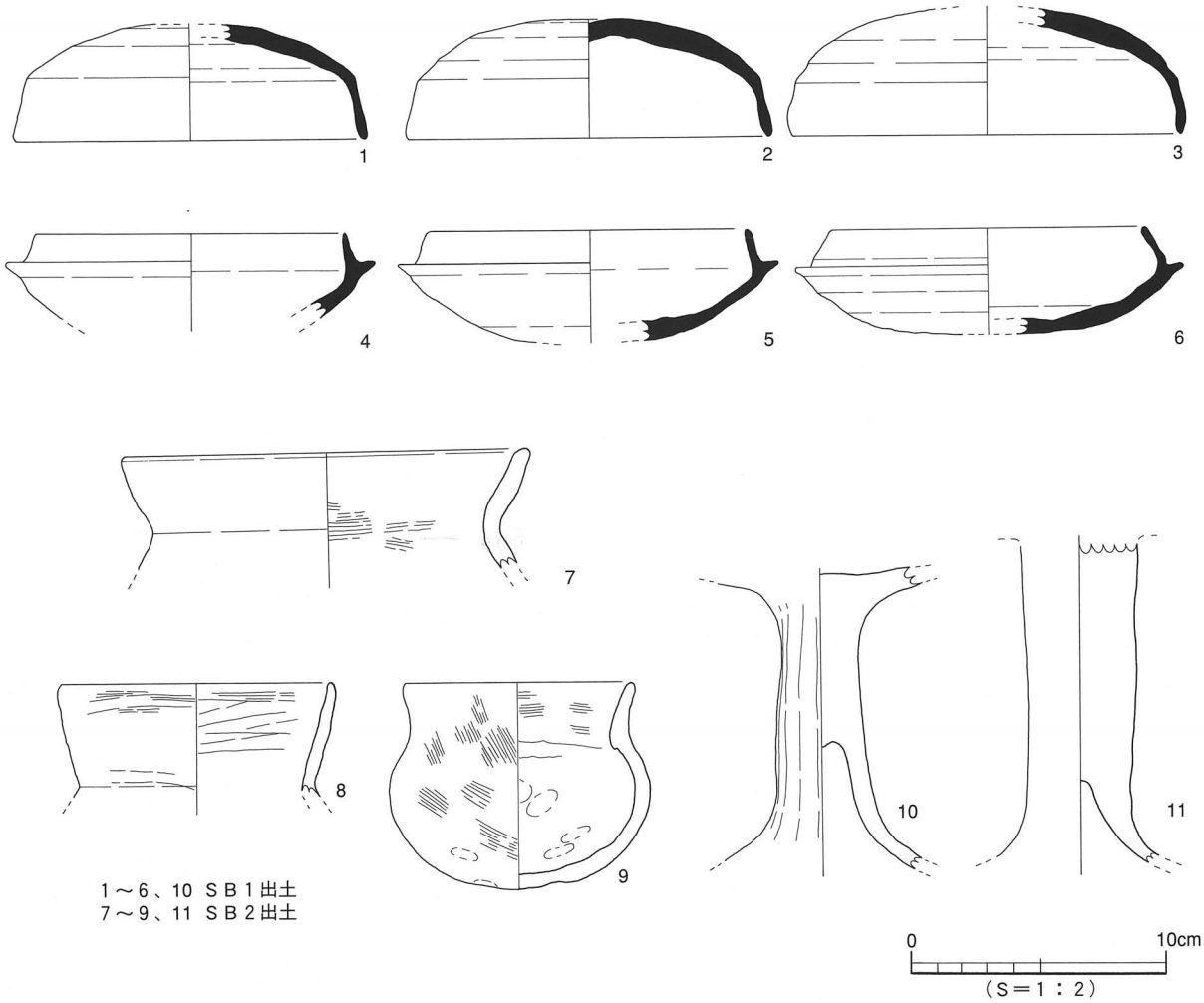


図３　ＳＢ１，ＳＢ２出土遺物実測図

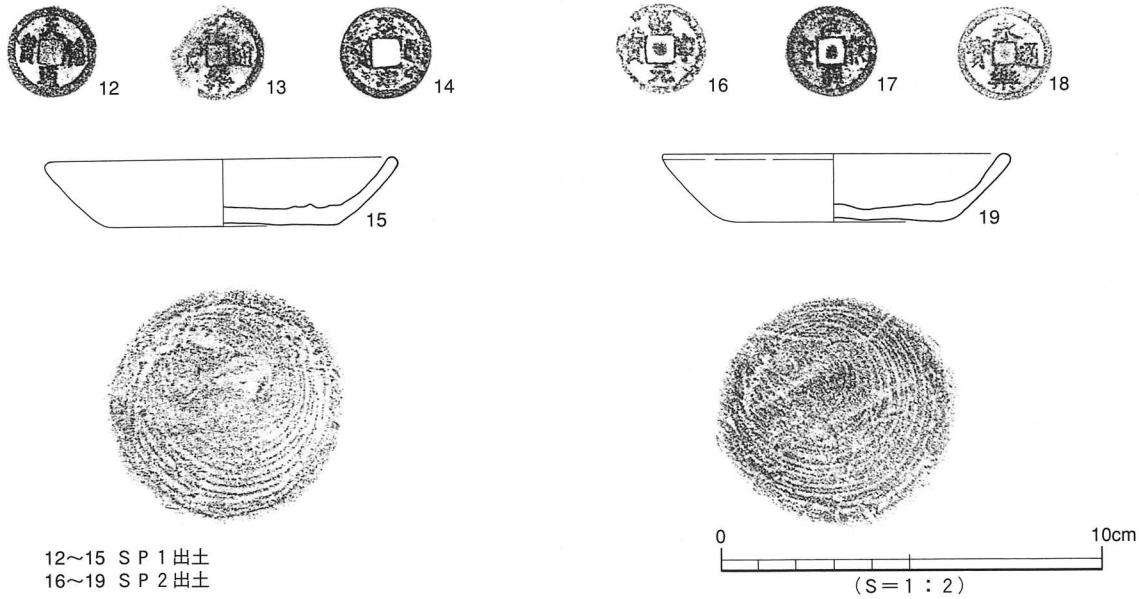


図４　ＳＰ１，ＳＰ２出土遺物実測図

写真１　遺構完掘状況（北より）

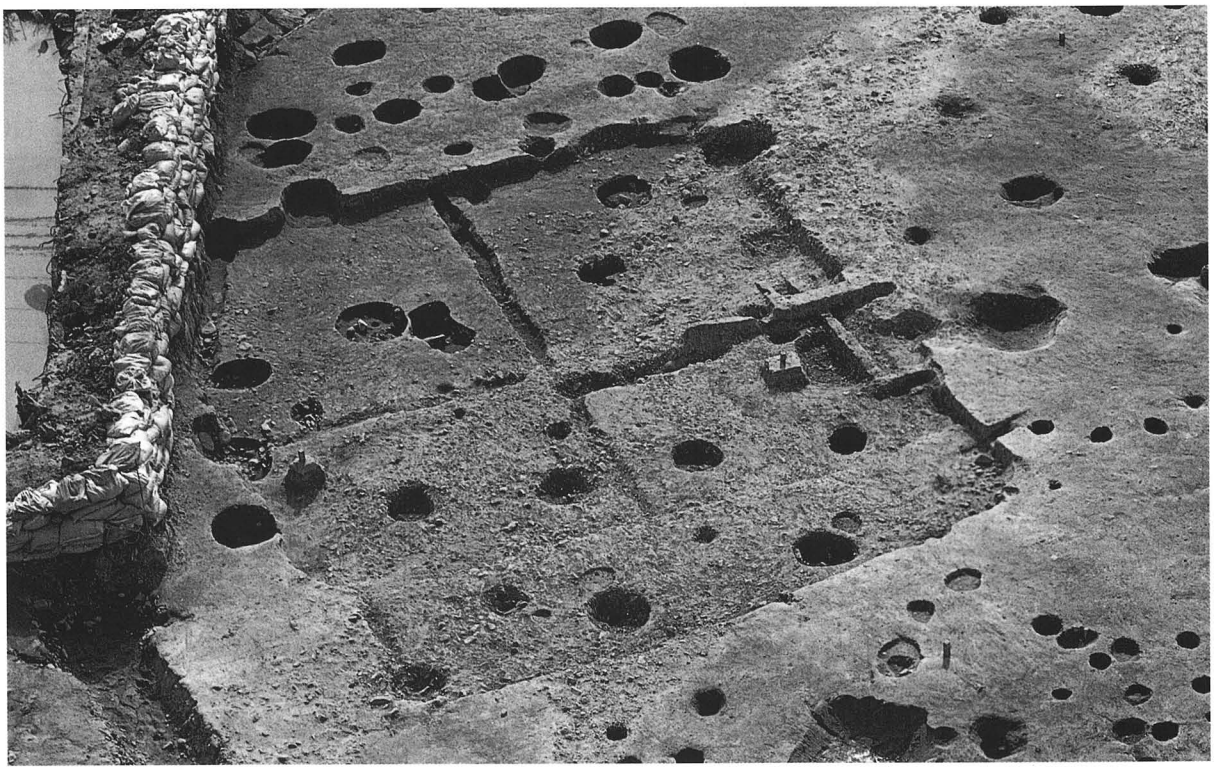


写真２　ＳＢ１，ＳＢ２完掘状況（北より）

五楽（ゴウラク）遺跡２次調査地

所在地　松山市平井町甲844番地外
期　間　平成11年４月８日～同年７月30日
面　積　4,212㎡
担　当　宮内慎一・相原秀仁

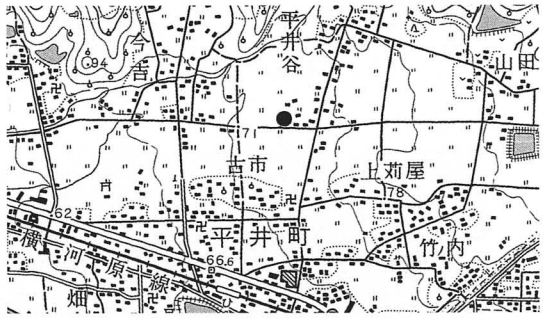


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№90 権現山古墳群』内における知的障害者施設建設に伴う事前調査である。調査地は、松山平野の東部を西流する小野川と堀越川によって形成された扇状地上の標高72ｍに立地する。調査地の周辺では、平成８・９年度に松山市道「平井・水泥線」、「平井・食場線」道路建設工事に伴う発掘調査が実施されている。調査地の西隣には、五楽遺跡１次調査地、南側には古市遺跡２次調査地があり、弥生時代前期の土坑と、古墳時代後期から古代、６・７世紀の竪穴式住居址や掘立柱建物址、８世紀に埋まったと考えられる流路を確認している。調査は、弥生時代から古代の集落の広がりや、構造解明を主目的として実施した。

遺構・遺物　調査地の基本土層は、第Ⅰ層灰色土、第Ⅱ層黄橙色土、第Ⅲ層暗灰褐色土、第Ⅳ層黒褐色土、第Ⅴ層暗褐色土、第Ⅵ層茶褐色土、第Ⅶ層黄白色土である。遺構は、弥生時代前期末、古墳時代後期～古代（７ｃ）、中世に時期比定されるものである。遺物は、遺構内及び第Ⅲ・Ⅳ層中から古墳時代～古代の須恵器・土師器、第Ⅴ層中から弥生時代前期後半の土器・石器が出土したほか、試掘調査の際、縄文時代晩期の遺物が出土した。遺構は、第Ⅶ層上面で竪穴式住居址３棟、掘立柱建物址15棟、溝15条、土坑25基、柱穴263基を検出した。以下、時代毎に主要な遺構について説明する。

［弥生時代前期末］　土坑は平面形態で円形（３基）、長方形（２基）、楕円形（４基）、不定形（10基）に分類される。円形土坑ＳＫ５・24は、規模1.0～1.5ｍ、深さ30㎝を測り、断面形態が袋状もしくは筒状を呈する。土坑内からは弥生土器のほかサヌカイト剥片が出土した。

［古墳時代後期］　ＳＤ３は、北東―南西方向の溝で、規模は検出長13ｍ、幅1.2ｍ、深さ20㎝を測り、断面形態は皿状を呈する。溝底は凸凹になる。ＳＤ４は、東西方向の溝で、規模は検出長12.8ｍ、幅80㎝、深さ13㎝を測る。断面形態は、ＳＤ３と同様の皿状を呈する。溝内からは、須恵器・弥生土器が出土した。

［古代］　ＳＢ２・３は平面形態が方形を呈し、規模は長さ4.5～4.7ｍ、幅4.0～4.2ｍ、深さ５～９㎝を測り、住居北壁中央部に造り付けのカマドを付設する。７世紀前葉。掘立13・14は２間×３間の東西棟で、規模は桁行長4.6ｍ、梁行長3.8～4.0ｍを測り、建物の内側からは、径20㎝の柱穴２基を検出した。掘立柱建物址は、建物方位により真北方向のもの（掘立１～３）、真北より東に方位を振るもの（掘立４～７・９・10・12～15）、真北より西に方位を振るもの（掘立８・11）の３種類に分類される。７世紀中葉～後葉。また、建物規模でも、２×３間（掘立２・３・９・13・14）、２×２間（掘立７・８・10・11）、１×２間（掘立５・６・15）の３種類に分類される。

［中世］　土坑ＳＫ25を検出した。土坑内からはほぼ完形の甕が押しつぶされた状況で出土しており、

I
J
K
L
M
N
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
A
B
C
D
E
F
G
H
倒木17
SK20
SD5
SD6
倒木16
SK15
堀立11
堀立10
SK17
倒木11
倒木14
堀立8
SD4
SK21
倒木13
堀立9
SB2
堀立12
SD9
SD10
SK25
SK26
SD8
SD7
倒木9
SD3
堀立13
SK7
堀立7
SK11
倒木8
倒木6
SD12
SD13
SK5
SK6
倒木7
SK14
倒木5
堀立15
SK32
SD11
SX3
SK23
SX4
SX5
堀立5
堀立4
SK2
SB1
SB3
堀立14
SD15
SK3
堀立6
SD2
倒木4
SD1
倒木2
堀立2
堀立3
SK29
SX1
SK31
SK30
堀立1
SD1
SK1
SK24
倒木1
0
10m
(S=1:400)

図２　遺構配置図

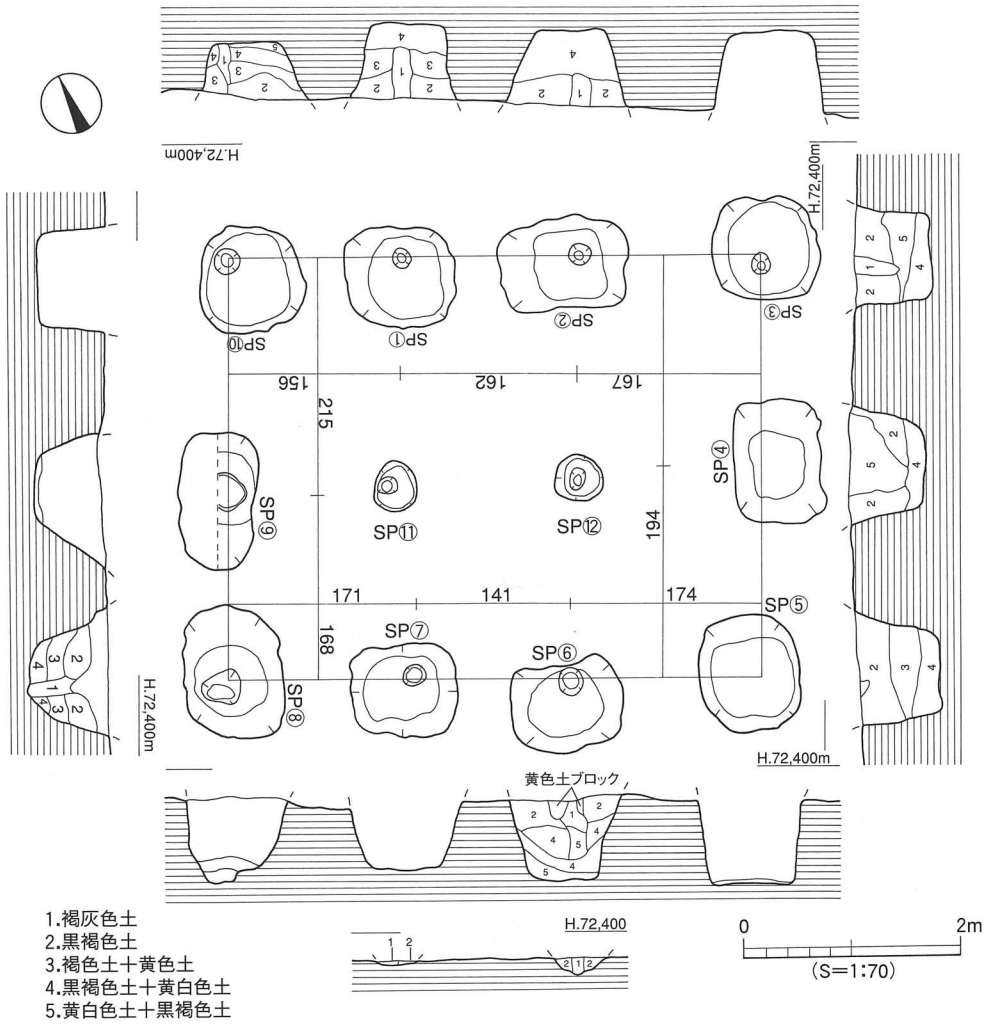


図３　掘立13測量図

土器棺墓の可能性がある。14世紀。

小　結　本調査では、弥生時代、古墳時代後期～古代、中世の遺構と、縄文時代晩期から中世の遺物を検出した。弥生時代では前期の貯蔵穴と考えられる土坑を検出したことから、周辺には当該期の集落が存在しているものと推測される。古代では、竪穴式住居址や多数の掘立柱建物址を検出したことから弥生時代前期と同様、集落が存在していたものと考えられる。掘立柱建物址は、方位と切り合い関係から少なくとも４時期あるものと考えられるが、８世紀代の遺物は確認されておらず、集落の存続は、７世紀代のみの比較的短期間であると考えられる。今回の調査では、隣接する五楽遺跡１次調査地から東側に続く集落の広がりを確認することができた。今後は、調査地の東側や南側に展開すると思われる集落の構造や範囲を確認していく必要がある。　（相原）

写真１　１区完掘状況（北東より）

写真２　２区完掘状況（南西より）

五楽（ゴウラク）遺跡３次調査地

所在地　松山市平井町乙192－１ 甲814－４外
期　間　平成11年８月17日～12年３月31日
面　積　27,000㎡のうち6,567㎡
担　当　宮内慎一・相原秀仁

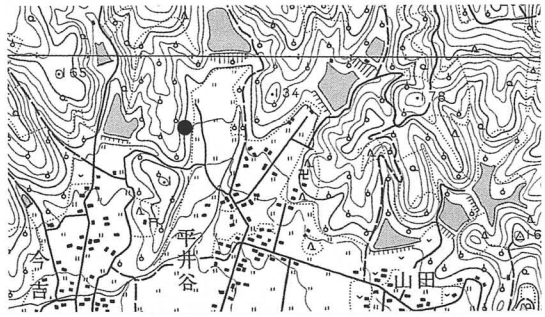


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№98 かいなご古墳群』内における松山市道「平井・食場線」道路建設工事に伴う事前調査である。調査地は、松山平野の東部、平井谷の標高84 ～120ｍに立地する。調査地の周辺には、五楽遺跡１・２次調査地、古市遺跡２次調査地があり、弥生時代から中世にかけての集落関連遺構が確認されている。また、北方の丘陵上には、６～７世紀の平井谷１号墳や、東方には駄馬姥ケ谷窯址をはじめ７・８世紀代の須恵器窯址が分布する。調査は、集落関連遺構と古墳、窯址の確認を主目的として実施した。なお、調査区は南から１区・２区・３区・４区とし、１区は低位部と丘陵部に分けて調査を実施した。丘陵部はトレンチ調査を実施した。

遺構・遺物　調査区の基本土層は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層旧耕作土、第Ⅲ層褐灰色土、第Ⅳ層黒色粘質土、第Ⅴ層灰色微砂、第Ⅵ層黄色土、第Ⅶ層灰白色砂、第Ⅷ層青灰色砂、第Ⅸ層青灰色砂礫、第Ⅹ層灰色砂礫、第Ⅺ層岩盤である。なお、第Ⅶ～Ⅹ層は旧河川の氾濫に伴う堆積物と考えられる。

遺構は、低位部で自然流路１条と丘陵部でピット４基を検出し、遺物は、第Ⅳ層中から古墳時代後期から古代の須恵器、第Ⅴ層中から弥生土器（中期～後期）が出土した。ＳＲ１は、調査区全域で検出した流路で、北西から南東方向に蛇行している。規模は検出長200ｍ、検出幅2.5～13.0ｍ、深さ11～55㎝を測る。断面形態はレンズ状を呈する。流路内からは須恵器、土師器、流木が出土した。出土した遺物の特徴からＳＲ１は古代（７～10世紀）の流路とする。

丘陵部の基本土層は、第Ⅰ層灰褐色土、第Ⅱ層黄褐色土、第Ⅲ層褐色土、第Ⅳ層明黄褐色土、第Ⅴ層黄色土である。遺構は第Ⅴ層上面にて、径20～30㎝大のピット４基を検出した。遺物は、第Ⅲ層中から、弥生土器（中期～後期）が少量出土した。

小　結　本調査では、弥生時代と古代の遺構と遺物を確認した。丘陵部では、古墳と窯址の検出には至らなかったが、Ｔ８・10・13の３本のトレンチから弥生土器（中期～後期）が出土した。このことから、周辺地域に該期の集落が存在するものと考えられる。また、低位部で検出したＳＲ１は、埋土に砂が含まれることから水流があったものと考えられる。出土遺物には須恵器、土師器、流木があるが、上流あるいは周辺から流入したものと思われる。今後は、北方の丘陵上（２区～４区）において古墳と窯址のほか、弥生時代の集落関連遺構についても注意して調査する必要がある。　（相原）

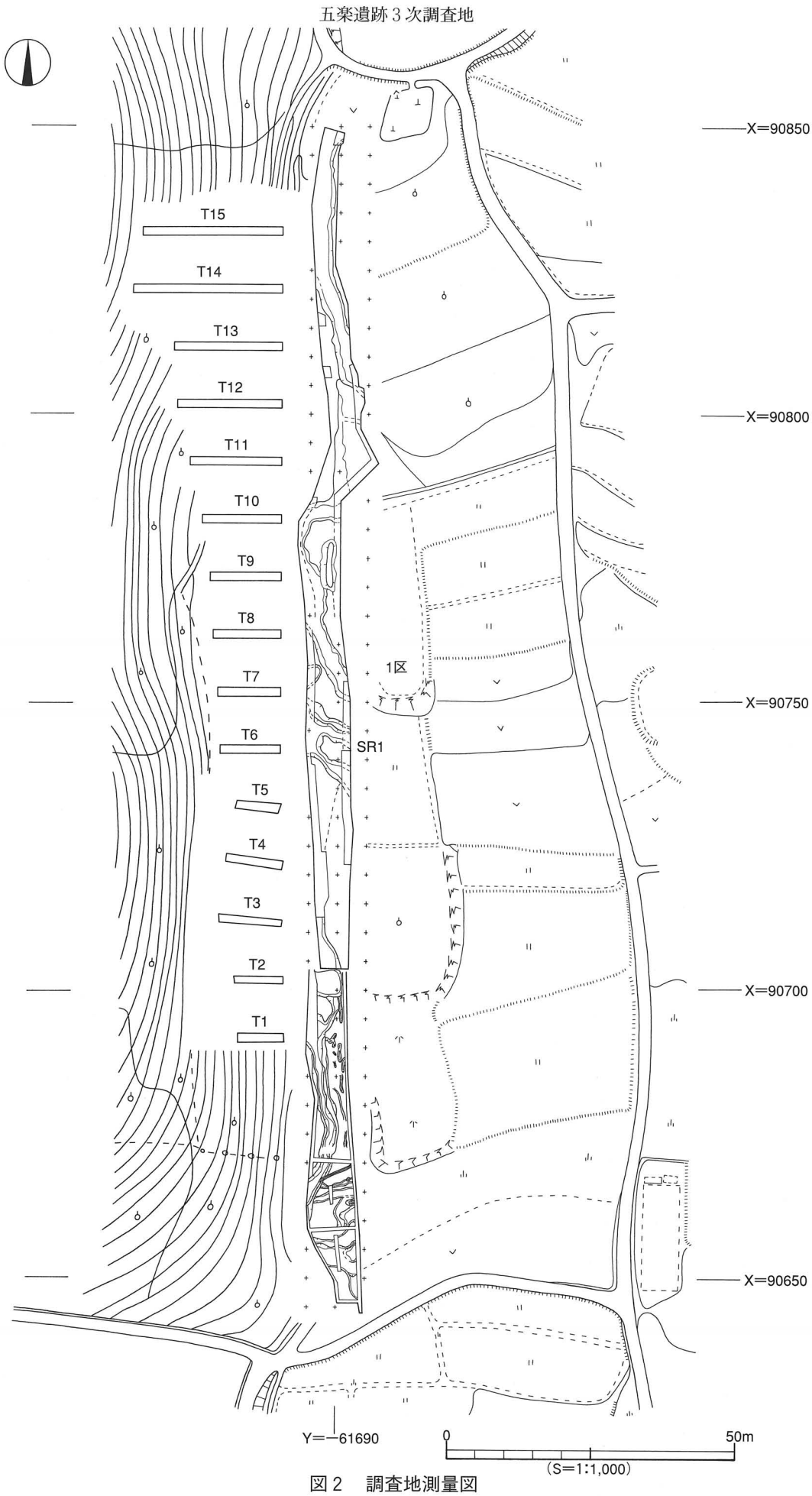

五楽遺跡３次調査地
X=90850
X=90800
X=90750
X=90700
X=90650
T15
T14
T13
T12
T11
T10
T9
T8
T7
T6
T5
T4
T3
T2
T1
1区
SR1
Y=−61690
0
50m
(S=1:1,000)

図２　調査地測量図

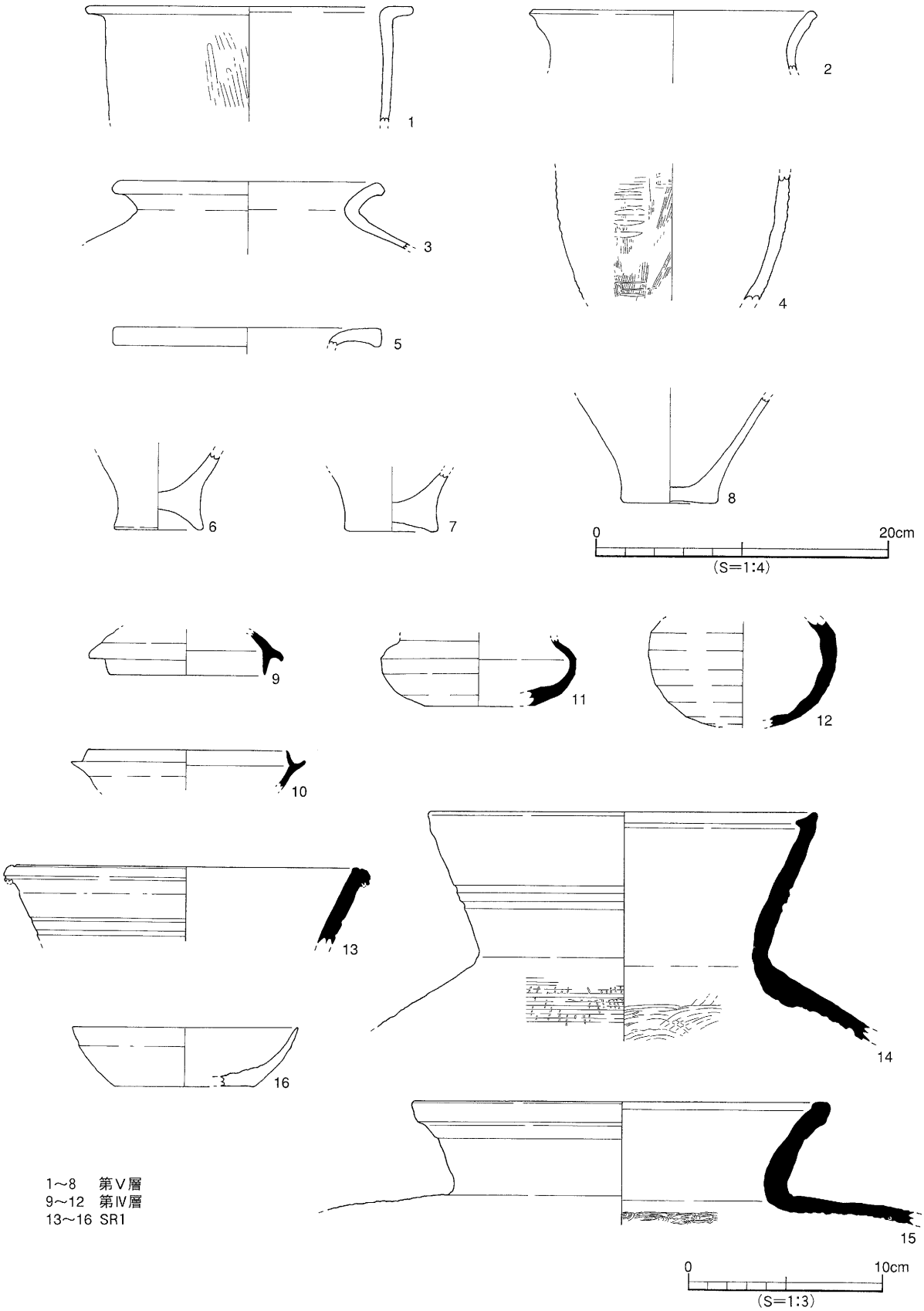

1
2
3
4
5
6
7
8
0
20cm
(S=1:4)
9
11
12
10
13
14
16
15
1～8　第Ⅴ層
9～12　第Ⅳ層
13～16 SR1
0
10cm
(S=1:3)

図３　出土遺物実測図

写真１　１区南半部完掘状況（南東より）

写真２　１区北半部完掘状況（北西より）

北梅本北池遺跡（キタウメモト キタイケ）

所在地　松山市北梅本町甲1,732外
期　間　平成11年10月7日～12年3月31日
面　積　9,561㎡
担　当　高尾和長・山之内志郎

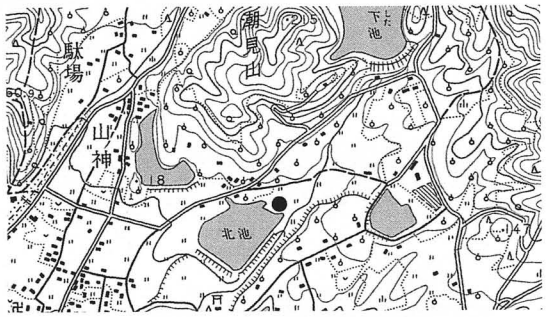


図1　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「№166 北梅本包含地（弥生）」内における土地改良総合整備事業に伴う事前調査である。北東500ｍに位置する枝朶下池周辺では6～8世紀代の窯跡が10数基確認されており、また南に位置する陸上自衛隊松山駐屯地演習場内には播磨塚古墳群が存在している。

本調査は、古墳時代や古代における須恵器工人の集落関連遺構の確認を主目的に本格調査を実施した。

遺構・遺物　調査地は松山平野の南東部、標高約103～108ｍに位置する。調査地の基本層序は、第Ⅰ層：灰色粘質土（耕作土）、第Ⅱ層：橙色粗砂質土（床土）、第Ⅲ層：灰白色微砂質土（旧耕作土）と橙灰色粗砂質土（旧床土）の互層、第Ⅳ層：黄色粗砂質土（地山）である。調査区の旧地形は北から南へ緩やかに傾斜する尾根上に位置するが、部分的に現代の耕作に伴う削平によって旧地形が段カットされている。

調査の結果、弥生時代、古墳時代、古代以降、近現代の遺構と遺物を検出した。遺構は土坑14基、溝30条、流路1条、柱穴32基、石列2条、性格不明遺構2基を検出した。遺物は弥生土器、須恵器、土師器、土師質土器、石鏃、石庖丁、磨石が出土した。

弥生時代は前期と中期の遺構を検出した。ＳＫ10は、平面形態は明確な掘り方を確認できなかったため土器の出土範囲から楕円形と推定される。規模は長径2.50ｍ、短径2.25ｍ、深さ29㎝を測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は炭混じりの茶褐色土である。時期は出土遺物より弥生時代前期と判断される。

ＳＲ１は北東から南西方向へ蛇行している。規模は検出長45.0ｍ、上場幅10.4～16.2ｍ、深さ80㎝を測る。断面形態はレンズ状を呈する。埋土は灰色混じりの暗褐色シルトである。出土遺物は弥生土器・須恵器・石庖丁がある。時期は出土遺物より古墳時代後期と判断される。

小　結　本調査では、当初目的として掲げていた古墳時代や古代における須恵器工人の集落関連遺構の検出には至らなかった。しかしＳＫ10出土の弥生時代前期の土器は小片ではあるが、周辺地域において数少ない貴重な資料である。この遺構を検出したことで、当該地域における集落は当時までさかのぼることを確認できたことの意義は大きい。またＳＲ１からは弥生土器・須恵器・石庖丁が出土しており、弥生時代や古墳時代の集落からの流入遺物と考えられる。今後も周辺地域での窯跡の確認や資料収集の蓄積を行い、未解明部分の解明をすすめていくことが肝要であろう。（山之内）

写真１　１区Ａ・Ｂ完掘状況（北より）

写真２　ＳＲ１完掘状況（北より）

北梅本悪社谷遺跡２次調査地

（キタウメモト アクシャ ダニ）

所在地　松山市北梅本町乙697－1外
期　間　平成11年４月８日～同年９月22日
面　積　6,265㎡
担　当　高尾和長・山之内志郎

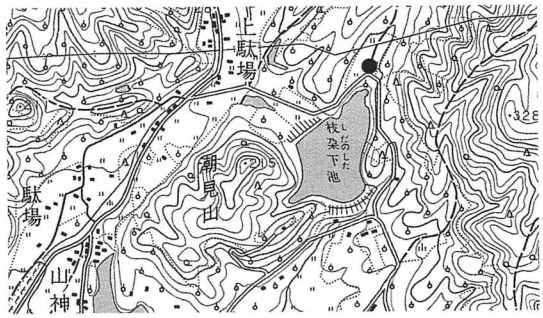


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地「№103 鳥越古墳」内における土地改良総合整備事業に伴う事前調査である。南に位置する枝朶下池周辺では６～８世紀代の窯跡が10数基確認されており、陸上自衛隊松山駐屯地演習場内には播磨塚古墳群が存在している。

本調査は、古墳時代や古代の須恵器生産関連遺構や集落関連遺構の広がりの確認を主目的に本格調査を実施した。

遺構・遺物　調査地は松山平野の南東部、標高約145～154ｍに位置する。調査地の基本層序は、第Ⅰ層：灰色粘質土（耕作土）、第Ⅱ層：橙色微砂質土（床土）、第Ⅲ層：灰白色微砂質土（旧耕作土）と橙灰色微砂質土（旧床土）の互層、第Ⅳ層：褐色粘質土（地山）である。調査区の旧地形は北東から南西へ傾斜しているが、現代の耕作に伴う削平により旧地形が段カットされている。

調査の結果、古代、古代以降、近現代の遺構と遺物を検出した。遺構は流路２条、溝３条、土坑４基、性格不明遺構３基を検出した。遺物は須恵器・土師器・陶磁器・石鏃・窯壁片が出土した。

古代の遺構はＳＲ１・ＳＲ２・ＳＸ１・ＳＸ２を検出した。ＳＲ１は北東から南西方向へ蛇行している。規模は検出長26.3ｍ、幅0.7～5.7ｍ、深さ25㎝を測る。断面形態は逆台形を呈する。埋土は褐色粘質土である。遺物は須恵器の坏身・壺・甕が出土した。ＳＲ２は北東から南西方向へ蛇行している。規模は検出長65.0ｍ、幅2.31～8.18ｍ、深さ0.92ｍを測る。断面形態は逆台形を呈する。埋土は上層が黒色粘質土、下層が灰色微砂質土である。遺物は須恵器の坏身・壺と多量の流木が出土した。

ＳＸ１の平面形態は楕円形である。規模は長径4.88ｍ、短径3.85ｍ、深さ18㎝を測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は灰色微砂質土と橙色微砂質土である。遺物は須恵器の坏蓋・坏身・甕が出土した。ＳＸ２は、北西部が調査区外、南東部を現代の耕作により削平されている。平面形態は長方形状に残存する。規模は長径1.68ｍ、短径0.94ｍ、深さ７㎝を測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は褐色粘質土である。遺物は須恵器の坏身・壺・甕、窯壁片、石鏃が出土した。以上の遺構の時期は、出土した須恵器の年代より８世紀初頭～中葉である。

小　結　本調査では、当初目的として掲げていた須恵器生産関連遺構の解明については、窯に関連した遺構と考えられるＳＸ１・２の検出によって少なからず目的を果たすことができた。これらの遺構の北西約20ｍには悪社谷１号窯が存在していることから、調査区西側斜面に存在した窯に関連する遺構の可能性が考えられる。今後も周辺地域での窯跡の確認や資料収集の蓄積を行い、古代における生産地と消費地との物流を解明していく必要があろう。（山之内）

写真１　ＳＸ２遺物出土状況（東より）

写真２　ＳＲ２流木出土状況（北西より）

播磨塚天神山古墳（ハリマヅカテンジンヤマコフン）

所在地　松山市南梅本町甲417番地外
期　間　平成10年12月1日～平成11年8月31日
面　積　16,121.04㎡
担　当　栗田茂敏・吉岡和哉

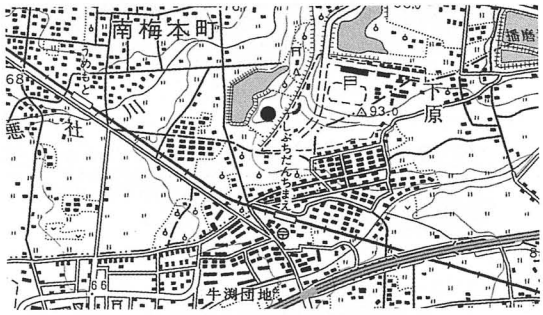


図1　調査地位置図

経　過　1992（平成4）年、松山市南梅本町所在の周知の包蔵地、「播磨塚古墳群」内の総面積16,000㎡あまりの対象地において、民間の開発計画が持ち上がった。これに伴い、松山市教育委員会（以下、市教委）が実施した確認調査の結果、この対象地の一角に古墳の存在が確認された。この古墳の取り扱いをめぐる、開発者、市教委、(財)松山市埋蔵文化財センター三者による協議の結果、古墳についての本格調査を実施することとなり、1998（平成10）年12月、(財)松山市埋蔵文化財センターが主体となって調査が開始された。調査実施面積は1,050㎡である。

古墳は、松山市東南部の南梅本町にあって隣接の重信町との境界至近、標高81～85ｍに位置する。松山平野は主に平野を西流する二大河川、石手川、重信川の沖積作用によって形成された平野である。このうちの石手川の支流、小野川・悪社川によって開析された低地の左岸に存在する低丘陵の南西端付近に古墳は位置しており、当墳を含む周辺の古墳群を「播磨塚古墳群」と呼んでいる。この古墳群が属するエリアは古代の久米郡域の東端部付近にあたるものと考えられている。この久米郡の中枢域には久米氏の氏寺、来住廃寺や久米官衙遺跡群が存在し、また域内には波賀部神社古墳、観音山古墳、葉佐池古墳など主に中～後期の前方後円墳が平野内でも多く分布する地域でもある。播磨塚古墳群内にはかつては20基とも30基ともいわれる数の古墳が存在していたというが、古くこの丘陵の多くの部分を占有している自衛隊松山駐屯地の設営時にその多くが消滅しており、現在では駐屯地内に7世紀前半と考えられる1基の横穴式石室の一部が残されているにすぎない。なお、当古墳は愛媛県内古墳分布には記載されておらず、したがって書類上は未周知の古墳ということになる。しかしながら、あきらかにみてとれる墳丘の高まりは古くから地元民には古墳として認識され、通称「天神山」という名称で祀られている。このことから、調査にあたり、この古墳を「播磨塚天神山古墳」と命名した。

遺構・遺物　調査が開始され、表土を除去してゆくと、調査前にみられた墳丘の高まりは墳丘全体の一部にすぎないことがわかった。現況で古墳の東に広がる微高地状の地形は、古墳北直近にある農業用溜め池の築堤の際に土取りが行われた後、建築廃材や客土によって造成されてできあがった地形であり、この際の客土によって墳丘の大部分が埋められていることがわかった。当初、小規模な円墳と考えられていた古墳の墳形は、調査の結果、南北主軸で北側に前方部を持つ前方後円形ということになった。規模は全長32.5ｍ、後円部直径23ｍ、くびれ部幅13ｍ、前方部東側隅角付近が先述の土取りによって失われているが、復元前方端部幅21ｍである。比較的遺存の良好な後円部で高さ3.5ｍ、現況では削平された前方部へ向けて緩傾斜をなしている。墳丘は地山を0.5ｍ程度の高さまで削り出し、この上面に盛り土を施して築成されている。墳丘外の地山はきれいに平坦に整形されており、濠

はない。墳丘内外からは多量の埴輪の出土がみられた。東側くびれ部には数本の円筒埴輪の底部付近が若干外側に向けて押された状態で原位置を保って残っていた。また、この埴輪列の内側に接して須恵器甕が2個体置かれている。埴輪列には掘り形を伴っていない。この列に沿って、数個の抜き取り穴が検出された。その他の埴輪は墳丘を取り巻くように墳丘外に転落、堆積していたが、量的には両くびれ部近辺が最も多い。また、後述されるように、中心主体は横穴式石室であるが、この石室前面部での埴輪の出土はない。くびれ部の樹立位置から推定すると、埴輪は墳丘外郭ラインに近い肩部を

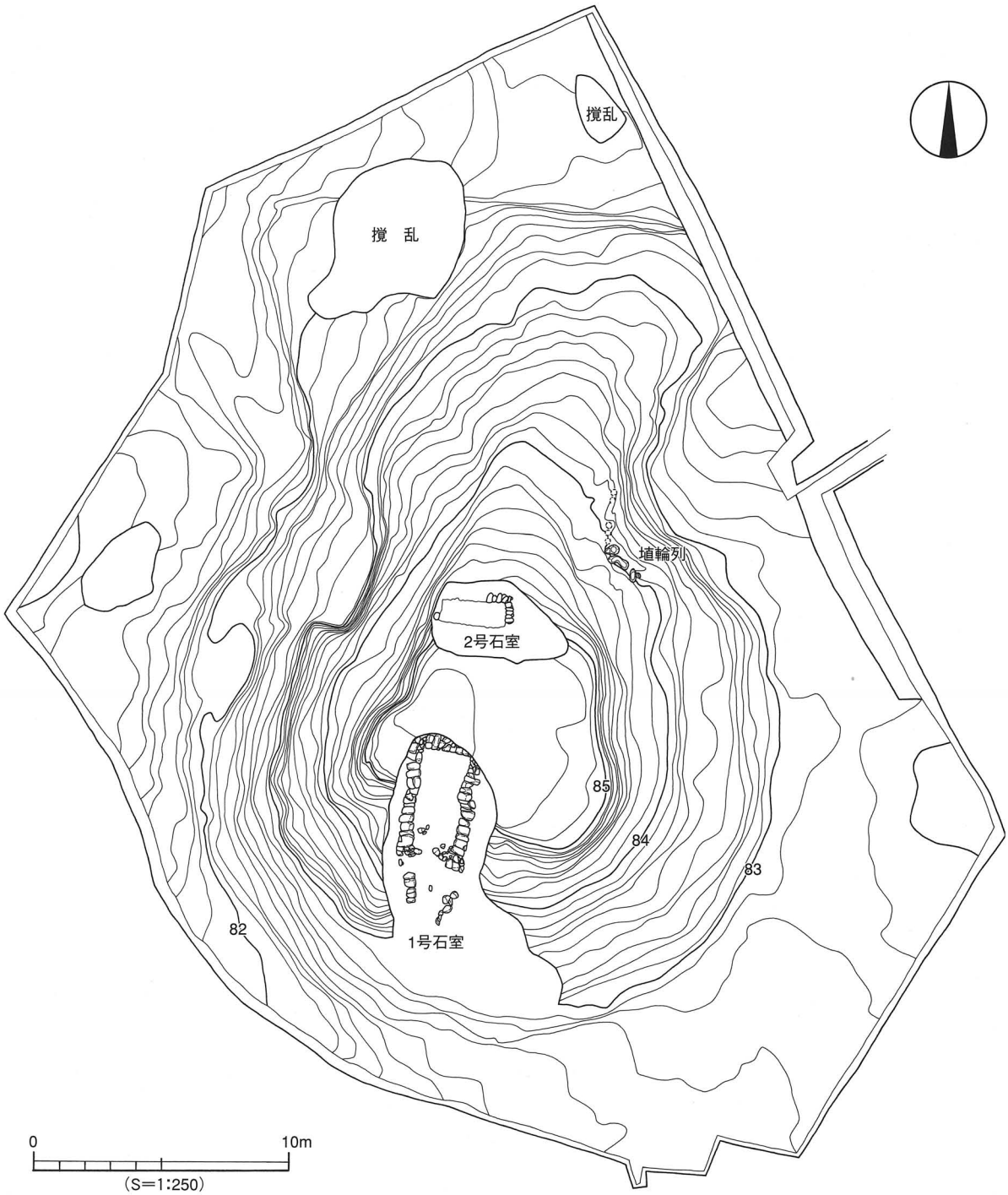


図2　墳丘と遺構の配置

囲繞していたものと考えられる。主体部の出入り口部分付近が本来空きスペースであったのか、追葬の際の墳丘掘削によって失われたのかは不詳である。埴輪は円筒埴輪が多数を占め、ついで朝顔形が多い。その他、僅かではあるが盾、家、蓋等の形象埴輪を伴っている。

検出された石室は2基あり、このうち1号石室としている横穴式石室がメインとなる埋葬施設で、後円部の後ろ側に開口している。盗掘や石材採取によって大きく破壊されており、残りの良い部分でも基底石から4段分程度しか残っておらず、床面の攪乱も激しい。石室全長6m、幅は奥壁部が最も広く2mある。若干の弧を描きながら入口部へ向けて幅狭になっており、入口部での幅は1.2mにまで縮約されている。玄室長は4m、床面に梱石の抜き痕がある。この部分に立柱を立てていたと考えられる礎石のような石材が両サイドに置かれているが壁体には組み込まれていない。つまり、石室のプランとしては無袖で、壁体から遊離した立柱を立てて両袖様にしていたものと思われる。このような構造の石室は、愛媛県内では県東部の伊予三島市の小規模な6世紀中頃の前方後円墳、経ケ岡古墳に類例がある。なお、前方後円墳の後円部背後に石室が開口する例は、松山市桑原町にかつて存在した6世紀前半の三島神社古墳がある。羨道から玄室へは緩やかな傾斜を降って進入するようになっており、墳丘築造時の削り出した地山面がこの石室入口と同一面となっている。また、墓坑もこの地山面から掘り込まれている。玄室床面は二重の構造になっており、地山面に人頭大の扁平な自然石を敷き詰め、さらにその上面に小礫を敷いている。床は、一旦下位の敷石面を埋葬面として用いており、追葬のいずれかの段階で新たに小礫面に改修している。この際に、理由は定かではないが、敷石の半分以上をランダムに抜き取っていることが地山面に小礫の詰まった敷石厚痕が残っていることでわかる。さらに、小礫は玄室のみではなく短い羨道部にまで敷かれ、最終的には複室的な使い方をされたものと考えられる。

盗掘は、かなり徹底して行われており、特に須恵器などは、破損した高坏や器台の小片が僅かに残っているだけである。その他、馬具や鉄製品についてもほとんどが破損した小片となっている。内訳をあげておくと、馬具としては金銅装の辻金具、剣菱形杏葉など、鉄製品では刀子、鉄鏃など、装身具として銀製空玉、碧玉製管玉、ガラス小玉や耳環がある。耳環には金銀の大小の環を組み合わせたものが一対あり、本来垂飾付耳環であったものと思われる。その他、注目すべきものに刀子の把や鞘に取り付けられていたと考えられる金銅製の飾り金具が大小数点ある。

2号石室は後円部のくびれ部寄りで検出された、長さ2.5m、幅1mの小竪穴式石室で、これもほとんど破壊されている。墳丘長軸ライン上のラインに直交する配置で、墳丘盛り土を切って構築されている。若干の玉類と須恵器片が出土した。

小　結　調査では、これまで知られていなかった前方後円墳を新たに確認するとともに、墳丘・埋葬施設双方の総合的な調査を実施することができた。墳丘出土須恵器には6世紀代全般を通じてのものがあるが、埴輪のセットや、僅かではあるが1号石室出土の須恵器からみて、古墳は6世紀前半に築造されたものと考えられる。中心主体の1号石室がいつ頃まで何体の埋葬に用いられたのかを知るには遺存状態が悪すぎるが、床面の利用状況からみて少なくとも3回は使用されている。さらに墳丘出土の須恵器の多くがこの古墳の埋葬にかかわる遺物であるとするならば、その期間は6世紀代を通じた期間と考えられる。また、2号石室の築造年代も僅かな須恵器片からの判断で危ない部分もあるが、古墳築造からさほど遅れず、6世紀中頃には設置されていたものであろう。　（栗田）

写真１　墳丘全景（南西より）

写真２　東くびれ部埴輪検出状況（北東より）

久米才歩行遺跡５次調査地

所在地　松山市南久米468－1
期　間　平成11年４月８日～同年６月30日
面　積　790.31㎡
担　当　小笠原善治・河野史知

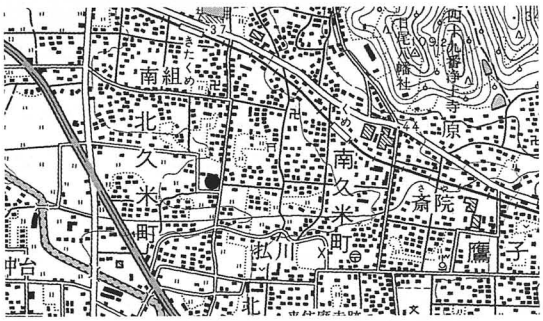


図１　調査地位置図

経　過　本調査は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№126 高畑遺物包含地』内における宅地造成工事に伴う事前の発掘調査である。調査地は、重信川中流右岸の小野川扇状地と石手川扇状地との間の洪積台地上、標高34.0ｍに立地する。すでに、久米才歩行遺跡では４次の調査が実施され、弥生時代～中世までの集落関連遺構と遺物を多数検出している。

遺物・遺構　調査では、弥生時代から中世までの遺構と遺物を確認し、遺構には竪穴式住居址２棟、掘立柱建物址４棟、溝７条、土坑４基、性格不明遺構１基がある。

古墳時代の遺構：隅丸方形を呈する竪穴式住居址ＳＢ２があり、規模は南北4.0ｍ、東西検出長3.3ｍを測る。内部施設は、間仕切り状の小溝３条を検出したが、炉址やカマドは未検出である。掘立２は、２間×２間以上の建物で掘立１と同様な方位をとる。南部から東部には柵列（ＳＡ１）が付設されている。掘立２とＳＡ１の距離は南辺で1.5ｍ、東辺で1.3ｍを測る。遺物は、ＳＡ１から弥生土器片と須恵器坏蓋片が出土している。

中世の遺構：東西に並行して走る溝にはＳＤ１とＳＤ２とがある。規模は、ＳＤ１が幅10～60㎝、検出長55ｍ、ＳＤ２が幅50～130㎝、検出長38ｍを測る。溝は上部が削平されて浅く、断面観察では、砂層や礫の堆積はみられない。両遺構からは弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、備前焼の小片が出土している。ＳＤ４は、北から東へ「Ｌ」字状に走る溝で、規模は幅80～150㎝、深さ10～30㎝、検出長29ｍを測る。断面観察では、下層に砂や礫の堆積はみられず、流水溝とは考えにくい。遺構からは弥生土器、須恵器、土師器、土釜の小片数点が出土している。

小　結　今回の調査では、弥生時代から中世までの遺構を検出した。ＳＢ２は、北久米常堰遺跡、筋違Ｋ遺跡、筋違Ｆ遺跡等の検出例から５世紀代と考えられる。住居内部に小溝をもつ竪穴式住居址の検出例は少なく、竪穴式住居址の構造研究にとっては貴重な追加資料である。６世紀代の柵列を伴った掘立柱建物址（掘立２）の検出は当平野では希少であり、注目される遺構である。中世の溝ＳＤ４は、区画溝の可能性が高い。ＳＤ１及びＳＤ２は、出土遺物や位置関係から同時期の遺構といえ、その性格は、区画溝または道路を考えている。

以上、調査では久米才歩行遺跡に展開した古墳時代集落と、中世集落の居住域を特定する資料が得られ、わずかではあるが、当時の集落構造を解明するに至った。今後は、同時代集落の範囲確認と、古代の来住台地上に展開する官衙遺跡群や、中世の町屋敷遺跡との関連を検討したい。　（小笠原）

X=90221
X=90218
X=90215
X=90212
X=90227
X=90224
Y=−64629
Y=−64626
Y=−64623
Y=−64620
Y=−64617
Y=−64614
Y=−64611
Y=−64608
Y=−64605
Y=−64602
Y=−64599
Y=−64596
SX1
SD7
SD6
SD5
SD4
SD3
SD2
SD1
SK1
SK2
SK3
SK4
SA1
SB1
SB2
掘立1
掘立2
掘立3
掘立4
0
10m
(S=1:200)

図２　遺構配置図

写真１　調査地全景（東より）

写真２　調査地東部全景（東より）

写真３　ＳＢ１，ＳＢ２検出状況（北より）

久米才歩行遺跡６次調査地

所在地　松山市南久米町478－３
期　間　平成11年９月20日～平成12年１月31日
面　積　286.82㎡
担　当　重松佳久・小笠原彰

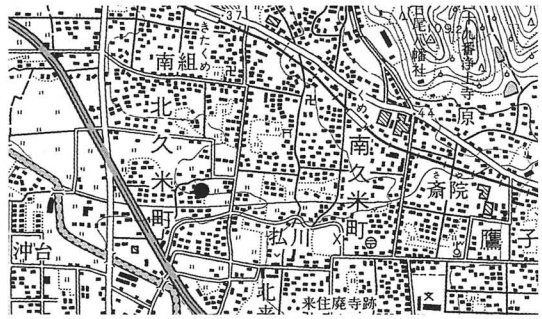


図１　調査地位置図

経　過　調査地は、松山平野の南東部、重信川中流右岸域の小野川扇状地と石手川扇状地との間に形成された洪積台地端部に立地する。南側には「来住台地」と呼ばれる洪積台地があり、７世紀中葉～８世紀代における「評」制から「郡」制への継続的な官衙施設の造営を想定し得る久米官衙遺跡群が位置している。調査地は、来住台地北側を流れる堀越川により来住台地とは遮断された位置にあり、官衙施設周辺部における土地利用を探る上で注目される地域である。久米才歩行遺跡では、既に５次にわたる調査が行われ、２次調査では６世紀代の竪穴式住居址１棟、３次調査では７世紀前半頃の掘立柱建物址２棟が検出され、「国造」制段階からの集落の広がりが予想されてきた。今回の調査は個人住宅の建設に先立ち、国庫補助を受けて実施した。なお、検出遺構は砂による保護を行い保存を図っている。

遺構・遺物　調査区北東部で大型の竪穴式住居址１棟とそれに重複する２棟の掘立柱建物址、調査区南部で重複する掘立柱建物址２棟を検出した。ＳＢ１は一辺約7.2ｍのほぼ正方形のプランを呈し、四本柱で上屋を支える構造で周壁溝を伴う。主柱穴のうち、ＳＰ23・25の埋土からは６世紀中葉に比定される土師器壺片と須恵器高坏片が出土している。ＳＢ１に重複して掘立１と２が検出されている。掘立１・２とも東西棟の建物と考えられ、掘立１は主軸Ｎ－16°－Ｅで梁行３間（７ｍ）、桁行２間分（３ｍ）、掘立２は主軸Ｎ－４°－Ｗで梁行３間（5.5ｍ）、桁行３間分（6.5ｍ）が検出された。建物の主軸方向から考えると、掘立１が２より先行すると考えられる。掘立３は２間×３間の南北棟を想定でき、主軸Ｎ－７°－Ｅで東西２間（4.5m）、南北１間分（2.6ｍ）が検出された。主軸を真北にとる掘立４は切り合いから掘立３より後続する建物である。注目すべき点は、掘立３の建物中央位置にあたる土坑から、７世紀末～８世紀初頭の完形の須恵器坏蓋が裏返しに置かれた状態で検出されたことであり、この遺構・遺物は地鎮祭的な祭祀に関するものと考えている。

小　結　この地域において、６世紀～８世紀の官衙成立時期に継続的な居住空間としての土地利用を想定することができた。特に今回の成果としては、掘立１から真北に近い主軸をとる掘立２への建て替えが７世紀中葉に行われている可能性の高いことや、７世紀末～８世紀初頭の掘立３、それに後続する掘立４が継続して営まれることが明らかとなった。また、重複する建物配置により、６世紀中葉の竪穴式住居形態から掘立柱建物への転換を図る時期が、７世紀中葉の官衙施設の建物軸線統一以前の時期であることを想定することができた。堀越川右岸地域における土地利用を考える上で、居住空間としての継続的な歴史的景観を復元可能とする貴重な資料を得ることができたと考えられる。今後も官衙施設との関連性を考慮に入れ、久米官衙遺跡群と周辺地域の解明に向けた調査が必要である。

（小笠原）

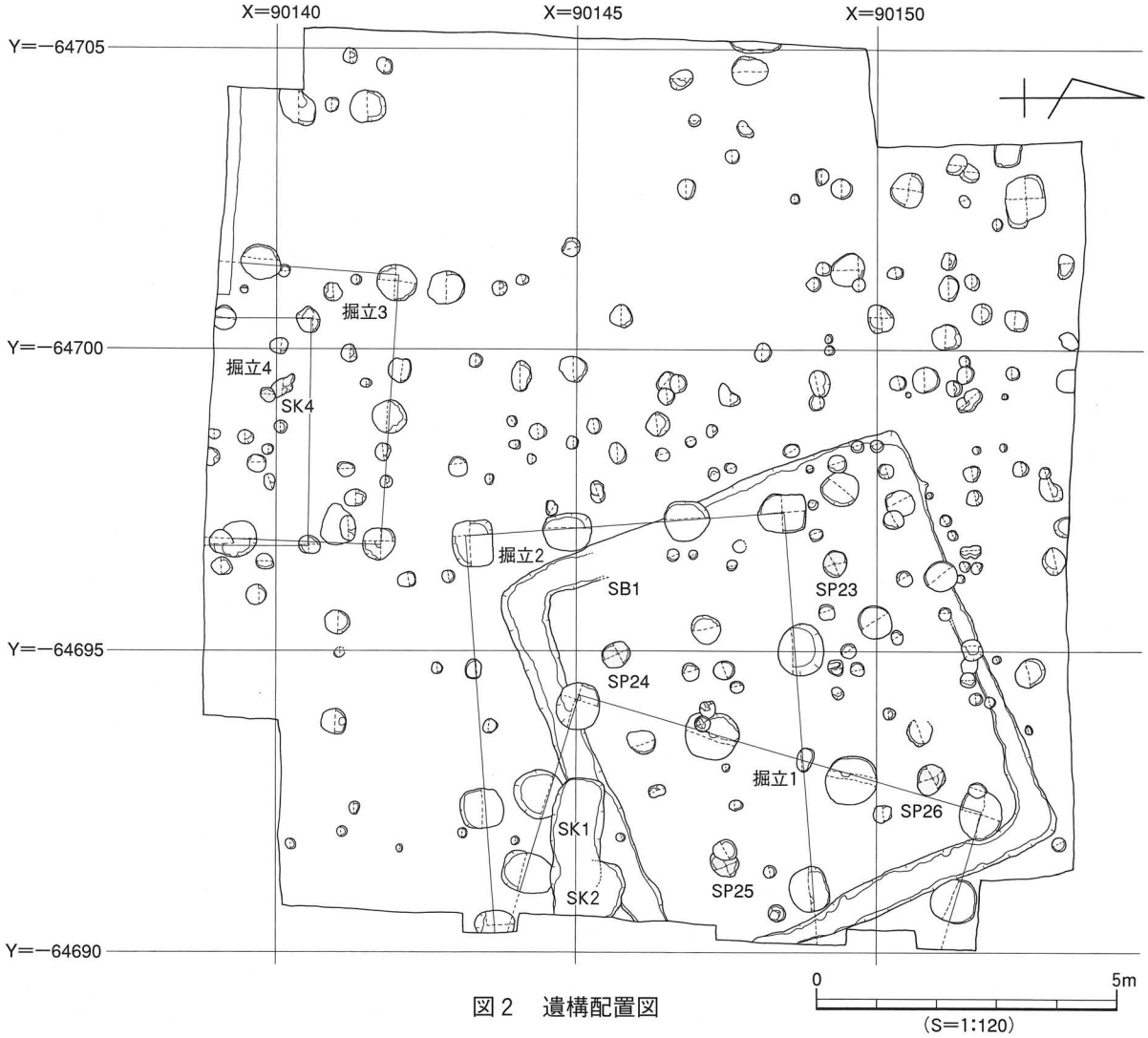


図２　遺構配置図

写真１　調査地全景（東より）

来住町（キシマチ）遺跡9次調査地

所在地　松山市来住町538番3
期　間　平成11年4月21日～平成12年2月29日
面　積　990.00㎡
担　当　政本和人

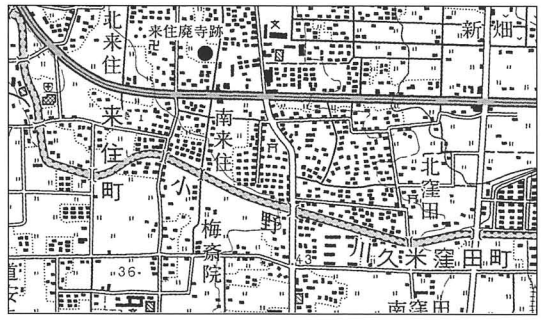


図1　調査地位置図

経　過　本調査地は、松山市の指定する埋蔵文化財包蔵地『№127 来住廃寺跡』に含まれ、西側に国指定史跡「来住廃寺」があり、北側と南側に来住町遺跡１～８次調査地がある。

これまで当該地の周辺では、「評衙」段階から「郡衙」にいたる久米官衙遺構跡群が計画的な土地区割りを持って、検出されてきている。今回の調査地では、事前調査において調査区東側で谷状地形が確認されており、来住台地上の官衙遺跡群の東限域の施設配置の存在が予想された。試掘結果を踏まえ区画施設及び関連遺構の検出を主目的とした本格調査が実施された。

遺構・遺物　今回の調査では、弥生時代から中世にかけての遺構・遺物が確認され、主なものとして古墳時代後半から古代までの遺構を特記することができる。その詳細は、掘立柱建物5棟、溝15条、土坑21基、柱穴92基、自然流路2条、小鍛冶炉7基、などである。 その中で特に注目すべきものとして、小鍛冶炉と関連する遺構・遺物を挙げることができる。

掘立柱建造物は、北西から南東に調査区を縦走する谷地形を避け、洪積台地端部上に継続的に造営されている。建物軸線は、調査区中央の掘立建物（掘立４）1棟を除き、官衙区域の土地地割りと異なる。掘立４は、ほぼ真北で桁行3間、梁行2間で一間当たり約1.42mを測る。また、建物の東側桁行に位置する柱穴により小鍛冶炉４を切ることから、小鍛冶生産廃絶後の官衙時期の建物と想定される。今回検出された小鍛冶炉は、全体で７基を数えるが、そのうち、炉の形態を残すものは、小鍛冶炉1・３であった。小鍛冶炉１は、平面形態が長楕円で炉床は2段構造を呈し、炉床の高低差は約9cmを測る。炉床には、厚さ約2～5cmのカーボンベットが敷設される。規模は、長軸1.6m、短軸0.66mの比較的大型の炉である。小鍛冶炉２は、直径約75～90cmのほぼ円形を呈し、炉床には、厚さ約2～5cmのカーボンベットが敷設される。炉壁は、被熱し赤褐色に変色している。7基の鍛冶炉は、縦走する谷地形の矩面に計画的に造営されとみられ、唯一、小鍛冶炉1と小鍛冶炉２に切り合い関係が見られることから、一定期間の継続的な操業を想定することができる。

小　結　今回の発掘調査の結果、従来より指摘されていたように久米官衙遺遺跡群に見られる計画的地割りを伴う遺構配置状況は、確認できなかった。しかしながら、台地端部の状況を示す自然地形の確認と相当時期の建物配置を検出するとともに、久米官衙施設造営に先立つ久米氏の「国造制」段階における鉄器生産遺跡を検出することができた。同調査地の鍛冶工房としての操業は、官衙成立時期までに終息を迎え、同地の土地利用は、「評段階」には生産遺跡から官衙域へとの変遷を想定することができる。こうした「国造制」段階からの土地利用の変遷を鑑み、今後の周辺地域の官衙遺構の発掘調査においても、官営の生産遺構の確認が必要と考えられる。　（政本）

X=89722
X=89710
Y=−64231
Y=−64207
掘立1
掘立2
掘立3
掘立4
掘立5
小鍛冶炉1
小鍛冶炉2
小鍛冶炉3
小鍛冶炉4
小鍛冶炉5
小鍛冶炉6
0
10m
(S=1:200)

図2　遺構配置図

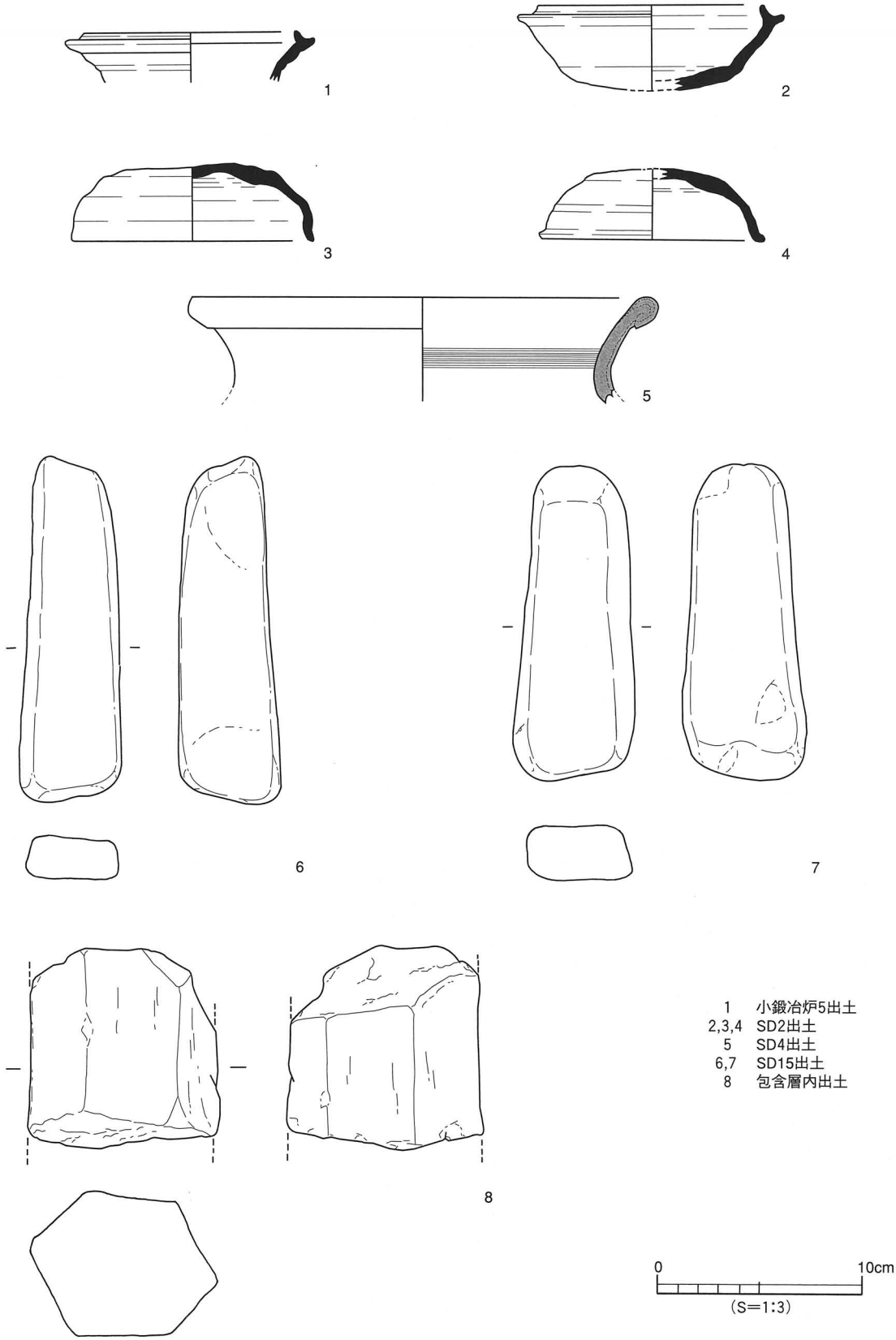

1
2
3
4
5
6
7
8
1 小鍛冶炉5出土
2,3,4 SD2出土
5 SD4出土
6,7 SD15出土
8 包含層内出土
0
10cm
(S=1:3)

図3　出土遺物実測図

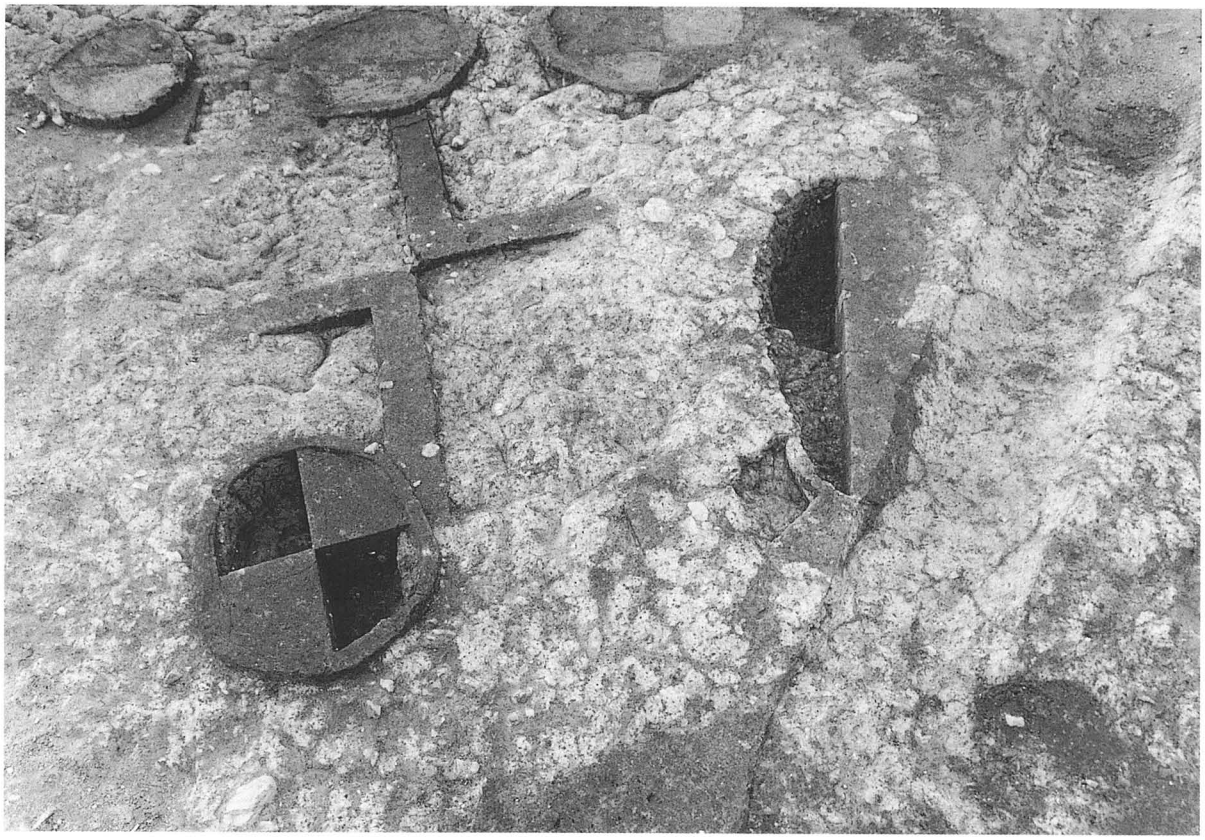


写真１　小鍛冶炉１，２半截状況（東より）

写真２　鉄床石検出状況（東より）

久米高畑遺跡42次調査地

（クメタカバタケ）

所在地　松山市来住町861・862・893番地
期　間　平成11年4月12日～同年11月17日
面　積　990㎡
担　当　橋本雄一・小玉亜紀子

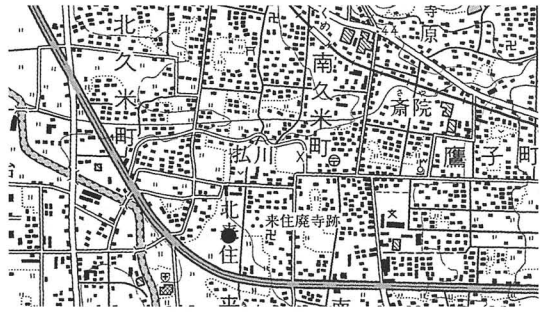


図1　調査地位置図

経　過　久米官衙遺跡群における最も重要な施設である「回廊状遺構」の北側隣接地において、国から補助を受け、学術目的の調査を行った。「回廊」の全容解明のきっかけとなった来住廃寺5次調査地のすぐ北に位置する当該地に関しては、以前から、「回廊」と同規模の官衙関連の区画地の存在が想定されてきた。今回の調査では、この施設の外周を区画する施設ならびに関連の建物の存在を確定し、方一町規模の官衙施設の存在を立証することを、最大の目的とした。

遺構・遺物　数条の区画溝と、これに平行に建てられている3棟の掘立柱建物が確認されたことによって、調査の目的は達成された。区画溝は多数検出されているが、このうち、1区西部に位置するＳＤ001～003が、「回廊」の北に位置する方一町の土地区画の西辺に該当する。3条のうち中央のＳＤ002は、南に延びて、来住廃寺5次の北西角で東へ直角に折れ曲がる区画溝に連結する。また、調査地のすぐ北側の久米高畑13次において検出されていた南北方向の直線溝も、この溝の延長部分にあたる（図3）。なお、ＳＤ001と003の2条は、002が掘り替えられたもので、ともに002よりも後出する。したがって、ＳＤ002が、官衙の土地区画が設定された当初の区画溝であると考えている。

ＳＤ002を西限とする方一町の区画地内に建てられた建物が4棟検出された。このうち掘立001～003の3棟は、ＳＤ002からおよそ9ｍ離れた位置に南北方向にならんで建てられている。最も南の掘立001の南部は調査地外に展開するため正確な規模は不明であるが、桁行き3間（5.45ｍ）以上×梁行き3間（4.05ｍ）の南北棟である。中央の002は、桁行き2間（3.55ｍ）×梁行き2間（3.21ｍ）を測る。北の掘立003については、南の柱穴の一部を確認したのみで、詳しい形状は不明であるが、これも、南北棟であると考えられる。調査地北壁で確認される範囲では、梁行き3間、約4ｍを測る。なお、この規模は、掘立001とほぼ共通である。

掘立004は、先に述べた3棟の建物との関係が不明確であるが、ＳＤ002を西限とする同一の敷地内に設けられた官衙関連の建物であると推測している。桁行き3間（7.04ｍ）×梁行き2間（3.82ｍ）の東西棟である。他の3棟と比較すると、方位が若干異なることに加えて、区画溝：ＳＤ006に切られていることから、両者の間には時間差が存在する可能性もある。なお、この建物の柱の抜き取り跡からは、当遺跡群における最も古い型式の平瓦と丸瓦の破片が少量出土している。

この他、掘立004に先行する掘立005、ＳＤ012・013・018（弥生時代）、竪穴住居址が多数重複している箇所（2区、古墳後期）、ＳＫ002（7世紀）、ＳＤ004～006・011・010（官衙段階の区画溝）などがある。

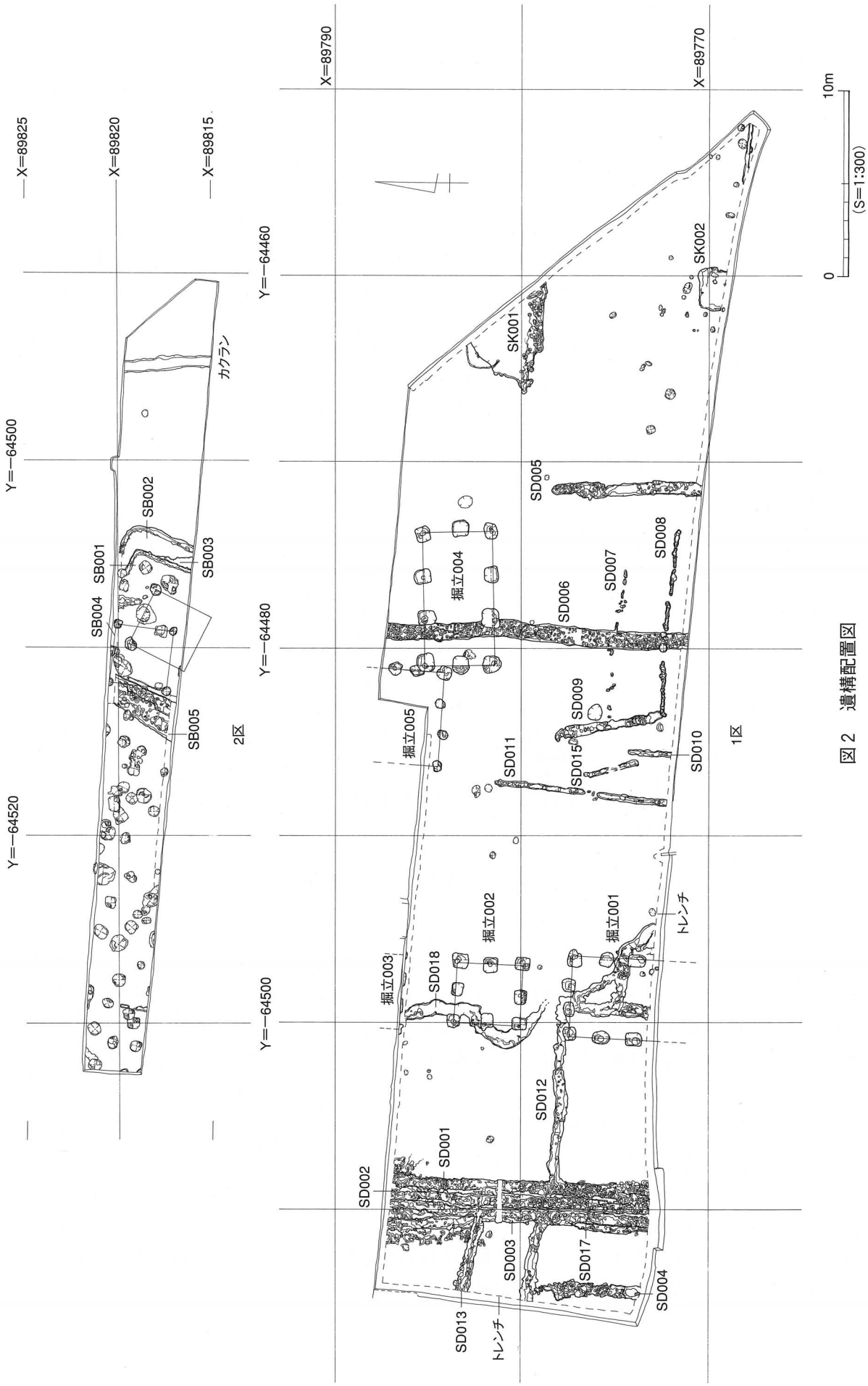

X=89825
X=89820
X=89815
Y=−64500
Y=−64520
カクラン
SB002
SB001
SB003
SB004
SB005
2区
X=89790
X=89770
Y=−64460
Y=−64480
Y=−64500
SK001
SK002
SD005
SD008
SD007
SD006
掘立004
SD009
SD015
SD011
掘立005
SD010
1区
トレンチ
掘立001
掘立002
SD018
掘立003
SD012
SD001
SD002
SD003
SD017
SD004
SD013
トレンチ
10m
0
(S=1:300)

図2　遺構配置図

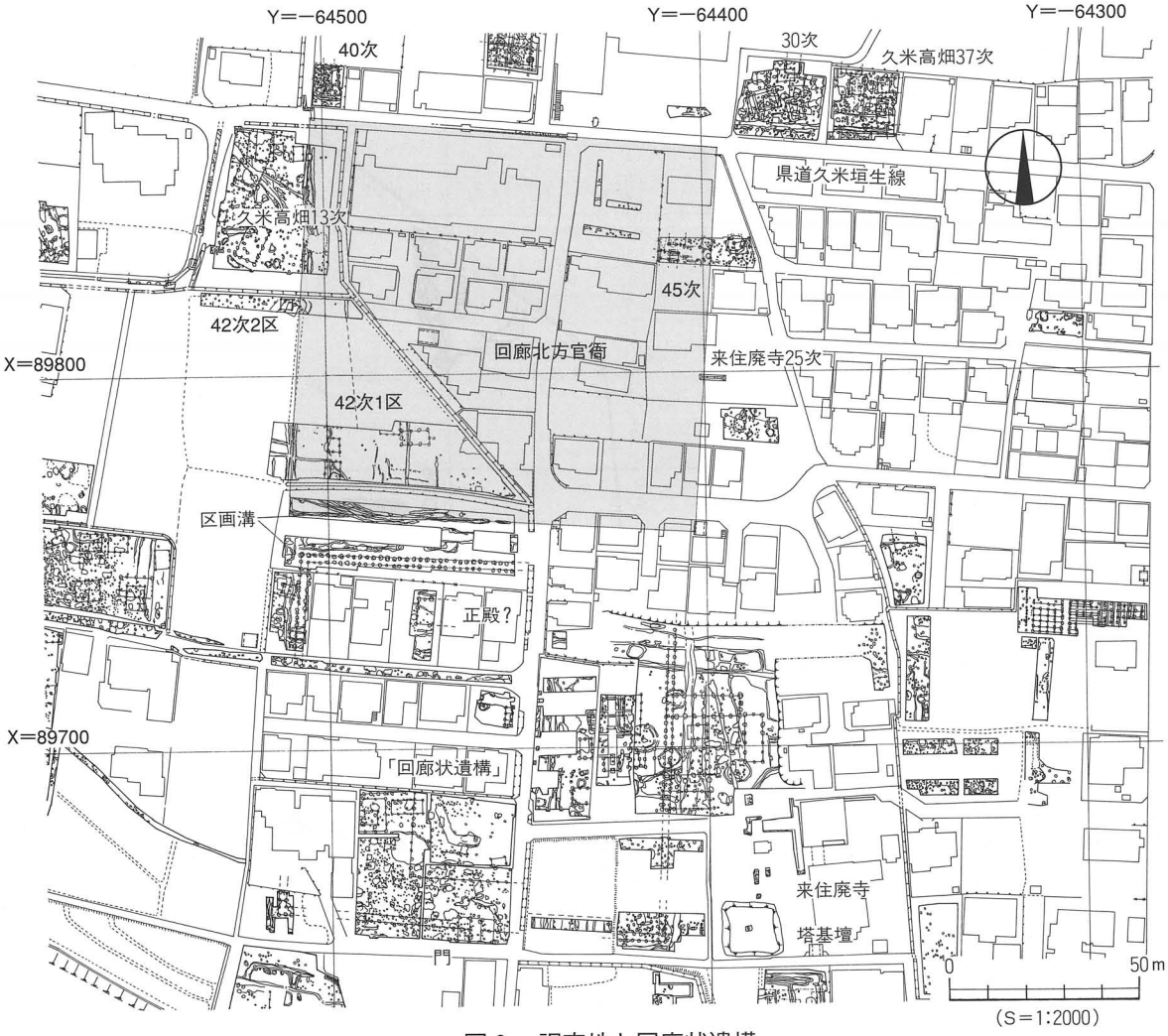


図３　調査地と回廊状遺構

小　結　ＳＤ002から西に約４ｍのところに、ＳＤ004が掘り込まれている。浅く痕跡的な溝であるが、直線的な形状はＳＤ002とよく似ている。これに関しては、ＳＤ002と一対のもので、古代の官庁街を南北に結ぶ道路の側溝であった可能性を想定している。ただし、方向性が共通で埋土の性質が似ていること以外に確証は無い。今後、この溝の西側において官衙関連の建物や区画施設が検出される可能性もあるので注意したい（p.76）。

ところで、区画溝であるＳＤ002と、それに後出するＳＤ001・003との関係については、この官衙施設が複数段階に渡って継続したことを示すものと考えている。必要に応じて溝を掘り替えた結果、このような状態に至ったのであろう。これと関連して、４棟確認された建物のうち、掘立004について、他の３棟との間に時間差が存在する可能性が想定されることも参考になる。さらに、西に位置する３棟の建物について、全体として一列に揃った配置がされてはいるが、柱筋が必ずしも揃っていない事実からも、ある程度の継続期間を認定可能かもしれない。（橋本）

写真１　調査地全景（西より）

写真２　区画溝と掘立の検出状況（北東より）

久米高畑遺跡43次調査地

（クメタカバタケ）

所在地　松山市来住町1153－2・1153－13
期　間　平成11年8月4日～同年11月4日
面　積　282.11㎡
担　当　橋本雄一・小玉亜紀子

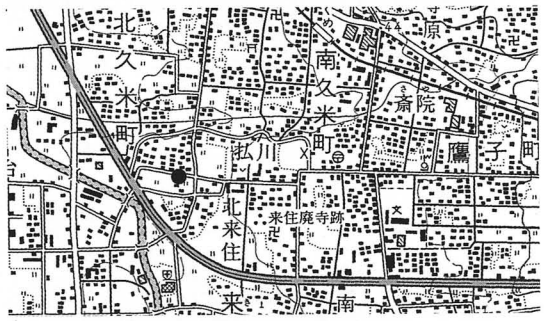


図1　調査地位置図

経　過　個人住宅の建設に先だって、国から補助を受けて調査を実施した。調査地は、平成8年から10年にかけての複数次の調査によって、久米郡衙の正倉院であることがほぼ確定済みである空間の内部に位置する。平成8年の32次調査の際に課題として残された正倉院の変遷過程や、倉と屋の比率、礎石建物の認定等の問題点の解決がはかられるものと期待された。

遺構・遺物　この調査地は、北東部の一部を除いて、黒色の腐植土が厚く堆積した低地部に位置している。この低地は、南東に隣接する31次調査の際に確認された同様の地形と一連のものと考えられ、官衙を含むすべての遺構は、この低地部の黒土を掘り込んで形成されている。

官衙以外の遺構としては、14世紀以降の溝であるＳＤ001、13世紀初頭頃の墓：ＳＫ001、古墳時代後期以降の溝：ＳＤ002が該当する。官衙関連の施設としては、大型の掘立柱建物2棟、総柱の倉である可能性の高い建物1棟、建物形状不明の大型の方形柱穴1基などを検出した。ただし、これらはすべて、建物の北辺の柱列を確認したのみで、形状や規模を確定できたものは1棟もない。いずれの建物も、調査地南の道路にかけて展開するものと理解している。

掘立001については、建物北辺の柱穴5基を検出した。不整方形の各柱穴においては、柱の抜き取り跡が確認された。4間分で、約11.7ｍを測る。全体の規模は、東西5間（14.6ｍ）から6間、南北2間（6ｍ強）程度を想定している。なお、調査地南壁沿いで検出された礎石1基に関して、この建物の間仕切りに伴う構造であるとする考え方が有力である。掘立002は、001とほぼ柱筋をそろえた建物である。4基の柱穴を検出したが、全体形は不明である。総柱の倉である可能性も考えられるが、ここでは、掘立001と同様の側柱建物として復元した（図3）。柱間3間分で約9.3ｍを測る。掘立001の北西角を示す段掘り構造の柱穴との距離が近接していることから、同時併存はあり得ないものと考えている。この建物についても、柱は抜き取られている。出土した須恵器に顕著なものはないが、柱設置当初の埋土中から、縄目叩きが施された平瓦の破片が出土している。

なお、図面上で掘立003とした建物については、柱穴を2基検出したのみであるが、ともに拳大から人頭大の礫が、掘り形下部にぎっしり詰められた状況が確認されている。礫の配置の仕方が、この遺跡における通常の掘立柱の根石のあり方と異なり、礎石の根石に似ていることから、この建物は礎石建物であった可能性が高いと判断している。柱間が3.3ｍに達することから、かなり大型の総柱構造の倉であったものと理解している。

小　結　ただ1基のみ検出された礎石のあり方に関して、当初、いくつかの案が提示された。そのひとつに、礎石建物であった可能性が高い掘立003を、後に拡張したものとする考え方があった。これ

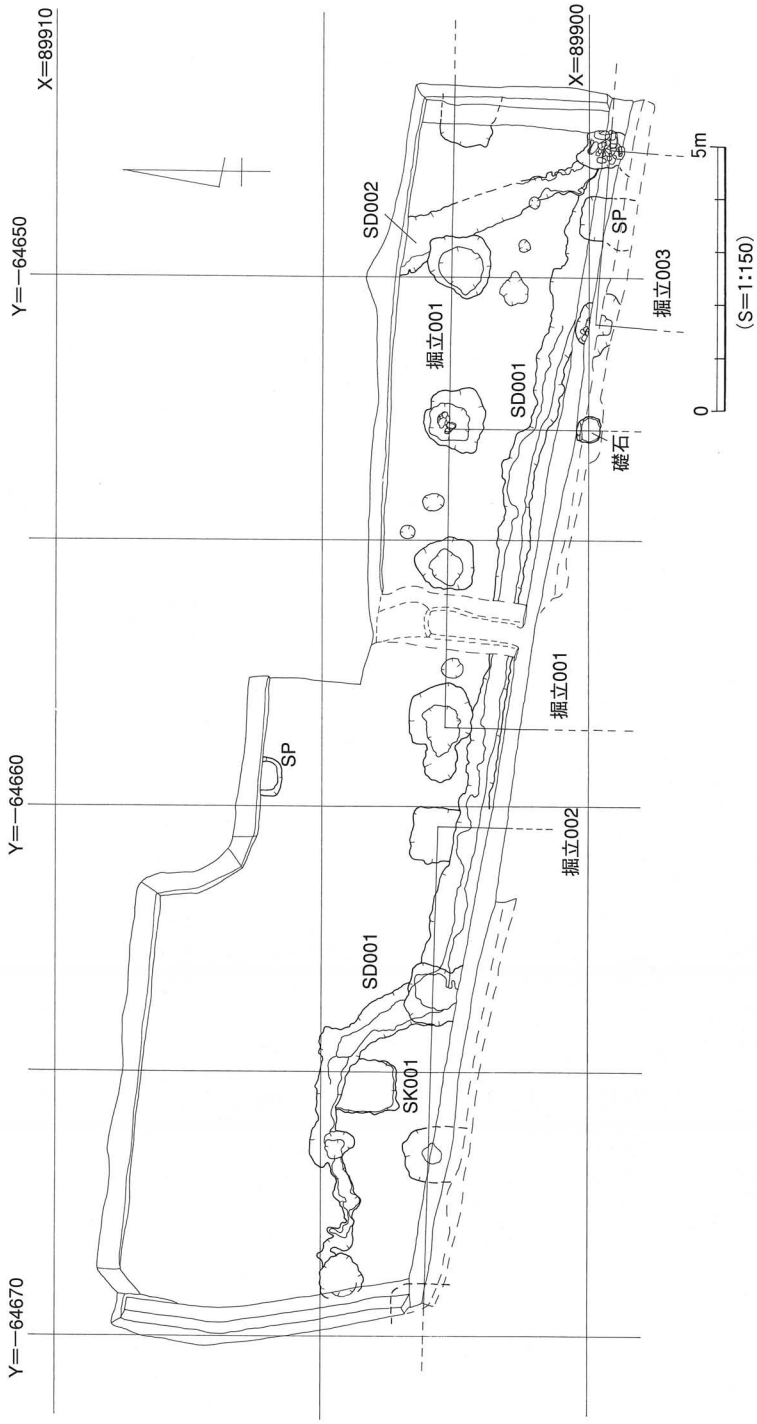


図２　遺構配置図

に関しては、土の性質の違いから退けられた。掘立003の埋土が古い時期の特徴である黒色土であるのに対し、礎石の裏込めの土は灰色で、仮に後世に増築されたから土質が異なると考えても、その差が大きすぎると判断された。現在は、土質が近似する掘立001に伴う可能性がより高いものと推測している。その場合礎石は、梁行き２間に復元される側柱建物の間仕切りの壁が設けられる位置に設置されていると評価される。平成８年の32次調査の際に、礎石が１基検出されているが、今回、新たな建物における礎石の使用実態を知ることができたことは、今後、この正倉院の全容を解明する上で重要な情報になると期待される。

（橋本）

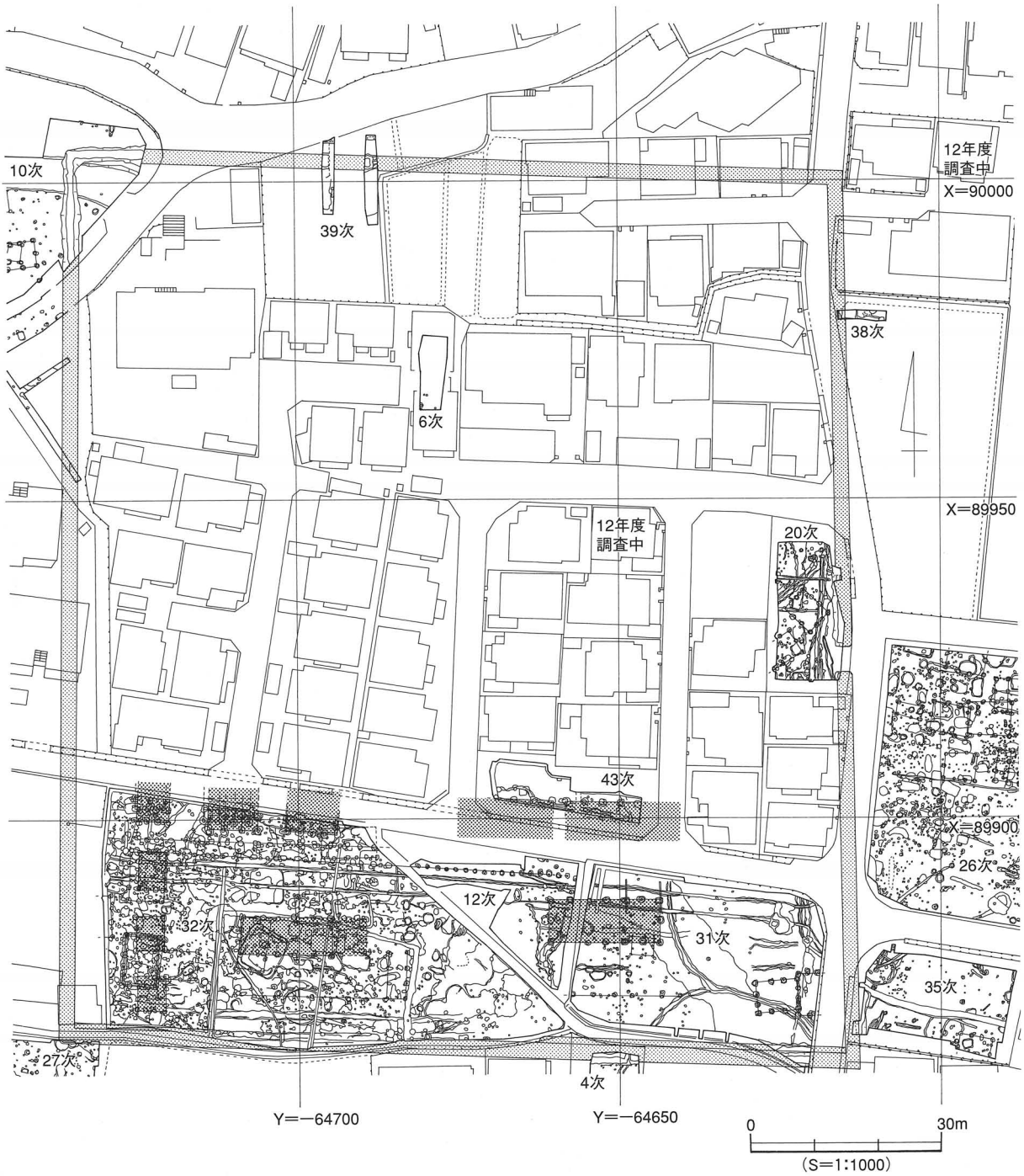

10次
39次
12年度
調査中
X=90000
38次
6次
X=89950
12年度
調査中
20次
43次
X=89900
26次
12次
32次
31次
35次
27次
4次
Y=−64700
Y=−64650
0
30m
(S=1:1000)

図3　正倉院全体図

写真１　完掘状況（東より）

写真２　礎石検出状況（北東より）

久米高畑遺跡44次調査地

（クメタカバタケ）

所在地　松山市南久米町716番
期　間　平成11年10月20日～平成12年1月31日
面　積　193.24㎡
担　当　重松佳久・小笠原彰

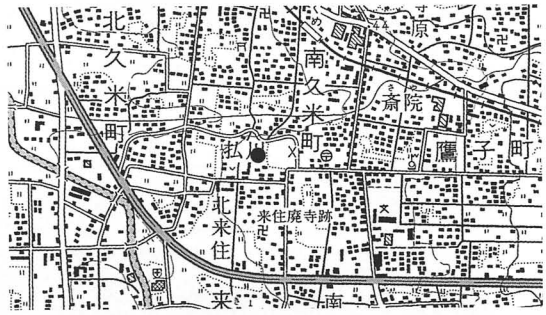


図1　調査地位置図

経　過　調査地は、久米官衙遺跡群の展開する「来住台地」の北東端部に位置し、台地縁辺部への官衙関連施設の広がりを考える上で重要な場所である。台地上では、これまでの調査で官衙の主要施設が区画溝や柵列等によって計画的に配置されている状況が明らかとなっているが、台地縁辺部における関連施設の広がりは不明な点が多い。今回の調査は個人住宅の建設に先立ち、国庫補助を受けて実施した。なお、検出遺構は砂による保護を行い保存を図っている。

遺構・遺物　検出した主な遺構は、倒木痕跡2基、弥生時代の土坑2基・竪穴式住居址3棟、古代の掘立柱建物址2棟・柵列1条である。ここでは主に古代の遺構について述べる。調査区の東部で掘立柱建物址2棟と柵列を検出している。掘立1は主軸をN－9°－Wにとり、南北8ｍ、東西1.95ｍを検出した。建物の東辺にあたる柱穴3基と調査区西壁にかかる柱穴1基を検出しているが、調査区南と西側へ延びるため建物規模、構造は不明である。ただし、ＳＰ11・12・13が側柱に、ＳＰ14が束柱になり総柱構造の比較的大型の建物になる可能性がある。しかし、側柱の柱間が3.7ｍと長いため、ＳＰ11・12・14が1棟の建物、ＳＰ13が別の1棟の建物の柱穴、さらにはＳＰ14が建物を間仕切りするための柱穴等と考えることも可能である。ただ、東側2.4ｍの位置に建物と平行する柵列ＳＡ1が検出されていることを考えると、総柱構造となる可能性が高い。ＳＡ1は、検出長10ｍを測る7間分を検出したが、調査区の南側へ延びるかは不明である。ＳＰ2とＳＰ5の埋土において灰黄褐色土を黒褐色土が切る土層が確認でき、柱穴の掘り直しが行われている。ＳＰ8の埋土からは7世紀初頭に比定される土師器甕の口縁部片が出土した。掘立1とＳＡ1の柱穴からの出土遺物はほぼ皆無であるが、官衙施設の建物主軸やＳＰ8の土師器から柵列を伴うこの建物は7世紀初頭の時期を考えておく。

小　結　今回の調査において、「評」制以降の官衙関連施設の検出はされなかったが、これまで不明な点の多かった「国造」制段階の柵列を伴う、比較的大型で総柱の可能性を持つ建物を検出することができた。建物の詳細は今後の調査によらなければならないが「国造」制から「評」制への土地利用の移行を考える上で貴重な成果である。久米官衙遺跡群は、正倉遺構の7世紀中葉から8世紀にかけての建物変遷や区画溝から壕への転換、7世紀後葉の回廊状遺構から来住廃寺への建て替え等、官衙施設の造営の変遷を解明することのできる貴重な遺跡であるが、台地全域における官衙造営と土地利用の変遷を理解するには、今後の調査の積み重ねによるところが大きい。今後、台地縁辺部や周辺部における官衙関連施設の広がり、土地利用の状況を検証していくことが重要である。　（小笠原）

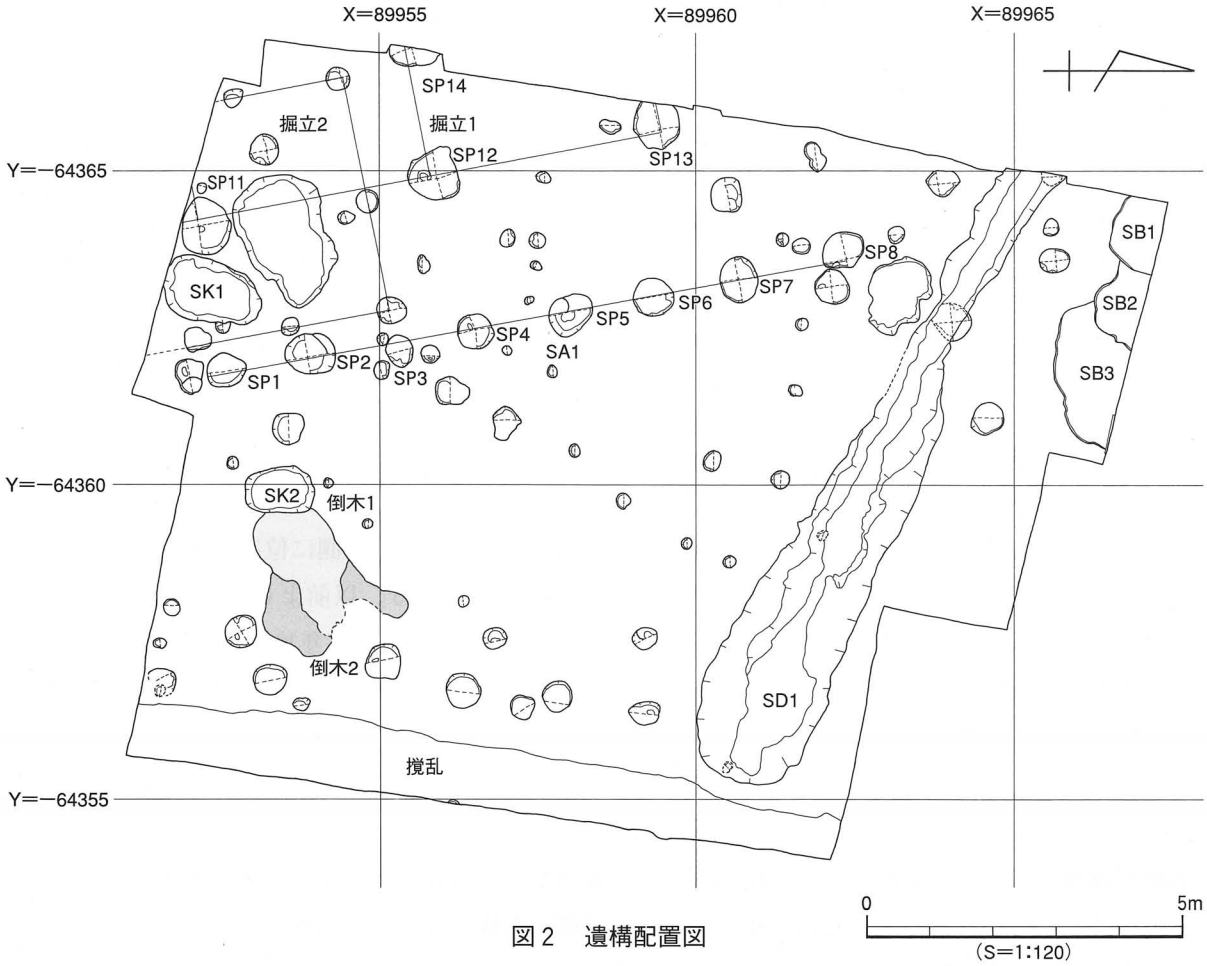


図２　遺構配置図

写真１　調査地全景（南より）

久米高畑遺跡45次調査地

所在地　松山市来住町727番地１の一部
期　間　平成12年１月17日～同年３月31日
面　積　178㎡
担　当　橋本雄一・小玉亜紀子

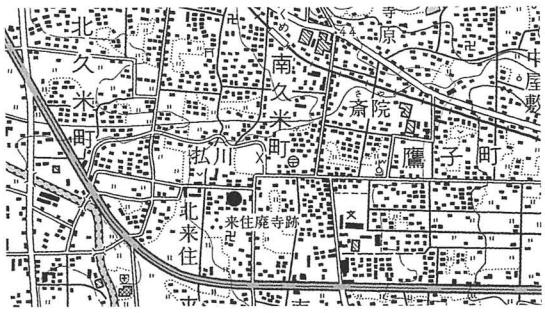


図１　調査地位置図

経　過　調査は、松山市指定の包蔵地『№127　来住廃寺跡』内の学術調査で、国から補助を受けて実施した。

調査地は、久米官衙遺跡群内の主要施設の一つ、「回廊状遺構」の北側に位置している。この施設は外郭約110ｍ四方（一町四方）の溝によって囲われた遺構である。以前より、この「回廊状遺構」と同規模の官衙関連の区画地の存在が想定されていた。新たに、平成11年度の久米高畑42次によって、区画地の西側を区画する溝と関連の建物群の存在が確認された。今回は、この区画溝の東辺の確定を目的として調査を実施した。また、官衙関連遺構の他に、弥生時代の集落の確認も同時に行った。これは、調査地北側の久米高畑遺跡23～29次調査で、弥生時代前期末～中期初頭の住居址・土坑・大溝などの集落遺構が多く検出されている為である。

遺構・遺物　遺構は、第Ⅳ層上面（地山直上）で確認した。調査地は、調査以前に重機による掘削で地山を激しく削られていた。このため、検出した遺構は遺構底面近くでの検出であった。検出遺構は竪穴式住居址３棟、掘立柱建物址５棟、土坑１基、性格不明遺構１基がある。

このうち、注目される遺構は円形の竪穴式住居址である。あわせて３棟確認した。今回検出したのは、竪穴式住居址を構成する主柱穴のみである。主柱穴の推定本数は８本（ＳＢ001・002）と10本（ＳＢ003）の２種類がある。遺物は３棟とも弥生土器片とサヌカイト片が少量出土しているのみであった。他に、長方形土坑１基（ＳＫ001）を検出した。久米高畑遺跡24次～28次で数多く確認されている土坑と同様のものである。

小　結　今回、調査目的の一つであった「回廊状遺構」北側の区画地の東辺は確定出来なかった。本調査以前の調査で、「回廊状遺構」北側の区画地の存在は既に確定している。今回の調査地は残念ながら遺構の残り具合が良くなかったが、関連建物については、区画溝の推定ライン内側で掘立柱建物が２棟検出された。しかし、現段階では官衙関連遺構と確定するには至っていない。

弥生時代の集落遺構は、来住台地上でもこれまでに、数多く検出されている。特に、前期末～中期初頭の土坑などは数100基確認されている。それに対して円形の竪穴住居址は、今回を含め弥生時代全体でも34棟確認されているにすぎなかった。これは台地上全体が後世に大幅な削平を受けている為である。本来は、多数の住居が立地していたと考えられる。

今後の調査では、削られずに遺存している住居址の柱穴を手掛かりにして住居を復元し、他の遺構と既調査の成果もふまえて、来住台地上の弥生時代の集落構造を解明したいと考えている。　（小玉）

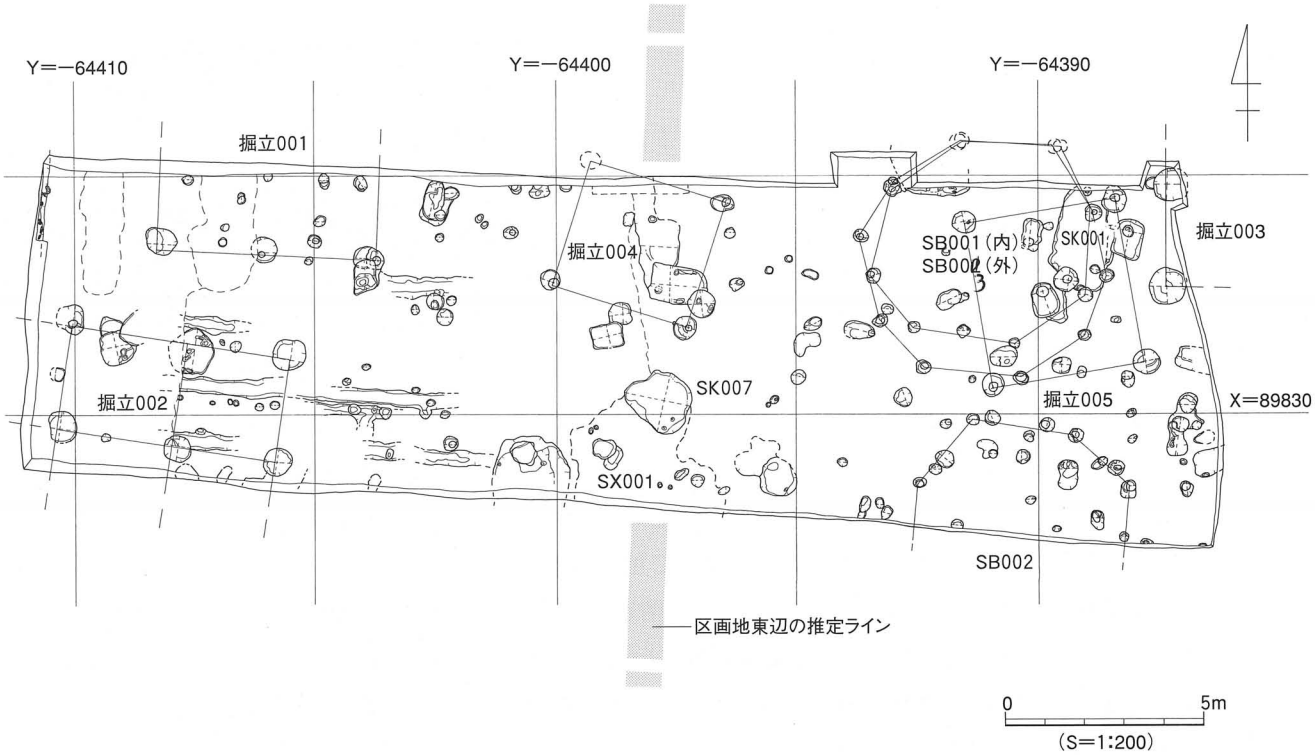


図２　遺構配置図

写真１　遺構検出状況（北より）

久米地区公共工事に伴う確認調査（H 11－172）

所在地　松山市来住町・南久米町
期　間　平成11年11月16日～12年２月１日
面　積　約400㎡
担　当　橋本雄一・小玉亜紀子

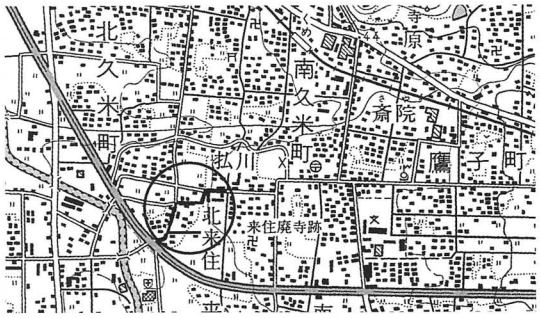


図１　調査地位置図

経　過　久米官衙遺跡群の区域内における汚水管設置工事に先だって、確認調査を実施した。松山市下水道建設課との打ち合わせの際に、官衙域中心部に及ぶ予定であった当初の計画を一部変更し、遺跡群に対する影響を最小限に止める方向で調整がはかられた。なお、重要遺構の一部については、管路を再度変更のうえ、保存を実現している（Ｃ地点）。

遺構・遺物　Ａ地点とＣ地点において、官衙関連である可能性が高い掘立柱建物を各１棟検出した。Ｂ地点では、久米高畑31次などで調査されている低地部の延長を確認したほか、Ｄ地点では、竪穴式住居址を含む多数の遺構を検出した。Ｅ地点においても、土坑など若干の遺構を確認している。

Ａ地点の掘立柱建物は、東西不明・南北３間（約5.1ｍ）、柱穴は方形である。南の柱穴２基については、柱を抜き取った痕跡を確認している。柱筋の方位は、北で約12.5°東へ振る。一方、Ｃ地点の建物は、東西４間（10.2ｍ）以上・南北不明の、方形柱穴で構成される掘立柱建物である。この建物の柱も、すべて抜き取られている。柱筋の方位は、北で約96.5°東へ振る。いずれの建物も、方位や柱穴の形状の特徴等から、官衙関連の施設であった可能性が高いものと推測している。

小　結　Ｃ地点の掘立柱建物の位置は、遺跡群の代表的な施設である回廊状遺構の北西にあたる。今年度行われた久米高畑42次調査の結果、「回廊」の北に別の方一町規模の官衙施設が立地することが確認されているが、さらに、その西にも、官衙の区画地の存在が想定されるデータが得られている(p.66)。Ｃ地点の建物は、ちょうど、この区域の中央付近に位置することから、42次調査の所見とあわせて評価すると、「回廊」の北西のこの場所にも官衙の敷地の設定が行われており、関連建物が存在した可能性が濃厚になったと判断している。（橋本）

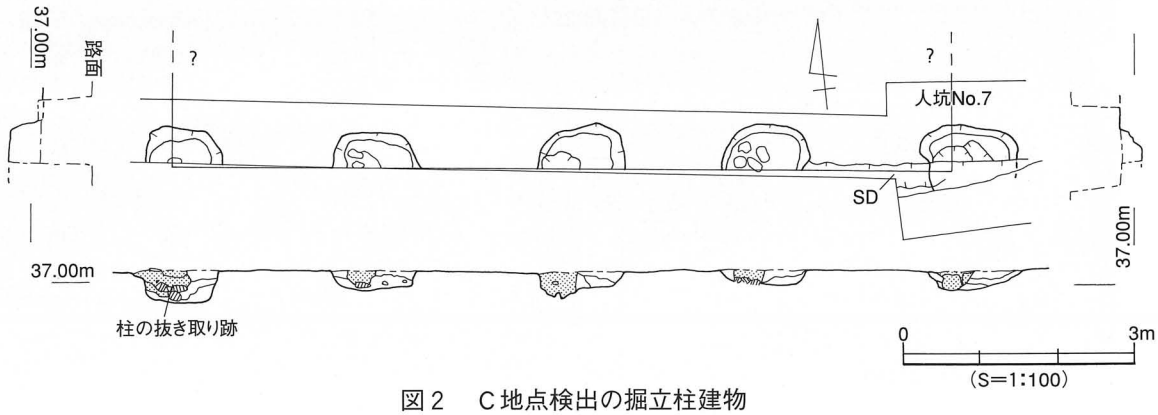


図２　Ｃ地点検出の掘立柱建物

写真１　Ｃ地点掘立完掘状況（西より）

（Ｓ＝１：2,000）

図３　汚水管工事のルート

久米官衙遺跡群（クメカンガ）～各施設の配置とその名称～

久米官衙遺跡群の最大の特徴は、外郭を溝や濠、柱列等によって囲われた院構造の官衙施設が多数存在する点にある。これまでに存在が確定している代表的な施設としては、回廊状遺構と正倉院のほか、11年度までの調査によって内容が明らかとなった、遺跡群北部の一辺43m規模の柱列によって囲われた施設（政庁南東官衙）などがあげられる。さらに今年度の成果から、回廊状遺構の北側で新たに確認された区画地（回廊北方官衙）や、その西隣の区域についても、これに加わることになる。

これらの施設の内容と機能については、いまだ不明な点が多いが、便宜上、以下のとおり仮の名称を付して暫定的な呼称としたい。なお、この名称については、今後の調査研究の進展によっては、変更をおこなうこともある。（橋本）

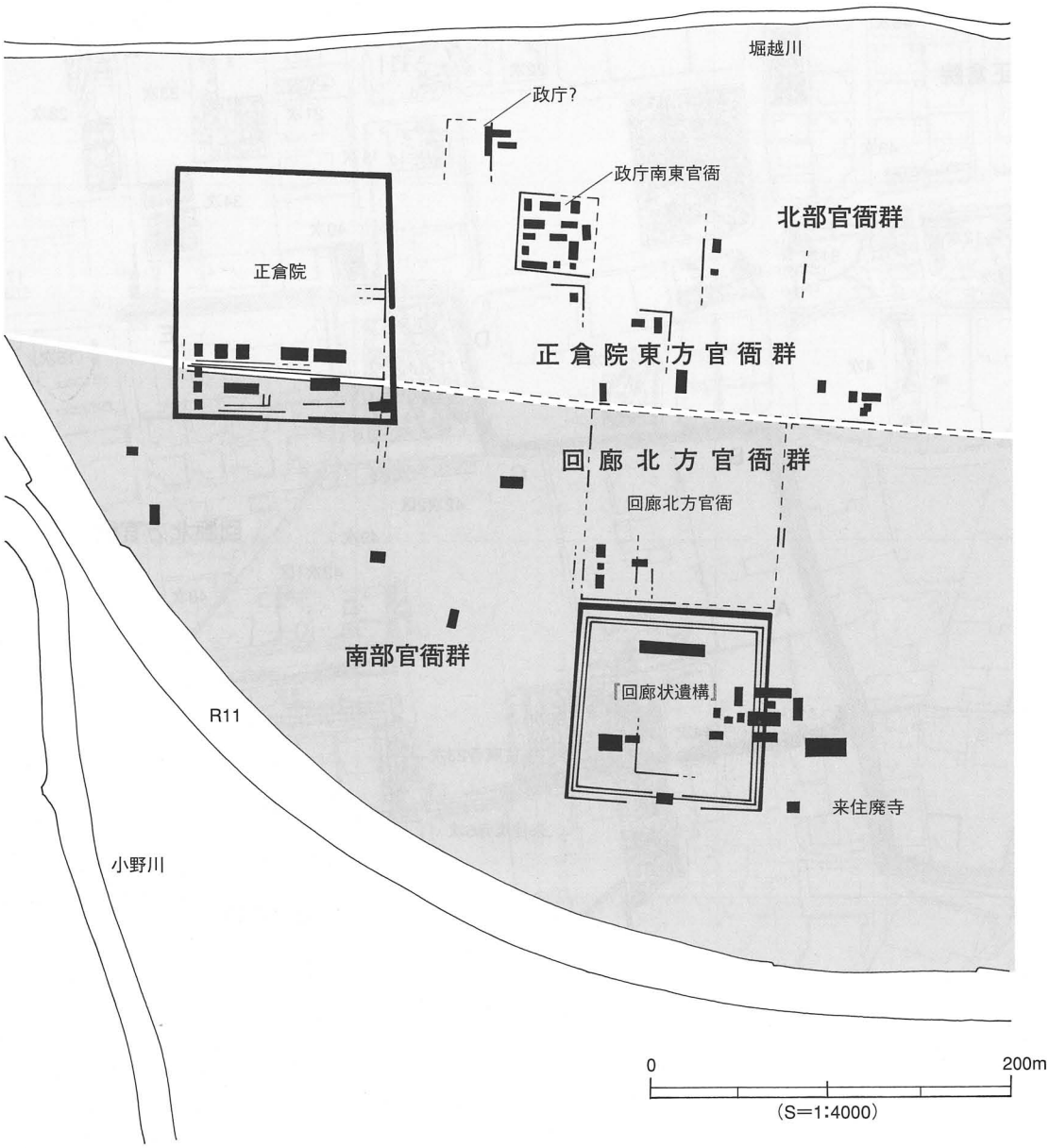


図1　各施設の名称

※本図は、平成7年3月修正松山市都市計画図1:500を、
平成9年6月に縮小編纂したものである。

図2　久米官衙遺跡群全体図

Ⅱ　平成11年度

松山市埋蔵文化財調査関係資料

松山市埋蔵文化財調査関係資料

例言

1．本編は、松山市教育委員会文化教育課・（財）松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターが実施した埋蔵文化財確認調査資料である。

2．今回は平成11年度（申請番号１号～460号．平成11年４月１日～平成12年３月31日迄）の資料を取り扱う。なお、平成10年度以前の資料については、『松山市文化財調査年報Ⅰ（昭和60～61年度）』、『同年報Ⅱ（昭和62～63年度）』、『同年報Ⅲ（平成元年～２年度）』、『同年報Ⅳ（平成２年～３年度）』、『同年報Ⅴ（平成４年度）』、『同年報Ⅵ（平成５年度）』、『同年報Ⅶ（平成６年度）』、『同年報Ⅷ（平成７年度）』、『同年報Ⅸ（平成８年度）』、『同年報Ⅹ（平成９年度）』、『同年報11（平成10年度）』を参照されたい。

3．資料作成（一覧表及び付録図）は、栗田正芳、山邊進也、清家忍、山口由浩が行った。

4．表中の番号は、埋蔵文化財確認願いの申請番号に順するものである。また、本格調査については、平成11年度に行った調査を取り扱う。

5．付録図は、国土地理院発行の２万５千分の１地形図（三津浜・松山北部・郡中・松山南部）を使用した。

6．一覧の略記について

①面積：調査対象面積、小数点以下四捨五入。②標高：地表面、（　）は調査地内平均値。

③調査目的：公＝施主公共団体、私：施主一般。④調査方法：空白は未調査等。

表１　平成11年度　松山市埋蔵文化財確認調査一覧　　No.1

No.	所　在　地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含･遺構	遺　物	備　考
1	北久米町883	1		私	既済			本格調査済 北久米浄蓮寺遺跡4次調査
2	山越2丁目8－4	84	17.30	私	試掘			
3	山越2丁目50－7	85	17.18	私	試掘			
4	平井町乙648－1	598		私	踏査			
5	今在家町273－1、274－1	1,443	30.10	私	試掘			
6	星岡町666－1、667－2	230	30.50	私	試掘			
7	道後北代23－1･2	352	33.90	私	試掘			
8	平井町甲506－1	366	75.92	私	試掘			
9	畑寺2丁目457－1	578		私	既済			本格調査済 畑寺遺跡(畑寺古墳)
10	祝谷5丁目806	974	(57.89)	私	試掘			
11	南久米町453－1	957	(34.60)	私	試掘			
12	平井町甲1583	629	72.44	私	試掘			
13	高砂町2丁目2－10	427		私	既済			H10－212にて試掘済
14	朝生田町2丁目350－2外4筆	941	18.30	私	試掘			
15	吉藤5丁目18－28	216	28.30	私	試掘			
16	鷹子町628－3	161		私	既済			本格調査済 鷹子新畑遺跡2次調査

No. 2

No.	所　在　地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
17	北斎院町83－1・2	564	10.24	私	試掘			
18	平井町甲1977－3	495	65.67	私	試掘			
19	道後町2丁目812－2	222		私	既済			H8－459にて試掘済
20	福音寺町701－9	129	23.15	私	試掘			
21	南江戸5丁目558－2、559	784	13.88	私	試掘			
22	今在家町276－7	200	30.35	私	試掘			
23	鷹子町68－1・3・5	260	46.20	私	試掘			
24	北井門町400－12	138		私	既済			H10－288にて試掘済
25	北井門町400－15	162		私	既済			H10－288にて試掘済
26	北井門町400－18	167		私	既済			H10－288にて試掘済
27	南江戸4丁目951－5	212		私	既済			H10－362にて試掘済
28	太山寺町甲546	216	3.13	私	試掘			
29	北斎院町1042－44	180	7.73	私	試掘			
30	朝生田町2丁目251－1・7	1,192	19.20	私	試掘			
31	祝谷2丁目143－2・6	227	37.71	私	試掘			
32	平井町2165－17	265	60.69	私	試掘			
33	久万ノ台1038－10	163		私	既済			H8－466にて試掘済
34	桑原6丁目727－1	717	34.40	私	試掘			
35	南久米町568－27	159	33.20	私	試掘			
36	西石井町26－1・4	824		私	既済			H10－369にて試掘済
37	北井門町400－14	162		私	既済			H10－288にて試掘済
38	南江戸6丁目1316－2	129		私	既済			本格調査済 南江戸客谷遺跡
39	朝生田町3丁目407－1、405	429	19.06	私	試掘			
40	南江戸3丁目814－3他	25		私	既済			H10－343にて試掘済
41	東方町甲59－1、61－1	1,712	(84.77)	私	試掘			
42	南高井町1732－1外3筆	676	37.40	私	試掘			
43	久米窪田町895－1・2	999	45.70	私	試掘			
44	南江戸6丁目1313－4	67		私	既済			本格調査済 南江戸客谷遺跡
45	道後緑台1356－8	109	37.20	私	試掘			
46	衣山3丁目403	661	17.69	私	試掘			
47	衣山3丁目636－7	192	29.00	私	試掘			
48	福音寺町518－1	312	25.70	私	試掘			
49	星岡町660－1外2筆	999	(29.65)	私	試掘			
50	福音寺町753－39	158		私	踏査			
51	北久米町741	872	31.10	私	試掘			
52	今在家町420－54	219	30.68	私	試掘			
53	祝谷2丁目251－1	392	39.73	私	試掘			
54	山越2丁目3－5	113	18.05	私	試掘			
55	桑原4丁目402－1・3	408		私	既済			H8－182にて試掘済
56	平井町甲841－5	480	73.46	私	試掘			
57	祝谷5丁目687、688合併1	194	43.90	私	試掘			
58	安城寺町582－11	264	8.76	私	試掘			

No. 3

No.	所　在　地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
59	東本1丁目31－1	267	31.24	私	試掘			
60	祝谷4丁目6－19	508	37.10	私	試掘			
61	北斎院町230－1	175		私	既済			H10－372にて試掘済
62	北井門町278－1の一部	298	23.40	私	試掘			
63	平井町甲850－1	498	71.96	私	試掘			
64	安城寺町620－1・3・5	1,513	(8.09)	私	試掘			
65	道後樋又1254－3	357	31.10	私	試掘			
66	南久米町485－12	119		私	既済			本格調査済 久米才歩行遺跡4次調査
67	北斎院町961－1	249		私	既済			市教育委員会にて処理
68	北久米町907－1外7筆	5,206	32.26	私	試掘	柱穴、土坑	土師器	本格調査要、H11-208で再申請
69	南江戸1丁目535－3	266	14.59	私	試掘			
70	北久米町760－1、761	989	(29.40)	私	試掘	柱穴、溝	須恵、土師	本格調査要、申請取下
71	石風呂町306	192		私	既済			本格調査済 鶴ケ峠遺跡
72	道後北代23－7	165	33.90	私	試掘			
73	道後緑台217－6	152		私	既済			H9－210にて試掘済
74	北斎院町963－1	351	7.95	私	試掘			
75	北斎院町982、983、984	456	7.95	私	試掘			
76	東本1丁目117－6～ 桑原4丁目359－2	11,700		公	試掘	住居址、柱穴	弥生、須恵	本格調査要
77	清水町2丁目15－15	66	24.04	私	試掘			
78	北久米町517－2外2筆	639	32.10	私	試掘			
79	朝生田町2丁目312－4	74		私				
80	朝生田町320－1・2	119	19.00	私	試掘			
81	道後北代162－3	296	34.25	私	試掘			
82	北斎院町221－5	145		私	既済			本格調査済 北斎院地内遺跡4次調査
83	樽味4丁目213－11	116		私	既済			本格調査済 樽味四反地遺跡5次調査
84	福音寺町721－1	91	23.19	私	試掘			
85	東石井町497－1、501－3	235	22.40	私	試掘			
86	鷹子町700－4外5筆	3,394	(45.24)	私	試掘			
87	東本1丁目94－1・4	913	(32.11)	私	試掘			
88	北土居町649地先	1,800	(23.94)	公	試掘			
89	北土居町581地先	1,100	(23.25)	公	試掘			
90	石風呂町甲1079－6	114		私	既済			H2－29にて試掘済
91	南江戸4丁目1258－3	224	12.16	私	試掘			
92	北斎院町1248－2外2筆	492		私	既済			H6－180・181にて試掘済
93	平井町甲1490－7	180	69.29	私	試掘			
94	山越1丁目290－6・18・23	182	18.93	私	試掘			
95	桑原1丁目793－1	552	36.70	私	試掘			
96	北井門町400－13	149		私	既済			H10－288にて試掘済
97	天山町14	352	22.80	私	試掘			
98	樽味4丁目213－7	124		私	既済			本格調査済 樽味四反地遺跡5次調査
99	松末2丁目24－1	250		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
100	南江戸5丁目1398－1・4	466	24.34	私	試掘			

No. 4

No.	所　在　地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
101	東垣生町891－5	231	4.40	私	試掘			
102	祝谷町1丁目464－1	161	53.20	私	試掘			
103	西石井町251地先、311地先	191	(20.30)	公	立会			
104	平井町甲2169－34	329	60.40	私	試掘			
105	南久米町485－9	127		私	既済			本格調査済 久米才歩行遺跡4次調査
106	南土居町290－1・2	685	38.05	私	試掘			
107	南江戸5丁目1550外4筆	432		私	既済			H1－4、H5－100、H8－338、H9－259にて試掘済
108	南江戸1丁目489－1	1,027	14.70	私	試掘			
109	高浜町1丁目1412－4外8筆	3,157	(13.00)	私	試掘			
110	枝松5丁目75－8	199	28.22	私	試掘			
111	山田町797、乙471	187	59.55	私	試掘			H10－314の再申請
112	祝谷5丁目761－2	248	46.34	私	試掘			
113	東野5丁目835－21	179		私	既済			本格調査済 東野お茶屋台遺跡5次調査
114	今在家町53－1	707	32.04	私	試掘			
115	南江戸6丁目1315－1	129	13.90	私	試掘			
116	桑原7丁目449－8	137		私	既済			H6－14にて試掘済
117	南江戸6丁目1314－2	146		私	既済			本格調査済 南江戸客谷遺跡
118	南久米町499－9	171	31.91	私	試掘			
119	山西町879－7・9	149		私	既済			H9－179にて試掘済
120	朝生田町3丁目366－1外2筆	75	18.30	私	試掘			
121	樽味4丁目213－14	110		私	既済			本格調査済 樽味四反地遺跡5次調査
122	来住町851－1	61	39.80	公	立会			
123	鷹子町161－1	480	46.63	私	試掘			
124	東本1丁目89－3・4・5	507	31.40	私	試掘			
125	古三津3丁目878－32	132		私	既済			H8－120にて試掘済
126	古三津3丁目928－20	134	10.11	私	試掘			
127	山田町1380－2	369	84.23	私	試掘			
128	祝谷2丁目250－1	308	39.10	私	試掘			
129	衣山4丁目137	412	(55.50)	私	試掘			
130	久米窪田町1131－5	139		私	既済			H10－76にて試掘済
131	北井門町251－4、250－4	144	24.40	私	試掘			
132	北井門町251－5	141	24.40	私	試掘			
133	北井門町251－6	655	24.40	私	試掘			
134	木屋町2丁目1－34	75	21.92	私	試掘			
135	久米窪田町876－3	161	45.25	私	試掘			
136	南久米町766－6	131		私	既済			本格調査済 久米高畑遺跡31次調査
137	桑原4丁目643－1	422	39.37	私	試掘			
138	南江戸5丁目776－1	1,544	13.00	私	試掘			
139	中村2丁目44－1	511		私	既済			H9－82にて試掘済
140	桑原1丁目1002－1・5・6	1,029		私	既済			H10－286にて試掘済
141	西石井町45－3	550	21.90	私	試掘			
142	南江戸1丁目489－3	871	15.02	私	試掘			

No. 5

No.	所　在　地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
143	水泥町1169、1170	238	61.70	私	試掘			
144	古三津3丁目878－35	150		私	既済			H8－120にて試掘済
145	枝松3丁目302－2	168	33.55	私	試掘			
146	衣山5丁目1610－1	317	34.40	私	試掘			
147	東野4丁目甲556－3	195		私	既済			H7－344にて試掘済
148	桑原6丁目715－1	222	34.30	私	試掘			
149	山越2丁目甲23－2	104	17.14	私	試掘			
150	道後緑台11－23	459	34.47	私	試掘			
151	北斎院町221－8	171		私	既済			本格調査済 北斎院地内遺跡4次調査
152	朝美1丁目1296、1297	440	17.30	私	試掘			
153	南久米町757－2・3	656		私	既済			本格調査済 久米高畑遺跡41次調査
154	別府町301－1、291－4	617	6.20	私	試掘			
155	桑原6丁目715－3	258	34.47	私	試掘			
156	星岡町685－4	224	27.72	私	試掘			
157	吉藤5丁目220	301	22.20	私	試掘			
158	常光寺町乙50－2	1,501	(98.37)	私	試掘			
159	常光寺町乙74－2・3	1,304	(123.21)	私	試掘			
160	桑原4丁目10－1外8筆	340	(32.00)	公	立会			
161	東本1丁目118－3	264	34.75	私	試掘			
162	福音寺町697－1・5	479		私	既済			H7－112にて試掘済
163	平井町甲953－1	731	84.88	私	試掘			
164	今在家町214－1	540	(31.00)	私	試掘			
165	今在家町214－3	125	31.00	私	試掘			
166	桑原1丁目 桑原6丁目	149	(34.57)	公	立会			
167	南江戸5丁目1559－1	482		私	既済			H8－25にて試掘済
168	北久米町467－1	350	33.51	私	試掘			
169	今在家町429－1	912	30.80	私	試掘			
170	水泥町995－3	162	66.66	私	試掘			
171	山越1丁目306－11	80	18.05	私	試掘			
172	来住町 南久米町	450		公	立会			市教育委員会にて立会
173	清水町2丁目20－23	140	23.56	私	試掘			
174	小坂5丁目300－5	211	24.20	私	試掘			
175	新浜町1147－4外3筆	1,900	2.80	公	立会			
176	山越2丁目47－7	167	17.65	私	試掘			
177	古三津3丁目878－37	133		私	既済			H8－120にて試掘済
178	福音寺町697－8	154		私	既済			H7－112にて試掘済
179	樽味4丁目200－5・6	527	40.40	私	試掘			
180	東大栗町	1,600		公				市教育委員会にて処理
181	朝日ヶ丘1丁目1633－2	147		公				
182	東本1丁目95－1	181	32.40	私	試掘			
183	水泥町988	629	68.10	私	試掘			
184	松末2丁目	327	35.60	公	立会			

No. 6

No.	所　在　地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
185	山越2丁目52－3	106		私	既済			H8－216にて試掘済
186	北斎院町83－8	253		私	既済			H11－17にて試掘済
187	来住町243－2	1,246		私	既済			本格調査済 来住町遺跡8次調査
188	平井町甲2390－5	116		私	既済			本格調査済 下苅屋遺跡
189	北久米町754－1地先外	116	(31.08)	公	試掘			
190	越智町296－3	291	23.95	私	試掘			
191	北久米町930－2地先外	112	(31.40)	公	立会			
192	南久米町342－4地先外	132		公				
193	北久米町 南久米町	267	(33.52)	公	立会			
194	北井門町400－11	140		私	既済			H10－288にて試掘済
195	北久米町471－2地先～ 南久米町342－4地先	142		公				
196	南江戸3丁目894	634	13.48	私	試掘			
197	谷町甲254－1・7	453	14.70	私	試掘			
198	天山町79－2、80－3	138	(19.91)	公	立会			
199	枝松5丁目75－8	199		私	既済			H11－110にて試掘済
200	高砂町2丁目1－2・17・18	672		私	既済			H10－420にて立会済
201	桑原6丁目	371	33.20	公	立会			
202	朝生田町2丁目280、281	858	(18.95)	私	試掘			
203	清水町2丁目14－14	99	24.60	私	試掘			
204	鷹子町125－1	189	45.42	私	試掘			
205	南久米町775－4・7	254	37.10	私	試掘	柱穴、土坑	弥生	本格調査要
206	小坂5丁目366－12	179		私	既済			H10－389にて試掘済
207	平井町甲3157－167	235	48.00	私	試掘			
208	北久米町908－1外8筆	4,425	(32.79)	私	試掘	柱穴、土坑	須恵、土師	本格調査要 H11－68にて再申請
209	平井町甲2381	781	60.74	私	試掘			
210	桑原6丁目750－8	156		私	既済			H9－227にて試掘済
211	平井町甲506－1	348		私	既済			H11－8にて試掘済
212	小坂5丁目366－10	142		私	既済			H10－389にて試掘済
213	朝日ケ丘2丁目1444－16	192	34.80	私	試掘			
214	南江戸6丁目1315－1	134		私	既済			H11－115にて試掘済
215	祝谷2丁目193－1	287	36.81	私	試掘			
216	溝辺町乙297	513	(108.46)	私	試掘			
217	南久米町乙24－131	142		私	既済			H6－129にて試掘済
218	福音寺町411－7	127		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
219	福音寺町411－8	120		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
220	福音寺町411－9	121		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
221	福音寺町411－10	123		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
222	福音寺町411－12	140		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
223	福音寺町411－19	114		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
224	福音寺町411－21・37	124		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
225	福音寺町411－24	111		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
226	福音寺町411－26	129		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡

No. 7

No.	所　在　地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
227	福音寺町411−27	121		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
228	福音寺町411−32	146		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
229	福音寺町411−33	147		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
230	福音寺町411−34	130		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
231	辻町248−1	335		私				
232	桑原6丁目740−6	74	33.60	私	試掘			
233	来住町918−1	177		私	既済			H10−413にて試掘済
234	南江戸5丁目1401の一部	852	32.60	私	試掘			
235	南久米町758−4地先外	17		公	立会			市教育委員会にて立会
236	道後北代167−7	93	34.11	私	試掘			
237	小坂5丁目366−8	151		私	既済			H10−389にて試掘済
238	西石井町19	670	22.20	公	試掘			
239	平井町甲118	60	78.20	公	試掘			
240	南高井町1608−2	60	36.10	公	試掘			
241	安城寺町94−1	196	8.40	私	試掘			
242	桑原6丁目727−9	141		私	既済			H11−34にて試掘済
243	吉藤1丁目697−1外3筆	1,070	(27.36)	私	試掘			
244	南土居町433−3	331	36.70	私	試掘			
245	福音寺町713−7	133		私	既済			H5−41にて試掘済
246	鷹子町乙1−6・16	191	58.35	私	試掘			
247	北斎院町248	1,047	8.40	私	試掘			
248	北斎院町249	1,114	8.50	私	試掘			
249	桑原2丁目13−14	142	38.92	私	試掘			
250	鷹子町173−6・7	199	48.92	私	試掘			
251	南土居町214−2	414	39.00	私	試掘			
252	小坂5丁目366−5	124		私	既済			H10−389にて試掘済
253	祝谷6丁目1190外2筆の各一部	860	(53.18)	私	試掘			
254	東野5丁目甲863−1外2筆	145	52.54	私	試掘			
255	南江戸3丁目8−30	204	13.28	私	試掘			
256	今在家町52−3、51−2	413	32.60	私	試掘			
257	水泥町333−11	116	49.60	私	試掘			
258	立花6丁目341−46	82	20.70	私	試掘			
259	小坂2丁目472−12	121		私	既済			本格調査済 小坂七ノ坪遺跡2次調査
260	桑原6丁目727−11	132		私	既済			H11−34にて試掘済
261	今在家町68−8・10	241		私	既済			H4−53にて試掘済
262	今在家町273−6	165		私	既済			H11−5にて試掘済
263	今在家町273−7	136		私	既済			H11−5にて試掘済
264	今在家町273−8	135		私	既済			H11−5にて試掘済
265	今在家町273−11	135		私	既済			H11−5にて試掘済
266	北斎院町961−1	136		私	既済			H11−67にて試掘済
267	北斎院町961−3	129		私	既済			H11−67にて試掘済
268	山西町152−12	105		私	既済			H9−310にて試掘済

No. 8

No.	所　在　地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
269	安城寺町591－1	361	8.20	私	試掘			
270	桑原6丁目727－9	141		私	既済			H11－34にて試掘済
271	北梅本町2777	274	108.13	私	試掘			
272	道後緑台185－1	212		私	既済			H11－150にて試掘済
273	中村3丁目24－1	1,161		私	既済			S56－2にて試掘済
274	立花6丁目391－7	96	20.30	私	立会			
275	松末2丁目76－13	167	28.21	私	試掘			
276	道後鷺谷町453－1	129	64.14	私	試掘			
277	枝松5丁目75－6地先	357	28.10	公	立会			
278	古三津4丁目625、626	527	7.00	私	試掘			
279	祝谷5丁目805－2	305	56.50	私	試掘			
280	道後北代1293－1	240	31.90	私	試掘			
281	桑原5丁目679－1の一部	950	37.10	私	試掘			
282	福音寺町694－6	127		私	既済			H8－392にて試掘済
283	福音寺町690－4	134		私	既済			H8－392にて試掘済
284	西長戸町638－1外3筆	2,881	(9.25)	公	試掘	柱穴・溝	須恵・土師	本格調査要
285	北斎院町1042－42	147	8.10	私	試掘			
286	枝松4丁目233－1	215	31.60	私	試掘			
287	平井町甲699	133	79.84	私	試掘			
288	今在家町273－9	135		私	既済			H11－5にて試掘済
289	今在家町273－10	135		私	既済			H11－5にて試掘済
290	小坂4丁目26－1	497	26.10	私	試掘			
291	辻町85	314	15.17	私	試掘			
292	北斎院町261－1	241	9.40	私	試掘			
293	福音寺町694－12	131		私	既済			H8－392にて試掘済
294	平井町甲3157－182	236	48.80	私	試掘			
295	拓川町463－5	100	19.83	私	試掘			
296	樽味4丁目204－9	116		私	既済			本格調査済 樽味四反地遺跡
297	水泥町1174～1169地先	27	62.10	公	立会			
298	平井町甲2390－7	114		私	既済			本格調査済 下苅屋遺跡
299	小坂4丁目414－1	302	26.00	私	試掘			
300	南江戸2丁目	290		公				
301	東石井町381、384	999	21.50	私	試掘			
302	来住町918－2・3	146		私	既済			H10－413にて試掘済
303	北土居町642地先	390	(23.55)	公	試掘			
304	恵原町甲1－6～甲250	5,408	(77.50)	公	試掘			
305	久万ノ台乙303－1・4	326	(12.94)	私	試掘			
306	今在家町67－3・4	312	32.20	私	試掘			
307	桑原1丁目803－2・4	470	36.04	私	試掘	溝	弥生・土坑	本格調査要
308	畑寺2丁目269－1外 桑原4丁目13－3	786	(35.31)	公	立会			
309	平井町甲1363－26	132		私	既済			H4－27にて試掘済
310	樽味4丁目208	165	39.20	私	試掘			

No. 9

No.	所　在　地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
311	桑原6丁目727−10	132		私	既済			H11−34にて試掘済
312	来住町860	251		私				
313	北久米町741−2	495		私	既済			H11−51にて試掘済
314	岩崎町1丁目236−2	333	40.50	私	試掘			
315	小坂5丁目366−3	143		私	既済			H10−389にて試掘済
316	衣山3丁目636−6	100		私				
317	小坂5丁目366−4	114		私	既済			H10−389にて試掘済
318	辻町352−9	196	14.80	私	試掘			
319	山西町907−2	408	3.50	私	試掘			
320	星岡町685−18	203	25.70	私	試掘			
321	南久米町332	531	37.30	私	試掘			
322	東本1丁目110−3・4	609		私				申請取り下げ
323	東石井町314−1	684	21.70	私	試掘			
324	枝松4丁目203−2	144	31.09	私	試掘			
325	鷹子町42−1の一部	221	43.66	私	試掘			
326	久万ノ台820−1・2	125	17.74	私	試堀			
327	朝生田町2丁目229−4の一部	162	20.10	私	試掘			
328	南久米町765−7	13		公				市教育委員にて対応
329	今在家町409−1・6・7	550	31.10	私	試掘			
330	東本2丁目	439	28.35	公	立会			
331	久米窪田町682−31	248	40.90	私	試掘			
332	枝松6丁目1−1外4筆	4.175	(25.00)	私	試掘			
333	辻町250−1・2	1.078	15.00	私	試掘			
334	北久米町766−1	640	(29.70)	私	試掘	柱穴、溝	須恵、土師	本格調査要
335	北梅本町甲3271−6	233	77.80	私	試掘			
336	来住町782	466	36.60	私	試掘			
337	桑原4丁目643−1	177		私	既済			H11−137にて試掘済
338	桑原5丁目682−1	613	33.60	私	試掘			
339	道後緑台237−1、236−3	577	36.29	私	試掘			
340	小坂3丁目237−2	232	27.44	私	試掘			
341	桑原5丁目587−1、588−1	1,351	(36.60)	私	試掘			
342	北久米町467−1	132		私	既済			H11−168にて試掘済
343	福音寺町411−15	124		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
344	福音寺町411−36	110		私	既済			本格調査済 筋違L遺跡
345	南久米町453−31	139		私	既済			H11−11にて試掘済
346	南久米町453−33	111		私	既済			H11−11にて試掘済
347	山越2丁目653−7・9	616	17.80	私	試掘			
348	南江戸2丁目670−10	340		私	既済			H10−170にて試掘済
349	上野町甲808−23	359		私	既済			本格調査済 土壇原遺跡
350	北久米町509−1	522	32.10	私	試掘			
351	東野2丁目5−9	906	50.40	私	試掘			
352	清水町2丁目18−14	92	23.00	私	試掘			

No.10

No.	所　在　地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
353	鷹子町1－11	334	42.08	私	試掘			
354	道後緑台217－1	141	33.60	私	試掘			
355	北久米町467－3・5	279		私	既済			H11－168にて試掘済
356	鷹子町1－2	529	42.02	私	試掘			
357	北久米町487	759	34.90	私	試掘			
358	福音寺町441	413	29.20	私	試掘	住居址、柱穴	土師	本格調査要
359	東野5丁目898－70	753	63.90	私	試掘			
360	東石井町253－1の一部	336	22.13	私	試掘			
361	桑原1丁目793－5	265		私	既済			H11－95にて試掘済
362	道後喜多町4丁目1015－3外3筆の各一部	142	34.50	私	試掘			
363	山西町748－2・4	161	3.30	私	試掘			
364	南久米町485－10	259		私	既済			本格調査済 久米才歩行遺跡4次調査
365	谷町甲273－2	438	18.43	私	試掘			
366	桑原6丁目748－3、749－2	185		私	既済			H10－233にて試掘済
367	祝谷5丁目743－7	151	42.76	私	試掘			
368	福角町乙69－1・3	10,867		私	既済			本格調査済 北谷王神ノ木古墳
369	祝谷2丁目247－2	148	36.90	私	試掘			
370	石風呂町534	176		私	既済			本格調査済 鶴ケ峠遺跡
371	朝美2丁目1217－1の一部外2筆	195	16.50	私	試掘			
372	枝松6丁目48－12	506	27.20	私	試掘			
373	東野5丁目乙221－59・60	232		私	既済			H9－220にて試掘済
374	立花6丁目341－1	106	20.70	私	試掘			
375	来住町619－1	194	37.70	私	試掘			
376	恵原町乙152～乙172	7,786	98.30	公	試掘			
377	来住町844	465		私	既済			本格調査済 来住廃寺遺跡22次調査
378	別府町56	288	13.37	私	試掘			
379	南江戸4丁目1104－4	151	12.60	私	試掘			
380	鷹子町139～144－2地先	229		公				
381	水泥町1111	139	61.77	私	試掘			
382	福音寺町703－1、704	1,330	(23.02)	私	試掘			
383	辻町44－1	1,236		私	既済			H10－441にて試掘済 本格調査要
384	久米窪田町895－10	163		私	既済			H11－43にて試掘済
385	南久米町442－2	232	35.46	私	試掘			
386	船ケ谷町10－1外2筆	337	6.95	私	試掘			
387	福音寺町694－8	100		私	既済			H8－392にて試掘済
388	桑原6丁目518の一部外2筆	519	31.50	私	試掘			
389	南久米町485－13	121		私	既済			本格調査済 久米才歩行遺跡4次調査
390	桑原6丁目708－8	173	35.28	私	試掘			
391	別府町225－2の一部	154	8.20	私	試掘			
392	北久米町4－1	117		私	既済			H10－235にて試掘済
393	久米窪田町895－5	163		私	既済			H11－43にて試掘済
394	平井町1332－3	246	73.91	私	試掘			

No.11

No.	所　在　地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
395	北久米町782～789地先	385		公				
396	北久米町514－2地先外	100		公				
397	祝谷6丁目1078－1外2筆	933	(57.14)	私	試掘			
398	平井町甲1582、1583	663		私	既済			H11－12にて試掘済
399	高岡町914－1・2	261	6.40	私	試掘			
400	鷹子町120－3	337	44.26	私	試掘			
401	久米窪田町895－8	135		私	既済			H11－43にて試掘済
402	天山町84－1・2・3外	977	(23.38)	私	試掘			
403	鷹子町722－1・2・3	654	43.84	私	試掘			
404	鷹子町119－1	462	45.29	私	試掘			
405	久米窪田町682－21	231	47.20	私	試掘			
406	高浜町1丁目1412－4外9筆	3,159		私	既済			H11－109にて試掘済
407	久米窪田町895－7	135		私	既済			H11－43にて試掘済
408	祝谷2丁目252－4、258－15	126	41.01	私	試掘			
409	西長戸町665－1	969	(8.62)	私	試掘	柱穴、土坑	弥生	本格調査要
410	山西町296、297	387	(43.91)	私	試掘			
411	別府町301－1	134		私	既済			H11－154にて試掘済
412	北斎院町262－1	814	9.34	私	試掘			
413	北斎院町201－3	165	9.90	私	試掘			
414	下伊台町1436－6・4	170	144.75	私	試掘			
415	道後北代1275－4・5・8	411	31.20	私	試掘			
416	南高井町1732－7	184		私	既済			H11－42にて試掘済
417	東野5丁目甲863－1	148		私	既済			H11－254にて試掘済
418	衣山2丁目588	337	29.30	私	試掘			
419	樽味4丁目208の一部	650	39.10	私	試掘			
420	石風呂町341	161		私	既済			本格調査済 鶴ケ峠遺跡
421	久万ノ台1024－1・4	167	18.14	私	試掘			
422	北久米町596－1外4筆	406	32.30	私	試掘			
423	道後樋又1139－2・11	231	6.28	私	試掘			
424	北斎院町248、249	1,390		私	既済			H11－247・248にて試掘済
425	南江戸2丁目670－3・7	4		私	既済			H10－170にて試掘済
426	束本1丁目101－3外3筆	140	33.96	私	試掘			
427	船ケ谷町9、10－3	327	6.59	私	試掘			
428	清水町1丁目9－13	103	23.86	私	試掘			
429	南江戸4丁目951－1	181		私	既済			H11－362にて試掘済
430	平井町甲2381－3	136		私	既済			H11－209にて試掘済
431	中村3丁目1－45	885	27.50	私	試掘			
432	梅津寺町1361－2	380	13.70	私	試掘			
433	平井町甲2381－1	173		私	既済			H11－209にて試掘済
434	古三津3丁目878－10・42	159		私	既済			H8－120にて試掘済
435	久米窪田町902－2外3筆	976	44.20	私	試掘			
436	別府町413－1・3	687	4.32	私	試掘			

No.12

No.	所　在　地	面積(㎡)	標高(m)	調査目的	調査方法	包含・遺構	遺　物	備　考
437	平井町甲821－4	405	71.23	私	試掘			
438	平井町甲2139－2	333	59.66	私	試掘			
439	平井町甲2381－5	133		私	既済			H11－209にて試掘済
440	南江戸5丁目559－7	112		私	既済			H11－21にて試掘済
441	枝松5丁目73－1・2	1,201	28.32	私	試掘			
442	久万ノ台972外2筆	753	(16.25)	私	試掘			
443	小坂5丁目357－5	135	24.50	私	試掘			
444	衣山2丁目323－2外2筆	563	17.90	私	試掘			
445	久米窪田町912－8	142	43.90	私	試掘			
446	北久米町454－1、455	587	33.50	私	試掘			
447	西石井町190－4	97	21.46	私	試掘			
448	辻町85	139		私	既済			H11－291にて試掘済
449	南江戸5丁目1433－1	154		私				申請取り下げ
450	南江戸2丁目633－8	231	14.70	私	試掘			
451	辻町33－1・2	212		私	既済			H7－102にて試掘済
452	古三津3丁目1010－12	132		私	既済			H6－67にて試掘済
453	東方町甲658－5	496	60.37	私	試掘			
454	来住町782－1	334		私	既済			H11－336にて試掘済
455	姫原1丁目69－1	482	38.64	私	試掘			
456	恵原町乙186～乙197	4,623	(131.49)	公	試掘	焼土、溝	弥生、石斧	本格調査要
457	水泥町333－19	133	49.38	私	試掘			
458	別府町82－3外3筆の各一部	4,000	(23.13)	公	試掘			
459	清水町1丁目9－2	154	23.80	私	試掘			
460	清水町2丁目19－7	182	22.53	私	試掘			

表２　平成11年度　松山市埋蔵文化財本格調査一覧

No.	遺　跡　名	所　在　地	調査目的	時　代	主な遺構、遺物等	対象面積(㎡)	屋外調査期間	No.
310―③	松山市道「平井・食場線」関連遺跡五楽遺跡3次調査地（1区）	平井町乙192外	緊急	弥生・古代	流路・柱穴・弥生・須恵・土師	6,567	H11.8.17～H12.3.31	310―③
335―②	北梅本悪社谷遺跡2次調査地	北梅本町乙697-1外	緊急	古代～近現代	溝・土坑・流路・須恵・土師・陶磁器・石鏃	6,265	H11.4.8～H11.9.22	335―②
335―③	北梅本北池遺跡	北梅本町甲1732外	緊急	弥生～近現代	土坑・溝・流路・石列・弥生・土師・須恵・石鏃・石庖丁	9,561	H11.10.7～H12.3.31	335―③
351	東野中畦遺跡	東野3丁目乙201-10	緊急	古墳・古代	横穴式石室・周溝・土坑・土師・須恵	7,347.8	H11.4.8～H11.9.30	351
352	五楽遺跡2次調査地	平井町甲844外5筆	〃	弥生～古代	竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑・溝・弥生・須恵・土師	4,212	H11.4.8～H11.7.30	352
353	久米才歩行遺跡5次調査地	南久米町468-1の一部	〃	古墳・古代・中世	竪穴住居址・掘立柱建物址・柵列・溝・土坑・須恵・陶磁器	790.31	H11.4.8～H11.6.30	353
354	来住町遺跡9次調査地	来住町538-3	国補	古墳・古代	掘立柱建物址・溝・土坑・小鍛冶炉・須恵・土師・鉄製品・石製品	990	H11.4.12～H12.2.29	354
355	久米高畑遺跡42次調査地	来住町861,862,893	学術	古墳・古代	掘立柱建物址・溝・土坑・土師・須恵・瓦	990	H11.4.12～H11.11.17	355
356	小坂七ノ坪遺跡3次調査地	小坂2丁目472-9	国補	弥生～古代	溝・井戸・弥生	413.25	H11.6.10～H11.9.14	356
357	下苅屋遺跡4次調査地	平井町2273	緊急	弥生～中世	竪穴住居址・掘立柱建物址・弥生・須恵・土師・銭貨	7,325.21	H11.7.1～H11.11.16	357
358	東本遺跡5次調査地	東本1丁目120-1	〃	弥生・近世	竪穴住居址・溝・土坑・墓・弥生・鉄器	676.85	H11.7.20～H11.10.18	358
359	久米高畑遺跡43次調査地	来住町1153-2・13	国補	古代・中世	礎石建物跡・土坑墓・溝・弥生・土師・須恵	282.11	H11.8.4～H11.10.18	359
360	久米才歩行遺跡6次調査地	南久米町487-2	〃	古墳・古代	竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑・土師・須恵	286.82	H11.9.20～H12.1.31	360
361	釜ノ口遺跡9次調査地	小坂3丁目437-1,436-1	緊急	弥生・古墳・古代	溝・土坑・弥生・豊後系弥生土器・種子・木製品・須恵	989.87	H11.10.18～H12.1.31	361
362	久米高畑遺跡44次調査地	南久米町716	国補	古代	竪穴住居址・掘立柱建物址・柵列・土坑・溝・弥生・土師・須恵	193.24	H11.10.20～H12.1.31	362
363	筋違N遺跡	福音寺町423-1	緊急	弥生・古墳	竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑・弥生・土師・須恵・管玉・石器	572	H11.11.1～H12.1.14	363
364	筋違O遺跡	福音寺町430-1	国補	弥生～中世	竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑・溝・弥生・石庖丁・土師・須恵	401	H11.11.8～H12.3.10	364
365	桑原遺跡2次調査地	桑原4丁目359-1・2	緊急	弥生～中世	土坑・溝・弥生・土師・須恵・瓦器・陶磁器	230	H11.11.29～H11.12.17	365
366	桑原遺跡3次調査地	桑原1丁目803-2・4	〃	弥生・古墳	溝・土坑・弥生・土師・石鏃	470.07	H12.1.5～H12.3.3	366
367	久米高畑遺跡45次調査地	来住町727-1の一部	学術	縄文～近現代	竪穴住居址・掘立柱建物址・溝・土坑・縄文・弥生・土師・須恵	200	H12.1.17～H12.3.8	367
368	東本遺跡6次調査地	東本1丁目117-6外	緊急			2,000	H12.1.26～調査中	368

平成11年度松山市埋蔵文化財本格調査位置図

Ⅲ　平成11年度
出土遺物整理

平成11年度出土遺物整理の概要

当埋蔵文化財センターでは、近年の発掘調査の出土品はもちろん、過去約20年あまりの調査資料の整理も行っている。以下、資料ごとに整理内容や保管方法を略記する。

1．遺　物

金属製品：青銅器は、科学分析を含めた保存処理事業を外部委託している。今年度は青銅鏡１面と青銅鏃を外部委託した（P.102参照）。

鉄製品の保存処理は特別な資料をのぞき当センターで業務を実施している。ただし、科学分析の必要な資料については年次ごとに数点を外部委託している。なお、本書では、松山大学構内遺跡３次調査地の調査報告書で分析結果が未掲載になった鉄製品２点の分析結果を掲載している（P.103参照）。

木製品：樹種同定を行った上で、当センターにて保存処理を実施している。ただし、大型品等においては外部委託をする場合もある。

土製品：報告書を刊行した後に、報告書掲載品、実測可能なもの、その他に分別し収納している。このうち展示会や類例調査等で使用される傾向の高い資料は収蔵一覧を作成し、特別収蔵庫に保管している。今年度は、漁網錘を対象に整理を行う。その結果は本書に掲載した（P.127参照）。

石製品：土製品と同じ整理方法で実施する。

その他：骨角製品・植物遺体・土壌資料は、保存処理の担当部所が一括管理する。

2．写　真

ネガ：35㎜判・６×７判は、註記や台帳作成作業が終わりしだい、写真整理室の所定の場所に収納する。４×５判は写真担当者が整理する。

プリント：報告書刊行後に、ファイルをテンバコに入れ、収蔵庫に保管する。

3．実測図・日誌・報告書原図

記録類は、図面整理室に保管している。ただし、今年度は収納スペースが少なくなったために、あらたに収蔵庫に収納個所を設け、資料を移動した。（梅木）

保存処理事業Ⅰ

保存処理室では主に木製品の保存処理（ＰＥＧ含浸処理）、鉄製品の保存処理（減圧樹脂含浸）を行っており、必要に応じて現場に出向き、遺物の取り上げ、土層の剥ぎ取り転写の作業も行っている。

１．木製品の処理

当センターでは、木製品の保存処理はＰＥＧ（ポリエチレングリコール）含浸処理を行っている。このＰＥＧ含浸法は、木製品中の水分をＰＥＧに置き換える方法で20％の水溶液に木製品を浸し、漸次、濃度を高めていき最終段階では100％濃度のＰＥＧ溶液をしみこませることになる。この処理は１～1.5年位を要する。

平成11年度は木製品の保管数が少なく保存処理は行っていない。

２．金属製品の処理

前処理（脱水・脱塩安定化処理）を行っていた鉄製品は、順次クリーニング（付着しているゴミ・土壌・サビ等の除去）、減圧樹脂含浸を行っている。また、処理の終了した鉄器は、収納システム（三菱ガス化学・ＲＰシステム）により収納後特別収蔵庫に保管している。以下、処理を行った遺跡名と遺物点数を下表に記す。

表１　平成11年度　金属製品保存処理遺跡名一覧

No.	遺　跡　名	点　数	作　業　工　程	刊行物
62	鶴ヶ峠遺跡	105	樹脂含浸処理中	未報告
115	辻遺跡	1	脱塩済洗浄浸漬中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報Ⅰ）
166	福音小学校構内遺跡	41	脱塩済洗浄浸漬中	未報告分（松山市埋蔵文化財調査年報Ⅰ）
166	〃	5	脱塩浸漬中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報Ⅰ）
198	古照遺跡6次調査	56	処理済・収蔵保管	松山市文化財調査報告書第35集
208	東山古墳群4次調査	2	処理済・収蔵保管	松山市文化財調査報告書第41集
217	来住廃寺15次調査	19	処理済・収蔵保管	松山市文化財調査報告書第34集
241	北久米浄蓮寺3次調査	19	処理済・収蔵保管	松山市文化財調査報告書第42集
244	松山大学構内遺跡3次調査	13	処理済・収蔵保管	松山市文化財調査報告書第49集
246	東山古墳群6次調査	38	樹脂含浸処理済	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報Ⅴ）
266	大峰ヶ台遺跡9次調査	20	処理済・収蔵保管	松山市文化財調査報告書第62集
285	東野お茶屋台遺跡5次調査	8	処理済・収蔵保管	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報Ⅷ）
285	〃	2	脱塩浸漬中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報Ⅷ）
291	樽味高木遺跡4次調査	13	脱塩済洗浄浸漬中	松山市文化財調査報告書第38集
311	久米高畑遺跡32次調査	6	脱塩浸漬中	未報告（松山市埋蔵文化財調査年報Ⅸ）

３．遺構・遺物の取り上げ

平成11年11月18日に小坂釜ノ口遺跡９次調査地の溝ＳＤ２より土器の取り上げを行った。土器は、ほぼ完形のものが２個体出土していた。２個体ともヒビ割れが見られるため土とともに現状の形を維持するように取り上げた。取り上げた土器は、テンバコに納めマサ土を充慎して運搬中に土器が崩れ

ないように保護し、センター整理室①（土器接合・石膏入れ）に搬入した。この土器は接合・復元されて現地説明会・発掘速報展に展示された。

4．土層の剥ぎ取り転写

土層の剥ぎ取りは、転写面にエポキシ系合成樹脂を塗り、樹脂の補強のためガーゼなどで裏打ちを行い樹脂が硬化後、転写面より剥ぎ取る。剥ぎ取った土層はパネル仕上げにして保管する。

平成11年度は調査員からの要望はなく作業は行っていない。

5．人骨・獣骨の処理

処理室へは人骨・獣骨とも大部分のものが、土とともに出土した状態で切り離されて搬入される。処理室では、この余分な土を竹べら・竹串・針先・ピンセットなどを用いて徐々に取り除いて骨の取り出しを行っている。もろい状態のものはアクリル系合成樹脂を塗布し、乾燥、硬化させてから少しずつ土を取り除き、現れた部分にまた樹脂を塗る。この繰り返しを行って取り出した骨は、最後に樹脂溶液に浸し漬けして全体（内部まで）を強化する。

平成11年度は人骨・獣骨とも処理作業は行っていない。

6．平成11年度調査出土金属製遺物、木製遺物、動・植物遺体

以下の表に平成11年度の調査により、金属製遺物、木製遺物、動・植物遺体の出土した遺跡、種類、点数を記す。

表2　平成11年度　調査出土金属製遺物、木製遺物、動・植物遺体一覧

No.	遺　跡　名	種　　類	点数	内　　訳
310③	五楽遺跡　3次調査	木製遺物	10	杭・流木
335③	北梅本北池遺跡	金属製遺物	1	銅製品（銭貨）
		動物遺骸体	1	獣骨（歯）
347	播磨塚天神山古墳	金属製遺物	100以上	鉄製品・銅製品・鉄他金銅張・金銅製品・銀製品
		動物遺骸体	6	人骨（頭部・歯）・魚骨（背骨）
		植物遺体	1	2号石室検出小壺内
351	東野中畦遺跡	金属製遺物	1	耳環
355	久米高畑遺跡　42次調査	金属製遺物	2	鉄製品（滓・その他）
357	下刈屋遺跡　4次調査	金属製遺物	7	銅製品（銭貨）
359	久米高畑遺跡　43次調査	金属製遺物	2	鉄製品（鉄片・その他）
361	釜ノ口遺跡　9次調査	木製遺物	170	鍬・容器・その他
		植物遺体	197	種子（桃核・ヒョウタン類・ウリ類・ドングリ類）
363	筋違N遺跡	金属製遺物	2	鉄製品（鏃・その他）

写真１　松山大学構内遺跡３次調査地出土鋤先（処理前）

写真２　松山大学構内遺跡３次調査地出土鋤先（処理後）

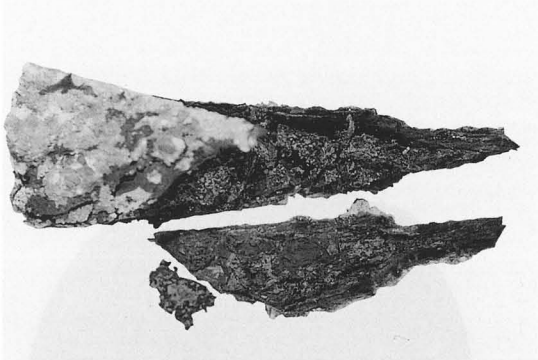


写真３　東山古墳群24号墳出土鏃（処理前）

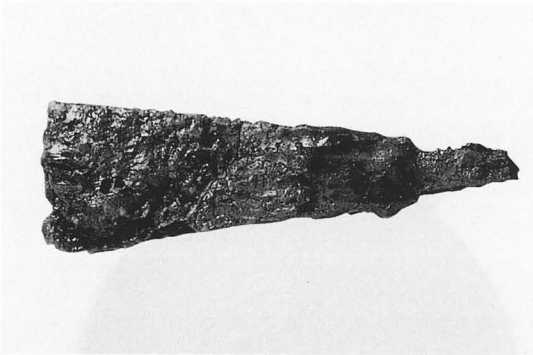


写真４　東山古墳群24号墳出土鏃（処理後）

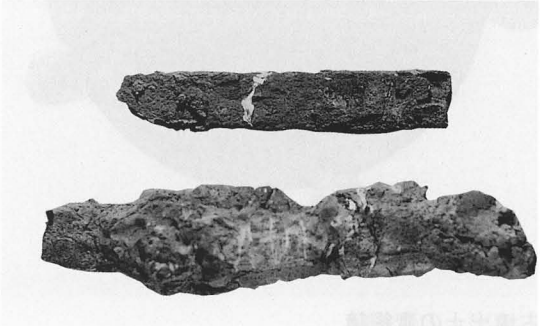


写真５　大池東１号墳１号石室出土刀（処理前）

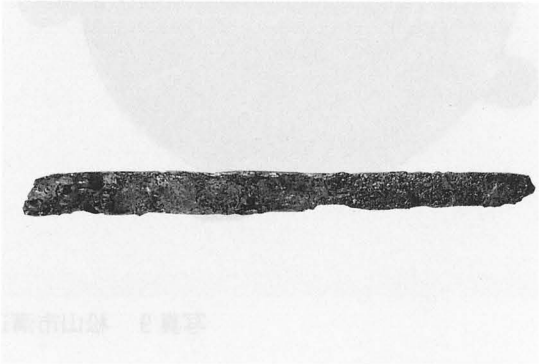


写真６　大池東１号墳１号石室出土刀（処理後）

写真７　古照遺跡６次調査地出土銭貨（処理後）

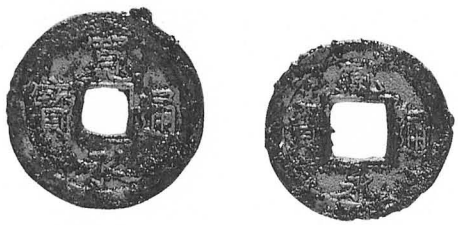


写真８　古照遺跡６次調査地出土銭貨（処理後）

保存処理事業Ⅱ

当センターでは、金属製品のうち、重要遺物については充分な保存処理や科学分析等を行うため専門機関に業務を委託している。本年度は青銅鏡１点を外部委託した。

１．青銅鏡

平成９年４月、松山市在住の柳原壙氏から当家所蔵の青銅鏡２点の寄贈を受けた。青銅鏡は、市内出土（詳細不明）の重圏文鏡１点と松山市溝辺町横谷古墳出土の五鈴鏡１点（欠損品）である。五鈴鏡は、その一部が平成８年に寄贈され、本品と接合することが可能であった。鏡は錆化が進行し、保存処理が急務であり、保存処理を京都造形芸術大学に委託した。

資料：市内出土の五鈴鏡（平成９年度寄贈品）

内容：保存処理と修復・復元

委託：京都造形芸術大学　文化財科学研究センター

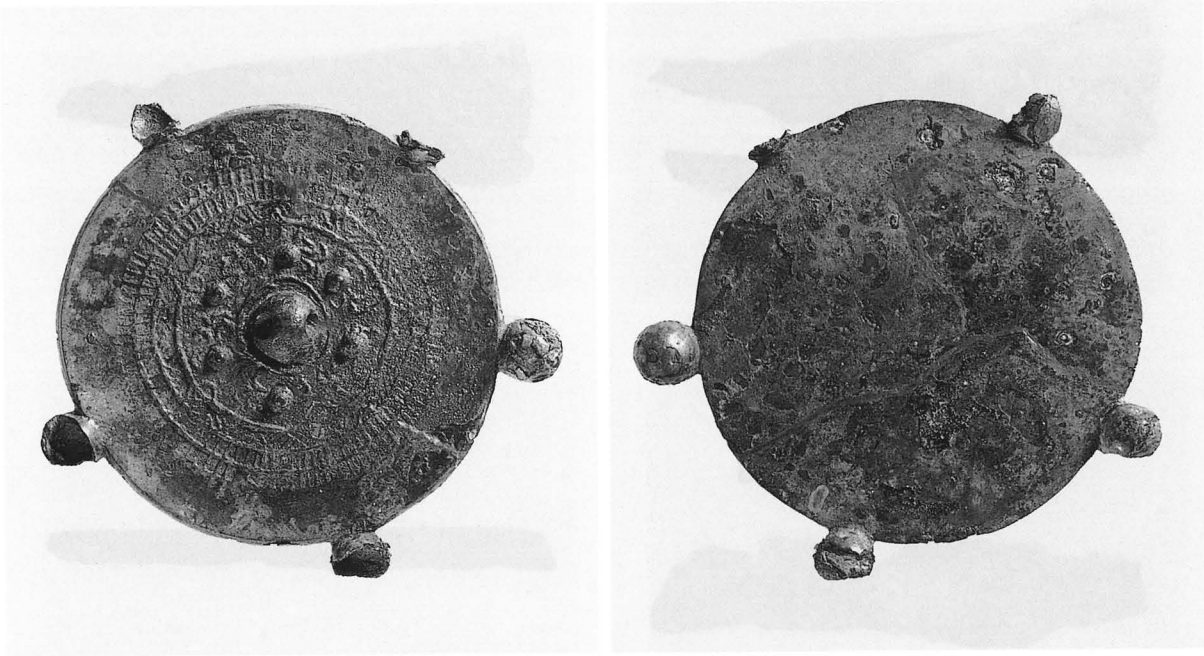


写真９　松山市溝辺横谷古墳出土の青銅鏡

松山大学構内遺跡３次調査出土弥生鉄器の金属学的調査

大澤　正己

概要

弥生時代中期後葉に属する松山大学構内遺跡３次調査地出土の２点の鉄製品を調査して次の点が明らかになった。

〈１〉板状鉄製品：錆化で不明鉄器とされていたが長軸方向の半截断面のマクロ組織からみて、両刃状で中型板状鉄斧（長さ９.２㎝）の可能性をもつ。鍛造品である。鉄素材は鉄中の非金属介在物（鉄鋼中に介在する固形体の非金属性不純物、つまり鉄やマンガン、珪素および燐などの酸化物、硫化物、珪酸塩などを総称したもの）が小さく分散したガラス質スラグ（Anorthite：$CaO \cdot Al_2O_3 \cdot 2SiO_2$系）組成から高温還元間接製鋼法にもとずく硬鋼（０.６％前後Ｃ）製品と推定される。炒鋼製品の可能性がある。

金属組織は、心金部分の残留であって、700～750℃の温度で焼なまし（Annealing：鉄または鋼の軟化、あるいは結晶組織の調整または内部応力の除去のため、適当な温度に加熱したあと、ゆっくり冷却する操作）処理が施されていた。鉄斧の工具としての耐衝撃性を配慮した熱処理品である。

〈２〉板状鉄斧：金属鉄の残留はなく、錆化鉄のゲーサイト（Goethite：α（アルファー）－FeO・OH）からの情報である。こちらも鍛造品で、鉄中の非金属介在物は、粒状酸化鉄のヴスタイト（Wüstite：FeO）の存在から低温還元直接製鋼法にもとずく塊煉鉄が原料鉄と想定された。心金部分は空洞化し、皮金部分の少量のパーライト析出の痕跡から極軟鋼（０.１％Ｃ以下）の充当が推定される。合せ鍛えであれば皮金部分は硬鋼の使用も考えられるが錆化のために不明瞭である。

１．いきさつ

松山大学構内遺跡３次調査地は、愛媛県松山市文京町４番10号に所在する。縄文時代後期から弥生・古墳時代、更には中世にまでわたる複合遺跡である（注１）。このなかの流路ＳＲ１遺構からは、弥生土器の一括性の高い資料と共に、数点の鉄製品が出土している。そのなかの弥生時代中期後葉に属する２点の鉄製品（報告書第287図2208・2209）を通して、当時の鉄事情の実態を把握する目的から金属学的調査を行った。

２．調査方法

２－１．供試材

表１に供試材の履歴と調査項目を示す。

表１　供試材の履歴と調査項目

報告No.	試料	出土位置	推定年代	計測値		調査項目			
				大きさ(㎜)	重量(g)	マクロ組織	顕微鏡組織	ビッカース断面硬度	CMA調査
2208	板状鉄製品	SR下層 E7区	弥生時代 中期後葉	108×39×7	104.3	○	○	○	○
2209	板状鉄斧	SR下層 F7区	弥生時代 中期後葉	52×67×10	68	○	○	－	○

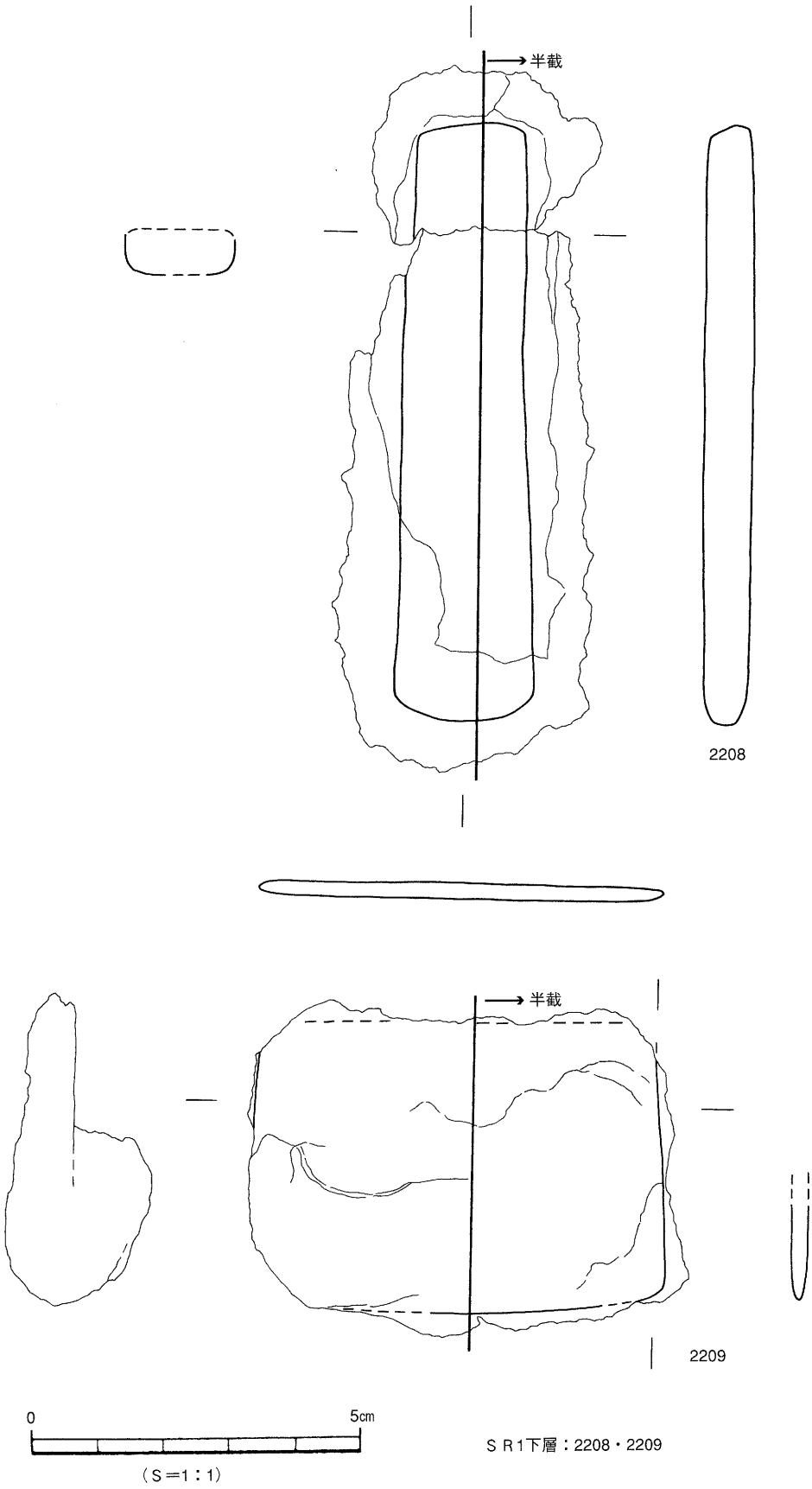


図１　ＳＲ出土鉄器実測図

2－2．調査項目

（1）肉眼観察

遺物の外観観察を行い、それをもとに試料採取位置を決定する。今回は試料の長軸方向を半截して断面形状の再確認とする。

（2）マクロ組織（Macro　Structure）

顕微鏡埋込み試料の断面全体像を35㎜カメラによる等倍写真と投影機の20倍で撮影した。低倍率の観察は、組織の分布状態、形状、大きさなど顕微鏡検査によるよりも広範囲にわたっての情報が得られる利点がある。

（3）顕微鏡組織

半截した試料は、両方共ベークライト樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1,000と順を追って研磨し、最後は被研磨面をダイヤモンド粒子の3μm（ミクロンメーター）と1μm（ミクロンメーター）で仕上げて光学顕微鏡観察を行った。なお、金属鉄のパーライトとフェライト結晶粒は、ナイタル（5％硝酸アルコール溶液）で腐食（Etching）している。

（4）ビッカース断面硬度

金属鉄の組織同定を目的として、ビッカース断面硬度計（Vickers　Hradness　Tester）を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用した。

（5）ＣＭＡ（Computer　Aided　X-ray　Micro　Analyzer）調査

ＥＰＭＡ（Electron　Probe　Micro　Analyzer）にコンピューターを内蔵させた新鋭分析機器である。旧式装置は、別名Ｘ線マイクロアナライザーとも呼ばれる。分析の原理は、真空中で試料面（顕微鏡試料併用）に電子線を照射し、発生する特性Ｘ線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料をＸ線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理して、データ解析を行う方法である。化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域の組織同定が可能である。

3．調査結果

（1）2208：板状鉄製品

①肉眼観察

該品は器種は不明であるが、層状剥離がみられず、鋳造品の可能性もある。表面は小石や土をかみこんだ銹が厚く付着している。Ｘ線写真により断面端部は隅丸方形に近いものと判明した（注２）。

図１に示した供試材の銹膨れ内部の断面を観察すると、手斧の一種と考えられる。刃幅より基部幅が狭く、縦長の梯形に近い形状で、円弧刃となる。計測値は、長さ９.２㎝、刃幅２.０㎝、基部幅１.５㎝、厚み０.７㎝が得られた。

②マクロ組織

写真１に35㎜カメラによる半截断面の両面のマクロ組織を等倍で示す。模式図でみられるように外周を厚く酸化土砂に覆われて、その内側に鉄器本体が銹化鉄で認められる。鉄器は基部側が身腹部より肉薄で、逆の先端側は刃先としての鋭角を保つ。この断面形状から器種を板状鉄斧の可能性を提示した。なお、金属鉄は心金部分に僅かに残留している。

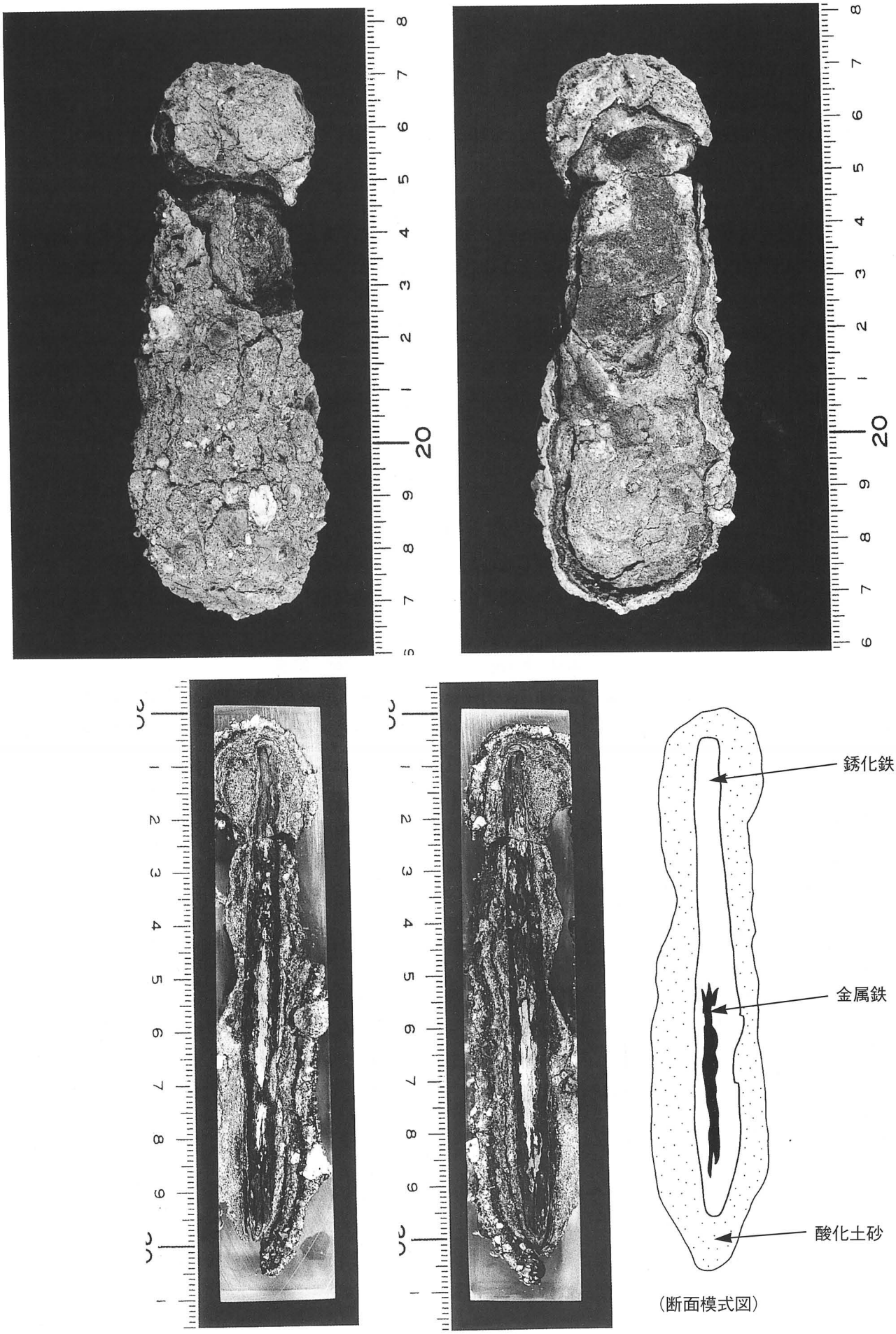


写真１　板状鉄製品（2208）の外観と縦方向半截マクロ組織

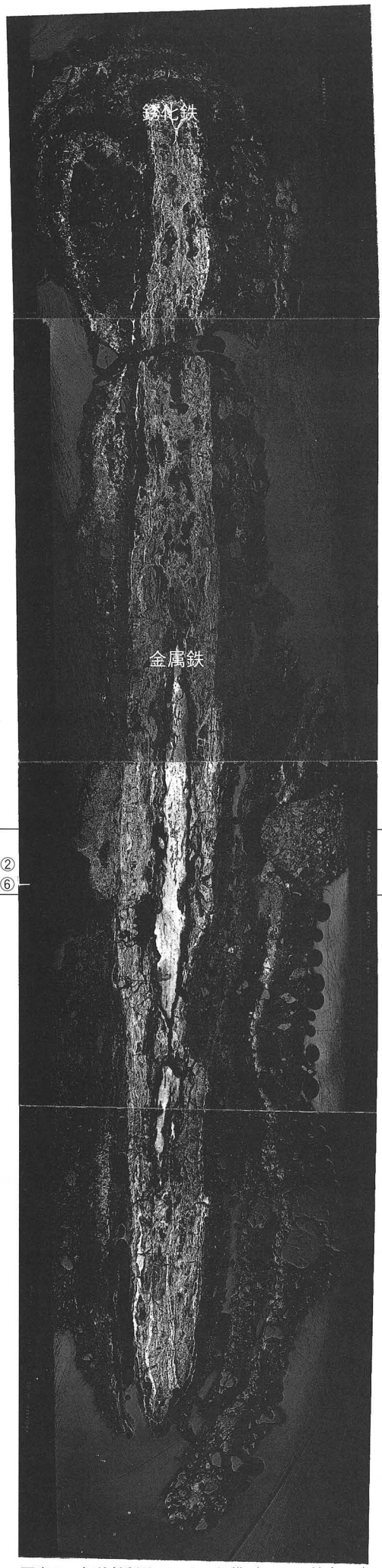


写真２　板状鉄製品のマクロ組織（×20：縮小0.5）

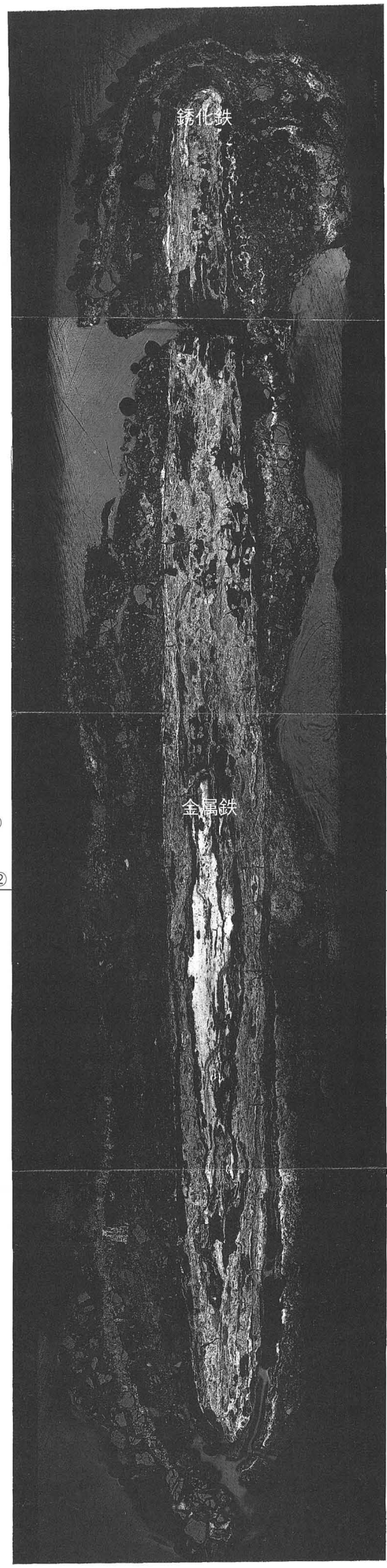


写真３　板状鉄製品のマクロ組織（×20：縮小0.5）

次に写真２と３に投影機の20倍（掲載図はさらに縮小0.5倍）撮影の両断面のマクロ組織を示す。銹化鉄となった断面の全体像を表すもので、中核部に金属鉄が僅かに残り、ここに微かに鍛造品特有の繊維状組織のメタル・フロー（Metalflow）がみられる。しかも、鍛接線に沿って腐食が進行していて、この部分もあと幾許も無くして銹化する姿を留めていた。

③顕微鏡組織

写真３マクロ組織でみられた金属鉄部分を50倍（縮小0.6）に拡大した連続組織を写真４に示す。金属鉄そのものが無数に発生した点蝕と、銹化鉄部分の亀裂と剥落部分に水滴や研磨残査物が詰まり、これらがシミの発生源となって研磨面を汚す。少々表面状態の芳しくないナイタルエッチでの金属鉄は、パーライトとフェライト組織で、炭素量は０.６％前後の硬鋼が想定される。

組織を詳しく述べると、全体に白い地はフェライト（Ferrite：α（アルファー）鉄または純鉄の金相学上の呼称）、黒または層状はパーライト（Pearlite：フェライトとセメンタイト（Fe_3C）が交互に重なり合って構成された層状組織）である。このパーライトの占める面積は炭素含有量の増加にともなって増し、焼きならし状態では０.４％前後で約半分、０.77％で全部パーライトとなる。

この観察方法を根拠にして該品の炭素含有量を推定すると、０.６％前後と判定している。なお、機械的性質はパーライトが多くなるにしたがい、硬さ、引張強さは増加し、逆に伸び、衝撃値などは減少する。

写真５の①②に鉄中の非金属介在物を示す。非金属介在物とは、鉄鋼中に介在する固形体の非金属性不純物、つまり鉄やマンガン、珪素および燐などの酸化物、硫化物、珪酸塩などの総称である。該品の非金属介在物は、小さく分散されたガラス質分（Si＋Al＋Ca＋Mg）を主体とするもので、珪酸塩系である。介在物の組成についてはＣＭＡの項で詳述するが、この種の介在物の存在は重要な意味を含む。

これは、古代中国の新しく開発された鉄鋼の精錬方法の炒鋼法にもとずく産物の可能性を秘めている。中国で紀元前１世紀（西漢の中期）頃に発明された技術である。銑鉄（せんてつ）を製鋼原料として、1150～1200℃の加熱溶融させ、攪拌して空気中の酸素と鉄との接触面を広め、銑鉄（せんてつ）中の炭素を酸化させ、炭素含有量を徐々に低減させ、鉄中の珪素（Si）、マンガン（Mn）が酸化した後に、酸化第１鉄と珪酸塩夾雑物が生成される。炭素の減少により融点が高くなったために、炉内の銑鉄が半溶融状態になる。これを取り出し、鍛打して夾雑物を絞り除くと結晶の細かい鋼あるいは熟鉄（極低炭素鋼）が生まれる（注３）。これが炒鋼製品である。

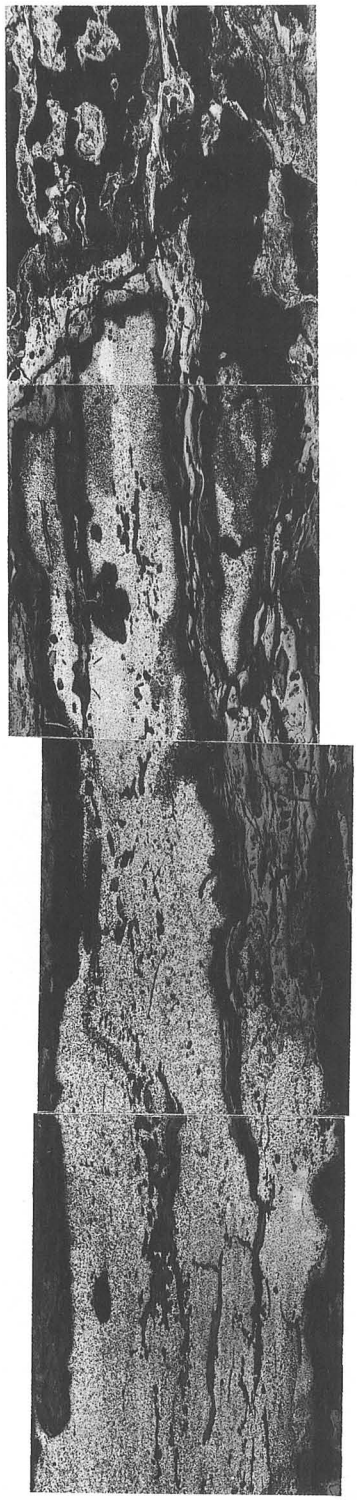
次に写真５の③～⑨に示したナイタルエッチング（５％硝酸アルコール溶液腐食）後の金属鉄組織に触れる。組織に白黒の濃淡があるのは長年月による風化と銹化で点蝕を受け、局部的に小孔が生じ、これからのシミが発生しているが、組織の基本は、フェライト基地に層状組織のパーライトと、このパーライト組織中の一部のセメンタイトが分解して微細な粒状セメンタイトが再分布しており、700～750℃の焼なまし処理が施されたことを表す。

層状パーライトを完全に球状化すると工具鋼として靭性を増し、加工性も良くなり性能も向上するが、該品はやや焼なまし時間が不足したのであろう。粒状セメンタイトは不完全である。また、基部側が水平方向に折れているは、焼なまし脆性に起因しているのかも知れぬ。

写真７～９においても金属組織を撮影しているが写真５に準ずるものなので説明は割愛する。ただ、このなかで写真８の①は腐食なし（no　etch）で鉄素材の繰返し折り曲げ加工で生じた鍛接線とそれ

2208 ①

写真３の拡大



（左下と連続）

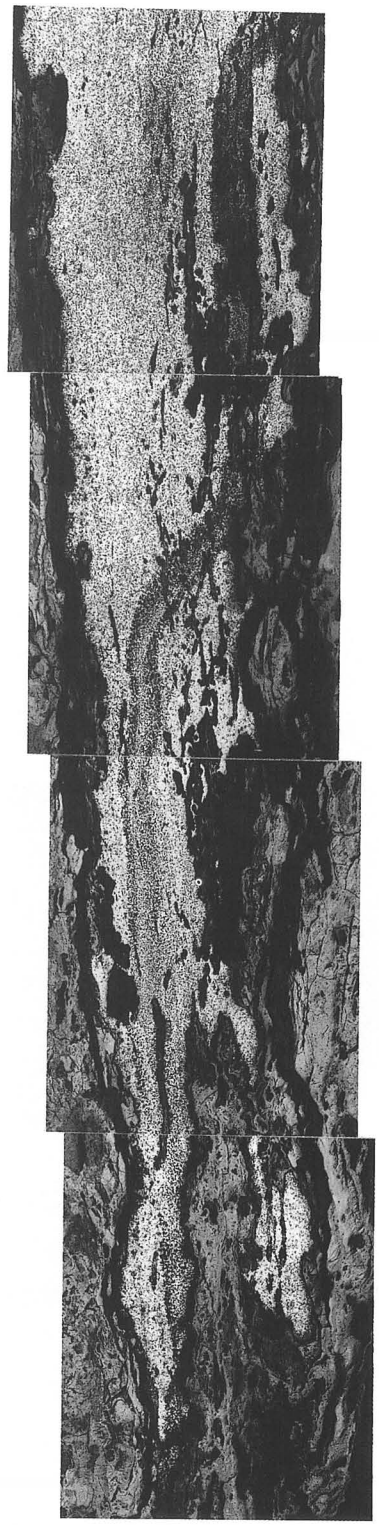


写真４　板状鉄製品（2208）の顕微鏡組織（×50：縮小0.6）

2208　②
板状鉄製品
①×100、②×400
非金属介在物
③×50、④×100、⑤×400
先端部
⑥×100、⑦×400、やや内側
⑧×100、⑨×400、更に内側
パーライトと粒状セメンタイト

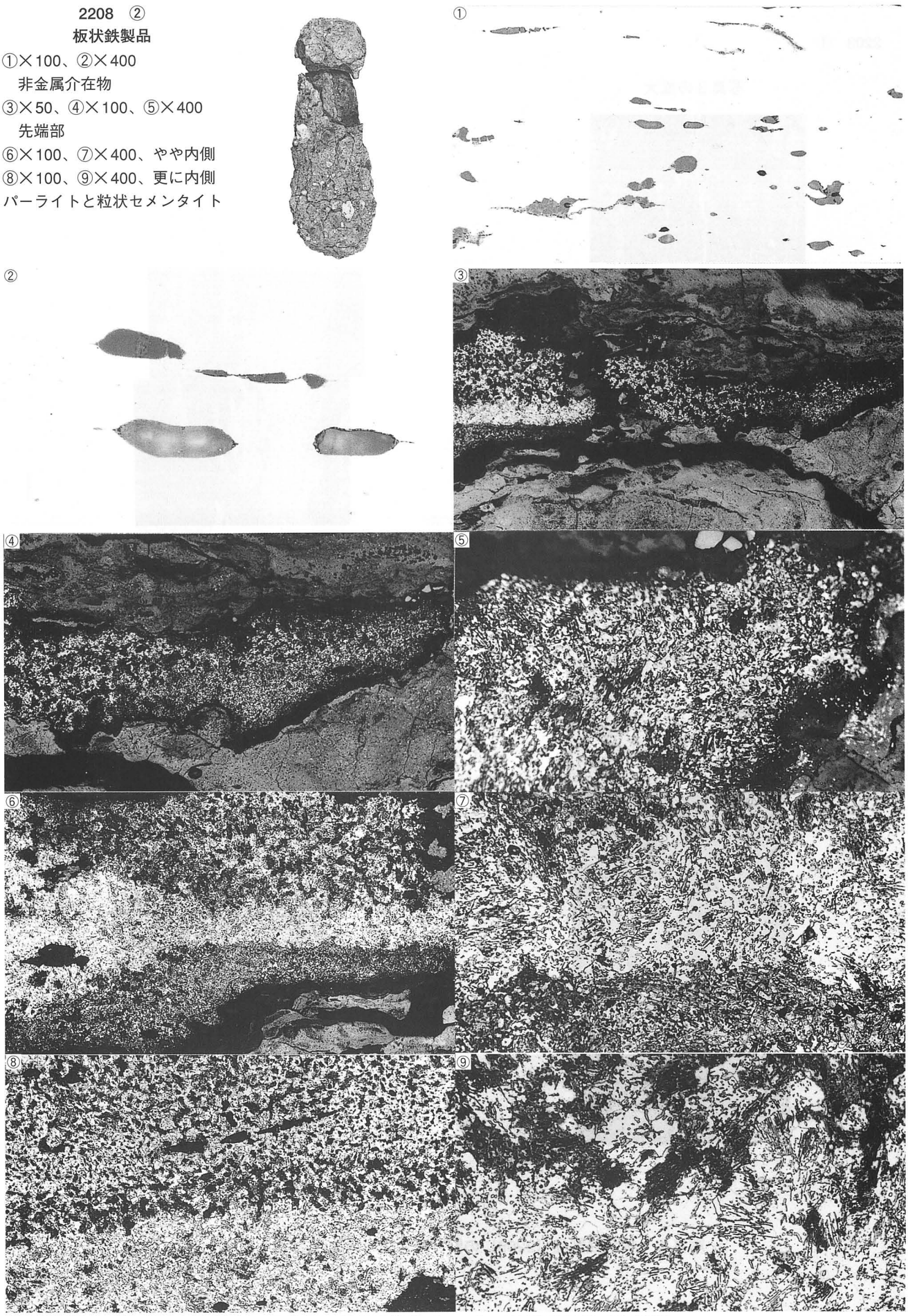


写真５　板状鉄製品（2208）の顕微鏡組織（先端部）

2208　③
板状鉄製品

①×50、②×100、③×400
パーライトと粒状セメンタイト
④～⑨×200、硬度圧痕
④：201Hv、⑤：212Hv
⑥：187Hv、⑦：207Hv
⑧：190Hv、⑨：187Hv

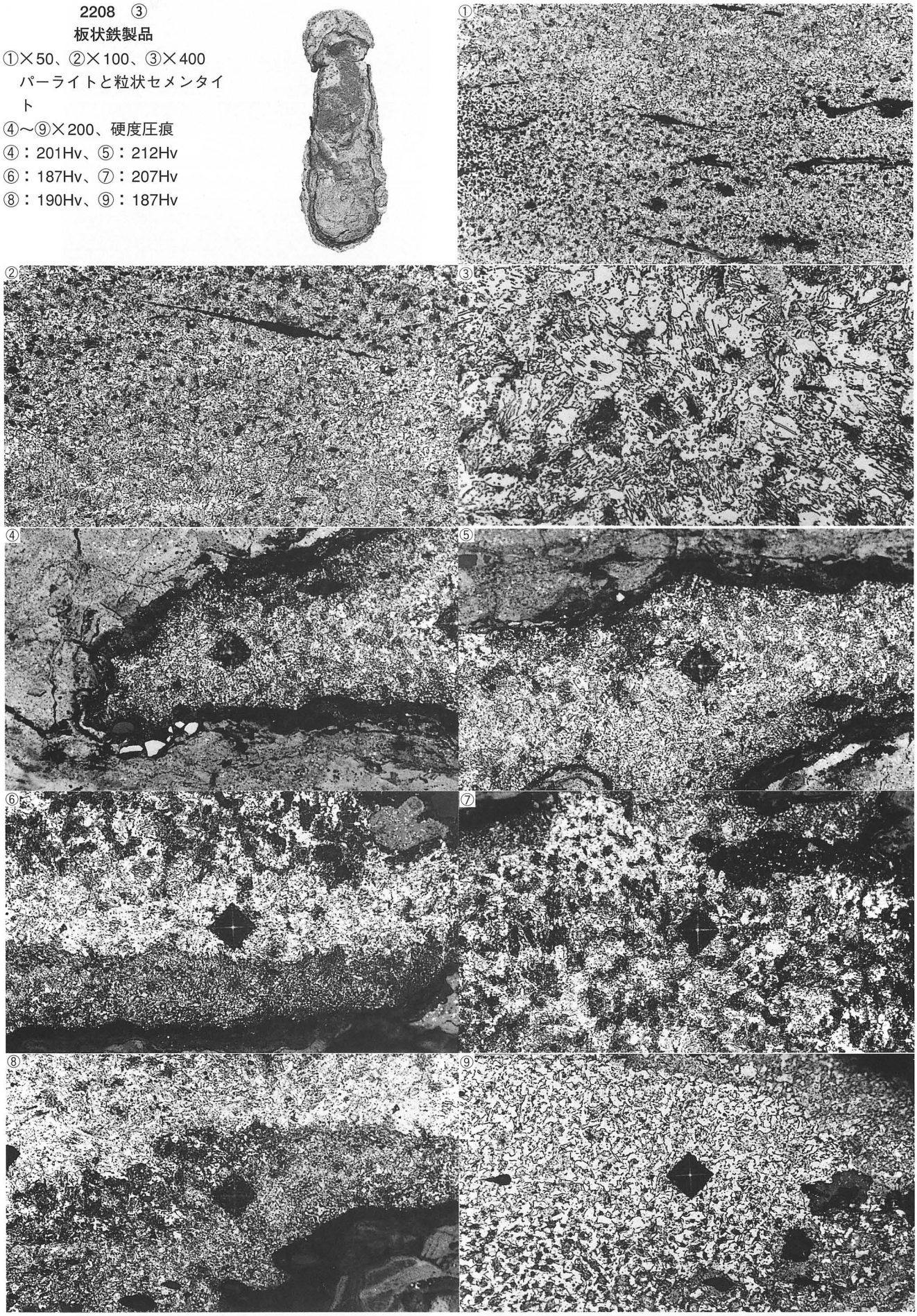
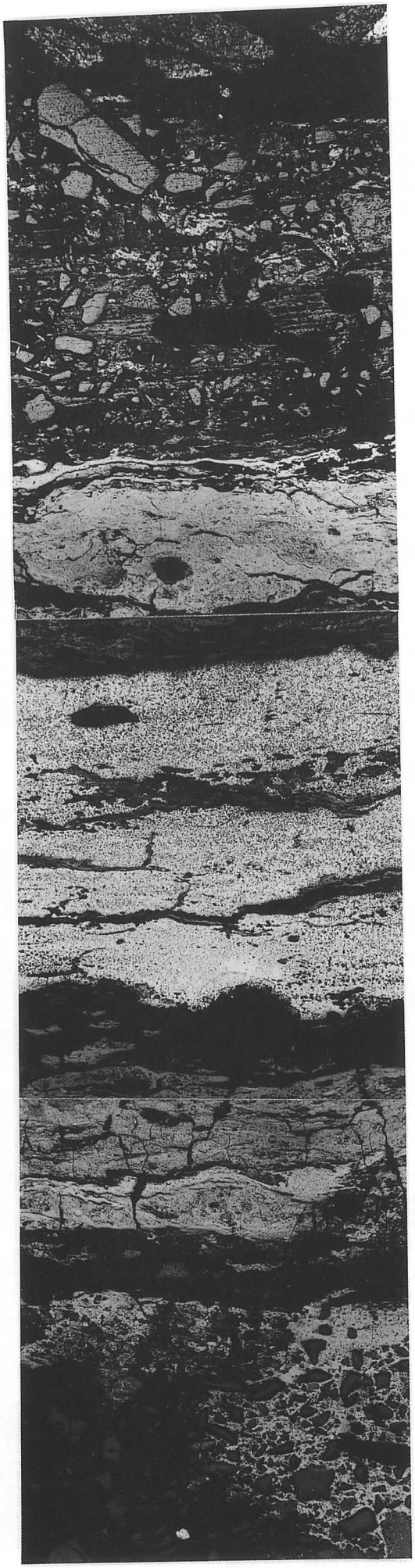


写真６　板状鉄製品（2208）の顕微鏡組織（中央部）

2208 ④

①



②

（左下と連続）

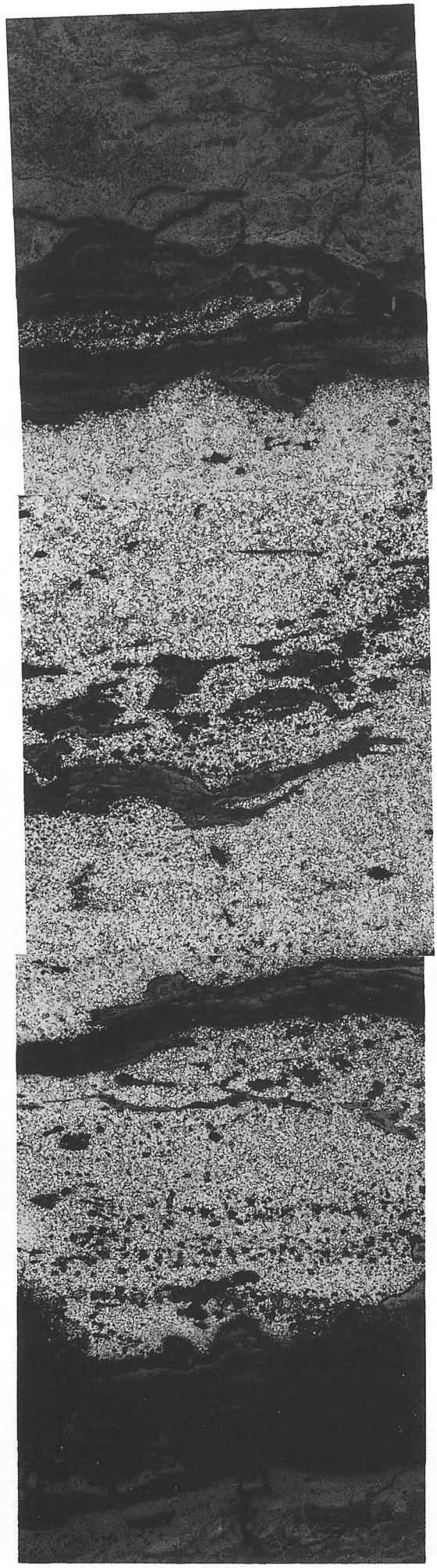


写真７　板状鉄製品（2208）の顕微鏡組織（最もメタル幅広部分）（×50）

2208（薄手）12－11

①

no etch

②

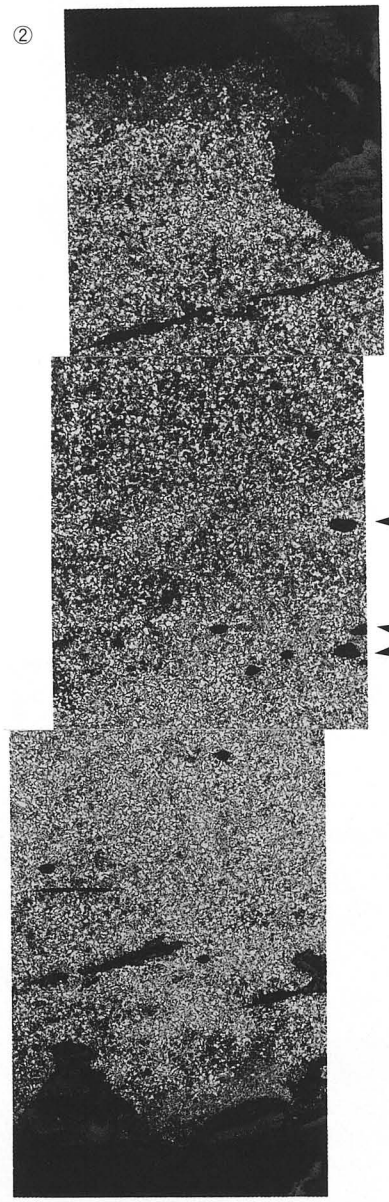


写真９⑥の拡大

写真８　板状鉄製品（2208）の顕微鏡組織（×100：縮小0.6）

2208
板状鉄製品

①×100、②×400
非金属介在物
ガラ質（アノルサイト系）
③～⑤×400、ナイタルetch
⑥×50
⑦×100、⑧×400
パーライトと粒状セメンタイト

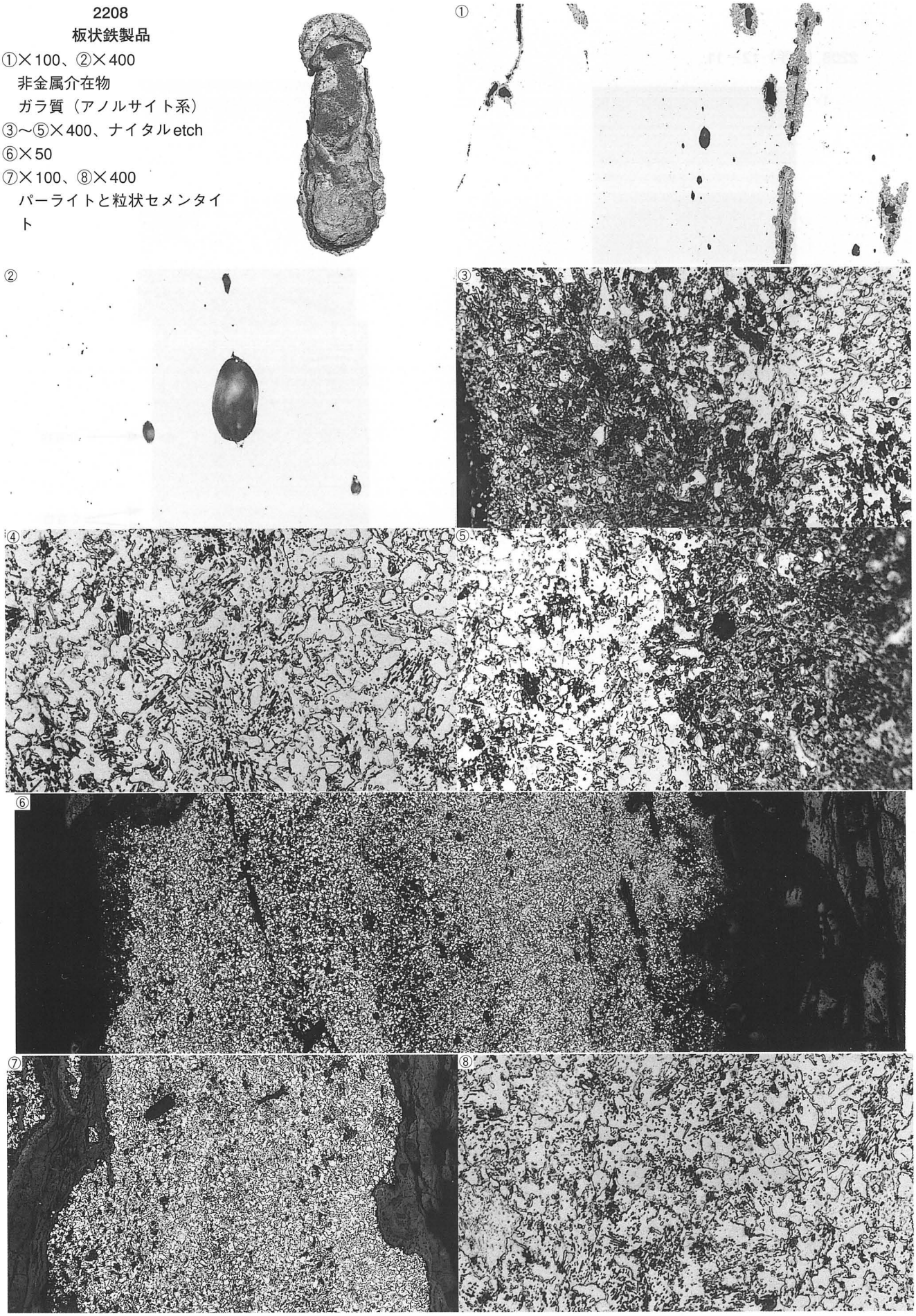


写真９　板状鉄製品（2208）の顕微鏡組織

を起点として銹化が進行しつつある状況を提示しておく。この線状鉄銹の中央には、鍛打作業時に赤熱鉄素材の酸化防止に塗布された粘土汁が溶融ガラス化した２次発生の介在物を抱え込んでいる。これも組成は珪酸塩系となる。

④ビッカース断面硬度

写真６の④～⑨に金属組織の白黒濃淡の異なる個所の硬度測定の圧痕を示す。硬度値は212～187Hvの範囲に収まっている。当初黒色個所が浸炭されて高炭素域かとも考えたが、前述したように微細ピットから生じたシミ汚染であって、熱処理の影響はなかったことが検証された。更に共析鋼（０.77％Ｃ）レベルの鋼であれば、硬度値は250Hv前後となるものなので、炭素含有量の０.６％程度を想定したのは、硬度値の裏付けも加味されている。

⑤ＣＭＡ調査

写真10のＳＥ（２次電子像）にみられる楕円状黒褐色介在物の高速定性分析結果を図２に示す。Ａ－Rankでの検出元素は、鉄（Fe）とガラス質成分（Si＋Al＋Ca＋Mg＋K＋Na）に燐（P）、マンガン（Mn）、チタン（Ti）と、これらが酸化物で存在するので酸素（O）が加わる。

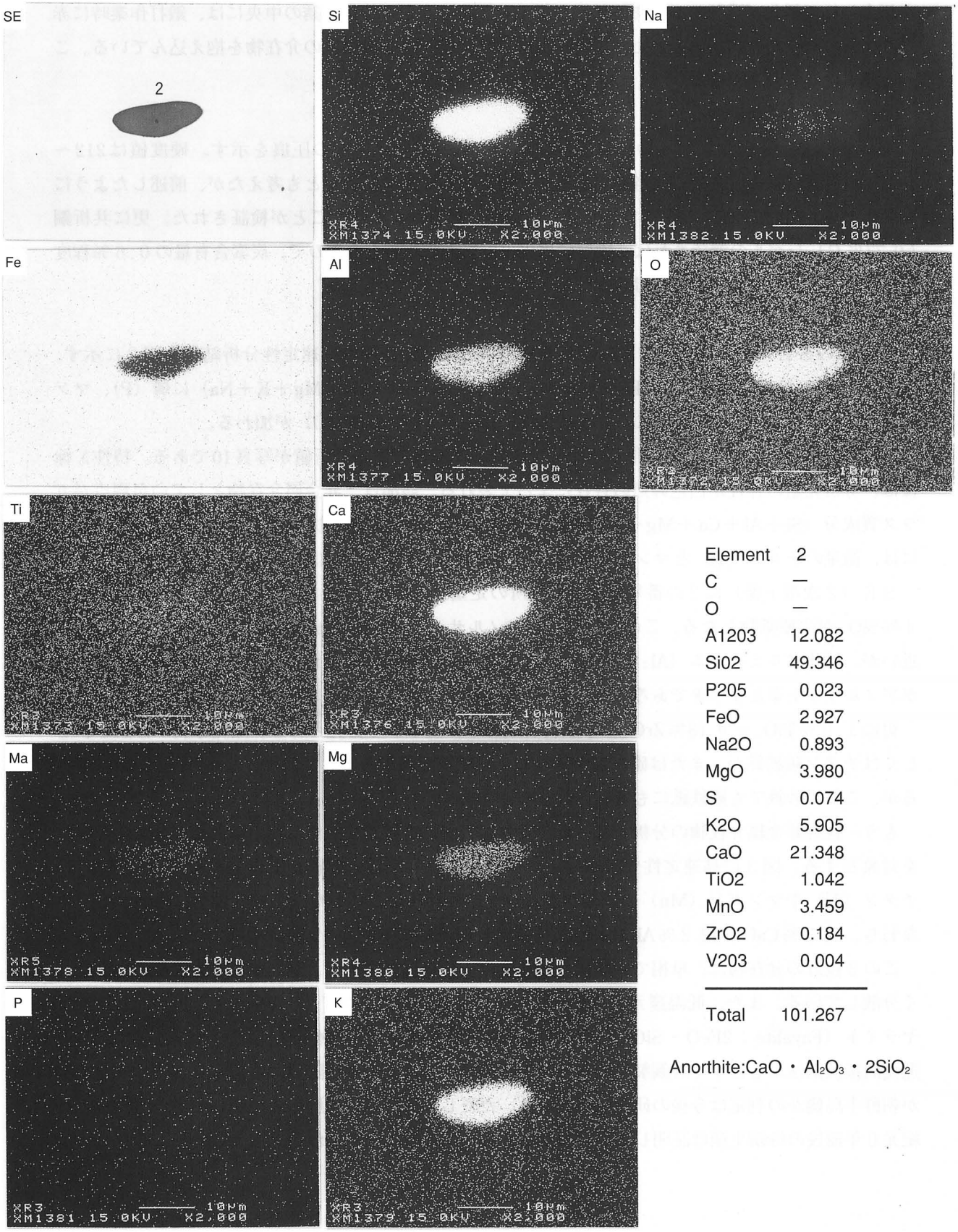
この高速定性分析結果を視覚化した面分析を特性Ｘ線像と定量分析値が写真10である。特性Ｘ線像は、分析元素の存在が白色輝点の存在によって表れる。該品は、非金属介在物として白色輝点がガラス質成分（Si＋Al＋Ca＋Mg＋K＋Na）主体に集中し、鉄は黒く抜けて観察されている。介在物には、微量のチタン（Ti）とマンガン（Mn）が検出されて、燐（P）は基地鉄側にまわる。

ＳＥ（２次電子像）に２の番号をつけた個所の定量分析値は、21.４％CaO－12.１％Al_2O_3－49.４％SiO_2が主要鉱物となる。この鉱物相は、アノルサイト（Anorthite：CaO・Al_2O_3・$2SiO_2$）に近いが、酸化アルミニウム（Al_2O_3）が少々不足する。介在物組成はガラス質主体で珪酸塩ではあるがアノルサイト系とすべきであろうか。４.０％MgO－５.９％K_2O－０.９％Na_2Oが加わる。

更に１.０％TiO_2－０.18％ZrO_2の砂鉄特有成分が微量ながら含有される。始発原料が砂鉄か、もしくはチタン磁鉄鉱か、または磁鉄鉱か気掛かりな微量元素である。なお、３.５％MnOの固溶があるが、これは砂鉄でも磁鉄鉱にも含有される成分である。

もう一視野非金属介在物の分析を行った。より鍛打痕跡を残して展伸し、千切（ちぎ）れたガラス質介在物を対象とする。図３に高速定性分析結果を、特性Ｘ線像と定量分析値を写真11に示す。こちらは、チタン（Ti）やマンガン（Mn）の固溶が少ないが主要鉱物は前述した楕円状介在物に近似する。すなわち、22.２％CaO－12.２％Al_2O_3－53.５％SiO_2組成である。

この２視野の介在物は、単相で、珪素を多く含み、珪酸塩が主体で、かつ変形が大きく、小さく薄く分散している。また、低温還元直接製鋼法の塊煉鉄特有のヴスタイト（Wüstite：FeO）とファイヤライト（Fayalite：2FeO・SiO_2）で構成された大粒の共晶夾雑物を介在していない。故に、高温還元間接製鋼法にもとずく炒鋼製品の可能性が指摘できる。産地は大陸側に求められる。中国東北部か朝鮮半島側かの判定は今後の研究課題となる。ただし、現時点の朝鮮半島側からの出土遺物からは紀元０年前後の炒鋼生産は証明しずらい傾向にあることを申し添えておく（注４）。



Element	2
C	—
O	—
A1203	12.082
Si02	49.346
P205	0.023
FeO	2.927
Na2O	0.893
MgO	3.980
S	0.074
K2O	5.905
CaO	21.348
TiO2	1.042
MnO	3.459
ZrO2	0.184
V203	0.004
Total	101.267

Anorthite:$CaO \cdot Al_2O_3 \cdot 2SiO_2$

写真10　板状鉄製品（2208－1）鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値（×2,000：縮小0.6）

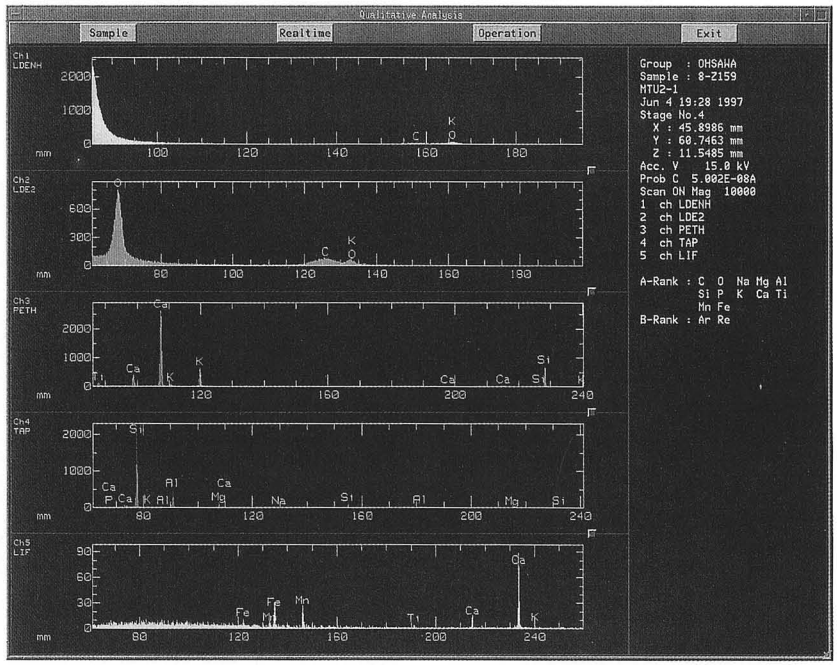


図２　板状鉄製品（2208－1）鉄中非金属介在物のコンピュータープログラムによる高速定性分析結果（写真10と対応）

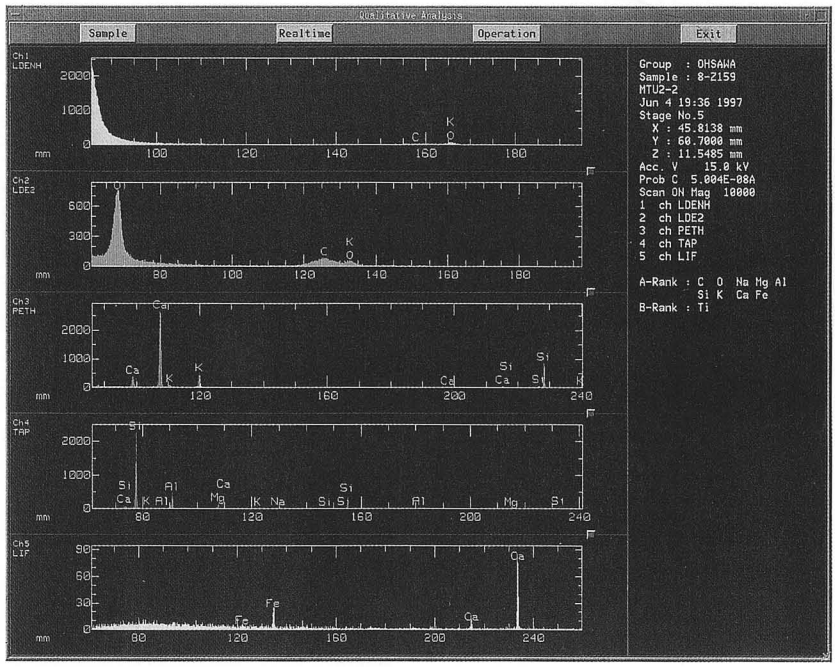
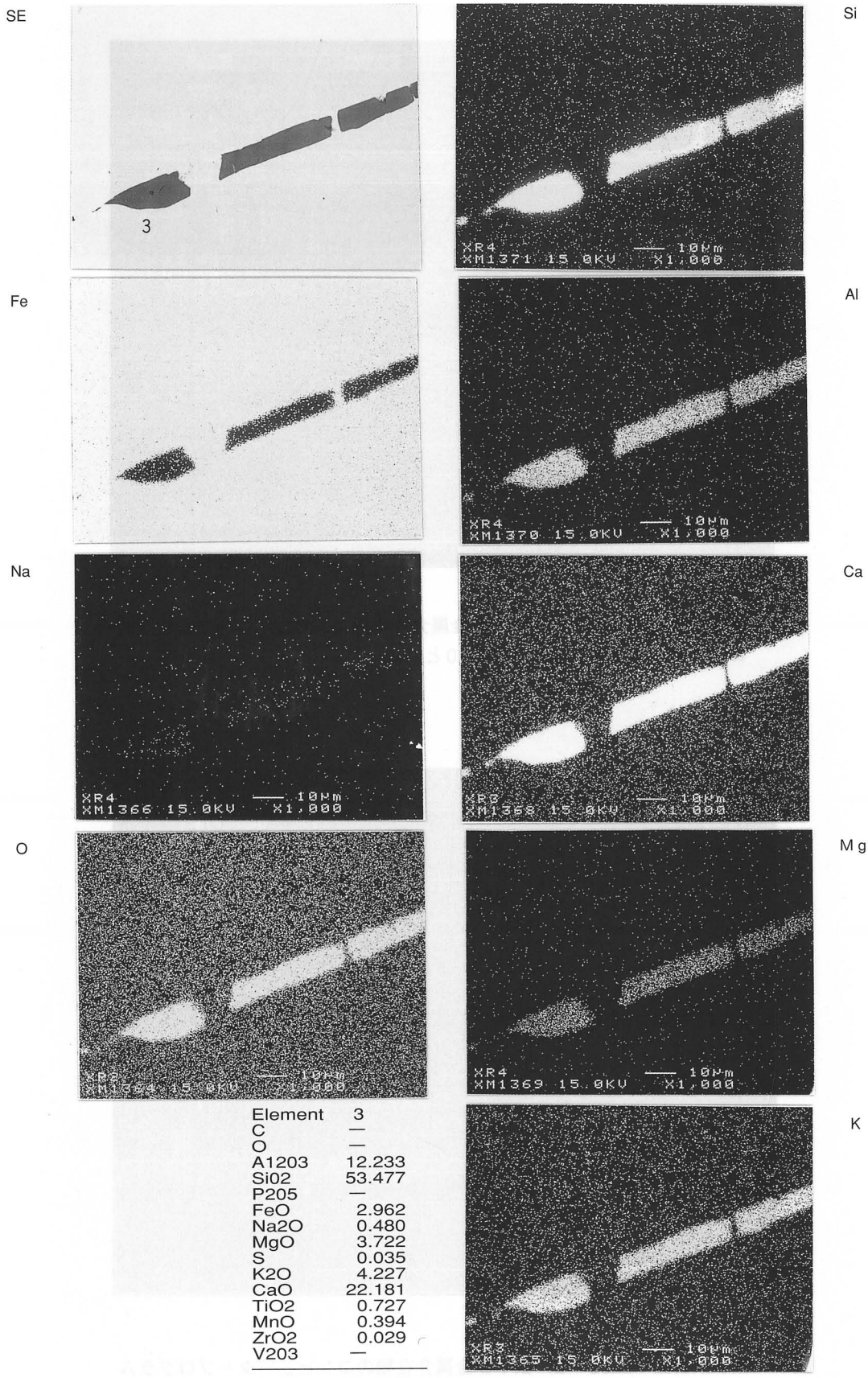


図３　板状鉄製品（2208－2）鉄中非金属介在物のコンピュータープログラムによる高速性分析結果（写真11と対応）



Element	3
C	—
O	—
A1203	12.233
Si02	53.477
P205	—
FeO	2.962
Na2O	0.480
MgO	3.722
S	0.035
K2O	4.227
CaO	22.181
TiO2	0.727
MnO	0.394
ZrO2	0.029
V203	—
Total	100.467

写真11　板状鉄製品（2208－2）鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値（×1,000：縮小0.6）

（２）2209：板状鉄斧

①肉眼観察

銹ぶくれの激しい板状鉄斧で基部側を欠損する。長方形か、長梯形の平面形を呈するか不明瞭な扁平な鉄板である。外観からは不明であったが、これも縦方向に半截した結果、両刃の可能性が窺われた。銹化が著しく金属鉄の残存は全くなかった。なお、試料の搬入時は鋳造品の可能性も危惧されていたが鍛造品であった。現存長さ５.２㎝、幅６.７㎝、厚み０.５㎝を測る。

②マクロ組織

写真12に35㎜カメラでの半截断面と、それから作成した模式図を示す。供試材は酸化土砂に厚く覆われて旧形を不明瞭とする。断面に表れた鉄は銹化され、中核部は空洞化して全体に全く金属鉄を残さぬ状態であった。写真に示した断面中核部は研磨中に汚染物質が詰まったり、水洗時のシミ防止のための樹脂充塡により白くみえている。

写真13は投影機20倍（縮小０.８）による断面撮影のマクロ組織である。前述したように中核部は空洞化し、外周部を形成する銹化鉄も鬆（す）の入った黒錆が僅かに残留する状態である。刃先部分は先端側への尖り具合から両刃の可能性を提示しておきたい。

③顕微鏡組織

写真14の①～⑨に示す。全面に金属鉄の残留はなく、銹化鉄のゲーサイト（Goethite：α－FeO・OH）となり、侵食の激しい部分は①にみられるような鬆（す）状のピットが多発する。②～⑦は鉄中の非金属介在物である。地鉄中に淡灰白色の粒状結晶でヴスタイト（Wüstite：FeO）である。この種の介在物が群れて存在するのは、低温還元直接製鉄法にもとずく産物である。該品は製錬時に鉄は液化されずに鉱石固体から直接に還元されており、本来は、このヴスタイトと、ファイアライト（Fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）の共晶組織も存在したと考えられるが、こちらは銹化剥落している。これらの夾雑物は、曽つては液体状態に置かれて製錬あるいは鍛造温度が共晶温度以上に達していたことが表れている。

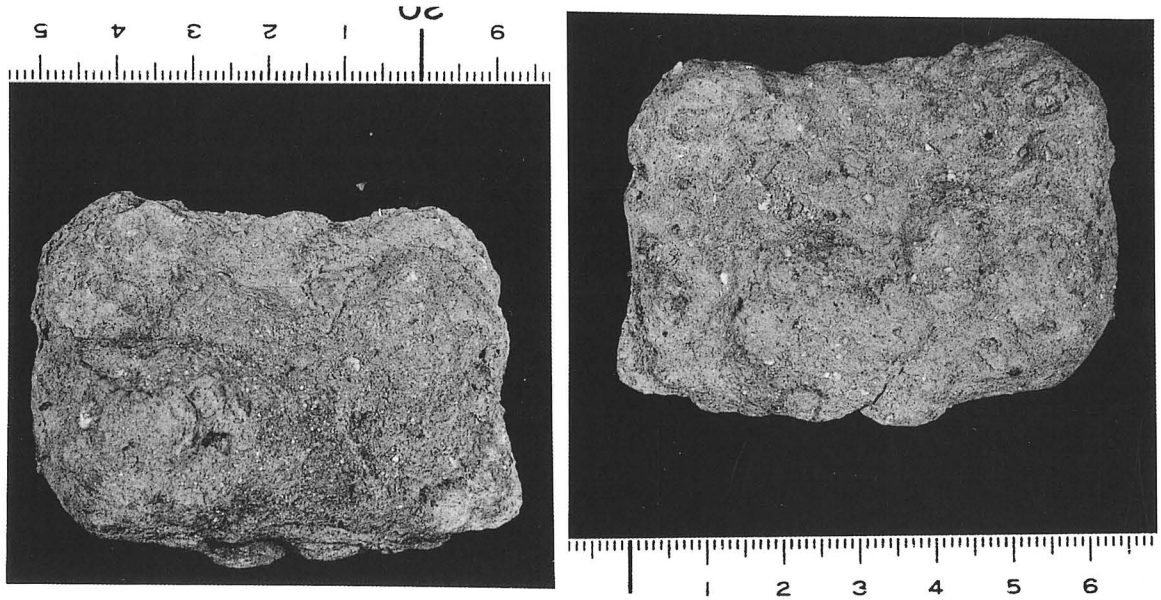
いずれにしろ、このヴスタイトの分布に規則性がない大型品の存在は塊煉鉄である可能性をもつ（注５）。この結果から、板状鉄斧は鍛造品と分類できる。

次に⑧⑨は、銹化鉄のゲーサイトにパーライトの痕跡を留めたところの組織を示す。前述したパーライト析出の面積率から炭素含有量は、０.１％以下の極軟鋼と推定される。これは皮金部分の素材である。利器としての鉄斧は、心金部分は高炭素鋼の硬鋼の充当もありうるであろうが、今回はそこまでの追及はできなかった。

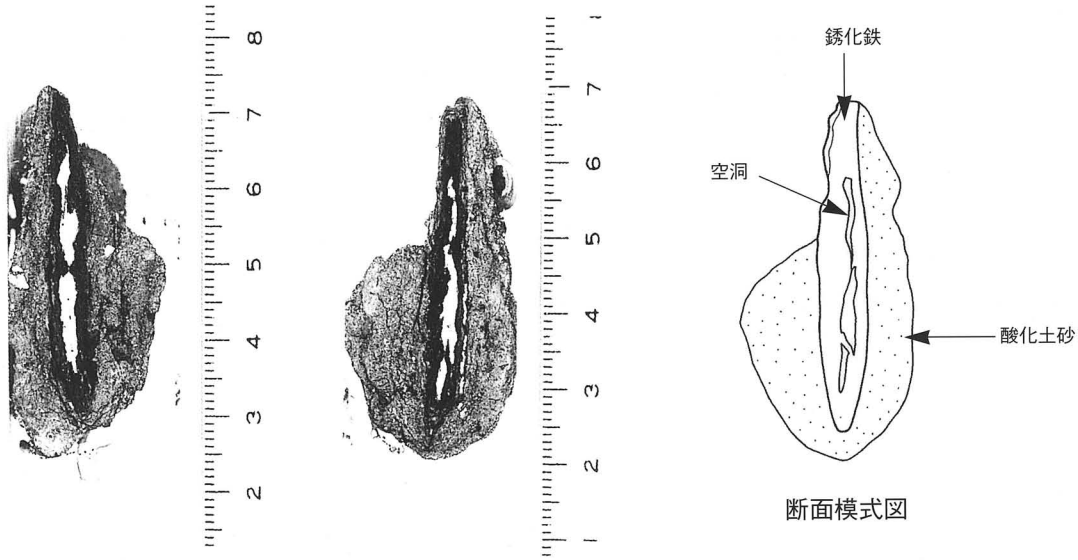
④ＣＭＡ調査

写真15のＳＥ（２次電子像）にみられる銹化鉄地に淡灰白色粒状模様の高速定性分析結果を図４に示す。Ａ－Rankの検出元素は、鉄（Fe）、珪素（Si）、アルミニウム（Al）、酸素（O）である。また、Ｂ－Rankでチタン（Ti）が検出された。

この高速定性分析結果を視覚化した特性Ｘ線像と定量分析値が写真15である。特性Ｘ線像では、基地鉄に珪素（Si）と酸素（O）、炭素（C）などが重なって白色輝点が強く集中する。これは、酸化された地鉄が、土砂に汚染されて珪素（Si）分が侵入し、かつ有機物としての炭素（C）も２次的な付着であろう。また、アルミニウムも酸化物として局部的に検出されるのは土砂汚染の影響と考えられる。



板状鉄斧の外観（実物大）



板状鉄斧の断面写真（断面中央白色部は錆化空洞のため樹脂充塡）

写真12　板状鉄斧（2209）外観写真と断面写真

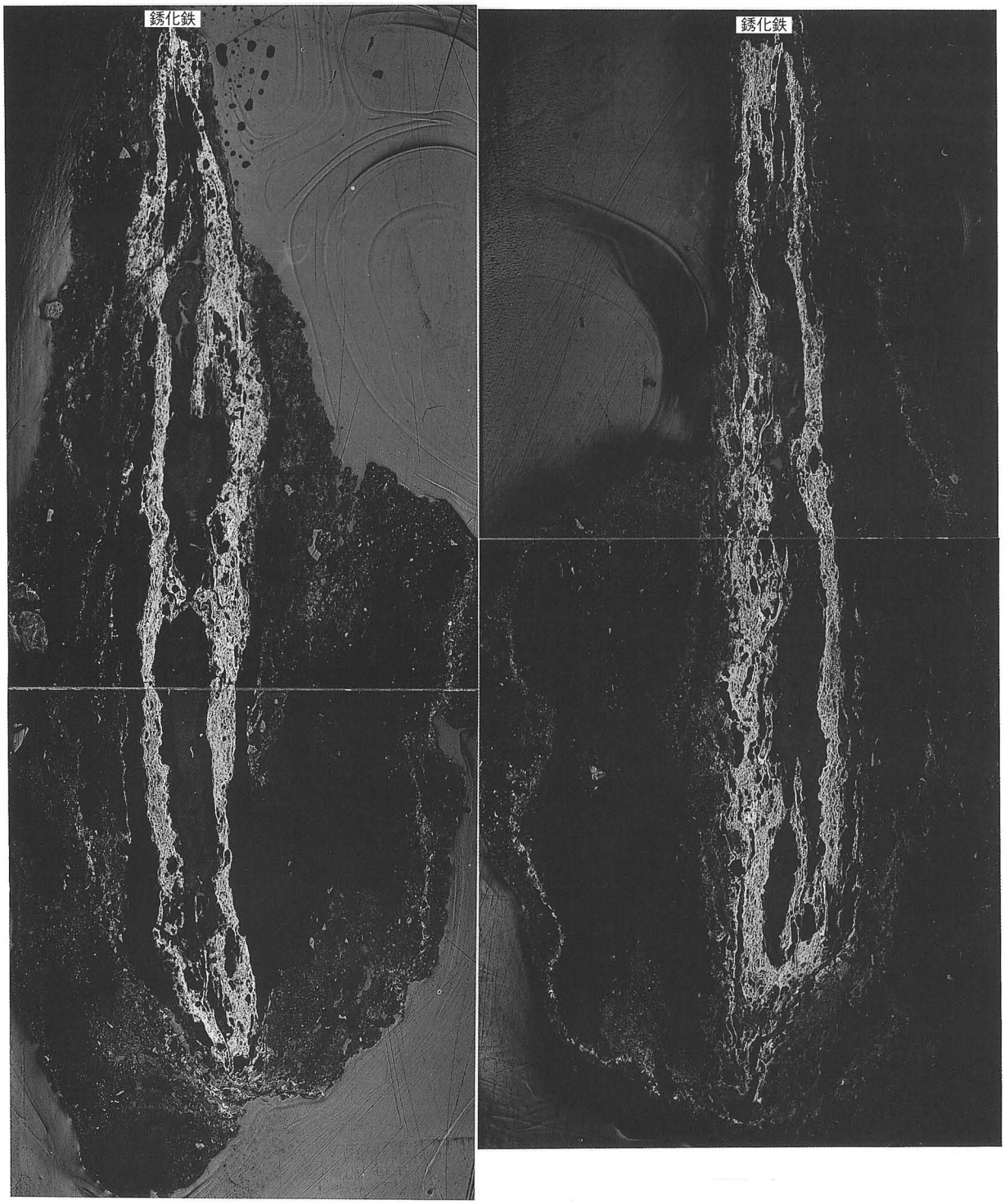


写真13　板状鉄斧（2209）のマクロ組織（×20：縮小0.8）

2209
板状鉄斧

①×20、②×100、③×400
錆化鉄（Goethite）
④⑥×100、⑤⑦×400
錆化鉄での介在物痕跡
⑧×100、⑨×400
パーライト痕跡＜0.1％C
鍛造鉄

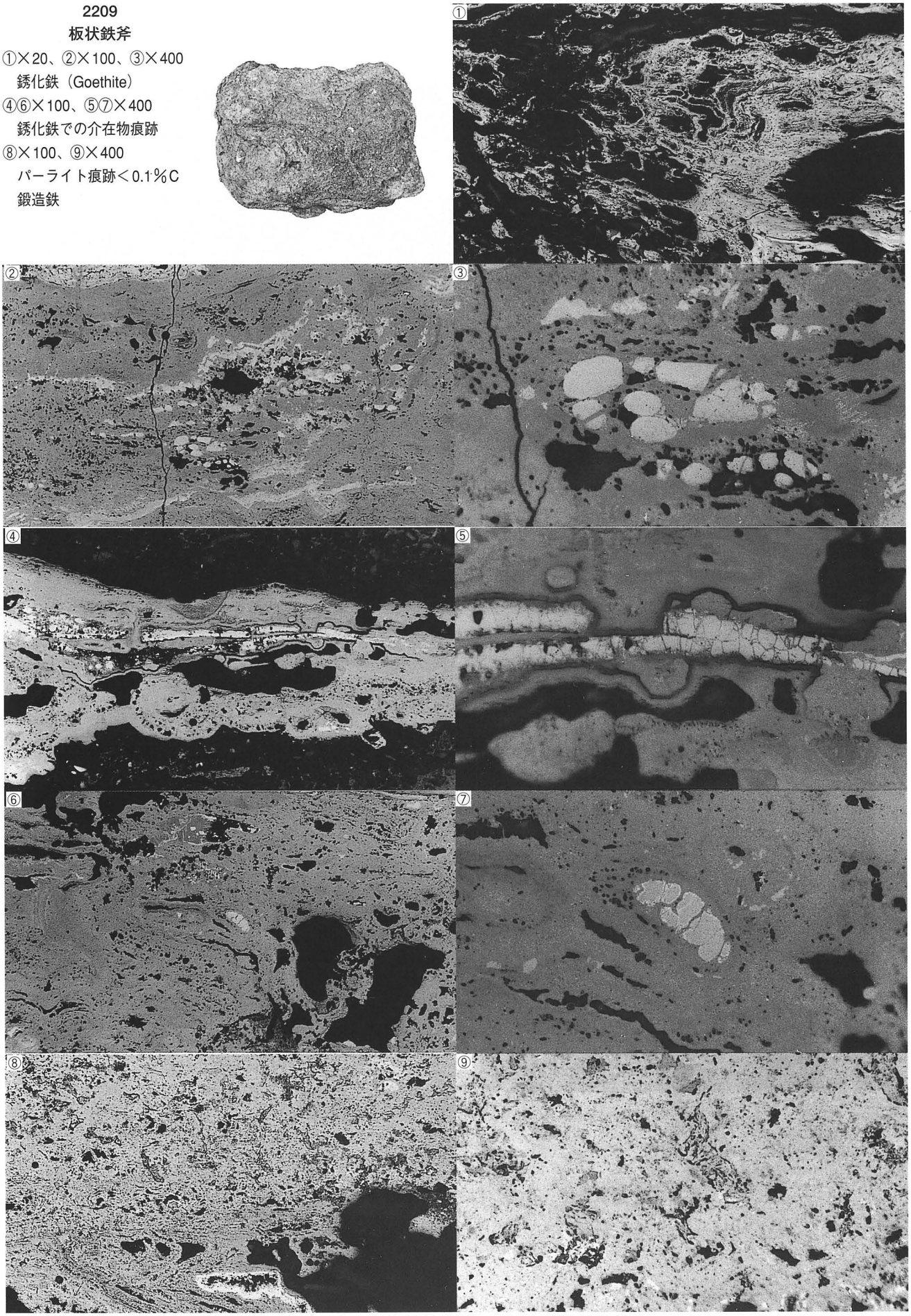
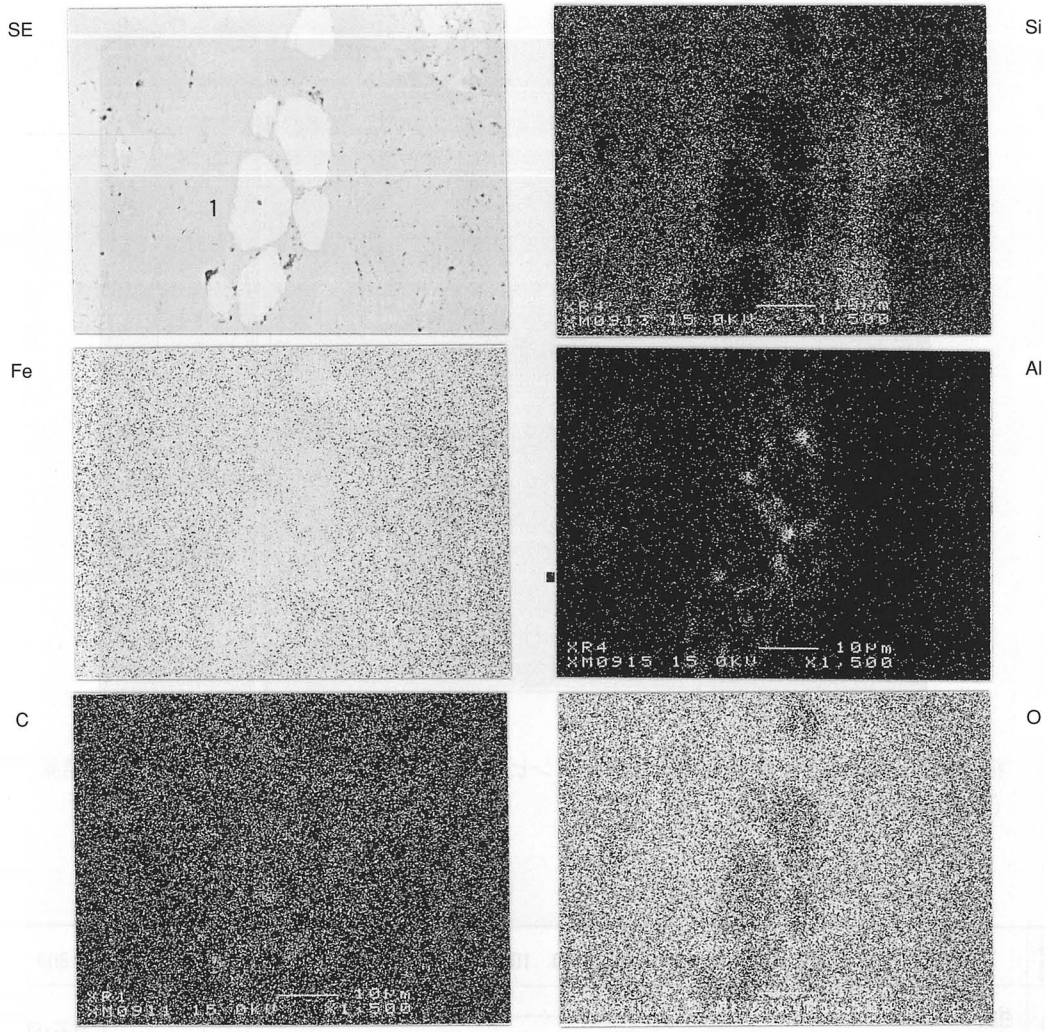


写真14　板状鉄斧（2209）の顕微鏡組織



ZAF Metal	
Element	Wt.(%)
C	4.541
O	40.819
Al	0.185
Si	1.003
P	0.453
Fe	52.999
Total	100.000

35 μmエリア分析

Element	1
C	—
O	—
Al203	0.366
Si02	0.195
P205	0.016
FeO	101.623
Na2O	0.025
MgO	0.151
S	0.002
K2O	0.011
CaO	—
TiO2	0.192
MnO	0.017
ZrO2	—
V203	0.025
Total	102.623

写真15　板状鉄斧（2209－2）鉄中非金属介在物の特性X線像と定量分析値（×1,500：縮小0.6）

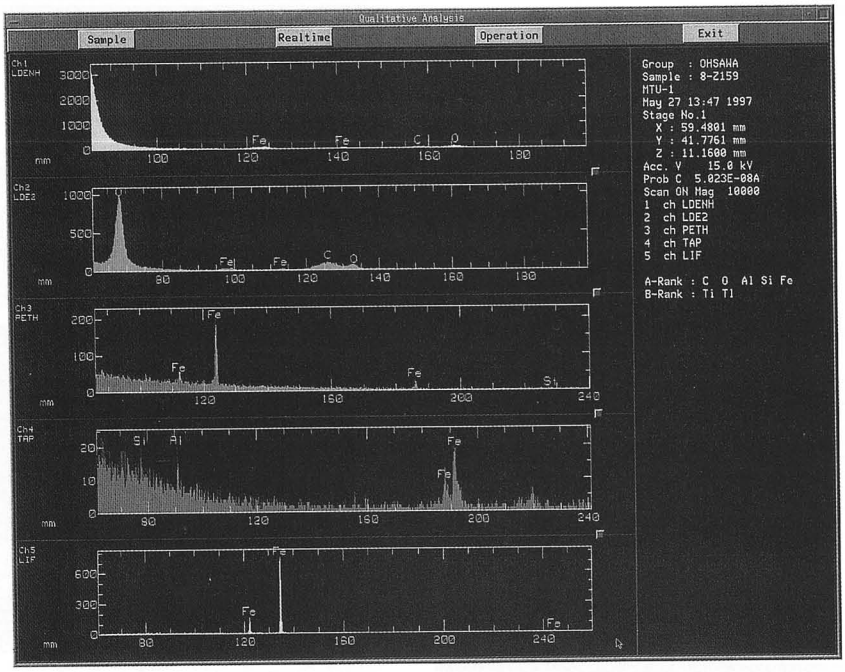


図4　板状鉄斧（2209）鉄中非金属介在物のコンピュータープログラムによる高速性分析結果（写真15と対応）

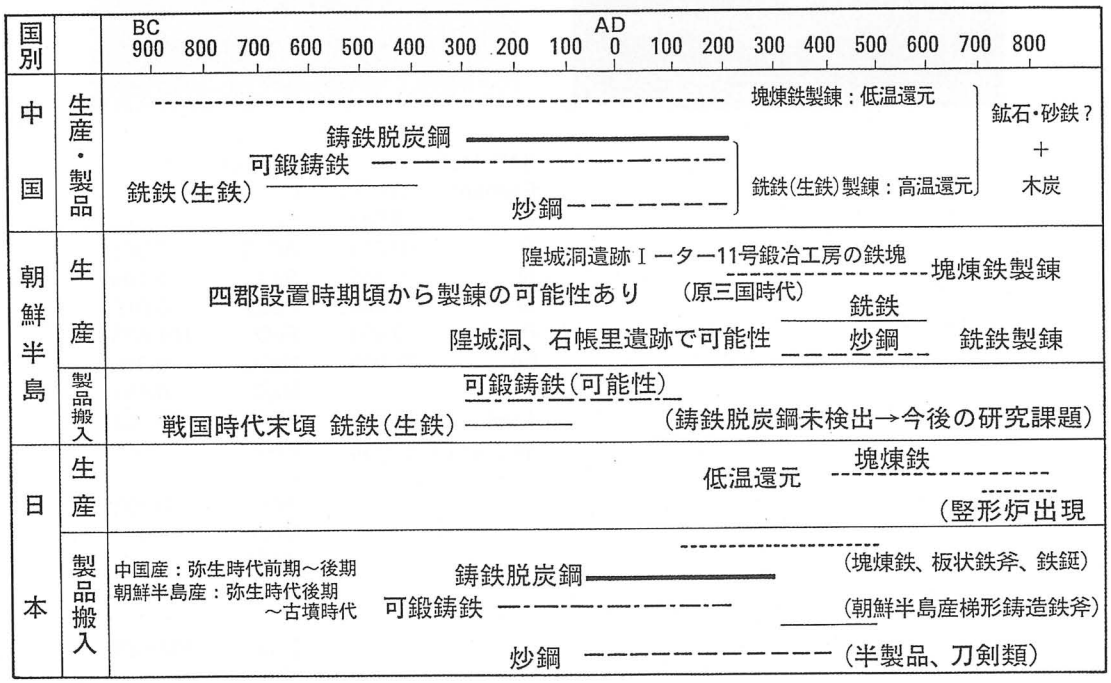


図5　東北アジア諸国初期鉄器文化発展模式図

以上のように該品は黒錆部分も正常な状態ではなく、分析結果にもとずく発言も信頼度は低いものとなる。

次に定量分析値をみると、ＳＥ（２次電子像）に１の番号をつけた淡灰白色粒状は100％FeOであった。ヴスタイトに同定される。なお、特性Ｘ線像でのヴスタイトが酸素（O）で基地よりも白色輝点がより弱く表れているのは、地鉄の腐食がより激しいことを示すものである。この検証として35μｍエリアでの定量分析値は、53％Fe－41％Ｏで地鉄の酸化が大きいことで理解されよう。

４．まとめ

松山大学構内遺跡３次調査区出土の２点の鉄製品について金属学的調査を行った。両者は弥生時代中期後葉（紀元０年頃）の鍛造品である。

１点は板状鉄製品であって、梯形状で中型の板状鉄斧もしくは手斧の類であり、工具に当る。銹化の著しい製品であったが運よく心金部に金属鉄を残し、焼なましを加えた硬鋼（０.６％前後Ｃ）が確認された。鉄中の非金属介在物は、小さく分散された珪酸塩（アノルサイト系）であるところから、炒鋼製品の合せ鍛えの産物の可能性が指摘される。

一方、残る１点の板状鉄斧は、銹化の激しいゲーサイトに残る組織の痕跡から低温還元直接製鉄法にもとずく塊煉鉄製品が想定された。こちらの鉄素材は、皮金相当部の鉄中の非金属介在物から粒状結晶のヴスタイト（FeO）が発見された。

列島内の初期鉄器の動向を金相学（金属や合金の組織・組成を研究する学問）的に俯瞰すると、出土鉄器の多くは、古代中国で開発生産された産物の舶載品と考えられる（注６）。各種鋼種は年次を追って漸次改善されてゆく。それらを大別すると、次の４種が挙げられる。図５を参照して頂けると幸いである。

ⓘ塊煉鉄（紀元前９世紀頃の開発）。低温還元直接製鉄法にもとずく産物。現在のところ、この古い時期の鉄製品の調査結果は得られていない。

ⓘⓘ可鍛鋳鉄（紀元前５世紀頃開発）。列島内で出土する最古級の鉄製品。二条凸帯鋳造鉄斧やその破片の再生品。鋳造品の硬くて脆い性質を950℃前後の温度で焼なましの軟化脱炭処理を施してある。西日本で250例を越える出土が確認されている（注７）。

ⓘⓘⓘ鋳鉄脱炭鋼（紀元前３世紀頃の開発）。棒状笵や板状笵に溶銑を流し込み、固化したものを酸化脱炭した鍛冶原料となる半製品（鉄素材は鏨切り砥石研磨、羽口なしの鍛冶炉で炙り曲げ加工などの原始鍛冶の素材となる）。

ⓘⓥ炒鋼（紀元前１世紀頃の開発）。本稿で説明した板状鉄製品である。銑鉄を加熱溶融し、空気中で攪拌脱炭して鋼とする。この鋼種の開発により炭素含有量の異なる素材が得られて「貼り合せ」の合せ鍛えなど高度の鍛冶技術が発達して刀剣類の刃物の性能は長足の進歩を遂げる。

以上の鉄生産４段階の技術展開は、中国側から朝鮮半島へと影響を及ぼしたものと考えられる。特に楽浪郡など４郡設置時期（ＢＣ１Ｃ～ＡＤ１Ｃ）になると朝鮮半島側での低温還元直接製鉄法の塊煉鉄の生産は開始された可能性は充分にありうることで板状鉄斧もここで誕生してもおかしくない状況である。しかし、板状鉄製品の炒鋼製品は、朝鮮半島において製造された痕跡は、隍城洞遺跡や石帳里遺跡の操業された３～４世紀まで待たねばならぬ。弥生時代中期中葉（ＡＤ０年頃）に相当する時期に朝鮮半島の何処かで溶融炉や鋳型、更には大口径送風管（Ｌ字タイプ）などが発見される遺跡

の存在があれば、炒鋼製造の可能性は浮上するであろう（注８）。しかし、今回の板状鉄製品は、弥生時代中期中葉のものとする場合は中国東北部に産地を求めるべきと考える。更に、弥生時代末期から古墳時代初頭期が比定されれば、朝鮮半島での生産の可能性も生じると考えている。

注

１）松山市教育委員会『松山市埋蔵文化財調査年報 Ⅵ』（平成５年度）埋蔵文化財センター　1994

２）松山市教育委員会『松山大学構内遺跡Ⅱ』－本文編－（松山市文化財調査報告書 第49集）埋蔵文化財センター　1995

３）韓　汝玢「中国における早期鉄器の冶金学的特徴」（紀元前８世紀～紀元２世紀）『東アジアの古代鉄文化　～その起源と伝播～』（1993年たたら研究会国際シンポジウム予稿集）たたら研究会　1993

４）大澤正己「東北亜細亜における古代の炒鋼技術の起源と展開」『伝統冶金技術公開講座資料』韓国忠南大学校急速凝固新素材研究所主催　1999.10.21

大澤正己「環日本海地域の鉄の金相学的調査　～弥生の鉄の一様相～」『環日本海地域の鉄文化の展開』社会鉄鋼工学部会　1999年度秋季シンポジウム論文集　社団法人日本鉄鋼協会 学会部門社会鉄鋼工学部会編　1999.11.21

５）韓　汝玢（前掲書③）

６）大澤正己「西日本における初期鉄器製作・鉄生産に関する金相学的研究」『西日本から見た製鉄の歴史』（人間・社会・環境との新しい調和を求めて　－Ⅷ　鉄鋼資源循環システムとエコロジー）社会鉄鋼工学部会　1998年度秋季シンポジウム論文集　社団法人日本鉄鋼協会 学会部門社会鉄鋼工学部会編 1998

７）下條信行・村上恭通・田崎博之『日本における石器から鉄器への転換形態の研究』（07451088）平成７年～平成９年度　科学研究費補助金（基盤研究Ｂ）研究成果報告書　1998

８）大澤正己（前掲書４）

遺物収蔵一覧

展示会や類例調査で使用の頻度が高い遺物については、一覧表を作成し、特別収蔵庫に一括保管している。今年度は、整理が進んでいる漁網錘を対象資料にした。

松山市埋蔵文化財センター収蔵の漁網錘（収蔵目録）

１．調査の概要　資料収集は、報告書に掲載している遺物を基本とし、現在整理中の遺物も含める。したがって、未整理の遺跡資料については除外している。

調査は、まず文献で資料を調べ、次に各調査員に遺物の有無や所属時期を確認した。つづいて、遺物と実測図を一括管理し、未実測品は全て実測図を作成し、法量の数量化をすすめ、一覧表にまとめた。一覧表の作成時には、石製品の石材認定と記載に苦慮したため、関係者を集め検討会を実施した。本書では、一覧表を提示し、公開されている資料については極力実測図を掲載することにした。

２．一覧表について（凡例を含む）

１）遺跡名は、本報告の名称を使用している。

２）石材は、多田　仁、加島次郎、梅木謙一で検討を加えた。その結果、変成岩のうち緑色片岩・緑泥片岩は緑色片岩とし、また、結晶が著しく大きく、多いものは結晶片岩として掲載した。

（担当：梅木謙一）

〈文献〉

上田　真　1991　『南江戸閼目遺跡』松山市文化財調査報告書 第22集

上田　真　1991　『来住廃寺－平成２年度調査概報－』松山市文化財調査報告書 第23集

梅木謙一　1992　『祝谷アイリ遺跡』松山市文化財調査報告書 第25集

栗田茂敏　1992　『文京遺跡－第２・３・５次調査－』松山市文化財調査報告書 第28集

梅木謙一・宮内慎一　1993　『山越・久万ノ台の遺跡』松山市文化財調査報告書 第32集

西尾幸則　1993　『来住廃寺遺跡－第15次調査報告書』松山市文化財調査報告書 第34集

松村　淳・梅木謙一　1993　『和気・堀江の遺跡』松山市文化財調査報告書 第36集

栗田正芳　1994　『古照遺跡－第７次調査－』松山市文化財調査報告書 第38集

栗田茂敏　1994　『上野遺跡』松山市文化財調査報告書 第39集

梅木謙一　1994　『斎院の遺跡』松山市文化財調査報告書 第43集

栗田茂敏　1994　『石井幼稚園遺跡・南中学校構内遺跡－第２次調査－』松山市文化財調査報告書 第45集

梅木謙一・宮内慎一　1994　『桑原地区の遺跡Ⅱ』松山市文化財調査報告書 第46集

宮内慎一　1995　『松山大学構内遺跡Ⅱ－第３次調査－』松山市文化財調査報告書 第49集

梅木謙一　1996　『福音寺地区の遺跡－筋違Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｇ・Ｈ・Ｉ・川附－』松山市文化財調査報告書 第52集

栗田正芳　1996　『古照遺跡－第８・９次調査－』松山市文化財調査報告書 第53集

高尾和長　1996　『東本遺跡４次調査・枝松遺跡４次調査』松山市文化財調査報告書 第54集

河野史知　1997　『桑原地区の遺跡Ⅲ』松山市文化財調査報告書 第58集

相原浩二　1998　『和気・堀江の遺跡Ⅱ』松山市文化財調査報告書 第64集

高尾和長　1999　『船ヶ谷遺跡－２次調査－』松山市文化財調査報告書 第70集

加島次郎　1999　『船ヶ谷遺跡－３次調査地－』松山市文化財調査報告書 第73集

田城武志・小玉亜紀子　1998　『松山市埋蔵文化財調査年報 Ⅹ』

松山市埋蔵文化財センター所蔵の土錘・石錘

2000年6月現在（1）

No.	遺跡名	出土地	種類	残存	長さ(cm)	幅・直径(cm)	厚さ・孔径(cm)	重さ(g)	石材	時期	文献
1	鳥越	SB3	土錘(有溝管状)	ほぼ完形	8.65	直径4.55	孔径0.53	(155.0)		弥生終末～古墳初頭	『斎院の遺跡Ⅱ』第80集－84
2	〃	〃	〃　〃	〃	7.45	直径4.15	孔径0.65	(106.5)		〃	〃　－85
3	〃	〃	〃　〃	完形	8.6	直径4.8	孔径0.53	197.5		〃	〃　－86
4	〃	〃	〃　〃	〃	8.3	直径4.7	孔径0.6	161.0		〃	〃　－87
5	〃	〃	〃　〃	ほぼ完形	(8.25)	直径4.8	孔径0.6	(162.3)		〃	〃　－88
6	〃	〃	〃　〃	〃	8.35	直径8.8	孔径(0.5)	(167.5)		〃	〃　－89
7	〃	〃	〃　〃	〃	9.05	直径4.15	孔径(0.7)	(141.0)		〃	〃　－90
8	〃	〃	〃　〃	〃	9.2	直径4.4	孔径(0.5)	143.0		〃	〃　－91
9	〃	〃	〃　〃	〃	8.05	直径4.4	孔径0.7	144.0		〃	〃　－92
10	〃	〃	〃（管状）	〃	8.45	直径3.75	孔径0.8	99.5		〃	〃　－93
11	津田中学校構内1次	SB4	石錘(有溝)	完形	11.65	1.45	1.05	32.73	緑色片岩	弥生終末～古墳初頭	『斎院の遺跡Ⅱ』第80集－29
12	〃	SB8	〃　〃	〃	9.55	6.45	5.8	497.2	安山岩	〃	〃　－78
13	〃	SD1　X5Y4	〃　〃	〃	9.3	2.14～2.4	1.7～1.8	57.21	安山岩	〃	〃　－147
14	〃	SD1　X4Y2	土錘(有溝管状)	〃	7.6	3.95	3.2	117.0		〃	〃　－168
15	〃	〃	石錘(有溝)	〃	9.8	6.4	4.5	373.0	石英粗面岩	〃	〃　－169
16	〃	〃	〃　〃	〃	13.2	4.85	5.05	483.8	安山岩	〃	〃　－170
17	〃	SD1　X4Y3	〃　〃	1／2	7.5	(3.4)	6.7	(196.5)	石英粗面岩	〃	〃　－217
18	〃	X2Y4	〃　〃	完形	11.9	5.35	5.2	418.0	安山岩	〃	〃　－298
19	〃	X2Y6	〃　〃	1／3	(7.3)	7.0	(5.4)	(314.0)	安山岩	〃	〃　－300
20	〃	〃	土錘　〃	1／3	(9.0)	(3.4)	5.1	(196.5)		〃	〃　－301
21	〃	X4Y2	石錘　〃	ほぼ完形	8.8	6.4	3.0～3.6	258.7	安山岩	〃	〃　－522
22	〃	X4Y3	〃　〃	完形	7.15	6.35	5.0	262.0	石英粗面岩	〃	〃　－625
23	〃	X4Y6	〃　〃	ほぼ完形	8.6	6.45	3.5	294.6	安山岩	〃	〃　－681
24	津田中学校構内2次	SW区表採	土錘(管状)	ほぼ完形	3.2	直径0.95	孔径0.15	1.86		中世	『斎院の遺跡Ⅱ』第80集－76
25	斎院鳥山	SD1	土錘(有孔)	1／2	(4.2)	5.1	1.9	(51.8)		弥生前末～中初	『斎院の遺跡』第43集－145
26	北斎院地内1次	包含層	土錘(管状)	1／2	(2.7)	直径1.2	孔径0.4	(3.4)		中世	〃　－45
27	〃	SD1	〃　〃	完形	8.7	直径4.35	孔径1.4	162.8		中世	〃　未報告
28	山越1次	SP44	土錘(有孔)	1／2	(3.7)	直径1.8		(13.7)		古代	『山越・久万ノ台の遺跡』第32集－14
29	久万ノ台	第Ⅵ層	石錘(有溝)	1／2	5.6	4.0	(3.6)	(102.1)	安山岩	弥生前期末～後期後葉	『山越・久万ノ台の遺跡』第32集－39
30	姫原	SD19	〃　〃	完形	9.8	6.3	5.6	395	安山岩	弥生後期後葉	『和気・堀江の遺跡』第64集－25
31	金毘羅山	SB2	石錘(有溝)	完形	12.3	7.1	5.1	616	石英粗面岩	弥生後期終末	『和気・堀江の遺跡』第36集－18
32	〃	SB3	〃（抉り）	〃	8.2	5.1	0.9	82.6	緑色片岩	〃	〃　－20
33	文京3次	包含層	〃（有溝）	〃	8.8	5.0	4.8	327.3	安山岩	中期後葉～後期初頭	『文京遺跡』2・3・5次第28集－514

(2)

No.	遺跡名	出土地	種類	残存	長さ(cm)	幅・直径(cm)	厚さ・孔径(cm)	重さ(g)	石材	時期	文献
34	文京3次	包含層	〃 〃	〃	4.5	1.9	1.0	11.5	安山岩	弥生中期後葉～後期初頭	『文京遺跡』2・3・5次第28集－515
35	〃	〃	〃 〃	〃	6.9	直径4.6		214.2	安山岩	〃	〃 －516
36	祝谷アイリ	SK15Ⅲ層	〃 〃	〃	8.0	5.5	4.7	245.5	安山岩	弥生後期中葉	『祝谷アイリ遺跡』第25集－113
37	松山大学構内3次	SR1最下層B⑥区	石錘(有溝)	4／5	(3.8)	3.1	2.2	(28.4)	安山岩	弥生中期～後期前葉	『松山大学構内遺跡Ⅱ』第49集－2100
38	〃	SR1③区	〃 〃	4／5	(6.2)	4.3	3.2	(78.8)	安山岩	弥生後期前葉	〃 －2101
39	〃	SR1南半部上層⑩区	〃 〃	4／5	(7.9)	1.6	(1.5)	(32.6)	緑色片岩	〃	〃 －2117
40	〃	SX402	〃 〃	完形	12.5	6.9	7.1	900.5	安山岩	弥生後期終末	〃 －2125
41	〃	SR2北半部	〃 〃	〃	9.6	7.5	5.2	545.0	石英粗面岩	〃	〃 －2139
42	〃	SR1上層(Eベルト)	〃 〃	4／5	(9.4)	5.7	5.8	(360.0)	石英粗面岩	弥生後期前葉	〃 －2155
43	道後今市11次	SK1 No.1	石錘(抉り)	完形	7.9	5.7	1.6	134.0	安山岩	縄文後期	整理中
44	〃	〃 No.2	〃 〃	ほぼ完形	7.3	(5.7)	1.7	(109.2)	安山岩	〃	〃
45	〃	〃 No.3	〃 〃	2／3	(5.6)	(4.2)	(1.5)	(55.3)	花崗岩	〃	〃
46	〃	〃 No.4	〃 〃	ほぼ完形	7.2	5.5	2.0	121.3	花崗岩	〃	〃
47	〃	〃 No.5	〃 〃	完形	8.3	5.5	1.4	121.6	安山岩	〃	〃
48	〃	〃 No.6	〃 〃	〃	6.9	4.9	1.6	83.9	花崗岩	〃	整理中・年報X－1
49	〃	〃 No.7	〃 〃	〃	8.7	6.1	2.0	153.6	花崗岩	〃	整理中
50	〃	〃 No.8	〃 〃	〃	8.4	5.3	2.1	170.6	安山岩	〃	整理中・年報X－2
51	〃	〃 No.9	〃 〃	2／5	(4.2)	(3.7)	1.9	(60.0)	花崗岩	〃	整理中
52	〃	〃 No.10	〃 〃	完形	7.3	6.0	1.6	108.9	安山岩	〃	〃
53	〃	〃 No.11	〃 〃	ほぼ完形	7.0	5.7	1.9	97.3	安山岩	〃	〃
54	〃	〃 No.12	〃 〃	完形	7.5	5.2	1.6	112.3	安山岩	〃	〃
55	〃	〃 No.13	〃 〃	〃	9.5	5.9	1.7	145.3	安山岩	〃	整理中・年報X－3
56	〃	〃 No.14	〃 〃	ほぼ完形	7.4	5.8	1.8	99.5	安山岩	〃	整理中
57	〃	〃 No.15	〃 〃	完形	7.1	5.7	1.8	102.2	安山岩	〃	〃
58	〃	〃 No.16	〃 〃	〃	8.7	5.7	1.6	142.3	安山岩	〃	〃
59	〃	〃 No.17	〃 〃	〃	8.3	5.6	1.6	135.1	安山岩	〃	〃
60	〃	〃 No.18	〃 〃	〃	8.9	6.8	1.5	127.5	安山岩	〃	整理中・年報X－4
61	〃	〃 No.19	〃 〃	〃	6.4	5.8	1.7	112.8	安山岩	〃	整理中
62	〃	〃 No.20	〃 〃	2／3	7.9	(4.6)	1.5	(72.8)	花崗岩	〃	〃
63	〃	〃 No.21	〃 〃	完形	6.0	5.3	1.4	60.2	安山岩	〃	〃
64	〃	〃 No.22	〃 〃	〃	5.9	5.0	1.5	69.4	安山岩	〃	〃
65	若草町1次	SK0201	石錘(有溝)	〃	10.0	8.0	5.8	630.0	石英粗面岩	検討中	整理中
66	〃	黒褐色粘質土	〃 〃	〃	9.95	6.75	5.0	428	安山岩	〃	〃
67	〃	C－11	〃 〃	ほぼ完形	13.9	2.0	1.6	79.0	緑色片岩	〃	〃
68	船ケ谷2次	SR1 F17区	〃 (抉り)	1／5	(5.4)	7.0	(0.65)	(48.5)	緑色片岩	古墳	『船ケ谷遺跡2次』第70集－197

(3)

No.	遺跡名	出土地	種類	残存	長さ(cm)	幅・直径(cm)	厚さ・孔径(cm)	重さ(g)	石材	時期	文献
69	船ケ谷2次	SD4	〃 〃	1／2	(6.0)	6.8	1.3	(82.76)	緑色片岩	7C末	『船ケ谷遺跡2次』第70集－256
70	〃	SD12	土錘(有溝)	ほぼ完形	6.1	(3.2)	3.2	(48.8)		7C末	〃 －259
71	〃	出土地点不明	〃 〃	〃	4.0	3.1	3.1	(34.0)		不明	〃 －298
72	船ケ谷3次	SR301	石錘(抉り)	完形	10.4	8.3	2.1	287.92	緑色片岩	縄文晩期後半	『船ケ谷遺跡3次』第73集－16
73	来住廃寺15次	3区下段Ⅴ層	〃(有溝)	〃	8.2	6.0	5.2	363	花崗岩	不明	『来住廃寺遺跡15次』第34集－341
74	福音小学校構内	SB61	〃 〃	〃	7.5	4.25	2.8	116	安山岩	古墳	整理中
75	川附	包含層	土錘(管状)	ほぼ完形	(4.3)	直径1.6	孔経 0.54	(7.2)		中世か	『福音寺地区の遺跡』第52集－197
76	古照7次	B地区	〃 〃	1／2	9.1	6.5	孔経(2.1)	(176.2)		中世(13C後半)	『古照遺跡7次』第38集－1149
77	〃	〃	〃 〃	ほぼ完形	(3.3)	直径1.1	孔経 0.24	(8.3)		〃	〃 －1150
78	〃	〃	〃 〃	完形	4.2	直径1.2	孔経 0.4	6.3		〃	〃 －1151
79	〃	〃	〃 〃	ほぼ完形	(5.4)	直径1.2	孔経 0.42	(3.8)		〃	〃 －1152
80	古照8次	A区	〃 〃	2／3	(3.5)	直径1.2	孔経 0.46	(4.7)		近世(18C前半)	『古照遺跡8・9次』第53集－9
81	〃	B地区	〃 〃	1／2	(2.7)	直径1.2	孔経 0.3			中世(13C前半)	〃 －322
82	〃	〃	〃 〃	1／2	(3.1)	直径1.3	孔経 0.28	(4.3)		中世(13C後半)	〃 －365
83	〃	SD1	〃	1／2	(8.7)	4.9		(96.3)		古照Ⅱ式(布留1式)	〃 －590
84	南江戸圖目	遺構外	〃(管状)	2／3	(3.8)	直径1.2	孔経 0.4			中世	『南江戸圖目遺跡』第22集－16
85	樽味高木4次	SR3	〃 〃	ほぼ完形	(3.8)	直径1.1	孔経 0.37	(3.1)		古代	『桑原地区の遺跡Ⅲ』第58集－54
86	樽味四反地2・3・4次	第Ⅳ層	石錘(有溝)	2／3	(5.4)	5.7	3.5	(133.2)	花崗岩	不明	『桑原地区の遺跡Ⅱ』第46集－167
87	東本4次2区	SB203	〃 〃	完形	3.4	3.0	1.8	253	安山岩	弥生後期末	『東本・枝松4次』第54集－65
88	桑原高井1次		〃 〃	〃	4.0	3.3	2.0	34.54	石英粗面岩	終末か	〃 －275
89	石井幼稚園	SD1	土錘(管状)	完形	4.2	直径0.9	孔経 0.2	3.3		平安(9C末~10C前半)	『石井幼稚園・南中学校』第45集－86
90	〃	〃	〃 〃	2／3	(3.1)	直径0.9	孔経 0.2	(2.5)		〃	〃 －87
91	上野	SD6	石錘(抉り)	完形	6.8	1.4		104.3	緑色片岩	中近世	『上野遺跡』第39集－19
92	〃	近世水田耕作辻	〃 〃	〃	11.3	3.9	1.4	120.1	緑色片岩	〃	〃 －22
93	〃	2区	〃 〃	1／2	(5.8)	(4.5)	孔経 0.6	(39.6)	結晶片岩	〃	〃 －40
94	久米高畑40次	SK001	土錘(管状)	ほぼ完形						古代	整理中・年報X
95	若草町1次		石錘(有溝)	完形	11.2	5.7	6.8	522	石英粗面岩	検討中	整理中
96	釜ノ口	C－12	〃 〃	ほぼ完形	9.6	6.5	5.4	387	石英粗面岩	検討中	〃
97	小坂	C4No.7	〃(抉り)	完形	6.1	4.9	0.6	38.5	緑色片岩	検討中	〃
98	興居島馬磯		土錘(有溝)	1／2	9.7	4.5	(3.3)	(116.1)		不明	採集品
99	来住廃寺6次	SB2	石錘 〃	完形	10.6	5.5	3.5	305.4	石英粗面岩	検討中	整理中
100	来住廃寺14次	SX1	〃 〃	2／3	(8.2)	(6.0)	(5.3)	(302.7)	石英粗面岩	弥生～古墳	『来住廃寺』第23集・未報告
101	古照G3次2区	褐色砂質土	土錘(管状)	完形	4.1	直径1.3	孔経 0.46	5.3		検討中	整理中
102	古照G3次	N1W5	〃 〃	〃	3.4	直径1.3	孔経 0.36	4.3		〃	〃
103	古照G3次2区	褐色砂質土	〃 〃	〃	4.25	直径0.9	孔経 0.24	3.6		〃	〃

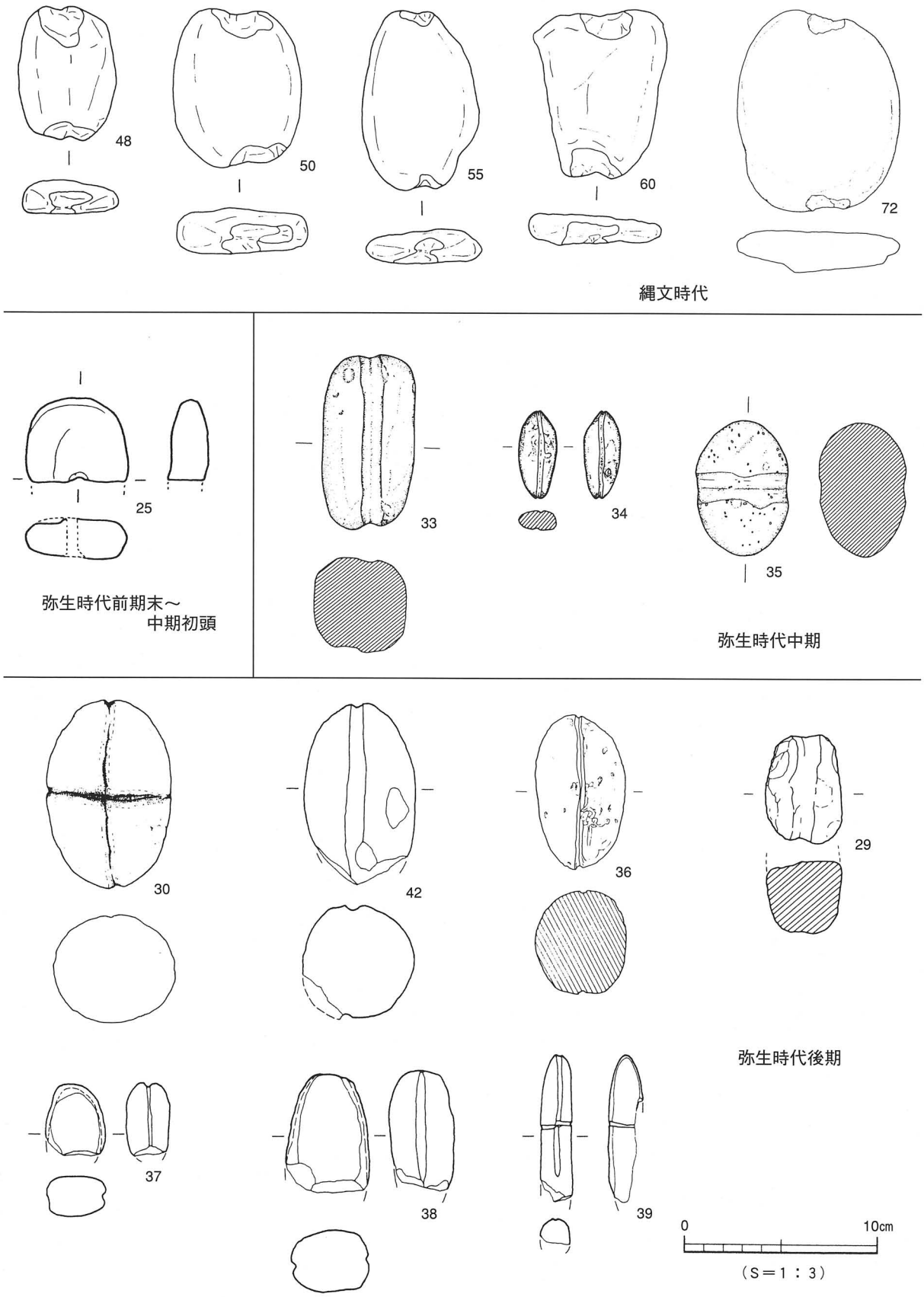

48
50
55
60
72
縄文時代
25
弥生時代前期末～
中期初頭
33
34
35
弥生時代中期
30
42
36
29
37
38
39
弥生時代後期
0
10cm
（S＝1：3）

図1　土錘・石錘実測図

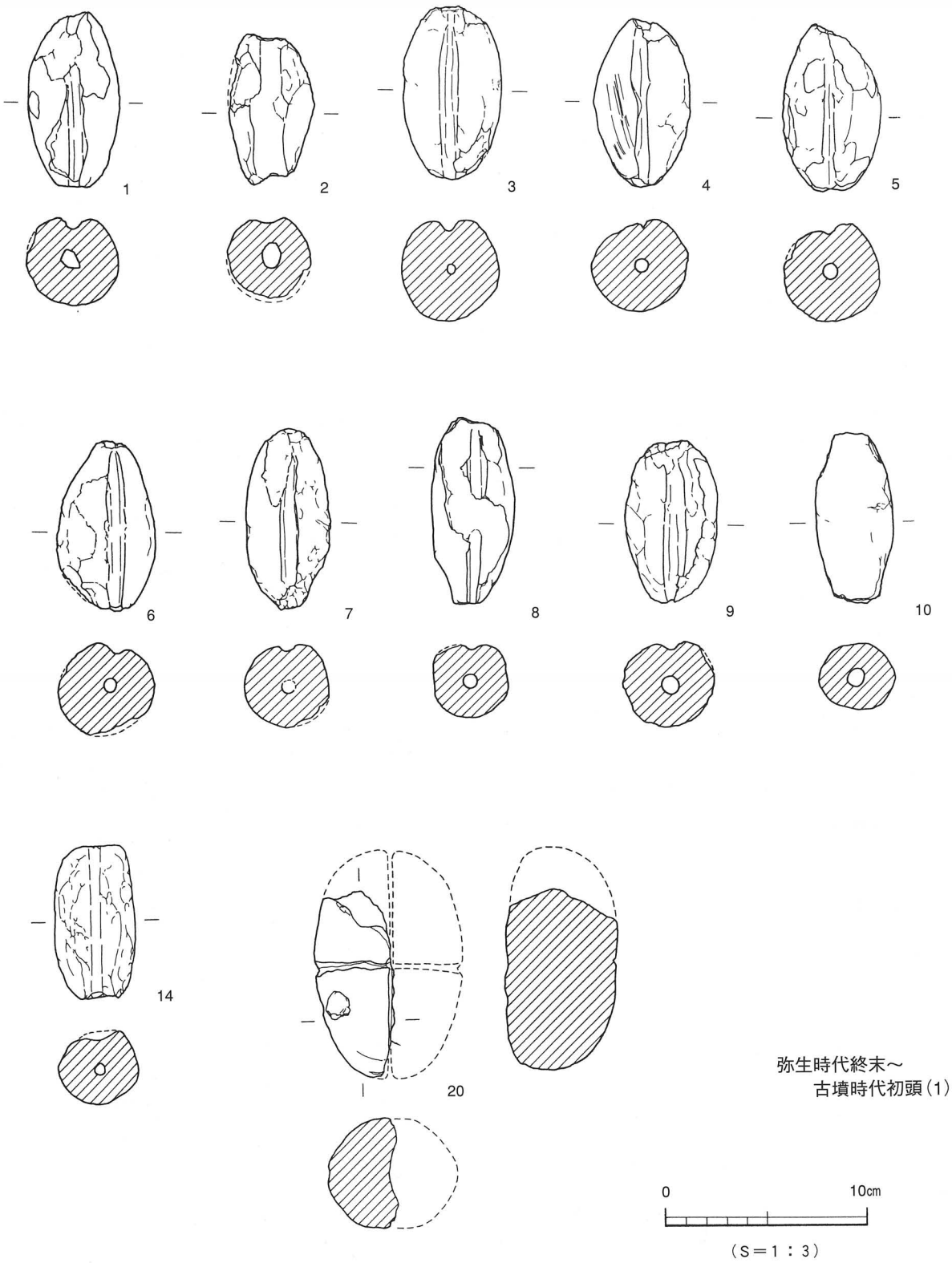


図2　土錘実測図

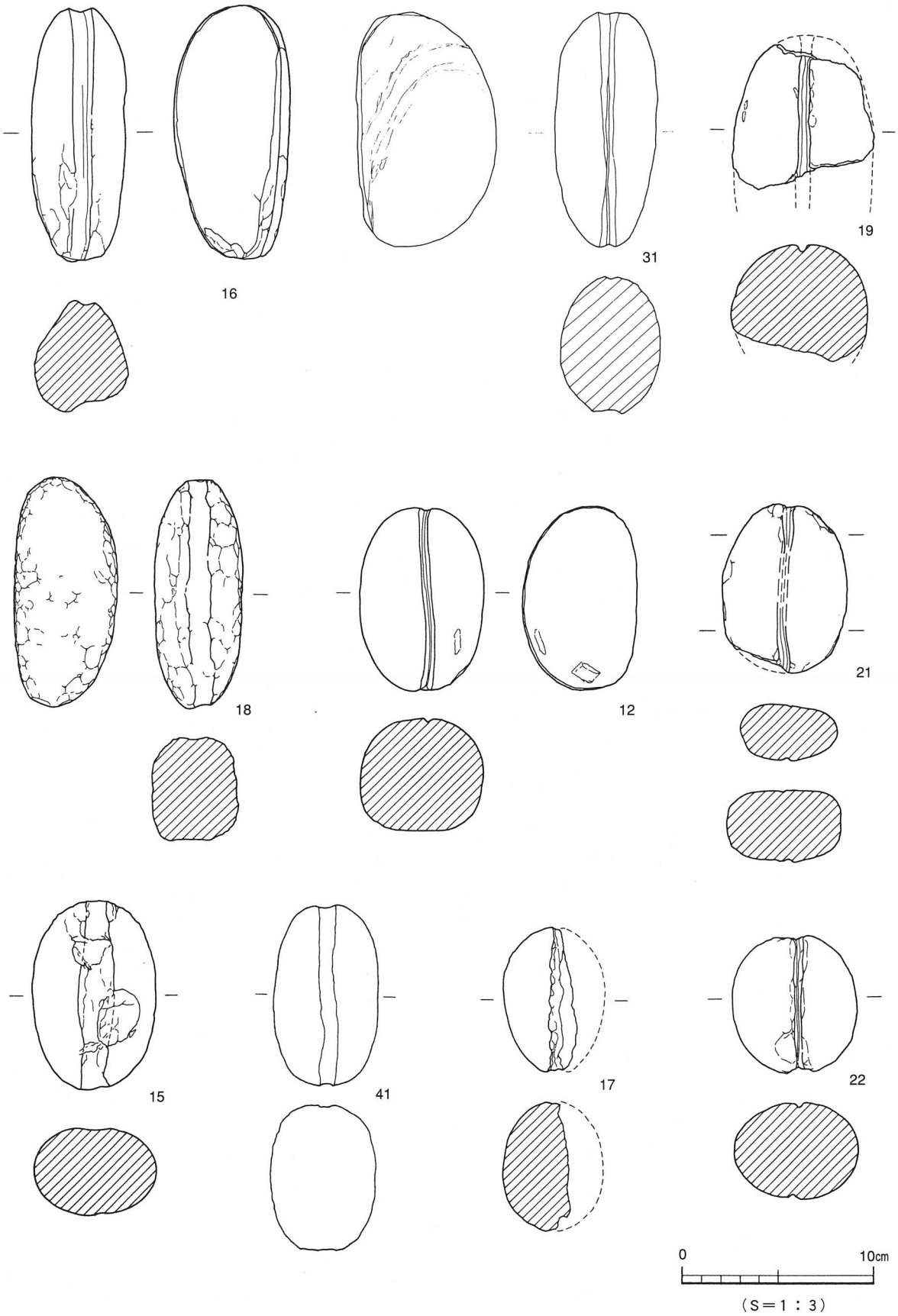


図３　石錘実測図

弥生時代終末～古墳時代初頭（2）

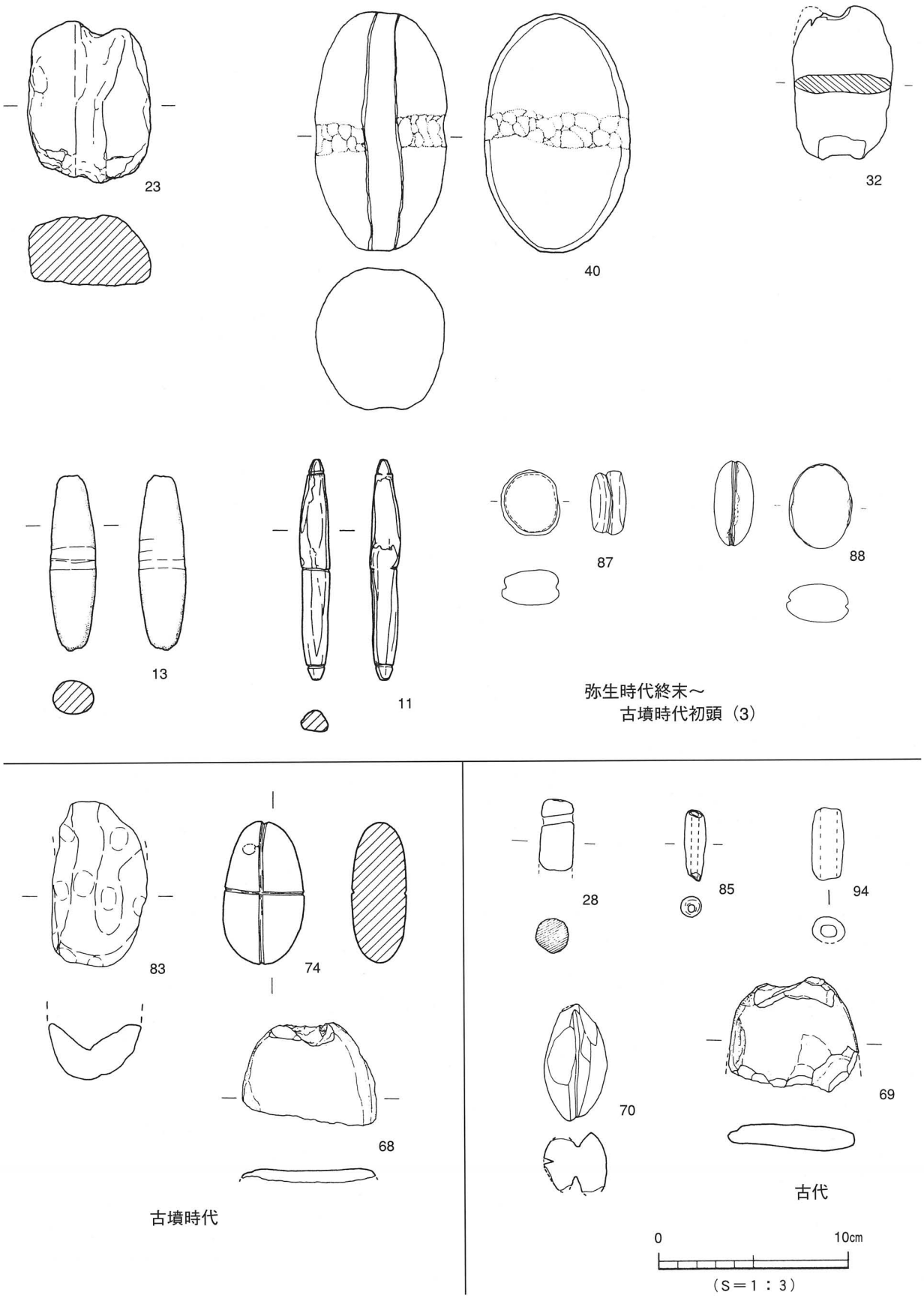

23
40
32
13
11
87
88
弥生時代終末～
古墳時代初頭（3）
83
74
68
古墳時代
28
85
94
70
69
古代
0
10cm
（S＝1：3）

図4　土錘・石錘実測図

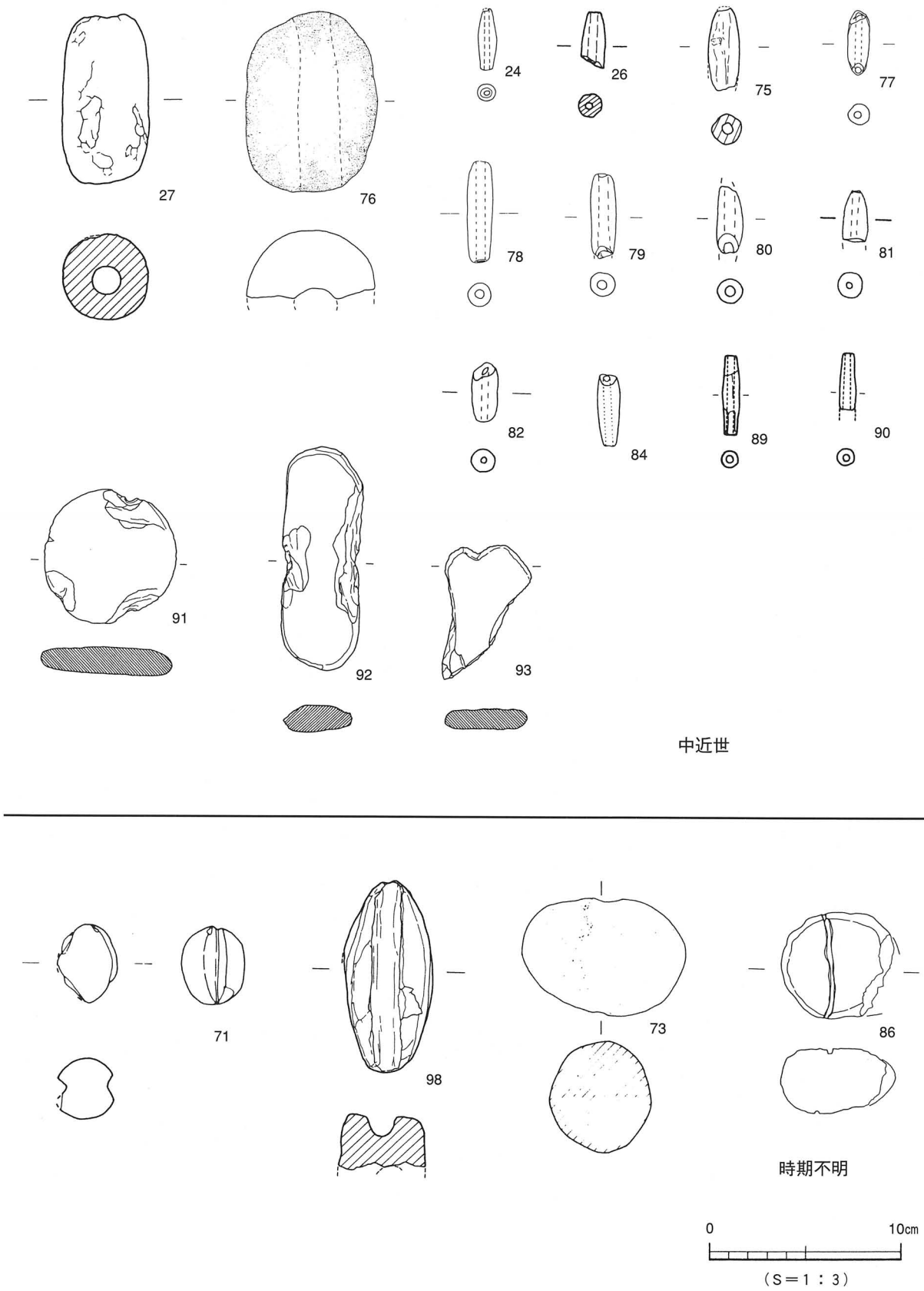

27
76
24
26
75
77
78
79
80
81
82
84
89
90
91
92
93
中近世
71
98
73
86
時期不明
0
10cm
（S＝1：3）

図５　土錘・石錘実測図

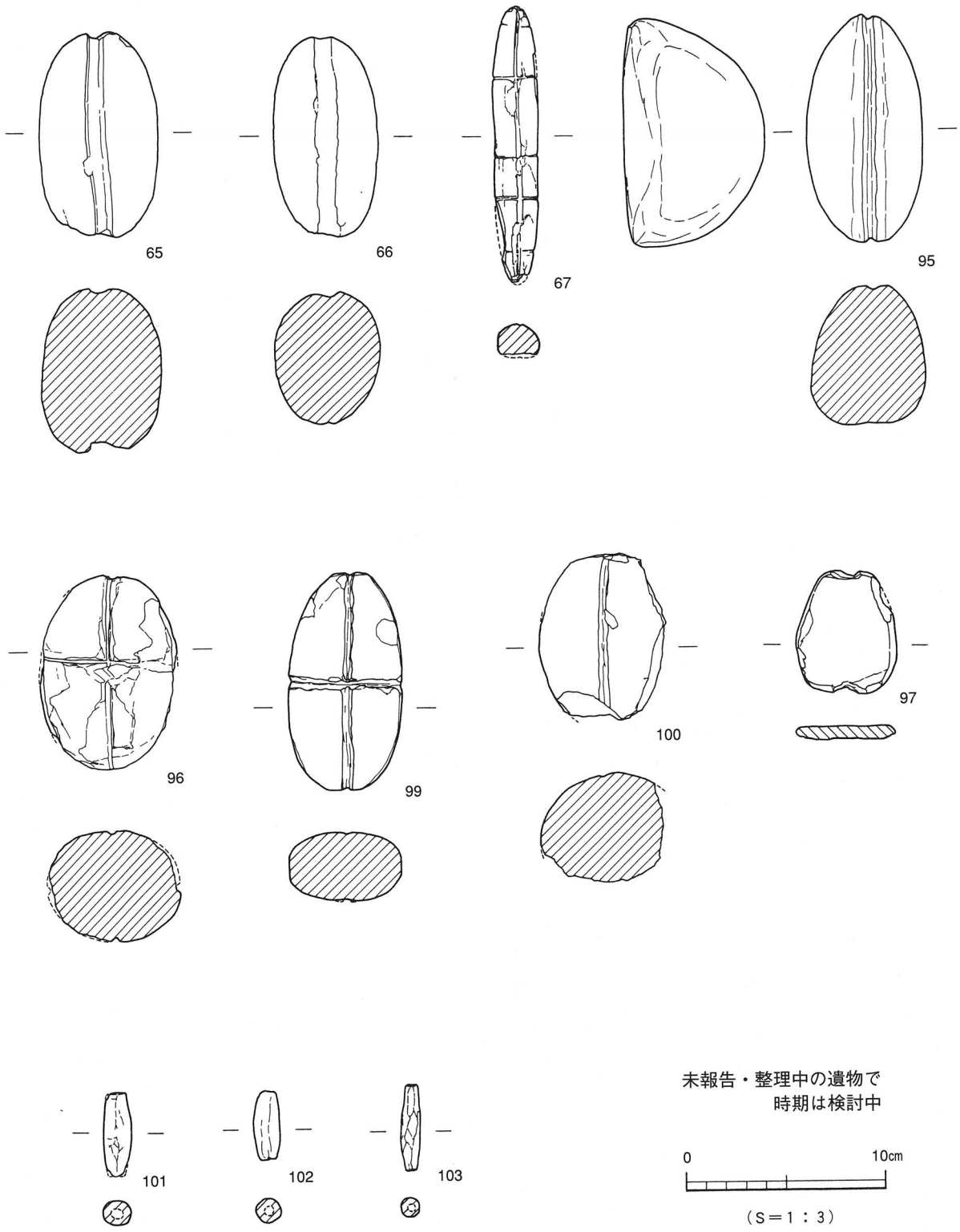

65
66
67
95
96
99
100
97
101
102
103
未報告・整理中の遺物で
時期は検討中
0
10cm
（S＝1：3）

図6　土錘・石錘実測図

Ⅳ　平成11年度
啓蒙普及事業

平成11年度の啓蒙普及事業

当埋蔵文化財センターは、松山市内における埋蔵文化財の発掘調査・研究とともに、出土遺物や記録資料などを収蔵し、保管している。発掘調査終了後は、遺跡の発掘調査報告書・パンフレットなどを作成し、随時現地説明会などを開催することにより、広く一般に公開している。

また附属の考古館・文化財情報館は地域文化の発展・向上並びに調査研究活動の振興を図ることを目的として設置されたものであり、展示会や一般対象の遺跡めぐり・講演会、小学生対象の体験学習セミナーを開催するなど、市民一人ひとりの生涯学習を援助しながら、埋蔵文化財保護思想の啓蒙普及に努めている。

1．展示活動

考古館の常設展は、「海を媒体とした文化交流の中継地点としての伊予文化の独自性と、そこに生きた人々の姿」を解明し、「見る」「聞く」「考える」を展示の基本コンセプトとしている。また立体的な展示を心掛けている。展示品は、松山平野で出土した考古資料約8,200点である。

①松山市考古館活動報告写真展

考古館活動報告写真展「各駅停車、古代松山浪漫の旅Ⅲ」は、市民の方々に一年間の館活動を報告するとともに、広く埋蔵文化財に対して目を向けてもらうため、各種イベントの様子がわかる写真パネルを松山市庁舎本館１階ロビーにて展示したものである。

平成11年度は、考古学入門講座「チャレンジ考古学Ⅳ」の講座風景など９点の写真パネルを展示した。

②発掘調査速報展

発掘調査速報展「むかし・昔のまつやまを掘る」は、松山市内で相次いで発見された重要な遺跡・遺物を速報的に紹介したり、また新たに発掘調査報告書が刊行された遺跡について、写真やイラスト・図面を交えながら紹介するものである。

平成11年度は、前年度に発掘調査された遺跡のなかで、樽味四反地遺跡５次調査地を含む16遺跡を取り上げその出土遺物88点を展示した。

③夏休み親子体験学習セミナー作品展

セミナー作品展「みんなで作った！平成のハニワ展」は、小学生とその保護者が体験学習セミナーで製作した作品（平成式古代ハニワ）を展示したものである。

④特別展

特別展は、ひとつのテーマのもとに一定期間内で系統的に展示を行うものである。平成11年度は「繚乱の時～西部瀬戸内に咲いた弥生の花～」と題して弥生時代の瀬戸内を中心とした対外交流を検証し、展示を展開した。

⑤考古館開館10周年記念特別収蔵品展

この展示は開館10周年を記念し、この10年間に市内で発掘調査された遺跡をダイジェストで紹介したものである。「伊豫國から立ち上る考古の烽」と題して開催した。

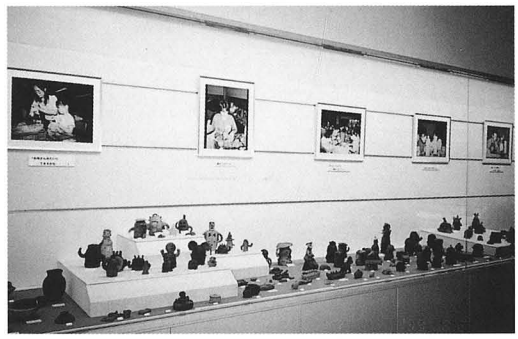


写真１　夏休み親子体験学習セミナー作品展「みんなで作った！平成の古代ハニワ展」

表1　展示活動

テーマ	会　期	会　場	入館者数
考古館活動報告写真展 「各駅停車、古代松山浪漫の旅Ⅲ」	平成11年 4月8日(木) ～4月14日(水)	市庁舎本館 1階ロビー	——
発掘調査速報展 「むかし・昔のまつやまを掘る」	平成11年4月24日(土) ～6月13日(日)	特別展示室	2,817
夏休み親子体験学習セミナー作品展 「みんなで作った!平成の古代ハニワ展」	平成11年8月7日(土) ～8月22日(日)	特別展示室	249
開館10周年記念特別展 「繚乱の時～西部瀬戸内に咲いた弥生の花～」	平成11年10月6日(土) ～11月23日(火)	特別展示室	3,351
開館10周年記念特別収蔵品展 「伊豫國から立ち上る考古の烽」	平成12年2月19日(土) ～3月20日(月)	特別展示室	2,189

2．教育普及活動

教育普及活動としては、職員の資質向上を目的とした調査研究会と、一般市民を対象にした埋蔵文化財保護思想の啓蒙を目的とした講演会・夏休み親子体験学習セミナー・講座などがある。

①調査研究会

発掘現場における調査方法や報告書作成のための各分野での第一人者を招聘し、助言を頂き、職員の資質の向上をめざしている。

表2　教育普及活動(調査研究会)　(敬称略)

テーマ	会　期	会場	講　師
綾羅木本郷遺跡の出土土器の編年について	平成11年6月14日(水)	講堂	下関市立考古博物館 伊東　照雄
飛鳥時代土器研究の現状と課題	平成11年7月5日(月)	講堂	橿原考古学研究所 林部　　均
太宰府遺跡と大野城跡	平成11年10月14日(木)	講堂	九州歴史資料館 横田賢次郎
大分の弥生土器	平成12年1月27日(木)	講堂	大分県立歴史博物館 高橋　　徹
島根県における弥生終末～古墳初頭の土器様相について	平成12年3月9日(木)	講堂	島根県埋蔵文化財調査センター 松本　岩雄
因幡・伯耆地域の弥生終末～古墳初頭の土器様相について			鳥取県埋蔵文化財センター 松井　　潔
山陰系土器を中心とした広島県の弥生終末から古墳初頭			広島県立歴史民俗資料館 伊藤　　実

②講演会

平成11年度は、発掘調査報告会・特別展記念講演会を開催した。また開館10周年記念事業として特別講演会を開催した。

発掘調査報告会「むかし・昔のまつやまを語る」は、前述の発掘調査速報展開催期間中に調査係長による統括報告及び3名の調査担当者による調査研究報告が行われた。

特別展記念講演会は、特別展を記念して開催し、4名の先生方に弥生時代における技術・文化交流について熱く語っていただいた。

特別講演会は、開館10周年記念事業として「逆説・西部瀬戸内の歴史」と題し、作家の井沢元彦氏による講演会を開催したものである。

③シンポジウム

開館10周年記念事業としてシンポジウム「伊豫國から立ち上る考古の烽」を開催した。前半は、当埋蔵文化財センターの調査員4名の基調報告後、愛媛大学法文学部下條信行教授コーディネーターのもと「愛媛考古学、この10年の歩み」と題し、記念シンポジウムを開催した。後半は国内外からお招きした4名の先生方に記念講演を賜った。

表3　教育普及活動（講演会）

テーマ	会　期	会場	講　師（パネラー）	聴講者数
発掘調査報告会 「むかし・昔のまつやまを語る」	平成11年4月24日(土)	講堂	当埋文センター調査係長　田城　武志 当埋文センター調査員　河野　史知 〃　橋本　雄一 〃　吉岡　和哉	160人
特別展記念講演会	平成11年10月16日(土)	講堂	静岡大学人文学部名誉教授　藤田　等 愛媛大学法文学部講師　吉田　広	153人
	平成11年11月7日(日)	講堂	西南学院大学文学部教授　高倉　洋彰 下関市立考古博物館　伊東　照雄	92人
開館10周年記念 特別収蔵品展記念シンポジウム	平成12年2月19日(土)	講堂	釜山大學校人文大學教授　申　敬　澈 佐賀女子短期大学教授　高島　忠平 愛媛大学法文学部教授　下條　信行 愛媛大学法文学部助教授　田﨑　博之 当埋文センター調査員　栗田　茂敏 〃　梅木　謙一 〃　加島　次郎 〃　橋本　雄一	150人
開館10周年記念 特別収蔵品展記念講演会	平成12年3月11日(土)	講堂	作　家　井沢　元彦	254人

写真2　特別展記念講演（伊東先生）

写真3　開館10周年記念特別シンポジウム

④夏休み親子体験学習セミナー　むかし探検隊「目指せ！平成の古代ハニワ職人！」

第9回目を迎えた平成11年度夏休み親子体験学習セミナーは、子供たちの自由な発想で古代風ハニワを製作体験することで古代人の苦労や知恵を学ぼうというもので、子供たちの社会科学習の一助とするだけではなく、自主性と創造力を養うことをねらいとしている。

表4　教育普及活動（体験学習セミナー）

テーマ	日時	会場	参加者数
「目指せ!平成の古代ハニワ職人!」	制作編　平成11年7月10日(土) 焼成編　7月24日(土)	講堂 屋外	53人 40人

⑤現地説明会

平成11年度は、合計10ヶ所の遺跡において現地説明会を開催した。こうした遺跡の見学を通してより一層埋蔵文化財への興味・関心を持ってもらうため、開催するものである。

中でも播磨塚天神山古墳や来住廃寺周辺の久米高畑遺跡などは、多く市民が見学に訪れた。

表5　教育普及活動（現地説明会）

テーマ	日時	会場	参加者数
播磨塚天神山古墳	平成11年5月15日(土) 10:30～11:30	古墳時代後期の前方後円墳(主体部:横穴式石室)、遺物(円筒埴輪・朝顔形埴輪・家形埴輪・須恵器壺・馬具・装身具等)。	350人
五郎兵衛谷7号墳	平成11年5月30日(日) 12:00～15:00	古墳時代後期の円墳（主体部：横穴式石室）、遺物(土師器・須恵器・埴輪等)	100人
五楽遺跡2次調査地	平成11年7月24日(土) 10:00～11:00	弥生時代前期の遺構(溝・土坑)、飛鳥時代の遺構(竪穴式住居址・掘立柱建物址)、遺物(弥生土器・土師器・須恵器・瓦等)	80人
東本遺跡5次調査地	平成11年10月16日(土) 10:00～11:00	弥生～古墳時代の遺構(大型竪穴式住居址・掘立柱建物址・土坑等)、遺物(土器、石器等)	100人
久米高畑遺跡 42次調査地 43次調査地	平成11年10月23日(土) 10:00～12:00	古墳時代～古代の遺構（竪穴式住居址・掘立柱建物址・土坑等）、遺物（瓦・円面硯等）	200人
下苅屋遺跡 4次調査地	平成11年11月13日(土) 10:00～11:00	古墳時代後期～飛鳥時代の遺構（竪穴式住居址・掘立柱建物址・柱穴等）、遺物（弥生土器・土師器・須恵器等）	60人
釜ノ口遺跡 9次調査地	平成12年1月29日(土) 10:00～12:00	弥生時代後期、古墳時代～古代の遺構（溝・土坑・柱穴等）、遺物（弥生土器・石製品・木製品等）	150人
久米高畑遺跡 44次調査地	平成12年1月30日(日) 13:00～15:00	古代の遺構（掘立柱建物址・柵列・土坑等）	50人
来住町遺跡 9次調査地		古代の遺構（掘立柱建物址・小鍛冶炉等）	
久米才歩行遺跡 6次調査地		古代の遺構（掘立柱建物址・土壙等）	

⑥まいぶん映画会

まいぶん映画会は、一般観覧者を対象としており、第2・4土曜日及び毎週日曜日・祝祭日の午前10時・午後1時・3時の3回上映している。上映する映画の内容は、考古学関係のわかりやすいアニメーションから専門的なものまで幅広い。なお平成12年度からは、午前10時・午後1時30分からの2回上映となる。

⑦博物館実習

平成6年度より博物館学芸員資格の取得を希望する人のための博物館実習を実施している。11年度は、8月20日～8月31日、10月16日、11月7日の日程で、愛媛大学生11名を受け入れた。展示実習（常設展示解説・来館者案内）、写真実習（機材の取り扱い・撮影技術）、保存処理（技術・工程）などのカリキュラムを実施した。

⑧考古学入門講座「チャレンジ考古学Ⅳ」

一般市民向けの「わかりやすい、やさしい考古学」を目指し、平成8年度に開講した。平成11年度は、3名の外部講師を招聘し、講座内容を松山平野を中心に県内全域まで拡大した。また発掘調査現場見学等を取り入れることで、よりグローバルな展開を模索している。

表6　教育普及活動（考古学講座）

回	テーマ	会　期	会場	講　師（パネラー）	聴講者数
1	松山平野の古墳	平成11年9月11日(土)	講堂	当センター調査員　栗田　茂敏	53人
2	発掘現場見学	平成11年9月25日(土)	下苅屋遺跡 4次調査地	当センター学芸係長　西尾　幸則 〃　調査員　相原　浩二	40人
3	松山平野の 古墳時代集落	平成11年10月9日(土)	講堂	(財)愛媛県埋文センター調査係長 岡田　敏彦氏	47人
4	古墳時代の青銅鏡	平成11年11月13日(土)	講堂	愛媛県歴史文化博物館学芸員 冨田　尚夫氏	40人
5	須恵器	平成11年12月11日(土)	講堂	愛媛大学法文学部助手 三吉　秀充氏	35人

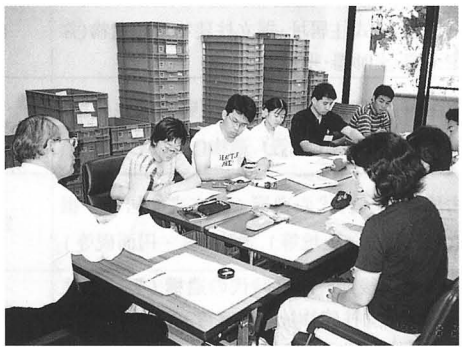


写真4　博物館実習風景

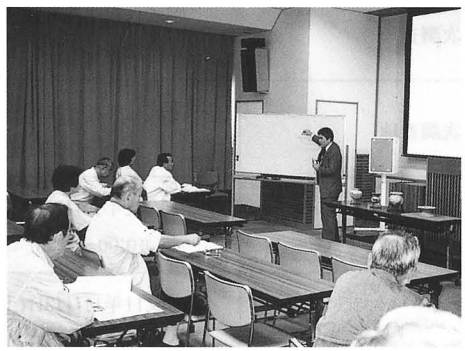


写真5　チャレンジ考古学Ⅳ
講座風景（講師は岡田敏彦氏）

3．収集・保管活動

①埋蔵文化財関連

平成11年度は、松山市久米周辺にて出土・採集された寄託資料を中心に資料の調査、分析、整理を実施する。

②その他

古代ハス　平成10年4月に松山市農業指導センターより古代ハスの株分けを受けた。この古代ハスは、平成8年1月に、中国大連市の観光訪問団が表敬訪問で松山を訪れた際、大連市観光局局長の張宏安氏から、大連市で出土した1千年前のハスの種が松山市に贈呈された。その後、市農業指導センターで育成されてきたものである。平成11年6月、当埋文センターにて2年連続開花。

パンリラ仏　このブロンズ製の仏像は、科学万博つくば“85開催中、タイ王国パビリオンに展示され、タイ王国と当時の松山市長中村時雄氏との間で約束された友好親善のシンボルとして1985（昭和60）年に松山市へ寄贈されたものである。パンリラとは、タイ語で歩くという意味である。松山市文化財情報館にて展示中。

4．広報・出版活動

広報・出版活動としては、考古館主催の展示会・講演会などを開催する際に、多くの観覧者を募るためにポスターやパンフレットを発刊したり、発掘調査を行った遺跡について、発掘調査報告書を刊行している。研究者はもとより、一般市民においても、これらの出版物を大いに活用していただくことで、埋蔵文化財保護の啓蒙普及に役立つものと思われる。

表7　広報・出版活動（展示・行事等）

出　版　物　名	発行日	対象	版型・頁	部数
発掘調査速報展　案内状	平成11年4月	一般	ハガキ	4,000
〃　　パンフレット	〃	〃	A4・35頁	600
発掘調査報告会　レジメ	〃	聴講者	B4・21頁	180
「ザ・古代伊豫路」（南予編）　旅のしおり	平成11年5月	参加者	A4・16頁	50
〃　（しまなみ海道編）　〃	平成11年8月	〃	A4・16頁	50
夏休み親子体験学習セミナー　パンフレット	平成11年7月	参加者	A4・8頁	60
〃　　作品展　ポスター	平成11年8月	一般	A2	20
考古学入門講座レジメ(1)	平成11年9月	受講生	A4・12頁	70
〃　　〃(2)	平成11年9月	〃	B4・5頁	70
考古学入門講座レジメ(3)	平成11年10月	受講生	A4・12頁	70
〃　　〃(4)	平成11年11月	〃	A4・12頁	70
〃　　〃(5)	平成11年12月	〃	A4・12頁	70
特別展　案内状	平成11年10月	一般	ハガキ	4,000
〃　ポスター	〃	〃	B2	500
〃　リーフレット	〃	〃	A4	5,000
〃　パンフレット	〃	〃	A4・4頁	3,000
〃　図録	〃	〃	A4・28頁	500
〃　記念講演会(1)	〃	聴講者	B4・10頁	180
〃　〃　(2)	〃	〃	B4・8頁	150
特別収蔵品展　案内状	平成12年2月	一般	ハガキ	4,000
ポスター			B2	500
〃　パンフレット	〃	〃	A4	2,000
〃　記念シンポジウムレジメ	平成12年2月	聴講者	B4・29頁	250

表8　広報・出版活動（調査報告書等）

報　告　書　名	発行日	対象	版型・頁	部数
松山市埋蔵文化財調査年報11 （平成10年度）	平成11年9月30日	一般	A4本　文95頁	1,000
松山市文化財調査報告書　第73集 船ヶ谷遺跡　ー第3次調査ー	平成11年9月30日	一般	A4本　文86頁 写真図版　22頁	1,000
松山市文化財調査報告書　第74集 太山寺経田遺跡　ー1～5次調査地ー	平成12年3月31日	一般	A4本　文120頁 写真図版33頁	1,000
松山市文化財調査報告書　第75集 古市遺跡・下苅屋遺跡2・3次調査地 ー松山市道平井・水泥線関連遺跡ー	平成12年3月31日	一般	A4本　文200頁 写真図版46頁	1,000
松山市文化財調査報告書　第76集 来住・久米地区の遺跡Ⅲ	平成12年3月31日	一般	A4本　文114頁 写真図版28頁	1,000
松山市文化財調査報告書　第77集 大渕遺跡ー1・2次調査地ー	平成12年3月31日	一般	A4本　文　頁 写真図版　頁	1,000
松山市文化財調査報告書　第78集 大渕遺跡　ー3次調査地ー	平成12年3月31日	一般	A4本　文132頁 写真図版27頁	1,000

5．施設の利用

当センターでは、主催事業だけではなく、考古学関連団体主催の研究会の会場として利用してもらい、広く一般市民にも積極的に参加を呼びかけている。特に、愛媛大学法文学部下條信行教授を会長とした瀬戸内海考古学研究会が奇数月第4土曜日に定期的に開催されている。

6．資料の貸出

当センターでは、各博物館や教育委員会主催事業の出品、研究者の要望に応えるべく、可能な限りの資料の貸出を行っている。

表9　施設の利用（瀬戸内海考古学研究会）　（敬称略）

回	テーマ	日　時	対象	講　師
54	「非陶邑系須恵器について」	平成11年5月29日(土)	講堂	愛媛大学助手　三吉　秀充
55	「祝谷六丁場遺跡出土の石庖丁の再検討」	平成11年7月31日(土)	講堂	松山市埋文センター　加島　次郎
56	「瀬戸内の弥生中期集落～愛媛県東部・松山平野の事例～」	平成11年9月25日(土)	講堂	愛媛県埋文センター　柴田　昌児 松山市埋文センター　梅木　謙一
58	「久米官衙遺跡群における近年の調査動向」	平成12年1月29日(土)	講堂	松山市埋文センター　橋本　雄一
59	「中九州における磨製石鏃について」	平成12年3月25日(土)	講堂	松山市埋文センター　吉岡　和哉

表10　資料の貸出・利用　（敬称略）

貸出資料名	遺跡名	点数	貸出・利用目的（期間）	貸出先（利用者）
堰写真	古照遺跡	1点	写真掲載	道前道後平野農業水利事業所
彩文土器写真	大渕遺跡	1点	写真掲載 （平成11年6月25日～8月31日）	(株)山川出版
銅剣埋納坑写真	祝谷六丁場遺跡	1点		
石室内写真	葉佐池古墳	1点		
久米評写真	久米高畑遺跡	1点		
二禽二獣鏡写真	朝日谷2号墳	1点		
堰写真	古照遺跡	1点		
二神二獣鏡	朝日谷2号墳	1点	写真掲載・展示 （平成11年7月7日～8月6日）	徳島市立考古資料館
鉄刀	〃	1点		
鉄剣	〃	2点		
鉄斧	〃	1点		
ガラス小玉	〃	4点		
二重口縁壺	〃	1点		
彩文土器写真	大渕遺跡	1点	写真掲載	講談社学術局
弥生土器	大峰ヶ台遺跡4次	一式	実測（卒業論文）	愛媛大学　田中　久美子
〃	祝谷六丁場遺跡	一式	〃	〃
絵画土器	文京遺跡	2点	写真掲載・展示 （平成11年10月12日～12月15日）	徳島市立考古資料館
破鏡	東本遺跡4次	1点		
弥生土器	〃	2点		
ガラス小玉	〃	6点		
鉄鏃	〃	1点		
碧玉製管玉	〃	1点		
石棒	祝谷アイリ遺跡	1点		
遺跡全景写真	松山大学構内遺跡	1点		
弥生土器	〃	16点		
土製紡錘車	〃	3点		
石製紡錘車	〃	1点		
磨製石庖丁	〃	1点		
ガラス小玉	〃	14点		
〃	釜ノ口遺跡1次	3点		
土製丸玉	〃	1点		
館内写真	常設展示室内	3点	写真展示	松山市素鷺公民館
堰写真	古照遺跡	1点	写真掲載	スタジオVIC
弥生土器写真	東雲神社遺跡他	1点	写真掲載	田舎館村教育委員会
木葉文土器	久米高畑遺跡26次	1点	実見	國學院大学大学院 近藤　直美
板状木器	福音寺遺跡竹ノ下	1点		
弥生土器	鶴が峠遺跡	1点		
館内写真	常設展示室内	10点	資料収集	(財)京都府埋文センター 田代　弘
形象埴輪	播磨塚天神山古墳	一式	資料収集	奈良県立橿原考古学研究所 青柳　泰介
〃	常設展示室内			
破鏡写真	東本遺跡4次	1点	資料収集	愛媛大学法文学部 田﨑　博之
〃	釜ノ口遺跡8次	1点		
柱状片刃石斧	松山大学構内遺跡	一式	資料収集	福岡県前原市 上田　健太郎
〃	祝谷六丁場遺跡	一式		
〃	桑原田中遺跡	一式		

7．職員研修・会議

当センターでは、毎年、奈良国立文化財研究所で実施されている発掘技術者研修をはじめとして、各種研修・行事に参加している。こうした研究や会議に積極的に参加することにより、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。

表11　職員研修・会議

研修・会議名	開催地	日　程	参加者数
全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	山 形 市	平成11年６月10日～６月11日	1名
第11回埋蔵文化財写真技術研究会	奈 良 市	平成11年７月２日～７月３日	1名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会 コンピューター等研究委員会	北九州市	平成11年９月９日～９月10日	2名
四国埋蔵文化財法人実務担当者会	東 予 市	平成11年９月16日～９月17日	2名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	守 山 市	平成11年10月７日～10月８日	2名
全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議	松 山 市	平成11年10月28日～10月29日	5名
文化財情報システムフォーラム	京 都 市	平成12年２月17日～２月18日	1名

表12　平成11年度考古館月別入館者数調（平成11年4月1日～平成12年3月31日）

月	開館日数	一　般	児　童 生　徒	団　体 一　般	団　体 児童生徒	老　人	小中高生等 無料入館者	速報展等 無料入館者	入館者 合　計	一日平均 入　館　者
4	25	172	52	2	39	116	679	313	1,373	55
5	26	189	37	82	86	13	1,496	322	2,225	86
6	26	96	11	140	0	33	277	126	683	26
7	26	90	18	117	21	105	208	200	759	29
8	26	149	77	38	48	46	0	200	558	21
9	24	74	9	149	0	44	7	128	411	17
10	27	441	15	202	319	256	659	714	2,606	97
11	23	265	36	200	169	239	213	205	1,327	58
12	23	81	8	52	0	6	0	193	340	15
1	24	104	19	24	0	53	0	76	276	12
2	22	150	18	20	0	13	277	169	647	29
3	27	296	48	12	398	181	768	338	2,041	76
計	299	2,107	348	1,038	1,080	1,105	4,584	2,984	13,246	44

8．松山市文化財情報館

松山市文化財情報館は、松山市内で出土した文化財を整理・保管し、その活用を図るとともに市民に開かれた歴史学習の場の提供を行うための施設設備の充実を図り、埋蔵文化財センター及び考古館と一体となって埋蔵文化財保護施設として有機的な活用を図ることを目的としている。

開 館 日　　月～金曜日（祝祭日を除く）

開館時間　　午前９時～午後５時（ただし、入館は午後４時30分まで）

松山市埋蔵文化財調査年報　12

平成13年1月31日　発行

編集・発行　松山市教育委員会
〒790−0003　松山市三番町6丁目6−1
TEL(089)948−6605

財団法人　松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791−8032　松山市南斎院町乙67番地6
TEL(089)923−6363

印刷　明星印刷工業株式会社
〒790−0056　松山市土居田町500番地
TEL(089)971−7111